

令和 6 年 9 月 2 日
政策経営部広報広聴課

令和 6 年度 世田谷区民意識調査の結果について

1 調査目的

区民が、区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政運営の基礎資料とする。

2 調査概要

- (1) 調査期間 令和 6 年 5 月 15 日～6 月 5 日
- (2) 対 象 満 18 歳以上の区内在住者（外国籍含む） 5,000 人（無作為抽出）
- (3) 調査方法 郵送配布・回収またはインターネットによる回答
- (4) 回収結果 有効回収数 2,404 人 回収率 48.1%
(内訳：郵送回収 1,558 通・64.8%、インターネット回収 846 通・35.2%)
- (5) 調査項目 16 項目（全 53 問 ※枝問含む）

1. 定住性	2. 区政	3. 職員応対	4. 広報	5. 福祉と医療	6. 子育て
7. 災害時の備え	8. 地域コミュニティ	9. 文化活動	10. 多文化共生	11. 健康づくり	
12. スポーツ	13. 交通	14. みどり	15. ふるさと納税	16. せたがや Pay	

経年調査質問（23 問）単年調査質問（30 問）※下線は令和 6 年度新規項目

3 調査結果

別添「世田谷区民意識調査 2024（概要版）」及び「世田谷区民意識調査 2024」のとおり

4 今後のスケジュール

- 9 月 3 日 区ホームページに「世田谷区民意識調査 2024」及び「概要版（日本語版・英語版・テキストデータ）」を掲載
- 9 月 3 日 区政情報センター（区政情報コーナー）、図書館で区民向けに閲覧開始
- 9 月 15 日 区のおしらせ「せたがや」9 月 15 日号に調査結果の一部を掲載

世田谷区民意識調査 2024

(概要版)

区民意識調査概要版は、令和6年5月に実施した「世田谷区民意識調査2024」を要約したもので、広く区民の方にその内容を知っていただくために作成しました。

今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、「広報」「災害時の備え」「ふるさと納税」などに関する項目を調査対象といたしました。

これらの調査結果については、区政を推進するための基礎資料として活用してまいります。

また、詳しく知りたい方は、世田谷区の区政情報センター、区政情報コーナー、区立図書館、区のホームページで「世田谷区民意識調査2024」をご覧ください。

調査の概要

対 象 者 世田谷区在住の満18歳以上の男女
 対 象 数 5,000人
 (内訳／日本国籍4,842人、外国籍158人)
 抽 出 方 法 層化二段無作為抽出法
 調 査 方 法 郵送配布・回収またはインターネットによる回答
 調 査 期 間 令和6年5月15日～6月5日
 有効回収数 2,404人
 (内訳／日本国籍2,356人、外国籍48人)
 有効回収率 48.1%
 (内訳／郵送回収1,558通・64.8%、
 インターネット回収846通・35.2%)

(令和6年5月実施)

回答者の属性

- 1 定住性
- 2 区政
- 3 職員応対
- 4 広報
- 5 福祉と医療
- 6 子育て
- 7 災害時の備え
- 8 地域コミュニティ
- 9 文化活動
- 10 多文化共生
- 11 健康づくり
- 12 スポーツ
- 13 交通
- 14 みどり
- 15 ふるさと納税
- 16 せたがやPay

令和6年9月



世田谷区

今回の調査項目は次のとおりです。このうち★印のある項目をこの概要版に掲載しています。

1 定住性

- (1) 居住年数
- ★ (2) 暮らしの満足度
- ★ (3) 住みやすさ
- ★ (4) 定住意向
- (5) 定住意向理由
- (6) 非定住意向理由
- ★ (7) 地域における日常生活での困りごと

2 区政

- ★ (1) 区が積極的に取り組むべき事業

3 職員対応

- ★ (1) 窓口対応
- ★ (2) 印象が良かった点
- ★ (3) 印象が悪かった点
- ★ (4) 職員対応での注意点

4 広報

- ★ (1) 区の取り組みや身近な情報の入手経路
- (2) 発信してほしい区の取り組みや情報

5 福祉と医療

- ★ (1) 介護や医療必要時の居留意向
- (2) 「福祉の相談窓口」の認知度
- (3) 「在宅医療」の認知度
- ★ (4) 「ACP」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度
- ★ (5) 身近な相談相手の有無
- (6) 日常生活の不安や悩みの有無
- (7) 行政機関や民間団体からの支援
- (8) 地域住民同士の支え合いについて
- ★ (9) 認知症についての印象

6 子育て

- ★ (1) 区の子育て環境

7 災害時の備え

- (1) 防災への対処
- ★ (2) ハザードマップの認知度
- ★ (3) 在宅避難推奨の認知度
- (4) 水や食料の備蓄について
- (5) 非常用電力の備蓄について
- (6) 携帯用トイレの備蓄について

8 地域コミュニティ

- ★ (1) 地域活動への参加経験・参加意向

9 文化活動

- ★ (1) 区内の文化資源の認知度

10 多文化共生

- ★ (1) 区の多文化共生社会への進捗状況
- (2) 外国人の地域活動への参加の進捗状況
- (3) 区内の外国人への偏見や差別の改善状況

11 健康づくり

- ★ (1) 1日の歩行時間

12 スポーツ

- ★ (1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数
- (2) スポーツの生活の質向上への役立ち度
- (3) スポーツの新たな交流への貢献度
- (4) スポーツの地域の活性化への役立ち度
- (5) ユニバーサルスポーツの関心度

13 交通

- ★ (1) 区の交通手段の満足度
- (2) 自転車利用頻度
- (3) 主な自転車利用用途
- (4) 歩行時の自転車との接触有無

14 みどり

- ★ (1) みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと

15 ふるさと納税

- (1) 「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度
- (2) 「ふるさと納税」の経験
- ★ (3) 返礼品に関する区の姿勢について
- (4) 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度
- (5) 区民税の減収状況の認知経路

16 せたがやPay

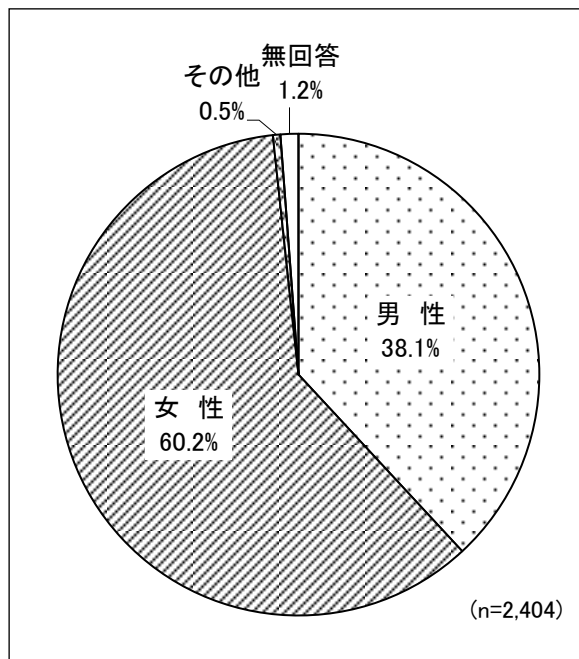
- ★ (1) セタがやPayの認知・利用度
- (2) セタがやPayを利用しない理由

グラフの見方

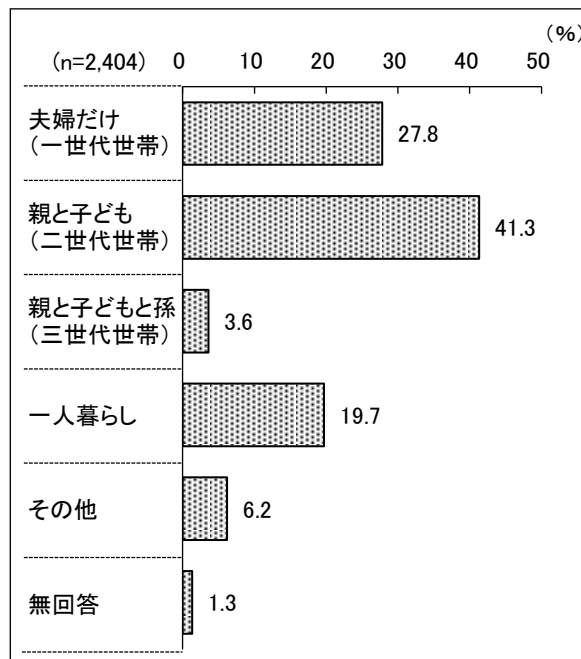
- 1 (複数回答) と記述されたもの以外は、選択肢を1つだけ選ぶ設問です。
- 2 小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100.0%にならないものがあります。
- 3 複数回答の設問については、合計が100.0%を超えることがあります。
- 4 グラフ中のnは、設問の回答者数を表します。

回答者の属性

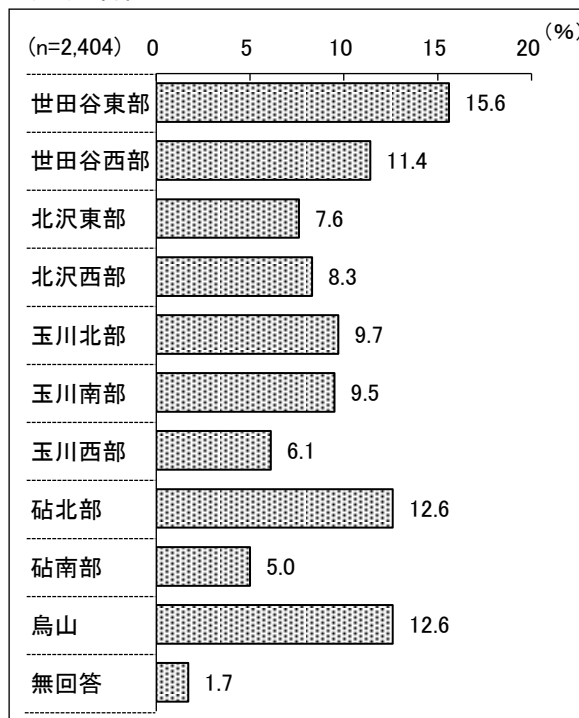
(1) 性別



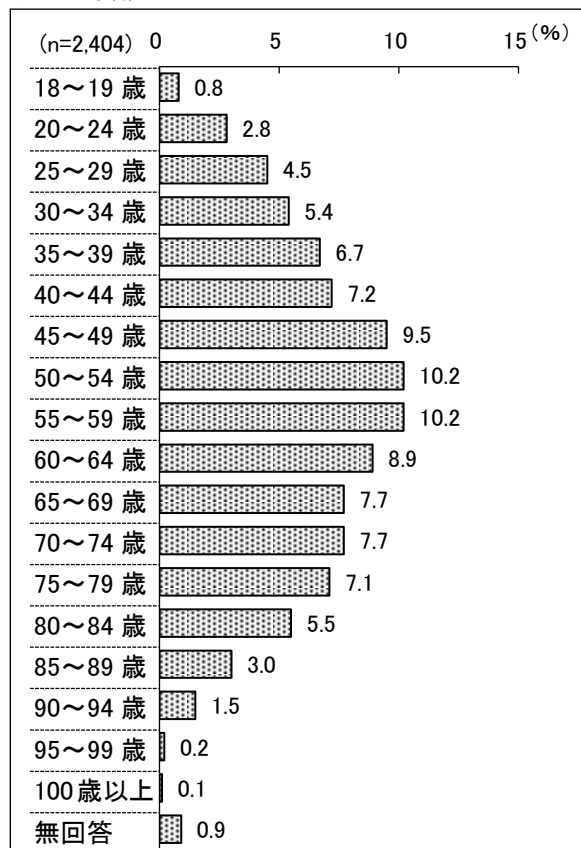
(2) 世帯構成



(3) 居住地区



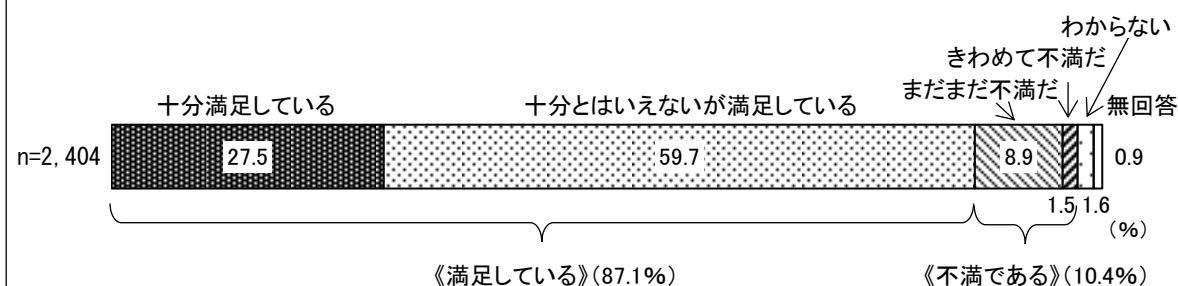
(4) 年齢



1. 定住性

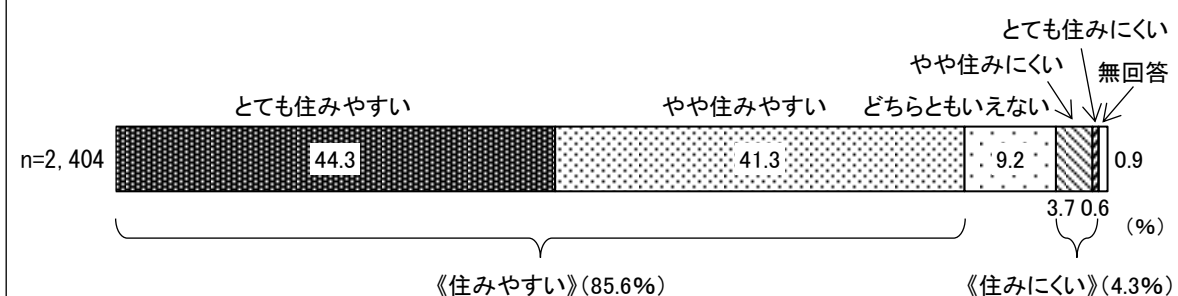
●暮らしの満足度

現在の暮らしについて、《満足している》と感じている方は87.1%となっています。



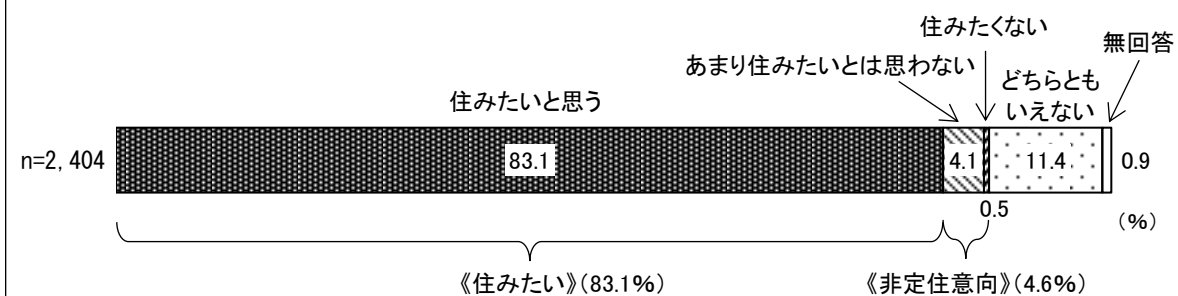
●住みやすさ

《住みやすい》と感じている方は85.6%となっています。



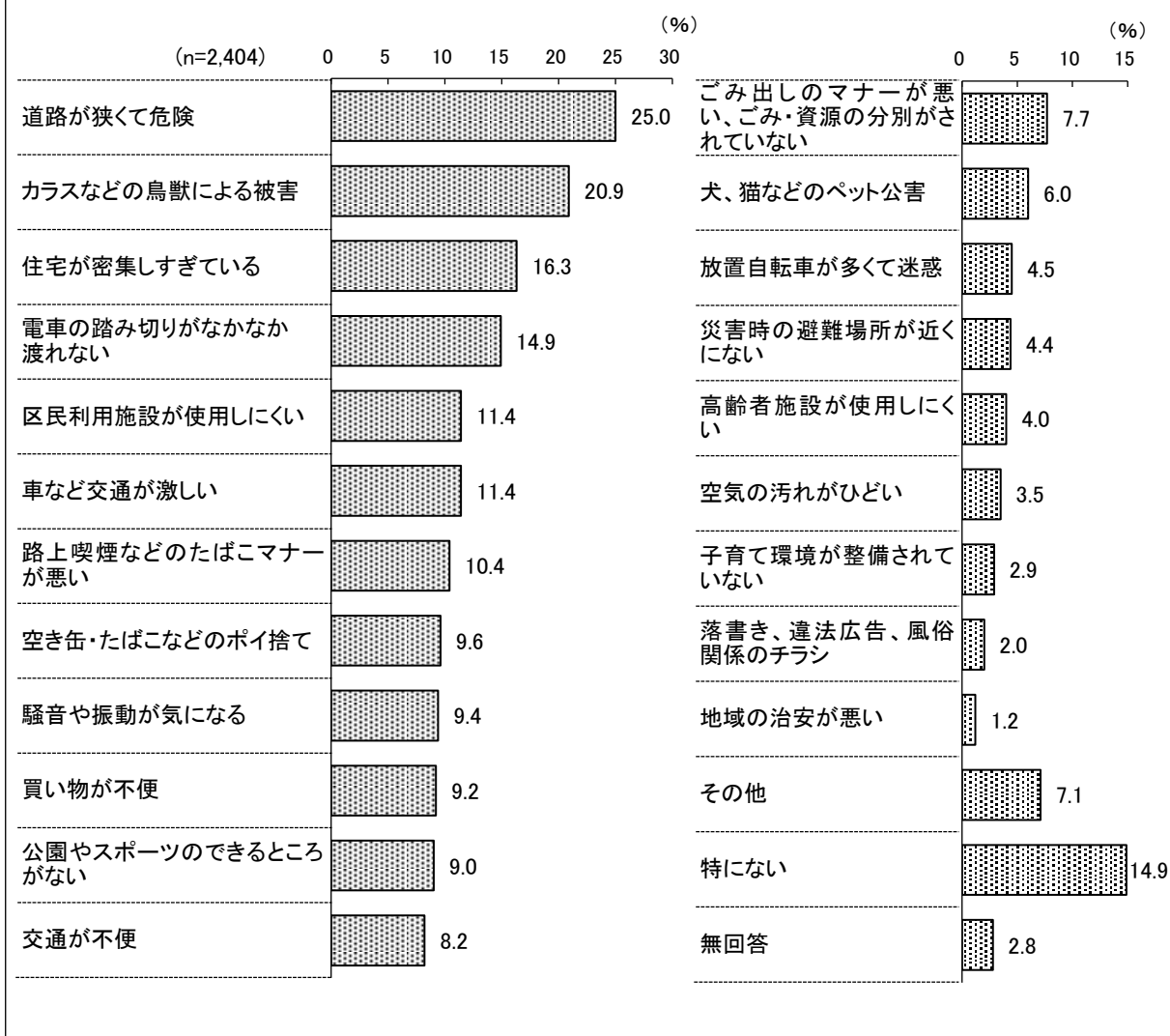
●定住意向

今後も世田谷区に「住みたいと思う」方は83.1%となっています。



●地域における日常生活での困りごと（複数回答）

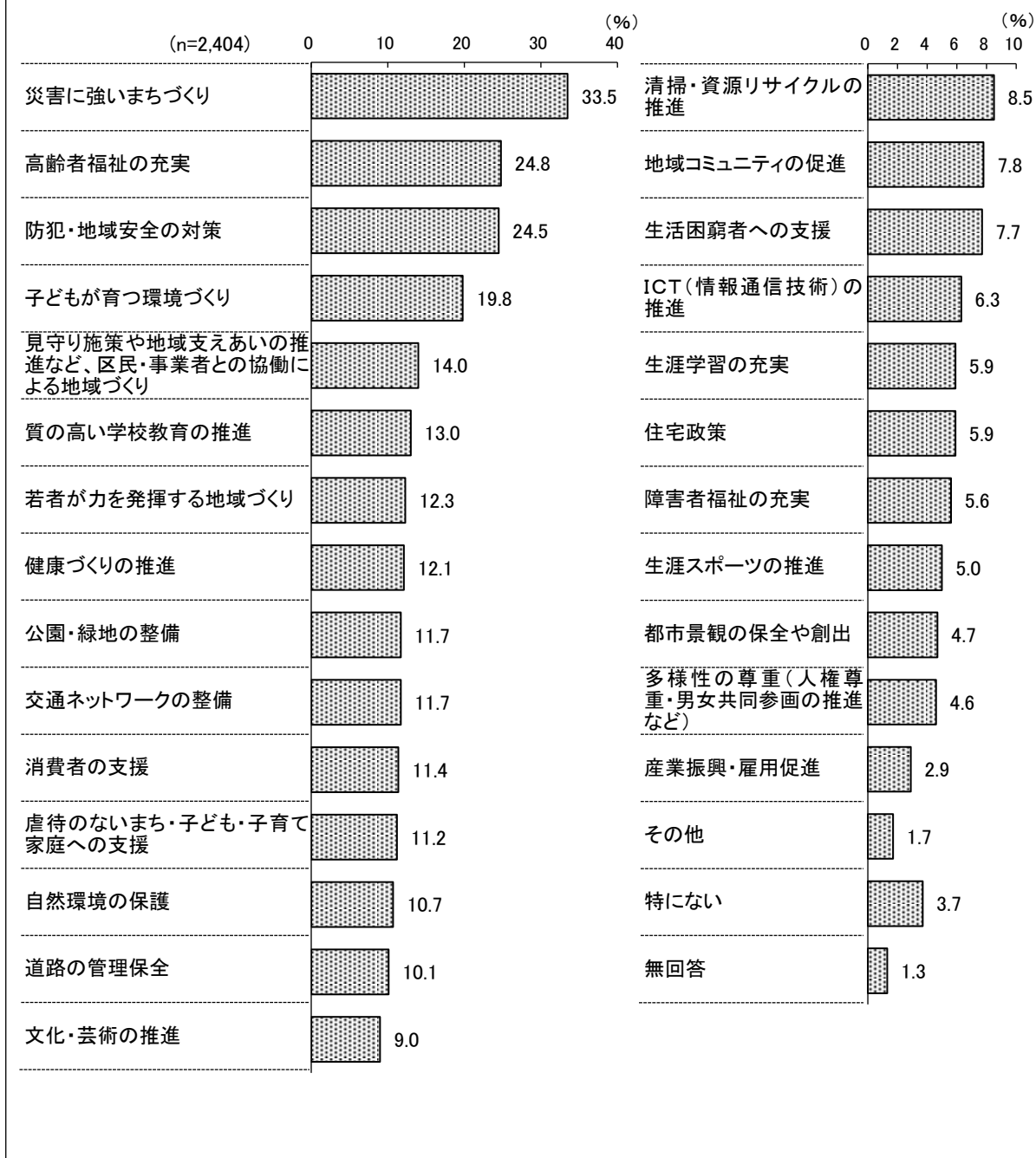
「道路が狭くて危険」が25.0%で最も高く、以下、「カラスなどの鳥獣による被害」、「住宅が密集しすぎている」などと続いています。



2. 区政

●区が積極的に取り組むべき事業（複数回答）

「災害に強いまちづくり」が33.5%で最も高く、以下、「高齢者福祉の充実」、「防犯・地域安全の対策」などと続いています。

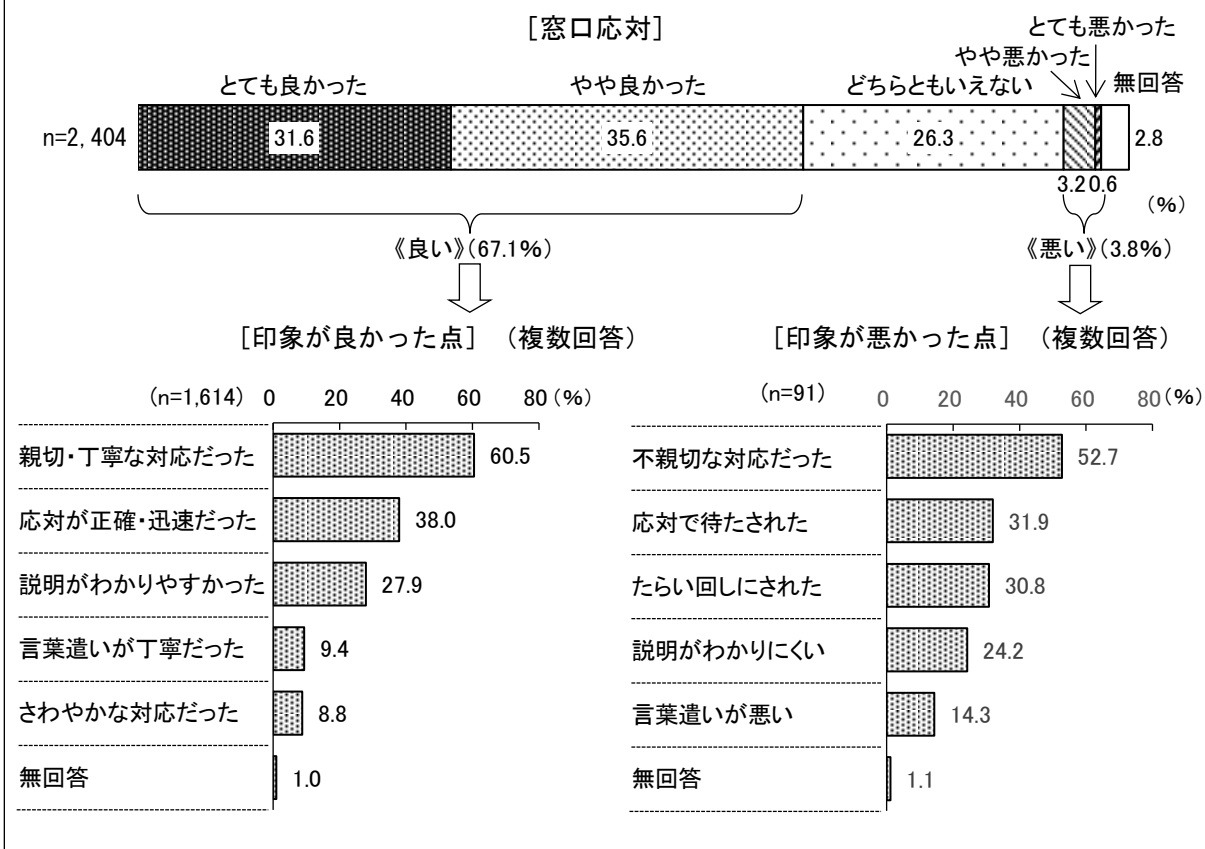


3. 職員応対

●窓口対応と印象が良かった点・悪かった点

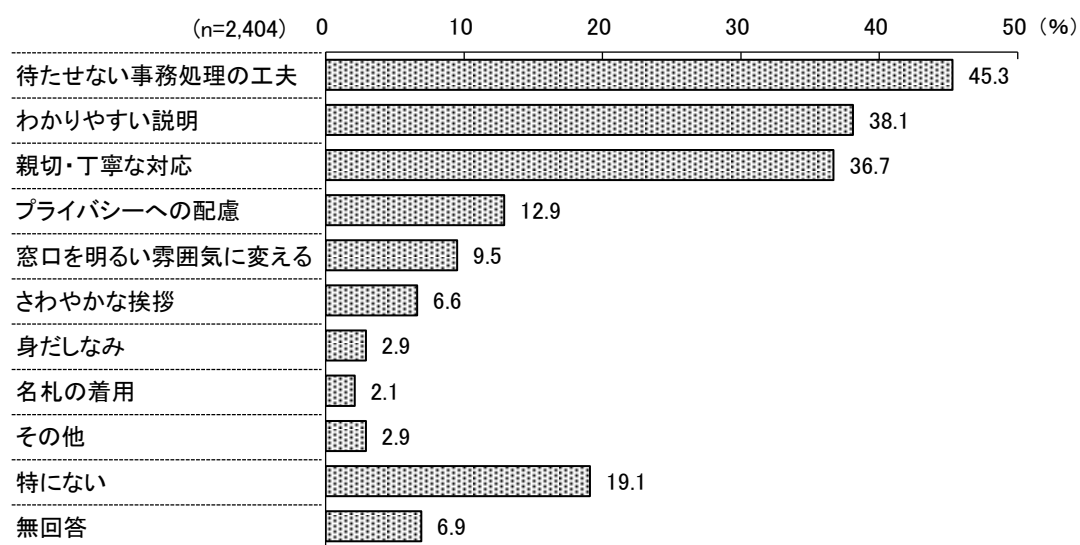
窓口対応は67.1%の方が《良い》と感じています。

親切・丁寧な対応だったかどうか、評価のポイントになっています。



●職員対応での注意点 (複数回答)

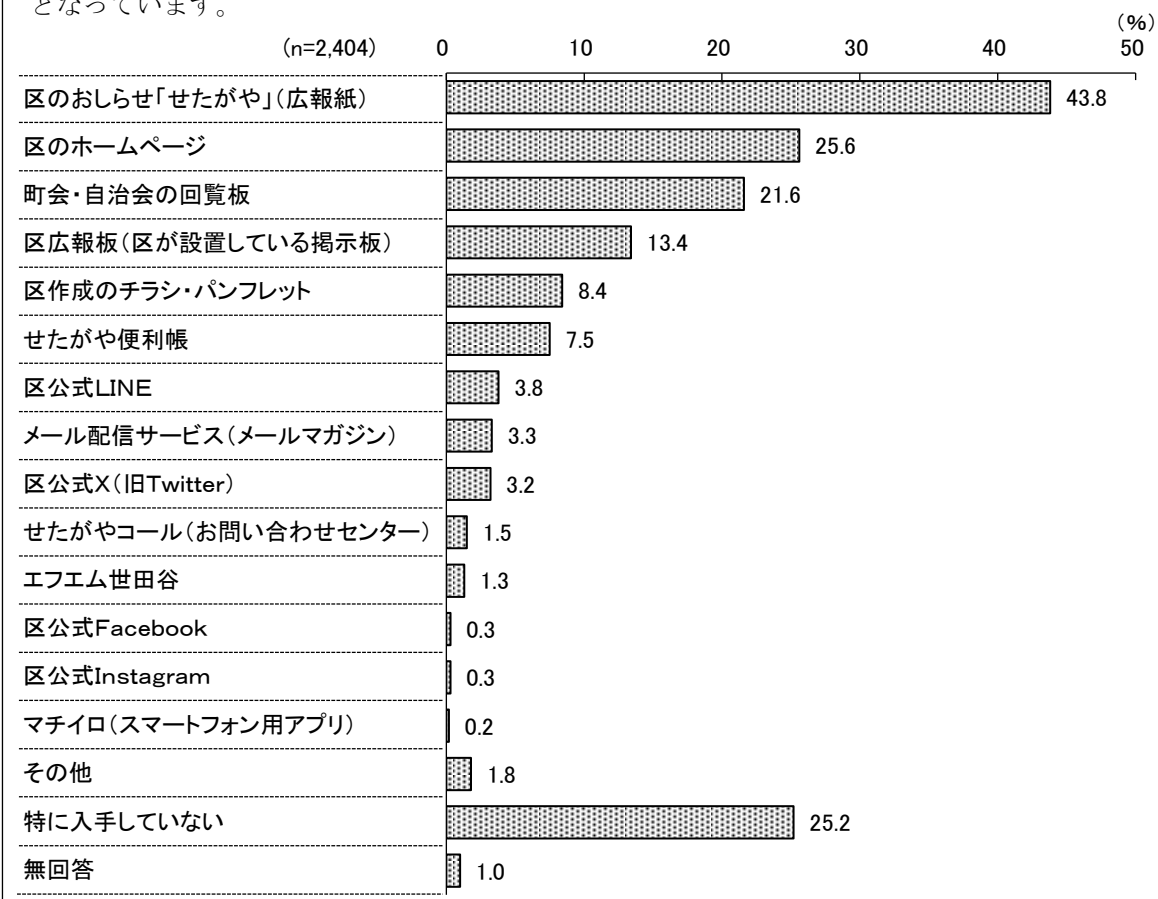
「待たせない事務処理の工夫」が45.3%で最も高く、以下、「わかりやすい説明」、「親切・丁寧な対応」などと続いています。



4. 広報

●区を取り組みや身近な情報の入手経路（複数回答）

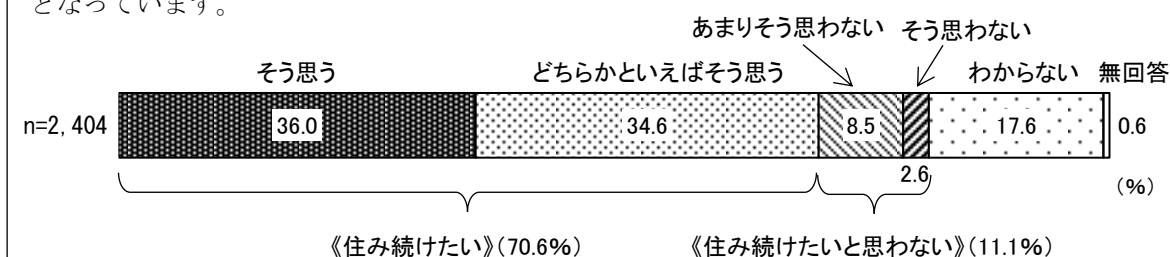
区を取り組みや身近な情報の入手経路を聞いたところ、「区のおしらせ「せたがや」（広報紙）」が43.8%で最も高く、以下、「区のホームページ」、「町会・自治会の回覧板」、「区広報板（区が設置している掲示板）」などと続いています。一方、「特に入手していない」は25.2%となっています。



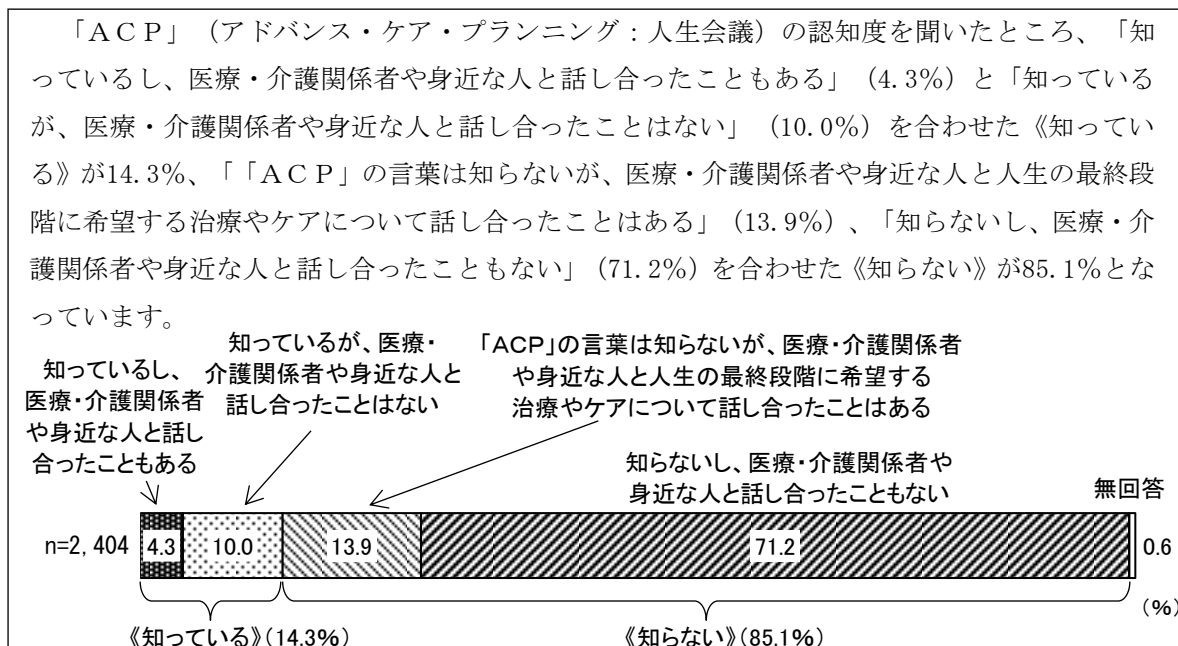
5. 福祉と医療

●介護や医療必要時の居留意向

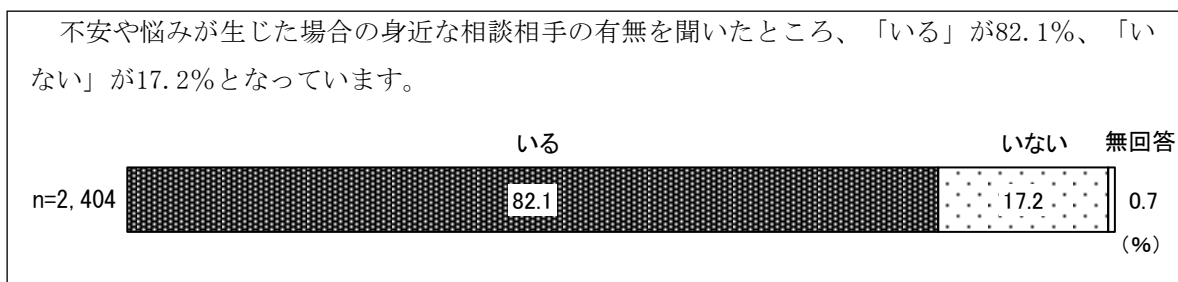
介護や医療必要時の世田谷区への居留意向を聞いたところ、「そう思う」(36.0%)と「どちらかといえばそう思う」(34.6%)を合わせた《住み続けたい》が70.6%、「あまりそう思わない」(8.5%)と「そう思わない」(2.6%)を合わせた《住み続けたいと思わない》が11.1%となっています。



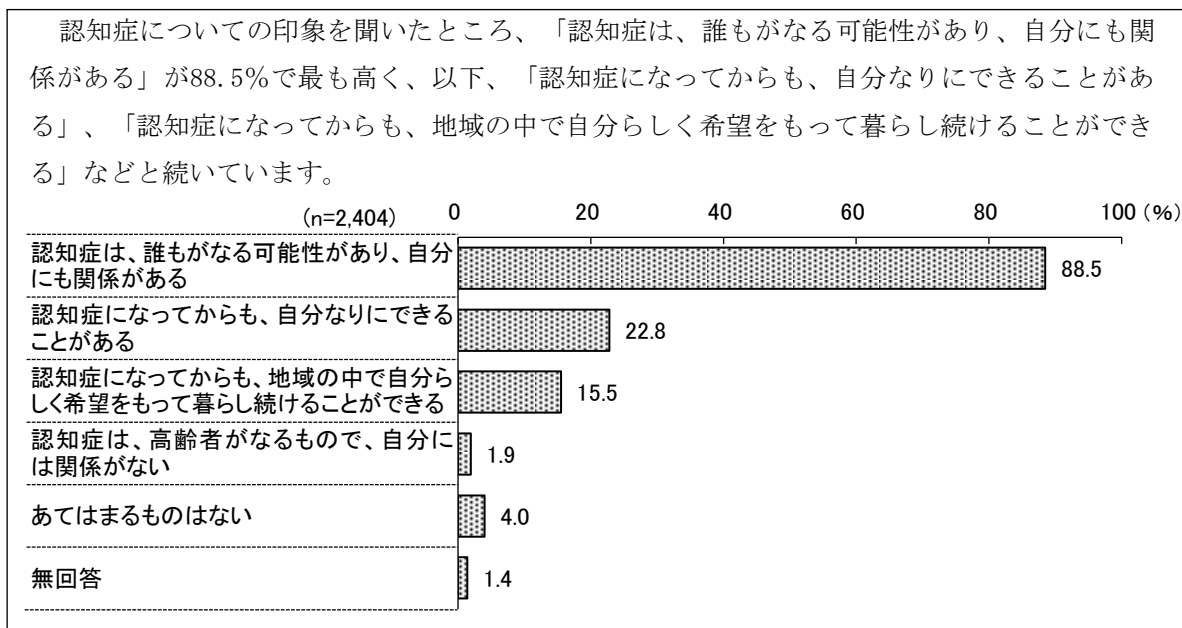
●「ACP」（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）の認知度



●身近な相談相手の有無



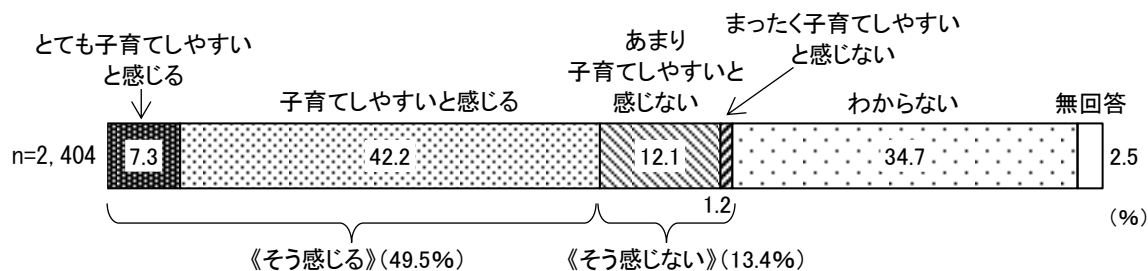
●認知症についての印象（複数回答）



6. 子育て

●区の子育て環境

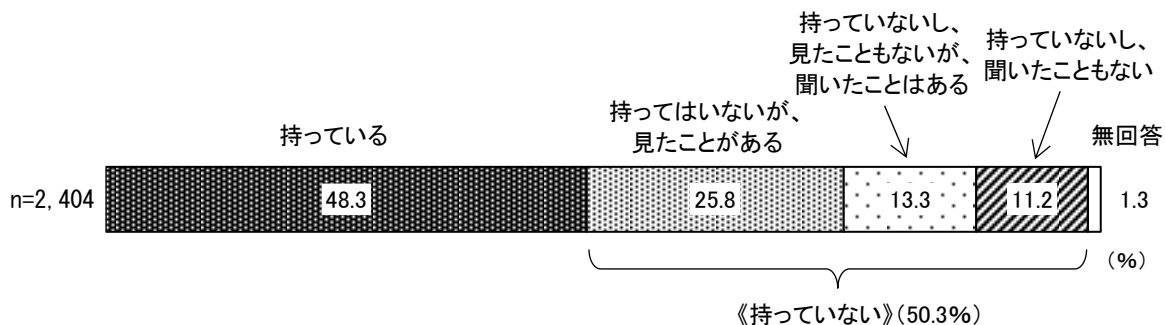
区の子育て環境について聞いたところ、「とても子育てしやすいと感じる」（7.3%）と「子育てしやすいと感じる」（42.2%）を合わせた《そう感じる》が49.5%、「あまり子育てしやすいと感じない」（12.1%）と「まったく子育てしやすいと感じない」（1.2%）を合わせた《そう感じない》が13.4%となっています。



7. 災害時の備え

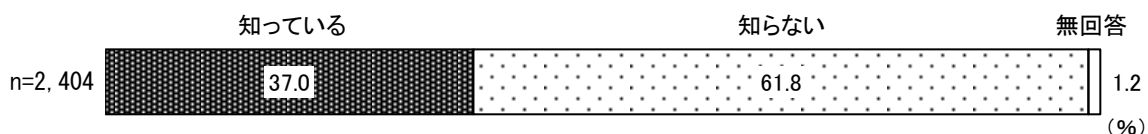
●ハザードマップの認知度

ハザードマップの認知度を聞いたところ、「持っている」が48.3%、「持っていないが、見たことがある」(25.8%)と「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」(13.3%)と「持っていないし、聞いたこともない」(11.2%)を合わせた《持っていない》が50.3%となっています。



●在宅避難推奨の認知度

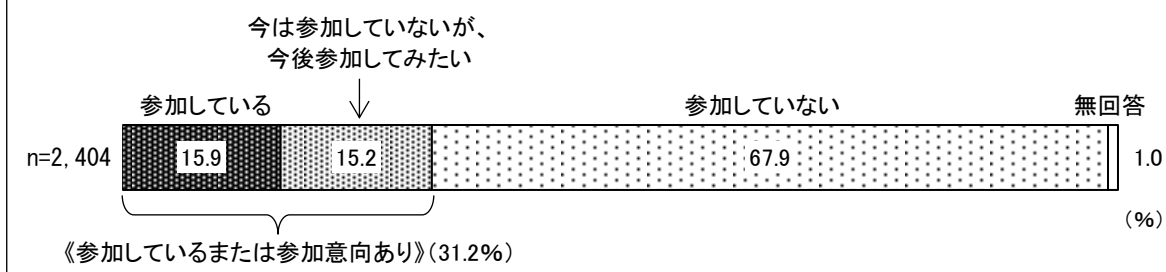
区が在宅避難を推奨していることの認知度を聞いたところ、「知っている」が37.0%、「知らない」が61.8%となっています。



8. 地域コミュニティ

●地域活動への参加経験・参加意向

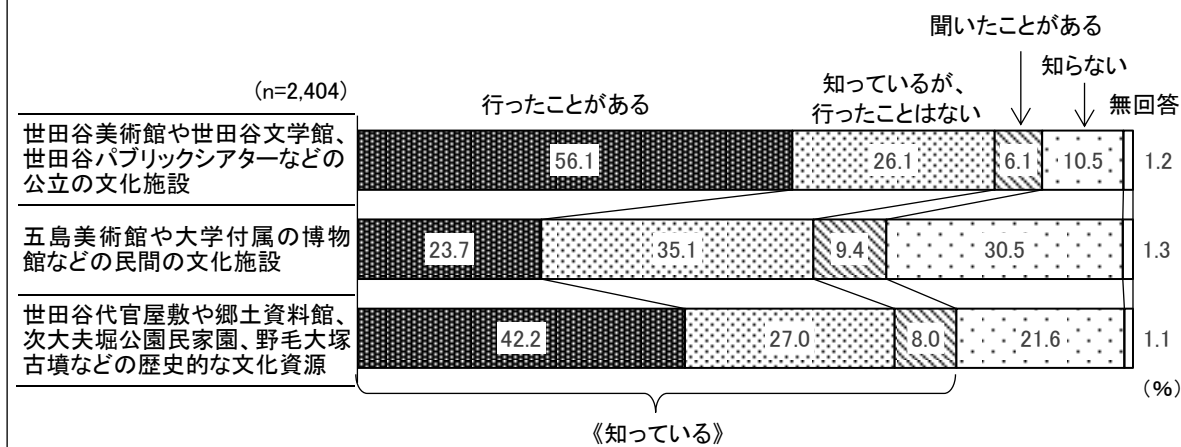
身近な地域の活動に参加しているかどうか聞いたところ、「参加している」(15.9%)と「今は参加していないが、今後参加してみたい」(15.2%)を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》が31.2%となっています。「参加していない」が67.9%となっています。



9. 文化活動

●区内の文化資源の認知度

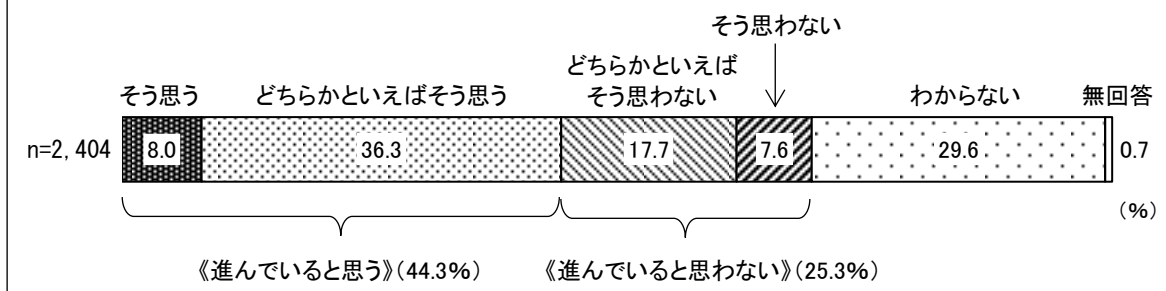
区内の文化資源の認知度を聞いたところ、「行ったことがある」は、公立の文化施設が56.1%で最も高く、歴史的な文化資源が42.2%、民間の文化施設が23.7%となっています。《知っている》は、公立の文化施設が88.3%で最も高くなっています。



10. 多文化共生

●区が多文化共生社会への進捗状況

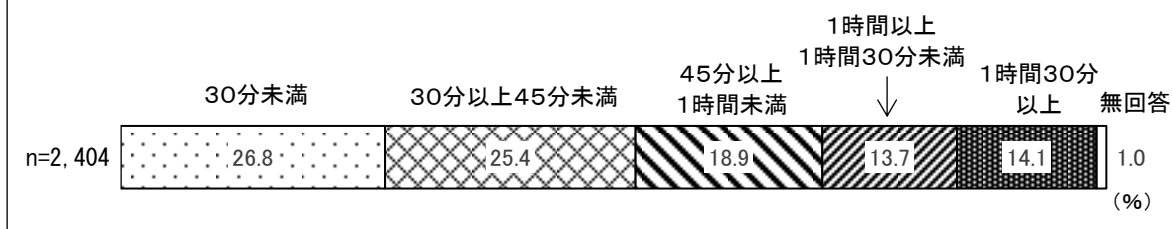
区が多文化共生社会への進捗状況を聞いたところ、《進んでいると思う》が44.3%、《進んでいると思わない》が25.3%となっています。



11. 健康づくり

● 1日の歩行時間

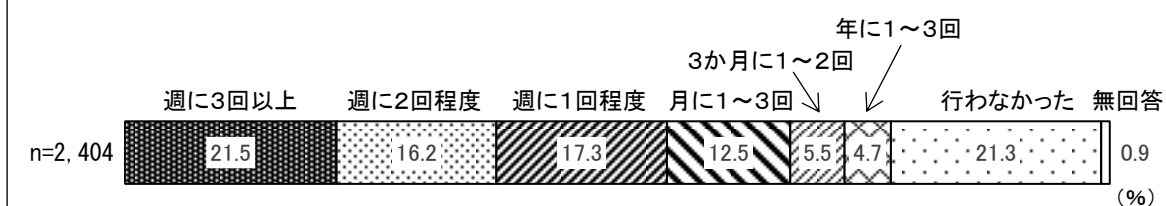
1日の歩行時間を聞いたところ、「30分未満」が26.8%で最も高く、次いで「30分以上45分未満」が25.4%となっています。以下、「45分以上1時間未満」、「1時間30分以上」、「1時間以上1時間30分未満」と続いています。



12. スポーツ

● この1年間に行ったスポーツや運動の回数

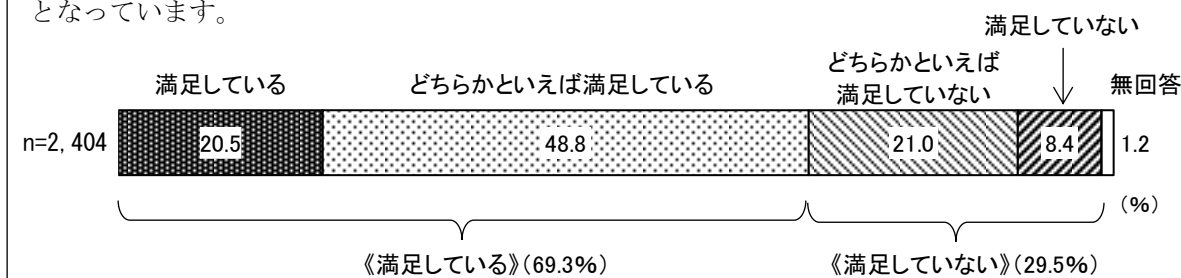
この1年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「週に3回以上」が21.5%で最も高く、次いで「行わなかった」が21.3%となっています。以下、「週に1回程度」、「週に2回程度」、「月に1～3回」などと続いています。



13. 交通

● 区の交通手段の満足度

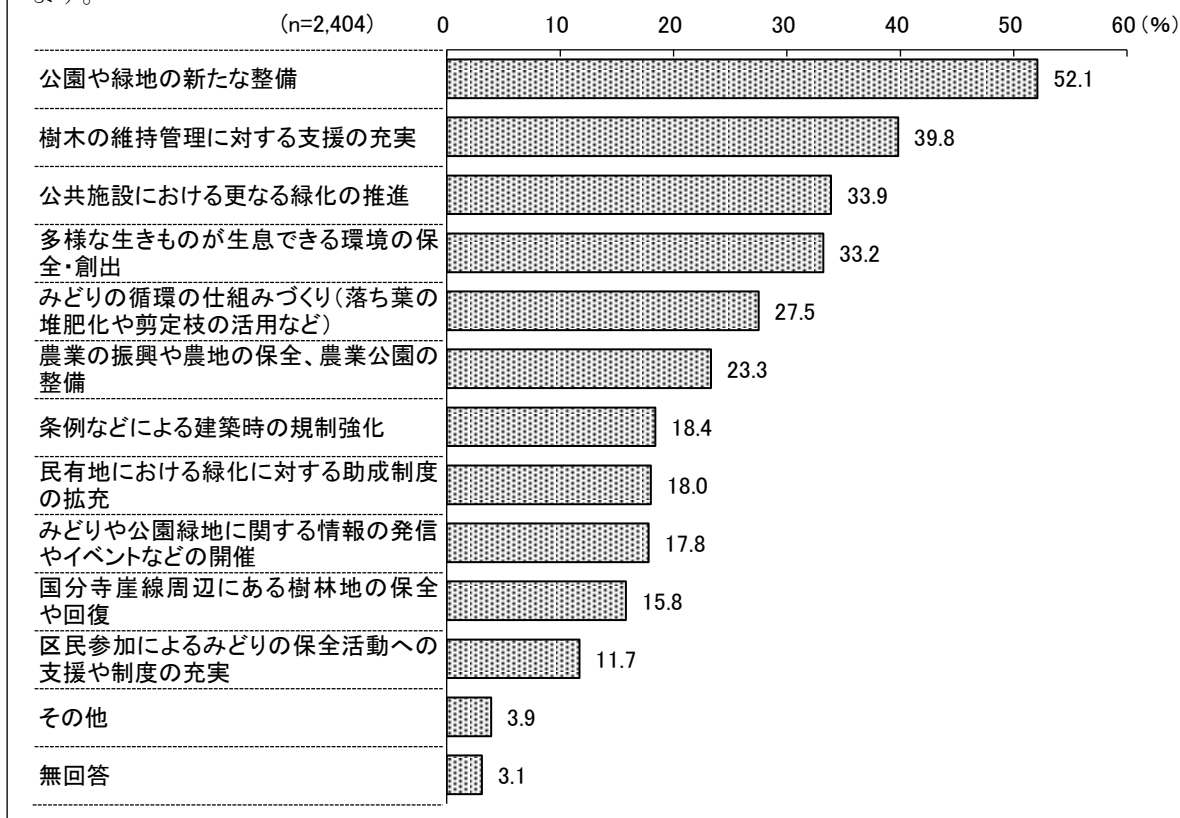
区の交通手段の満足度について聞いたところ、「満足している」(20.5%)と「どちらかといえば満足している」(48.8%)を合わせた《満足している》が69.3%、「どちらかといえば満足していない」(21.0%)と「満足していない」(8.4%)を合わせた《満足していない》が29.5%となっています。



14. みどり

●みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと（複数回答）

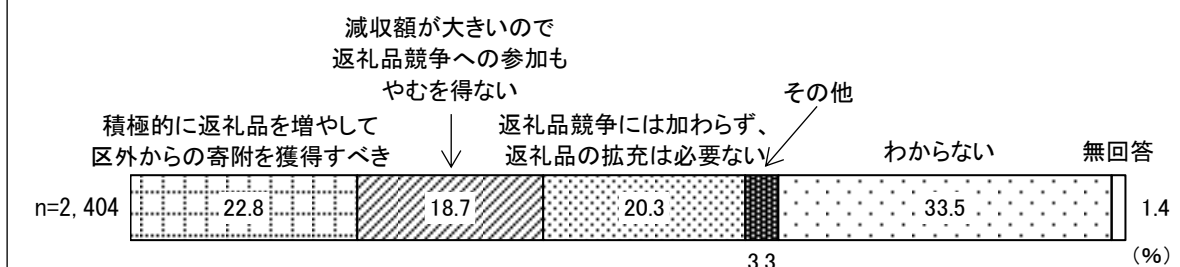
みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいことを聞いたところ、「公園や緑地の新たな整備」が52.1%で最も高く、以下、「樹木の維持管理に対する支援の充実」、「公共施設における更なる緑化の推進」、「多様な生きものが生息できる環境の保全・創出」などと続いています。



15. ふるさと納税

●返礼品に関する区の姿勢について

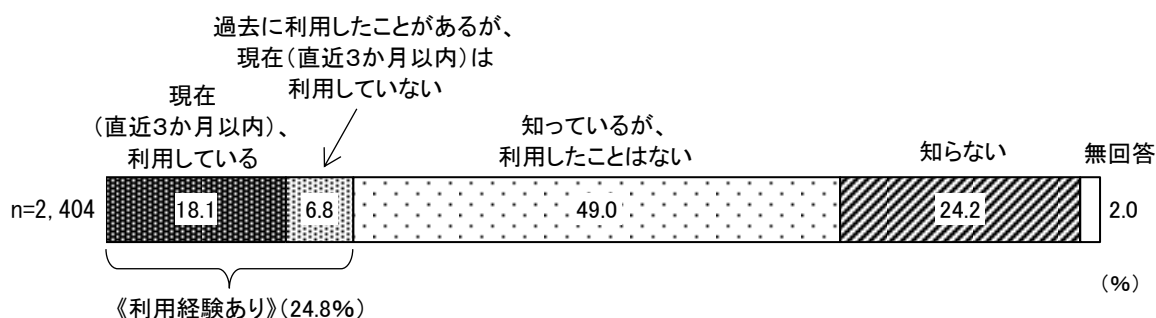
返礼品に関する区の姿勢について聞いたところ、「わからない」が33.5%で最も高くなっています。以下、「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」、「返礼品競争には加わらず、返礼品の拡充は必要ない」、「減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない」などと続いています。



16. せたがや Pay

●せたがや Pay の認知・利用度

せたがやPayの認知・利用度を聞いたところ、「知っているが、利用したことはない」が49.0%で最も高くなっています。「現在（直近3か月以内）、利用している」（18.1%）と「過去に利用したことがあるが、現在（直近3か月以内）は利用していない」（6.8%）を合わせた《利用経験あり》は24.8%となっています。



世田谷区民意識調査2024（概要版） 令和6年9月発行（広報印刷物登録番号 No. 2277）

発行 世田谷区政策経営部広報広聴課
東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号
電話：03（5432）2014
ファクシミリ：03（5432）3001

実施 株式会社アダムコミュニケーション
東京都杉並区上高井戸1丁目8番17号 ブライトコアビル新館6階
電話：03（6847）5757
ファクシミリ：03（6847）5756

世田谷区民意識調査 2024

(令和6年5月実施)



は じ め に

世田谷区では、日頃より、様々な形で区民の皆様から区政に対するご意見・ご要望をお聴かせいただいています。

区民意識調査も、こうした広聴事業のひとつとして、区政に対するニーズや意識とその変化を把握するために毎年実施しているもので、今回で50回目となります。

本書は、本年実施した区民意識調査の結果を取りまとめたものです。今回の調査は、「定住性」「職員応対」など経年的な変化を把握するための調査項目に加え、「広報」「災害時の備え」「ふるさと納税」などに関する項目を調査対象といたしました。

この調査結果を今後の事業の見直しや政策立案の参考とさせていただくとともに、引き続き区民の皆様へのわかりやすい情報提供・情報発信に努め、行政への理解や関心を深めていただき、区民参加を更に推進してまいります。

最後に、調査実施にあたりまして、ご協力いただきました区民の皆様に心からお礼を申し上げます。

令和6年9月

世田谷区

目 次

調査概要	1
1. 調査目的	3
2. 調査項目	3
3. 調査設計	3
4. 標本設計	3
5. 回収結果	6
6. この報告書のみかた	7
7. 標本誤差	7
標本構成	9
1. 標本構成	11
質問と回答	15
調査結果	35
1. 定住性	37
(1) 居住年数	37
(2) 暮らしの満足度	41
(3) 住みやすさ	47
(4) 定住意向	52
(5) 定住意向理由	58
(6) 非定住意向理由	63
(7) 地域における日常生活での困りごと	65
2. 区政	70
(1) 区が積極的に取り組むべき事業	70
3. 職員対応	74
(1) 窓口対応	74
(2) 印象が良かった点	77
(3) 印象が悪かった点	80
(4) 職員対応での注意点	82

4. 広報	85
(1) 区の取り組みや身近な情報の入手経路	85
(2) 発信してほしい区の取り組みや情報	87
5. 福祉と医療	90
(1) 介護や医療必要時の居留意向	90
(2) 「福祉の相談窓口」の認知度	93
(3) 「在宅医療」の認知度	96
(4) 「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度	99
(5) 身近な相談相手の有無	102
(6) 日常生活の不安や悩みの有無	105
(7) 行政機関や民間団体からの支援	108
(8) 地域住民同士の支え合いについて	111
(9) 認知症についての印象	114
6. 子育て	117
(1) 区の子育て環境	117
7. 災害時の備え	121
(1) 防災への対処	121
(2) 「ハザードマップ」の認知度	129
(3) 在宅避難推奨の認知度	133
(4) 水や食料の備蓄について	136
(5) 非常用電力の備蓄について	139
(6) 携帯用トイレの備蓄について	142
8. 地域コミュニティ	145
(1) 地域活動への参加経験・参加意向	145
9. 文化活動	149
(1) 区内の文化資源の認知度	149
10. 多文化共生	154
(1) 区が多文化共生社会への進捗状況	154
(2) 外国人の地域活動への参加の進捗状況	157
(3) 区内の外国人への偏見や差別の改善状況	160

11. 健康づくり	163
(1) 1日の歩行時間	163
12. スポーツ	167
(1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数	167
(2) スポーツの生活の質向上への役立ち度	171
(3) スポーツの新たな交流への貢献度	173
(4) スポーツの地域の活性化への役立ち度	175
(5) ユニバーサルスポーツの関心度	177
13. 交通	179
(1) 区交通手段の満足度	179
(2) 自転車利用頻度	182
(3) 主な自転車利用用途	185
(4) 歩行時の自転車との接触有無	188
14. みどり	191
(1) みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと	191
15. ふるさと納税	194
(1) 「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度	194
(2) 「ふるさと納税」の経験	197
(3) 返礼品に関する区の姿勢について	200
(4) 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度	203
(5) 区民税の減収状況の認知経路	206
16. せたがやPay	209
(1) せたがやPayの認知・利用度	209
(2) せたがやPayを利用しない理由	212

調 査 概 要

1. 調査目的

この調査は、区民が区政に対してどのような意見・要望を持っているかを把握し、今後の区政を進めていくうえでの基礎資料とすることを目的としています。

2. 調査項目

- | | |
|--------------|---------------|
| (1) 定住性 | (9) 文化活動 |
| (2) 区政 | (10) 多文化共生 |
| (3) 職員応対 | (11) 健康づくり |
| (4) 広報 | (12) スポーツ |
| (5) 福祉と医療 | (13) 交通 |
| (6) 子育て | (14) みどり |
| (7) 災害時の備え | (15) ふるさと納税 |
| (8) 地域コミュニティ | (16) せたがや Pay |

3. 調査設計

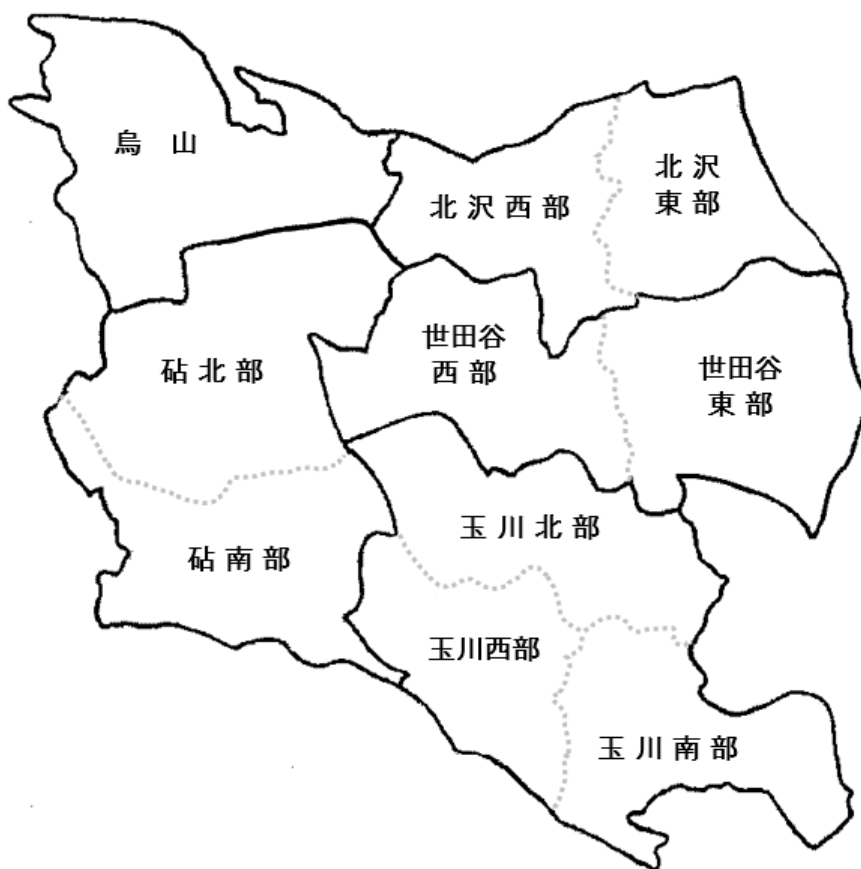
- | | |
|----------|-------------------------------|
| (1) 調査対象 | 世田谷区在住の満 18 歳以上の男女 |
| (2) 対象数 | 5,000 人（内訳／4,842 人、外国籍 158 人） |
| (3) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |
| (4) 調査方法 | 郵送配布・回収またはインターネットによる回答 |
| (5) 調査期間 | 令和 6 年 5 月 15 日～6 月 5 日 |
| (6) 調査機関 | 株式会社アダムスコミュニケーション |

4. 標本設計

- | | |
|-----------|--------------------|
| (1) 母集団 | 世田谷区在住の満 18 歳以上の男女 |
| (2) 対象数 | 5,000 人 |
| (3) 調査地点数 | 200 地点 |
| (4) 抽出方法 | 層化二段無作為抽出法 |

【層 化】

世田谷区内を町丁目単位として、次の10地域に分類しそれぞれを層として計10層とした。



【標本数の配分】

各地域（層）における18歳以上の人口数（令和6年4月1日現在）により、5,000の標本数を配分した。

【抽 出】

① 調査地点の抽出数については、1調査地点の標本数が25になるように、各地域（層）に当てられた標本数より算出し、決定した。

② 調査地点は、各地域（層）ごとに、

$$\frac{\text{地域（層）における人口数}}{\text{地域（層）で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔}$$

を算出し、等間隔抽出法によって、調査地点となる対象者抽出のための町丁目における起算番号を算出した。

③ 対象者の抽出の名簿として、住民基本台帳を使用した。抽出された調査地点における対象者の抽出は、町丁目指定された起算番号目の人を第1番目の抽出対象とし、以下一定の抽出間隔で指定の対象数25を系統的に抽出した。

地 域 別 町 丁 名 一 覧 表

地域	町丁目	地域	町丁目
世田谷東部	池尻 1～4丁目	玉川南部	奥沢 1～8丁目
	下馬 1～6丁目		東玉川 1～2丁目
	三宿 1～2丁目		玉川田園調布 1～2丁目
	太子堂 1～5丁目		等々力 1～8丁目
	三軒茶屋 1～2丁目		尾山台 1～3丁目
	野沢 1～4丁目		玉堤 1～2丁目
	若林 1～5丁目	玉川西部	中町 1～5丁目
	上馬 1～5丁目		野毛 1～3丁目
	駒沢 1～2丁目		瀬田 1～5丁目
世田谷西部	世田谷 1～4丁目		上野毛 1～4丁目
	弦巻 1～5丁目		玉川 1～4丁目
	宮坂 1～3丁目	砧北部	船橋 1～7丁目
	桜 1～3丁目		千歳台 1～6丁目
	経堂 1～5丁目		祖師谷 1～6丁目
	桜丘 1～5丁目		砧 1～8丁目
北沢東部	北沢 1～5丁目		成城 1～9丁目
	代沢 1～5丁目	砧南部	大蔵 1～6丁目
	大原 1～2丁目		砧公園
	羽根木 1～2丁目		岡本 1～3丁目
	代田 1～6丁目		鎌田 1～4丁目
北沢西部	松原 1～6丁目		喜多見 1～9丁目
	梅丘 1～3丁目		宇奈根 1～3丁目
	豪徳寺 1～2丁目	烏山	八幡山 1～3丁目
	赤堤 1～5丁目		南烏山 1～6丁目
	桜上水 1～5丁目		粕谷 1～4丁目
玉川北部	駒沢公園		北烏山 1～9丁目
	駒沢 3～5丁目		給田 1～5丁目
	新町 1～3丁目		上祖師谷 1～7丁目
	深沢 1～8丁目		上北沢 1～5丁目
	桜新町 1～2丁目		
	用賀 1～4丁目		
	上用賀 1～6丁目		
	玉川台 1～2丁目		

5. 回収結果

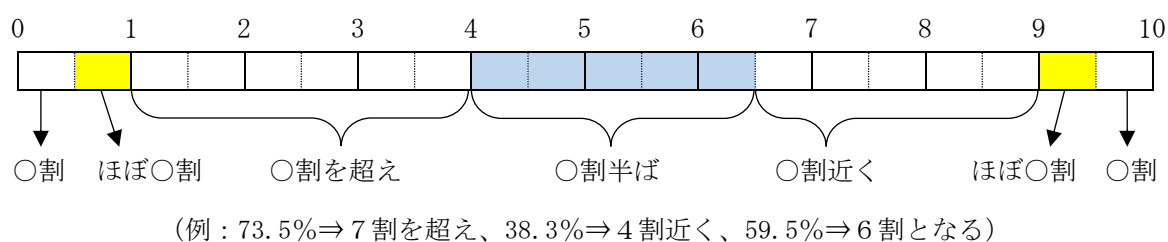
- (1) 有効回収数 2,404 人（内訳／日本国籍 2,356 人、外国籍 48 人）
 (2) 有効回収率 48.1%
 （内訳／郵送回収 1,558 通・64.8%、インターネット回収 846 通・35.2%）

回収結果内訳 （人口は令和 6 年 4 月 1 日現在）

			標本数A	調査 地点数	18歳以上の人口数(母集団)	回収数B	回収率 C=B/A
全体			5,000	200	794,514	2,404	48.1%
地区	世田谷	東部	825	33	130,997	375	45.5%
		西部	575	23	91,103	273	47.5%
	北沢	東部	425	17	66,301	183	43.1%
		西部	450	18	70,002	199	44.2%
	玉川	北部	475	19	73,410	233	49.1%
		南部	425	17	68,273	228	53.6%
		西部	325	13	52,020	146	44.9%
	砧	北部	600	24	97,235	303	50.5%
		南部	250	10	41,077	119	47.6%
	烏山		650	26	104,096	304	46.8%
無回答		－	－	－	41	－	
性別×年齢	男性	計	2,278	－	371,064	915	40.2%
		10歳代・20歳代	411	－	66,539	72	17.5%
		30歳代	349	－	58,637	102	29.2%
		40歳代	437	－	69,583	135	30.9%
		50歳代	443	－	70,371	196	44.2%
		60歳代	266	－	46,502	160	60.2%
		70歳代	226	－	35,602	151	66.8%
		80歳以上	146	－	23,830	99	67.8%
		無回答	－	－	－	0	－
	女性	計	2,722	－	423,450	1,447	53.2%
		10歳代・20歳代	455	－	69,473	120	26.4%
		30歳代	405	－	64,844	186	45.9%
		40歳代	501	－	76,446	264	52.7%
		50歳代	499	－	76,096	293	58.7%
		60歳代	343	－	48,679	240	70.0%
		70歳代	271	－	43,446	200	73.8%
		80歳以上	248	－	44,466	143	57.7%
		無回答	－	－	－	1	－
	その他		－	－	－	12	－
	無回答		－	－	－	30	－

6. この報告書のみかた

- (1) 百分比は回答者数（該当設問においては該当者数）を 100%として算出し、本文及び図表の数字はすべて小数点第 2 位を四捨五入してある。したがって、比率の合計が必ずしも 100.0%にならない場合がある。同様に、複数の回答の合計値も図表の数字が一致しない場合がある。
- (2) 設問中に特に指示がない限り、回答は 1 つである。
- (3) 複数回答の設問は、すべての比率の合計が 100.0%を超えることがある。
- (4) 設問に対して無回答があったクロス集計による分析では、各回答者数の合計が全体の回答者数と一致していない。
- (5) 基数が 30 に満たないデータについては参考値とする。
- (6) 数値を考察するにあたり、割合の表現は以下のとおりとしている。



7. 標本誤差

下記は二段抽出の標本誤差算出の数式である。

$$(\text{標本誤差}) \quad b = 2 \sqrt{2 \times \frac{N-n}{N-1} \times \frac{p(1-p)}{n}}$$

N=母集団（世田谷区全体）
n=比率算出の基礎（サンプル数）
p=回答比率

Nはnより非常に大きいため、 $\frac{N-n}{N-1} \div 1$ とみなすことができるので、標準誤差の範囲は、次の

標本誤差早見表のとおり求められる。

標 本 誤 差 早 見 表

回答比率(p)			10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後	
基数(n)								
総数			2,404	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.9%
地域	世田谷	東部	375	± 4.4%	± 5.8%	± 6.7%	± 7.2%	± 7.3%
		西部	273	± 5.1%	± 6.8%	± 7.8%	± 8.4%	± 8.6%
	北沢	東部	183	± 6.3%	± 8.4%	± 9.6%	± 10.2%	± 10.5%
		西部	199	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
	玉川	北部	233	± 5.6%	± 7.4%	± 8.5%	± 9.1%	± 9.3%
		南部	228	± 5.6%	± 7.5%	± 8.6%	± 9.2%	± 9.4%
		西部	146	± 7.0%	± 9.4%	± 10.7%	± 11.5%	± 11.7%
	砧	北部	303	± 4.9%	± 6.5%	± 7.4%	± 8.0%	± 8.1%
		南部	119	± 7.8%	± 10.4%	± 11.9%	± 12.7%	± 13.0%
	烏 山		304	± 4.9%	± 6.5%	± 7.4%	± 7.9%	± 8.1%
性別	男 性		915	± 2.8%	± 3.7%	± 4.3%	± 4.6%	± 4.7%
	女 性		1,447	± 2.2%	± 3.0%	± 3.4%	± 3.6%	± 3.7%
年代	10・20歳代		196	± 6.1%	± 8.1%	± 9.3%	± 9.9%	± 10.1%
	30歳代		290	± 5.0%	± 6.6%	± 7.6%	± 8.1%	± 8.3%
	40歳代		403	± 4.2%	± 5.6%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.0%
	50歳代		491	± 3.8%	± 5.1%	± 5.8%	± 6.3%	± 6.4%
	60歳代		400	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
	70歳代		354	± 4.5%	± 6.0%	± 6.9%	± 7.4%	± 7.5%
	80歳以上		248	± 5.4%	± 7.2%	± 8.2%	± 8.8%	± 9.0%

回答比率(p)		10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
基数(n)						
n = 2,500 の場合	(2,500)	± 1.7%	± 2.3%	± 2.6%	± 2.8%	± 2.8%
n = 2,000 の場合	(2,000)	± 1.9%	± 2.5%	± 2.9%	± 3.1%	± 3.2%
n = 1,500 の場合	(1,500)	± 2.2%	± 2.9%	± 3.3%	± 3.6%	± 3.7%
n = 1,000 の場合	(1,000)	± 2.7%	± 3.6%	± 4.1%	± 4.4%	± 4.5%
n = 800 の場合	(800)	± 3.0%	± 4.0%	± 4.6%	± 4.9%	± 5.0%
n = 600 の場合	(600)	± 3.5%	± 4.6%	± 5.3%	± 5.7%	± 5.8%
n = 400 の場合	(400)	± 4.2%	± 5.7%	± 6.5%	± 6.9%	± 7.1%
n = 200 の場合	(200)	± 6.0%	± 8.0%	± 9.2%	± 9.8%	± 10.0%
n = 100 の場合	(100)	± 8.5%	± 11.3%	± 13.0%	± 13.9%	± 14.1%

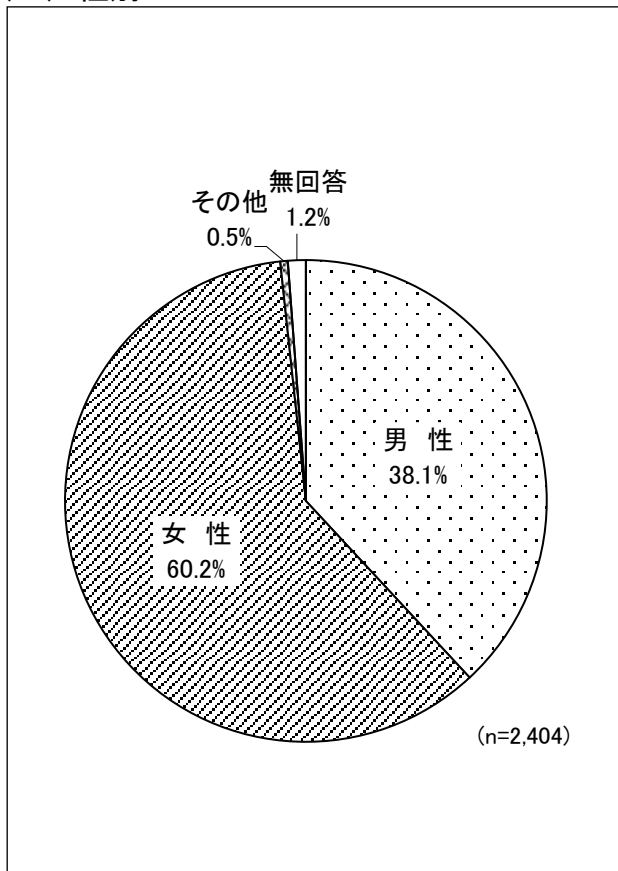
(注) この表の見方は次のとおりである。

「ある設問の回答数が 2,404 人であり、その設問の選択肢の回答比率が 40.0%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高で±2.8%である。」

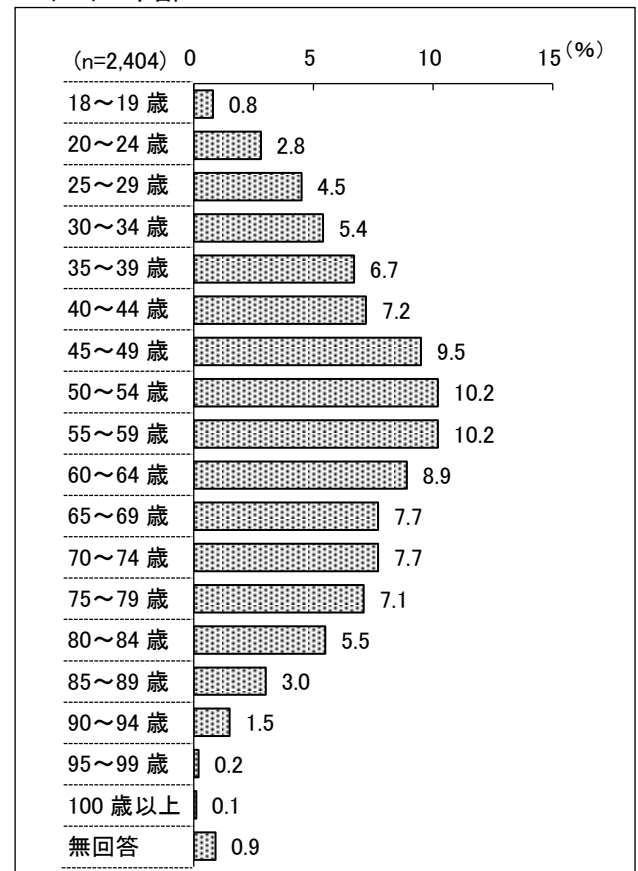
標 本 構 成

1. 標本構成

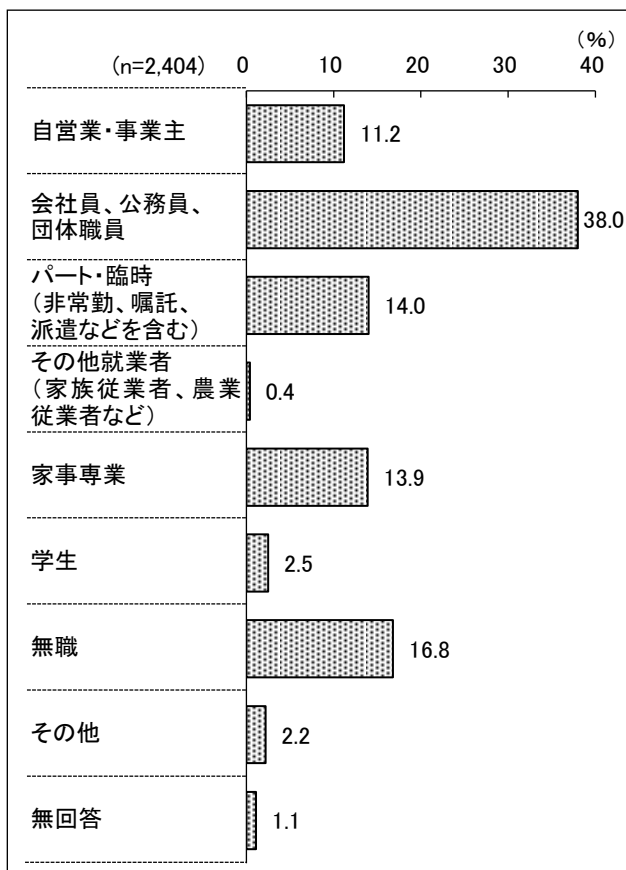
(1) 性別



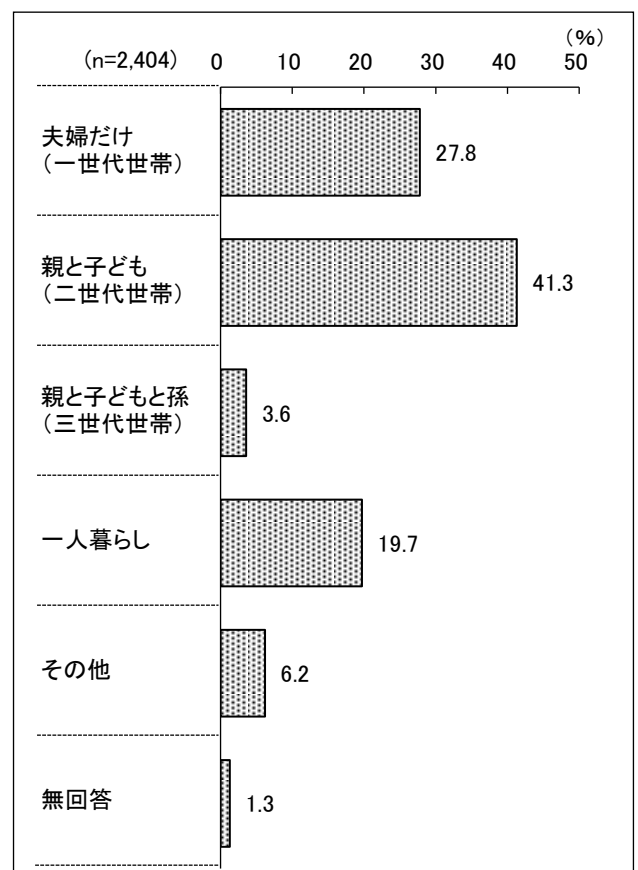
(2) 年齢



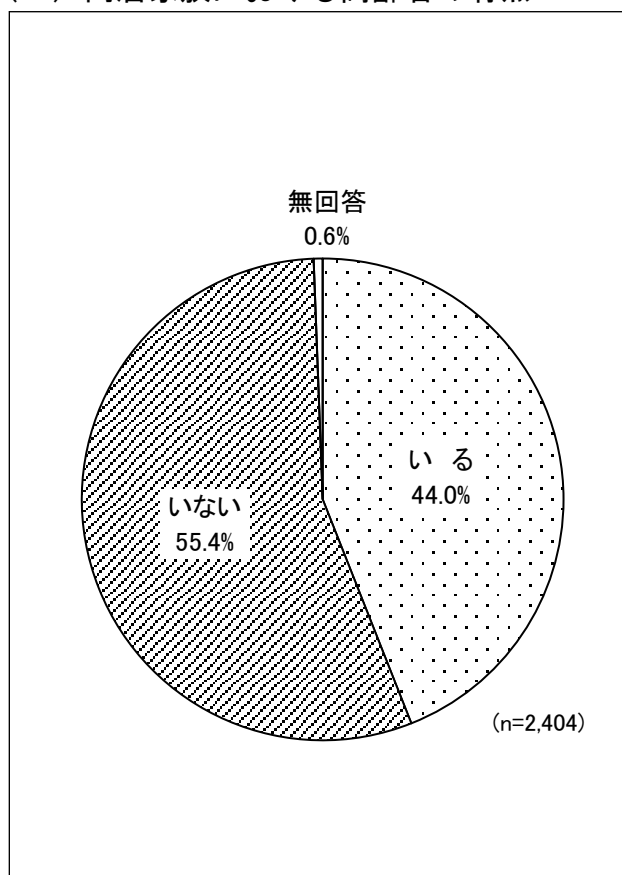
(3) 職業



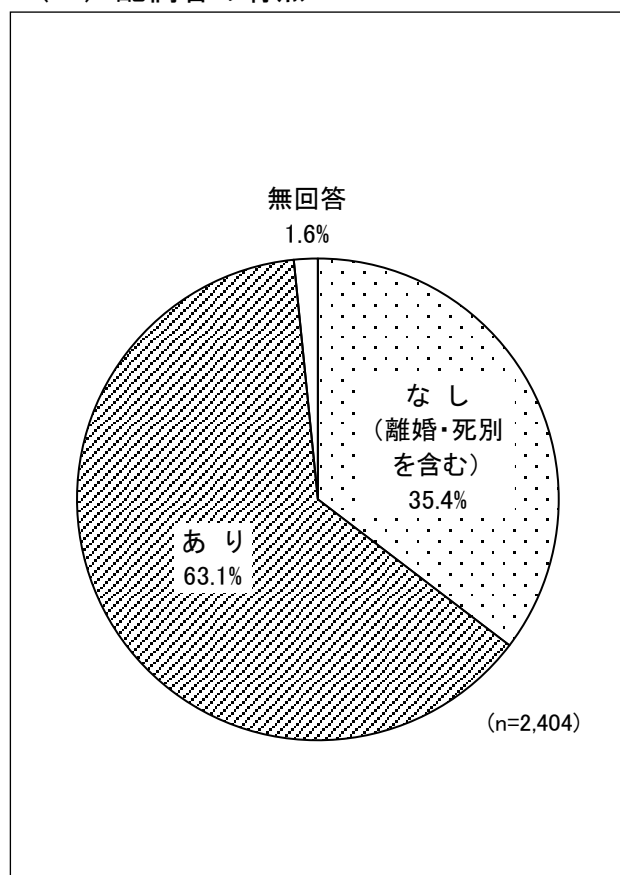
(4) 世帯構成



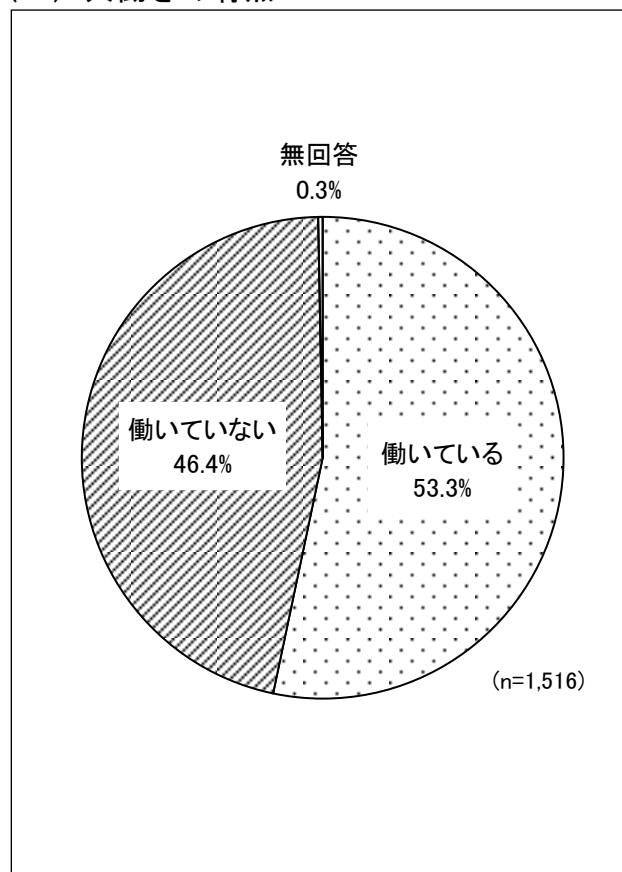
(5) 同居家族における高齢者の有無



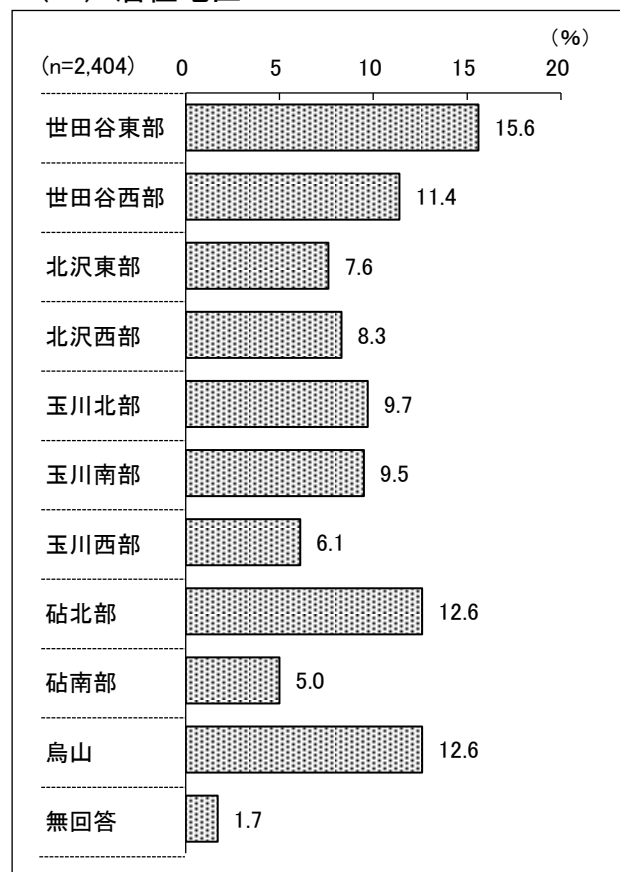
(6) 配偶者の有無



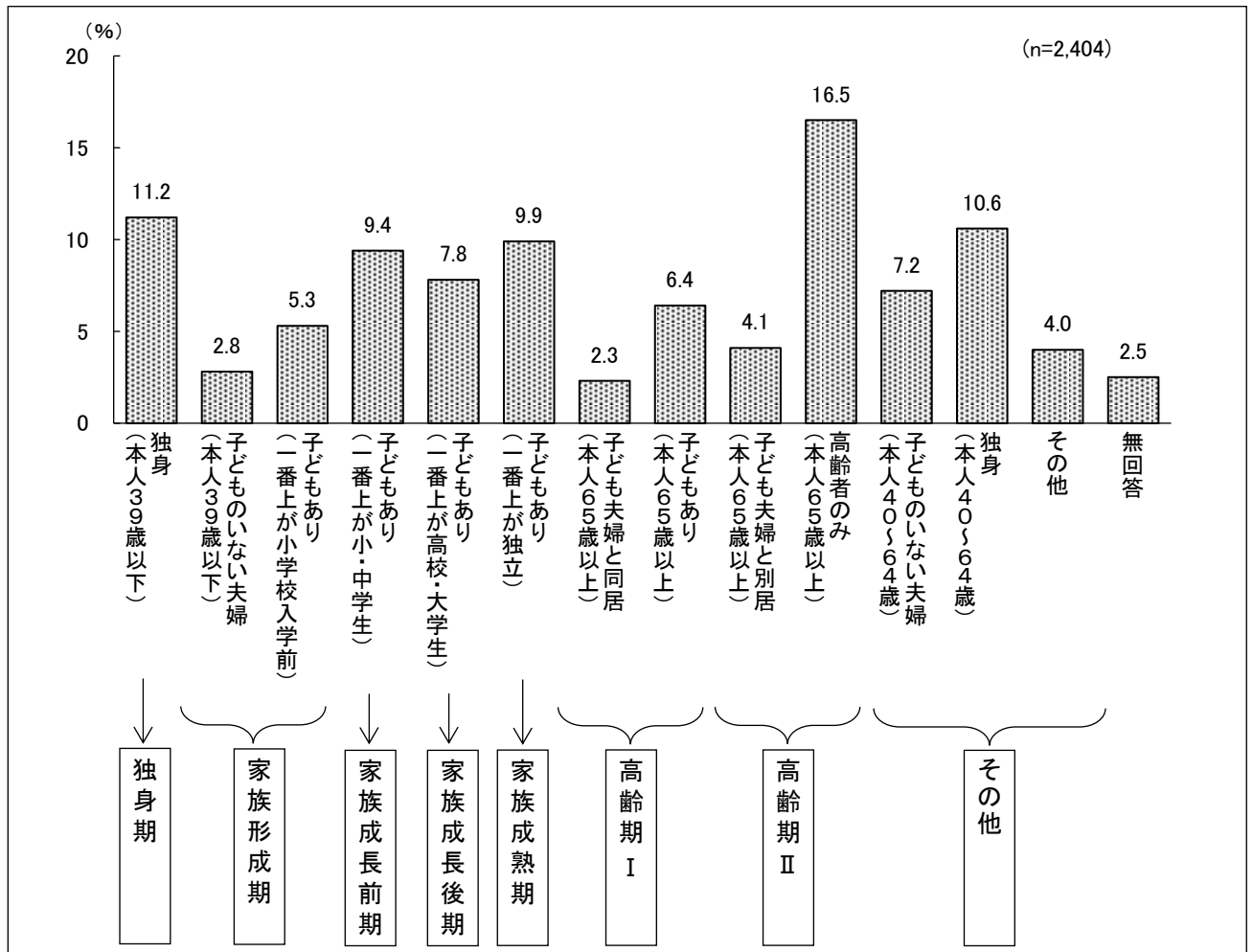
(7) 共働きの有無



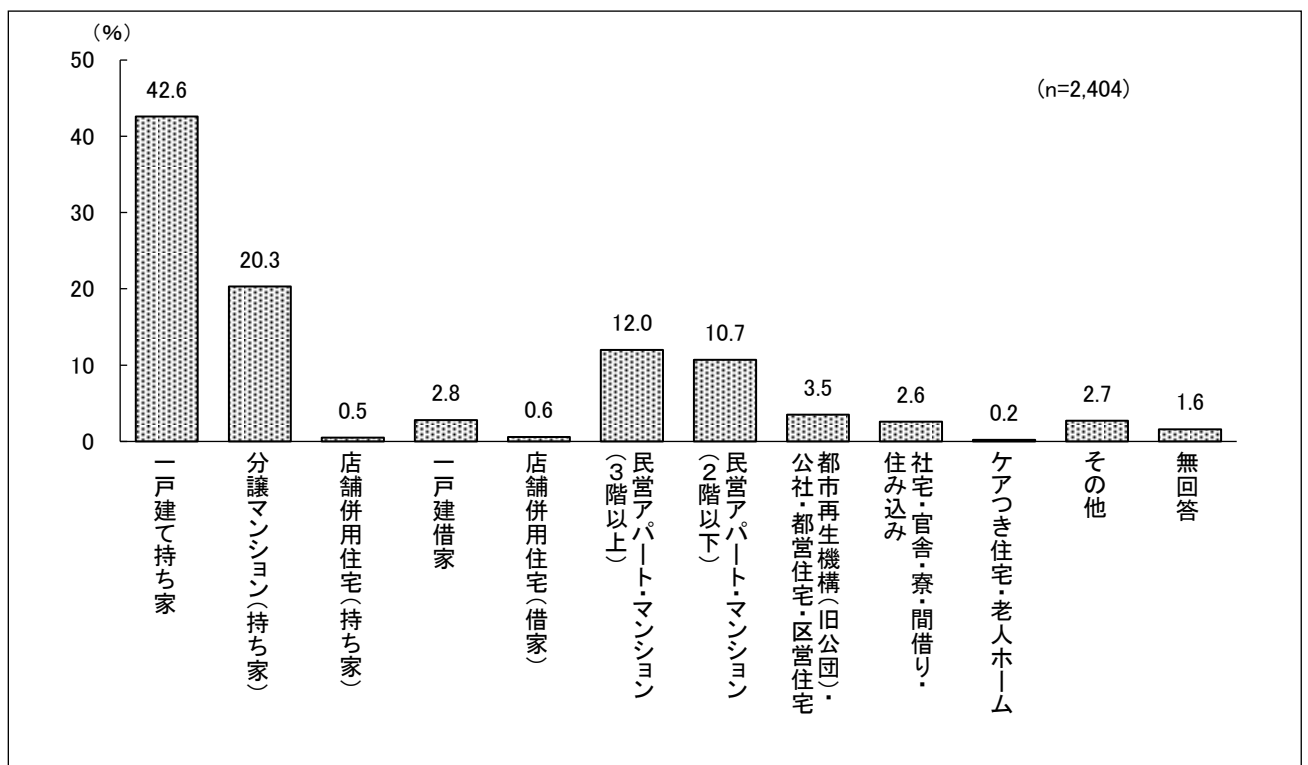
(8) 居住地区



(9) ライフステージ



(10) 住居形態



質 問 と 回 答

この調査は世田谷区役所が実施しています

令和6年度 世田谷区民意識調査 調査票

【ご回答にあたってのお願い】

1. 封筒の宛名に書かれているご本人がお答えください。
ただし、事情によりご本人による記入やインターネット操作が難しい場合は、ご家族の方が代わりに行っていただいても構いません。
2. 回答は、最初から1問ずつ、最後までお答えください。
3. 回答は、あてはまる番号に○印をつけてください。
4. 質問によって、○をつける数を（1つ）（いくつでも）などと指定していますので、その範囲内でお答えください。
5. 回答は郵送またはインターネットで行うことができます。

6月5日（水）までに、ご回答いただくようお願いいたします。

≫≫調査の内容などについては下記へお問い合わせください。

せたがやコール 電話 03-5432-3333
午前8時～午後9時（年中無休）

≫≫調査主体 世田谷区 政策経営部 広報広聴課

郵送による回答方法

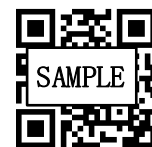
1. 記入は、黒のボールペンまたは鉛筆でお願いします。
2. 回答のご記入が終わりましたら、同封の返信用封筒（切手不要）に入れて郵便ポストに投函してください。

インターネットによる回答方法（文面は日本語と英語です）

パソコン、スマートフォンからご回答いただけます。

URL : <https://00000/>

あなたのID番号 : a12345



1. 回答を途中で終了した場合も、再度、IDでログインすることで、続きから回答を再開できます。
2. このIDは無作為に配布していますので、個人を特定するものではありません。
どなたがどのIDであるかは照合できません。
3. インターネットで回答した場合は調査用紙の提出は不要です。

＜インターネットによる回答の手順＞

- ①この調査票の表紙に書かれているURLまたは二次元コードから回答ページにアクセスしてください。
- ②画面上に表示する言語は、画面右上の「日本語」または「English」の文字をクリックすると変更することができます。
- ③表紙に書かれている「あなたのID番号」を入力して、画面右下の「次へ」ボタンをクリックしてください。
- ④画面の指示に従って回答してください。全ての質問を回答後、「送信」ボタンを押すと、回答が完了します。

[スマートフォン]

[パソコン・タブレット]

n=2, 404

定 住 性

(全員の方に)

問 1 あなたは、世田谷区に住んで何年くらいになりますか。(○は1つ)

1	1年未満	2.6	5	10～18年未満	15.3
2	1～3年未満	6.8	6	18～30年未満	21.8
3	3～6年未満	6.9	7	30年以上	38.3
4	6～10年未満	7.5		(無回答)	0.7

(全員の方に)

問 2 あなたは、現在の暮らしについてどのように思っていますか。(○は1つ)

1	十分満足している	27.5	3	まだまだ不満だ	8.9
2	十分とはいえないが満足している	59.7	4	きわめて不満だ	1.5
			5	わからない	1.6
				(無回答)	0.9

(全員の方に)

問 3 あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。(○は1つ)

1	とても住みやすい	44.3	4	やや住みにくい	3.7
2	やや住みやすい	41.3	5	とても住みにくい	0.6
3	どちらともいえない	9.2		(無回答)	0.9

(全員の方に)

問 4 あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。(○は1つ)

1	住みたいと思う	83.1	問4-1にお答えください。	
2	あまり住みたいとは思わない	4.1	→問4-2にお答えください。	
3	住みたくない	0.5	→問5にお答えください。	
4	どちらともいえない	11.4		
	(無回答)	0.9		

↓(問4で「1」と答えた方に) (n=1, 998)

問 4-1 これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。(○はいくつでも)

1	住み慣れているから	70.0	8	人間関係がよいから	17.7
2	生まれた時からずっと住んでいるから	14.5	9	教育や文化、その他の社会施設などがよく整備されているから	20.2
3	自分の土地(住宅)だから	39.4	10	仕事や商売の関係で	7.4
4	住まいが広いなど住宅事情がよいから	9.3	11	家賃など経済的負担が適当だから	2.2
5	自然や街並みなど生活環境がよいから	48.3	12	子育てがしやすいから	10.0
6	交通や買物など生活に便利だから	65.7	13	その他	2.7
7	通勤・通学など交通の便がよいから	38.7	14	わからない	0.1
				(無回答)	0.2

(問4で「2～3」と答えた方に) (n=110)

問 4-2 世田谷区に住みたくない理由はどんなことですか。(○はいくつでも)

1	土地柄になじめないから	13.6	8	地域・近隣との交流がほとんどないから	10.9
2	生まれ育った土地ではないから	22.7	9	教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから	20.9
3	自分の土地(住宅)でないから	9.1	10	仕事や商売の関係で	4.5
4	住まいが狭いなど住宅事情が悪いから	30.9	11	家賃など経済的負担が多いから	40.9
5	自然や街並みなど生活環境が悪いから	21.8	12	子育てがしにくいから	13.6
6	交通や買物など生活に不便だから	21.8	13	その他	18.2
7	通勤・通学など交通の便が悪いから	8.2	14	わからない	0.9
				(無回答)	0.9

(全員の方に)

問5 あなたは、普段生活している地域でどんなことにお困りですか。(〇は3つまで)

《街づくり・暮らし》		《交通》		
1	公園やスポーツのできる場所がない	9.0	11 交通が不便	8.2
2	住宅が密集しすぎている	16.3	12 車など交通が激しい	11.4
3	放置自転車がなくて迷惑	4.5	13 電車の踏み切りがなかなか渡れない	14.9
4	災害時の避難場所が近くにない	4.4	14 道路が狭くて危険	25.0
5	地域の治安が悪い	1.2	《環境・ごみ》	
6	落書き、違法広告、風俗関係のチラシ	2.0	15 騒音や振動が気になる	9.4
7	子育て環境が整備されていない	2.9	16 空気の汚れがひどい	3.5
8	区民利用施設が使用しにくい	11.4	17 空き缶・たばこなどのポイ捨て	9.6
9	高齢者施設が使用しにくい	4.0	18 路上喫煙などのたばこマナーが悪い	10.4
10	買い物に不便	9.2	19 ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない	7.7
			20 カラスなどの鳥獣による被害	20.9
			21 犬、猫などのペット公害	6.0
			22 その他	7.1
			23 特になし	14.9
		(無回答)		2.8

区 政

(全員の方に)

問6 あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

《健康・福祉》		《暮らし・コミュニティ》		
1	健康づくりの推進	12.1	12 地域コミュニティの促進	7.8
2	見守り施策や地域支えあいの推進など、 区民・事業者との協働による地域づくり	14.0	13 防犯・地域安全の対策	24.5
3	高齢者福祉の充実	24.8	14 消費者の支援	11.4
4	障害者福祉の充実	5.6	15 多様性の尊重（人権尊重・男女共同参画の推 進など）	4.6
5	生活困窮者への支援	7.7	16 文化・芸術の推進	9.0
《子ども若者・教育》		17 生涯スポーツの推進	5.0	
6	若者が力を発揮する地域づくり	12.3	18 清掃・資源リサイクルの推進	8.5
7	生涯学習の充実	5.9	19 産業振興・雇用促進	2.9
8	I C T（情報通信技術）の推進	6.3	《都市づくり》	
9	子どもが育つ環境づくり	19.8	20 災害に強いまちづくり	33.5
10	質の高い学校教育の推進	13.0	21 住宅政策	5.9
11	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への 支援	11.2	22 公園・緑地の整備	11.7
			23 自然環境の保護	10.7
			24 都市景観の保全や創出	4.7
			25 交通ネットワークの整備	11.7
			26 道路の管理保全	10.1
			27 その他	1.7
			28 特になし	3.7
		(無回答)		1.3

職員 応 対

(全員の方に)

問 7 区の窓口や対応について印象はいかがでしたか。(○は1つ)

1	とても良かった	31.6	問 7-1 にお答えください。
2	やや良かった	35.6	
3	どちらともいえない	26.3	→ 問 8 にお答えください。
4	やや悪かった	3.2	→ 問 7-2 にお答えください。
5	とても悪かった	0.6	
(無回答)		2.8	

(問 7 で「1～2」と答えた方に) (n=1,614)

問 7-1 印象が良かった点はどれですか。(○は2つまで)

1	説明がわかりやすかった	27.9	4	親切・丁寧な対応だった	60.5
2	対応が正確・迅速だった	38.0	5	言葉遣いが丁寧だった	9.4
3	さわやかな対応だった	8.8	(無回答)		1.0

(問 7 で「4～5」と答えた方に) (n=91)

問 7-2 印象が悪かった点はどれですか。(○は2つまで)

1	説明がわかりにくい	24.2	4	不親切な対応だった	52.7
2	対応で待たされた	31.9	5	言葉遣いが悪い	14.3
3	たらい回しにされた	30.8	(無回答)		1.1

(全員の方に)

問 8 今後、職員対応について、どのような点に注意すべきだと思いますか。(○は3つまで)

1	身だしなみ	2.9	6	待たせない事務処理の工夫	45.3
2	わかりやすい説明	38.1	7	窓口を明るい雰囲気に変える	9.5
3	名札の着用	2.1	8	プライバシーへの配慮	12.9
4	さわやかな挨拶	6.6	9	その他	2.9
5	親切・丁寧な対応	36.7	10	特になし	19.1
(無回答)					6.9

広 報

区では、区の取り組みや地域の身近な情報などを広報紙やホームページ、SNSなどを使って配信しています。

（全員の方に）

問 9 あなたは、区の取り組みや地域の身近な情報をどこから得ていますか。（○はいくつでも）

1 区のおしらせ「せたがや」（広報紙）	43.8	9 エフエム世田谷	1.3
2 区のホームページ	25.6	10 セタがや便利帳	7.5
3 区公式X（旧Twitter）	3.2	11 セタがやコール（お問い合わせセンター）	1.5
4 区公式Facebook	0.3	12 区広報板（区が設置している掲示板）	13.4
5 区公式LINE	3.8	13 区作成のチラシ・パンフレット	8.4
6 区公式Instagram	0.3	14 町会・自治会の回覧板	21.6
7 メール配信サービス（メールマガジン）	3.3	15 その他	1.8
8 マチイロ（スマートフォン用アプリ）	0.2	16 特に入手していない	25.2
		（無回答）	1.0

（全員の方に）

問 10 区が発信する取り組みや情報の中で、もっと知らせてほしいと思うものはどれですか。

（○はいくつでも）

1 区の施策や計画・財政状況	16.8	9 ごみ収集・リサイクル	22.1
2 区の手続き（届出や証明、申請など）	25.7	10 環境・エネルギー	5.0
3 税金・年金・保険	29.8	11 区施設の利用に関する情報	22.0
4 防犯や災害対策	22.0	12 区の催し物・イベント情報	30.6
5 子ども・子育てや教育	15.6	13 身近な地域の紹介	13.2
6 健康・医療や福祉	25.8	14 オンラインサービス情報（申請・相談など）	17.2
7 住まいや道路・交通、まちづくり	16.5	15 その他	1.1
8 仕事・就労	8.0	16 特にない	10.5
		（無回答）	1.8

福 祉 と 医 療

（全員の方に）

問 11 あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。（○は1つ）

1 そう思う	36.0	3 あまりそう思わない	8.5
2 どちらかといえばそう思う	34.6	4 そう思わない	2.6
		5 わからない	17.6
		（無回答）	0.6

（全員の方に）

問１２ あなたは、区内２８地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。

（○は１つ）

１	利用したことがある	17.4
２	名称は知っている	26.5
３	名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている	9.1
４	知らない	46.4

（無回答） 0.6

（全員の方に）

問１３ あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。

（○は１つ）

１	自分、または身近な人が利用している	10.7
２	利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）	19.6
３	利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いは知らない）	36.2
４	知らない	32.9

（無回答） 0.6

人生の最終段階にどのような治療やケアを望むのかを、医療・介護関係者や家族などの信頼できる身近な人と繰り返し話し合うプロセスを「ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」といいます。

（全員の方に）

問１４ あなたは、「ACP（アドバンス・ケア・プランニング：人生会議）」を知っていますか。

（○は１つ）

１	知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある	4.3
２	知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない	10.0
３	「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する治療やケアについて話し合ったことはある	13.9
４	知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない	71.2

（無回答） 0.6

区は、誰もが安心して暮らすことができ、誰一人取り残さない世田谷をつくるため、包括的な支援体制を構築し、地域福祉を推進しています。

（全員の方に）

問１５ あなたは、あなたに不安や悩みが生じた場合、身近に相談相手はいますか。（○は１つ）

１	いる	82.1	２	いない	17.2	（無回答）	0.7
---	----	------	---	-----	------	-------	-----

（全員の方に）

問 1 6 あなたは現在日常生活において不安や悩みを感じることはありますか。（○は1つ）

1	ある	51.3	問 1 6 - 1 にお答えください。
2	ない	46.4	→ 問 1 7 にお答えください。
(無回答)		2.3	

（問 1 6 で「1」と答えた方に）（n=1, 234）

問 1 6 - 1 あなたは、日常生活における不安や悩みについて、行政機関やNPOなどの民間団体から支援を受けていますか。（○は1つ）

1	受けている	7.2	2	受けていない	92.8	(無回答)	0.0
---	-------	-----	---	--------	------	-------	-----

（全員の方に）

問 1 7 不安や悩みを抱えている周りの人へ声掛けをするなどの地域住民同士の支え合いについて、最も近い考え方はどれですか。（○は1つ）

1	必要であり、積極的に声掛けをしたい	18.9	3	地域住民同士の支え合いは必要ない	5.2
2	必要だと思うが、自分では声掛けはできない	52.7	4	その他	3.5
			5	わからない	16.6
(無回答)					3.1

認知症とは、脳の病気や様々な原因によって脳の働きが低下し、日常生活や社会生活を送るうえで支障が出てくる状態（暮らしの障害）をいいます。区では、一人ひとりの希望及び権利が尊重され、ともに安心して自分らしく暮らせるまちを目指して、令和2年に「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」を制定しました。

（全員の方に）

問 1 8 あなたは、認知症についてどのような印象・考えをお持ちですか。（○はいくつでも）

1	認知症は、高齢者になるもので、自分には関係がない	1.9
2	認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある	88.5
3	認知症になってからも、自分なりにできることがある	22.8
4	認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる	15.5
5	あてはまるものはない	4.0
(無回答)		1.4

子 育 て

（全員の方に）

問 1 9 あなたは、世田谷区は子育てをしやすいまちだと感じますか。（○は1つ）

1	とても子育てしやすいと感じる	7.3	3	あまり子育てしやすいと感じない	12.1
2	子育てしやすいと感じる	42.2	4	まったく子育てしやすいと感じない	1.2
			5	わからない	34.7
(無回答)					2.5

災害時の備え

(全員の方に)

問20 あなたは、防災に対して日頃から心がけていることはありますか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。(〇はそれぞれ1つずつ)

	心がけて いる	どちらかと いえば心が けている	どちらかと いえば心が けていない	心がけて いない	わからない	(無回答)
(1) 防災知識の向上	15.1	51.5	20.9	7.0	4.0	1.5
(2) 地区での避難所運営訓練や防災塾への参加	3.0	12.1	24.8	44.1	13.6	2.4
(3) *避難行動要支援者の支援	3.4	13.9	22.3	33.0	24.6	2.8

*避難行動要支援者・・・要介護高齢者などや障害者のうち、身体の障害などの理由により、災害時に自力で自宅外へ避難することが困難な方や、自ら救出を求めることが困難な方

区では、水害から身を守るために、日頃の備えとして役立てていただくため、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を作成しています。「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」とは、水害リスクと区民のとるべき行動が確認できるよう、浸水のおそれがある範囲や浸水の深さ、避難所、避難行動、情報収集方法などを掲載しているものです。令和2年9月に区内全戸へ配布したほか、令和3年8月からは玉川・砧地域の転入届窓口でも配布しています。

(全員の方に)

問21 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を持っていますか。(〇は1つ)

1 持っている	48.3
2 持っていないが、見たことがある	25.8
3 持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある	13.3
4 持っていないし、聞いたこともない	11.2
(無回答)	1.3

区では在宅避難を推奨しています。震災時の避難所は、火災や倒壊により自宅で生活できなくなった方々を受け入れる施設です。自宅が無事である場合は、家庭で備蓄した水や食料などを使いながら、自宅で過ごす「在宅避難」が原則となります。在宅避難にご協力いただくことが、避難所の過密化対策のためにとっても大切です。

(全員の方に)

問22 あなたは区が在宅避難を推奨していることを知っていましたか。(〇は1つ)

1 知っている	37.0	2 知らない	61.8	(無回答)	1.2
---------	------	--------	------	-------	-----

(全員の方に)

問23 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(○は1つ)

1	1～2日分	22.3	4	1週間分以上	10.4
2	3日分	31.9	5	水や食料の備蓄はしていない	14.3
3	4～6日分	20.3		(無回答)	0.9

(全員の方に)

問24 あなたのご家庭では、災害に備えて非常用電力の備蓄をしていますか。(○はいくつでも)

1	小型発電機を備蓄している	3.0	5	太陽光蓄電池を設置している	4.3
2	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	7.0	6	EV車などから電源を確保することができる	2.5
3	モバイルバッテリーを備蓄している	26.9	7	備蓄していない	58.0
4	手回し発電機を備蓄している	10.0		(無回答)	1.9

(全員の方に)

問25 あなたのご家庭では、携帯トイレを何日分備蓄していますか。(○は1つ)

1	1～2日分	18.0	4	1週間分以上	8.8
2	3日分	13.5	5	携帯トイレの備蓄はしていない	47.5
3	4～6日分	11.1		(無回答)	1.0

地 域 コ ミ ュ ニ テ ィ

(全員の方に)

問26 あなたは、※身近な地域の活動に参加していますか。(○は1つ)

1	参加している	15.9
2	今は参加していないが、今後参加してみたい	15.2
3	参加していない	67.9
	(無回答)	1.0

※身近な地域の活動・・・町会・自治会、NPO・ボランティア、子育て支援活動、青少年健全育成活動、高齢者支援活動、お祭り・イベント、防犯・防災活動、介護予防・健康づくり活動、スポーツ活動、文化・芸術活動、環境美化・リサイクル活動、交通安全活動、コミュニティ・ビジネスなど

文 化 活 動

(全員の方に)

問 2 7 あなたは、区内にある美術館や文学館、劇場、文化財・史跡などの文化資源について、どの程度、ご存知ですか。次の(1)から(3)の項目について、あてはまるものを選んでください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	行ったこと がある	が、知っている ことはない	聞いたこと がある	知らない	(無回答)
(1) 世田谷美術館や世田谷文学館、世田谷パブリックシアターなどの公立の文化施設	56.1	26.1	6.1	10.5	1.2
(2) 五島美術館や大学付属の博物館などの民間の文化施設	23.7	35.1	9.4	30.5	1.3
(3) 世田谷代官屋敷や郷土資料館、次大夫堀公園民家園、野毛大塚古墳などの歴史的な文化資源	42.2	27.0	8.0	21.6	1.1

多 文 化 共 生

(全員の方に)

問 2 8 あなたは、「外国人住民と日本人住民が共に暮らす」という視点からみて、世田谷区は多文化共生が進んでいると思いますか。(○は1つ)

1 そう思う	8.0	3 どちらかといえばそう思わない	17.7
2 どちらかといえばそう思う	36.3	4 そう思わない	7.6
		5 わからない	29.6
		(無回答)	0.7

(全員の方に)

問 2 9 区では、外国人等が地域住民の一人として地域社会に参加・活躍できるように、地域のおまつりや防災訓練、ボランティア活動などへの参加を促進しています。

あなたは、外国人等の地域活動への参加が進んでいると思いますか。(○は1つ)

1 そう思う	2.9	3 どちらかといえばそう思わない	22.5
2 どちらかといえばそう思う	14.7	4 そう思わない	11.6
		5 わからない	47.5
		(無回答)	0.8

(全員の方に)

問 3 0 区では、多様な文化を理解し合える交流イベントなどを開催し、区民一人ひとりが互いの文化について理解を深め、偏見や差別を解消することで、多文化共生社会の実現を目指しています。

あなたは、区内において外国人等に対する偏見や差別が減少していると思いますか。(○は1つ)

1 そう思う	6.4	3 どちらかといえばそう思わない	11.3
2 どちらかといえばそう思う	29.2	4 そう思わない	4.8
		5 わからない	47.5
		(無回答)	0.8

健康づくり

区は、区民一人ひとりが自身の健康に関心を持ち、主体的な健康づくりへの取り組みを推進するとともに、区民や地域団体、事業者とともに安全で安心して生活できる環境やしくみの整備を進めることで、生涯にわたり健やかでこころ豊かに暮らすことができるまちの実現を目指しています。

（全員の方に）

問3 1 あなたは、1日にあわせてどのくらい歩きますか。（通学・通勤のための徒歩や室内の移動、散歩を含む）（○は1つ）

1	30分未満	26.8	4	1時間以上1時間30分未満	13.7
2	30分以上45分未満	25.4	5	1時間30分以上	14.1
3	45分以上1時間未満	18.9		（無回答）	1.0

スポーツ

区では、いつでも、どこでも、だれでも、いつまでも気軽にスポーツ・レクリエーションに親しみ、楽しむことのできる生涯スポーツ社会の実現を目指しています。

（全員の方に）

問3 2 あなたがこの1年間にスポーツや運動（ウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなどを含む）を行った回数はどのくらいですか。（○は1つ）

1	週に3回以上	21.5	5	3か月に1～2回	5.5
2	週に2回程度	16.2	6	年に1～3回	4.7
3	週に1回程度	17.3	7	行わなかった	21.3
4	月に1～3回	12.5		（無回答）	0.9

（全員の方に）

問3 3 あなたは、スポーツが生活の質の向上に役立っていると感じますか。（○は1つ）

1	とても役立っていると感じる	25.5	3	あまり役立っていると感じない	6.0
2	役立っていると感じる	50.5	4	まったく役立っていると感じない	1.6
			5	わからない	15.5
				（無回答）	0.9

（全員の方に）

問3 4 あなたは、スポーツを通じて新たな交流が生まれていると感じますか。（○は1つ）

1	とても感じる	16.8	3	あまり感じない	19.3
2	どちらかといえば感じる	35.7	4	まったく感じない	6.7
			5	わからない	20.6
				（無回答）	1.0

（全員の方に）

問3 5 あなたは、スポーツが地域の活性化に役立っていると思いますか。（○は1つ）

1	とても役立っていると思う	9.7	3	あまり役立っていると思わない	14.0
2	役立っていると思う	39.6	4	まったく役立っていると思わない	3.0
			5	わからない	32.6
				（無回答）	1.0

ユニバーサルスポーツとは、誰もが楽しむことができるスポーツを指します。（ボッチャをはじめとしたパラスポーツや、レクリエーションスポーツなど）

（全員の方に）

問36 あなたは、ユニバーサルスポーツに関心がありますか。（○は1つ）

1	とても関心がある	3.4	3	あまり関心がない	42.1
2	関心がある	26.0	4	まったく関心がない	11.3
			5	わからない	16.0
（無回答）					1.2

交 通

区では、区民、交通事業者、区が協力・連携して総合的に「交通まちづくり」に取り組み、交通ネットワークの充実や、公共交通が不便な地域における移動環境の改善などを図ることで、様々な交通手段を活用し、誰もが快適に安全・安心な移動ができるまちを目指しています。

（全員の方に）

問37 あなたは、区内の交通手段（移動手段）に満足していますか。（○は1つ）

1	満足している	20.5	3	どちらかといえば満足していない	21.0
2	どちらかといえば満足している	48.8	4	満足していない	8.4
（無回答）					1.2

（全員の方に）

問38 あなたは、ふだん、どのくらい自転車を利用していますか。（○は1つ）

1	週5日以上	21.3	問38-1にお答えください。
2	週3日程度	12.1	
3	週1日程度	11.4	
4	(あまり)利用していない	53.2	→ 問39にお答えください。
(無回答)		2.1	

（問38で「1～3」と答えた方に）（n=1,075）

問38-1 自転車を利用する主な用途は何ですか。（○は1つ）

1	通勤・通学（鉄道駅までの間）	14.0	4	子どもの送り迎え	9.4
2	通勤・通学（目的地までの間）	14.2	5	レジャー、スポーツ	7.2
3	買い物	44.9	6	その他	5.0
（無回答）					5.2

（全員の方に）

問39 あなたは、ここ1年間で歩行時に自転車とぶつかった、あるいはぶつかりそうになったことがありますか。（○は1つ）

1	ある	41.1	2	ない	57.7	（無回答）	1.2
---	----	------	---	----	------	-------	-----

み ど り

区では2032年（区制100周年）までに区内の※¹みどり率33パーセントの達成を目標に掲げて「世田谷みどり33」を推進しています。

また、私たちの暮らしは、食べ物や水、自然とのふれあい、気候の調整など、多様な生きものが関わり合いながらつくる※²生物多様性の恵みに支えられています。区は、生きものと共存し、生物多様性の恵みをみんなが実感できる環境づくりを目指しています。

※¹みどり・・土、植物、生物、水など自然を構成する要素と、人とのかかわりによる文化や歴史的な要素

みどり率・・緑が地表を被う部分（樹林地、草地、農地、屋上緑地）に河川などの水面と公園内の緑に被われていない部分を加えた面積が、区の総面積に占める割合

※²生物多様性・・様々な場所で様々な生きものが互いに関係しながら生きていること

（全員の方に）

問40 みどりを守り増やすために、区に取り組んでほしいことは何ですか。（○はいくつでも）

1	公園や緑地の新たな整備	52.1
2	国分寺崖線周辺にある樹林地の保全や回復	15.8
3	農業の振興や農地の保全、農業公園の整備	23.3
4	民有地における緑化に対する助成制度の拡充	18.0
5	樹木の維持管理に対する支援の充実	39.8
6	公共施設における更なる緑化の推進	33.9
7	条例などによる建築時の規制強化	18.4
8	多様な生きものが生息できる環境の保全・創出	33.2
9	みどりや公園緑地に関する情報の発信やイベントなどの開催	17.8
10	区民参加によるみどりの保全活動への支援や制度の充実	11.7
11	みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）	27.5
12	その他	3.9

（無回答） 3.1

ふ る さ と 納 税

ふるさと納税とは、個人による自治体への寄附であり、原則として、寄附額のうち自己負担額の2,000円を超える部分が税金の控除対象となります（一定の上限があります）。

ふるさと納税をしていただいた寄附者にお礼として返礼品を用意している自治体が多いです。

（全員の方に）

問4-1 世田谷区民も世田谷区にふるさと納税（寄附）をすることができ、所得税や住民税の控除も受けることができます。このことを知っていますか。（○は1つ）

1 知っている	58.2	2 知らない	41.2	(無回答)	0.6
---------	------	--------	------	-------	-----

（全員の方に）

問4-2 あなたは令和5年にふるさと納税（寄附）をしましたか。（○は1つ）

1	世田谷区に寄附をした	0.7	3	世田谷区と他自治体の両方に寄附をした	0.5
2	他自治体に寄附をした	27.7	4	寄附はしていない	70.3
(無回答)					0.8

（全員の方に）

問4-3 制度上、世田谷区から区民の方には返礼品などをお贈りすることはできません。一方、区外からの寄附者へは返礼品をお贈りしています。この区の姿勢として、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は1つ）

1	積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき	22.8
2	減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない	18.7
3	返礼品競争には加わらず、返礼品の拡充は必要ない	20.3
4	その他	3.3
5	わからない	33.5
(無回答)		1.4

（全員の方に）

問4-4 「ふるさと納税」による世田谷区の区民税の減収額は、年々増加し、令和5年度では約99億円に上ります。この現状を知っていますか。（○は1つ）

1 知っている	27.7	問4-4-1にお答え ください。 →問4-5にお答えください。
2 減収ということは知っていたが、規模（99億円）までは知らなかった	31.0	
3 知らなかった	39.7	
(無回答)		1.5

（問4-4で「1～2」と答えた方に）（n=1,413）

問4-4-1 減収の状況を何でお知りになりましたか。（○はいくつでも）

1 テレビや新聞などの報道	61.1	5 区公式SNS	1.1
2 インターネットの記事	32.1	6 区長記者会見	5.9
3 区のおしらせ	27.2	7 その他	9.6
4 区のホームページ	4.7	(無回答)	1.0

せたがや Pay

「せたがや Pay」は、区の支援のもと、世田谷区商店街振興組合連合会が2021年2月に提供を開始した、世田谷区内で使えるキャッシュレス決済アプリです。

(全員の方に)

問45 せたがや Pay を知っていますか。また、利用したことがありますか。(○は1つ)

- | | | |
|-------------------------------------|------|--------------------|
| 1 現在(直近3か月以内)、利用している | 18.1 | → F1にお答えください。 |
| 2 過去に利用したことがあるが、現在(直近3か月以内)は利用していない | 6.8 | 問45-1に
お答えください。 |
| 3 知っているが、利用したことはない | 49.0 | |
| 4 知らない | 24.2 | → F1にお答えください。 |

(無回答) 2.0

(問45で「2～3」と答えた方に) (n=1,341)

問45-1 せたがや Pay を利用していない理由を教えてください。(○はいくつでも)

- | | |
|--|------|
| 1 大型の還元キャンペーンを実施していないため | 10.4 |
| 2 チャージ方法が限られているため | 19.1 |
| 3 使えるお店が少ないため | 27.8 |
| 4 使いたいお店がせたがや Pay を導入していないため | 15.1 |
| 5 せたがや Pay アプリが使いづらいため | 6.9 |
| 6 決済方法がユーザースキャン方式(客側がコード読込)のみで、ストアスキャン方式(店側がコード読込)がないため | 2.2 |
| 7 そもそもスマートフォンを使用していない、持っていないため | 3.1 |
| 8 アプリのインストール方法や使い方などがわからないため | 16.2 |
| 9 既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため | 44.9 |
| 10 キャッシュレス決済の利用に抵抗があるため | 12.9 |
| 11 個人情報の流出や不正使用などのおそれを感じるため | 14.0 |
| 12 その他 | 9.2 |

(無回答) 0.7

*** 基本項目（フェイスシート）***

(全員の方に)

F 1 あなたの性別はどちらですか。(○は1つ)

1 男性	38.1	2 女性	60.2	3 その他	0.5	(無回答)	1.2
------	------	------	------	-------	-----	-------	-----

F 2 あなたの年齢はいくつですか。(○は1つ)

1	18～19歳	0.8	7	45～49歳	9.5	13	75～79歳	7.1
2	20～24歳	2.8	8	50～54歳	10.2	14	80～84歳	5.5
3	25～29歳	4.5	9	55～59歳	10.2	15	85～89歳	3.0
4	30～34歳	5.4	10	60～64歳	8.9	16	90～94歳	1.5
5	35～39歳	6.7	11	65～69歳	7.7	17	95～99歳	0.2
6	40～44歳	7.2	12	70～74歳	7.7	18	100歳以上	0.1
(無回答)								0.9

F 3 あなたのご職業は次のどれですか。(○は1つ)

1	自営業・事業主	11.2	4	その他就業者（家族従業者、農業従業者など）	0.4
2	会社員、公務員、団体職員	38.0	5	家事専業	13.9
3	パート・臨時		6	学生	2.5
	（非常勤、嘱託、派遣などを含む）	14.0	7	無職	16.8
			8	その他	2.2
			(無回答)		1.1

F 4 あなたの世帯構成（同居している方）は次のどれですか。(○は1つ)

1 夫婦だけ（一世代世帯）	27.8	4 一人暮らし	19.7
2 親と子ども（二世代世帯）	41.3	5 その他	6.2
3 親と子どもと孫（三世代世帯）	3.6	(無回答)	1.3

F 5 回答者ご本人も含めて、同居している方の中に高齢者（65歳以上の方）はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1 い る	44.0	2 い ない	55.4	(無回答)	0.6
-------	------	--------	------	-------	-----

F 6 配偶者はいらっしゃいますか。(○は1つ)

1	なし（離婚・死別を含む）	35.4	→ F 7にお答えください。
2	あり	63.1	F 6－1にお答えください。
	（無回答）	1.6	

(F 6で「2」と答えた方に) (n=1, 516)

F 6-1 あなたと配偶者は、2人とも働いていますか。(○は1つ)

1 働いている	53.3	2 働いていない	46.4	(無回答)	0.3
---------	------	----------	------	-------	-----

(全員の方に)

F 7 あなたご自身は、次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 独身	25.4	6 子ども夫婦と同居(本人が65歳以上)	2.3
2 子どもあり(一番上が小学校入学前)	5.3	7 子ども夫婦と別居(本人が65歳以上)	4.1
3 子どもあり(一番上が小・中学生)	9.4	8 高齢者のみ(本人が65歳以上)	6.8
4 子どもあり(一番上が高校・大学生)	8.0	9 夫婦のみ	16.2
5 子どもあり(一番上が独立:学校卒業、就職、結婚など)	16.3	10 その他(無回答)	4.0
			2.2

F 8 あなたの住居形態は次のどれにあたりますか。(○は1つ)

1 一戸建て持ち家	42.6	8 都市再生機構(旧公団)・公社・都営住宅・区営住宅	3.5
2 分譲マンション(持ち家)	20.3	9 社宅・官舎・寮・間借り・住み込み	2.6
3 店舗併用住宅(持ち家)	0.5	10 ケアつき住宅・老人ホーム	0.2
4 一戸建借家	2.8	11 その他	2.7
5 店舗併用住宅(借家)	0.6	(無回答)	1.6
6 民営アパート・マンション(3階以上)	12.0		
7 民営アパート・マンション(2階以下)	10.7		

F 9 あなたのお住まいの地域は次のどれですか。(○は1つ)

1 世田谷東部(池尻、下馬、三宿、太子堂、三軒茶屋、野沢、若林、上馬、駒沢1～2丁目)	15.6
2 世田谷西部(世田谷、弦巻、宮坂、桜、経堂、桜丘)	11.4
3 北沢東部(北沢、代沢、大原、羽根木、代田)	7.6
4 北沢西部(松原、梅丘、豪徳寺、赤堤、桜上水)	8.3
5 玉川北部(駒沢公園、駒沢3～5丁目、新町、深沢、桜新町、用賀、上用賀、玉川台)	9.7
6 玉川南部(奥沢、東玉川、玉川田園調布、等々力、尾山台、玉堤)	9.5
7 玉川西部(中町、野毛、瀬田、上野毛、玉川)	6.1
8 砧北部(船橋、千歳台、祖師谷、砧、成城)	12.6
9 砧南部(大蔵、砧公園、岡本、鎌田、喜多見、宇奈根)	5.0
10 烏山(八幡山、南烏山、粕谷、北烏山、給田、上祖師谷、上北沢)	12.6
	(無回答) 1.7

ご協力ありがとうございました。

※ ご記入いただいた調査用紙は、6月5日までにお送りいただきますようお願いします。

調 査 結 果

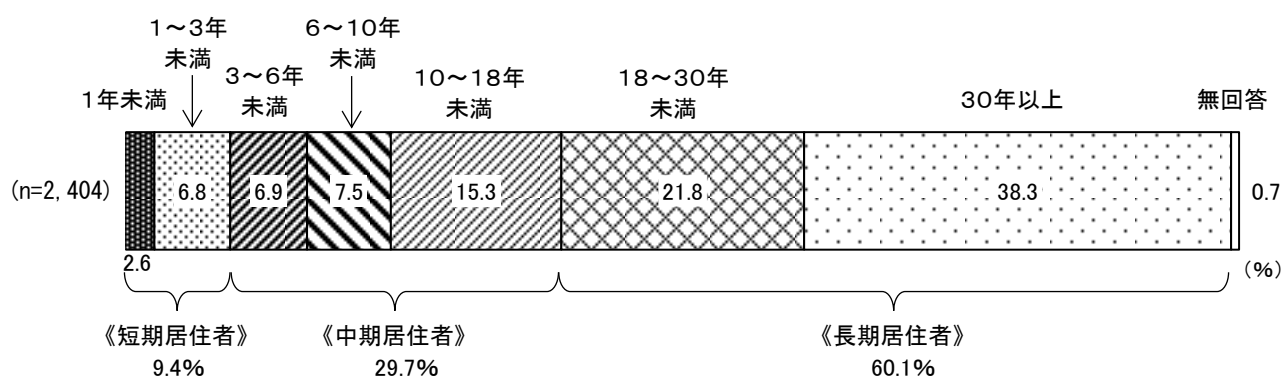
1. 定住性

(1) 居住年数

◎居住年数 18 年以上の《長期居住者》は 6 割

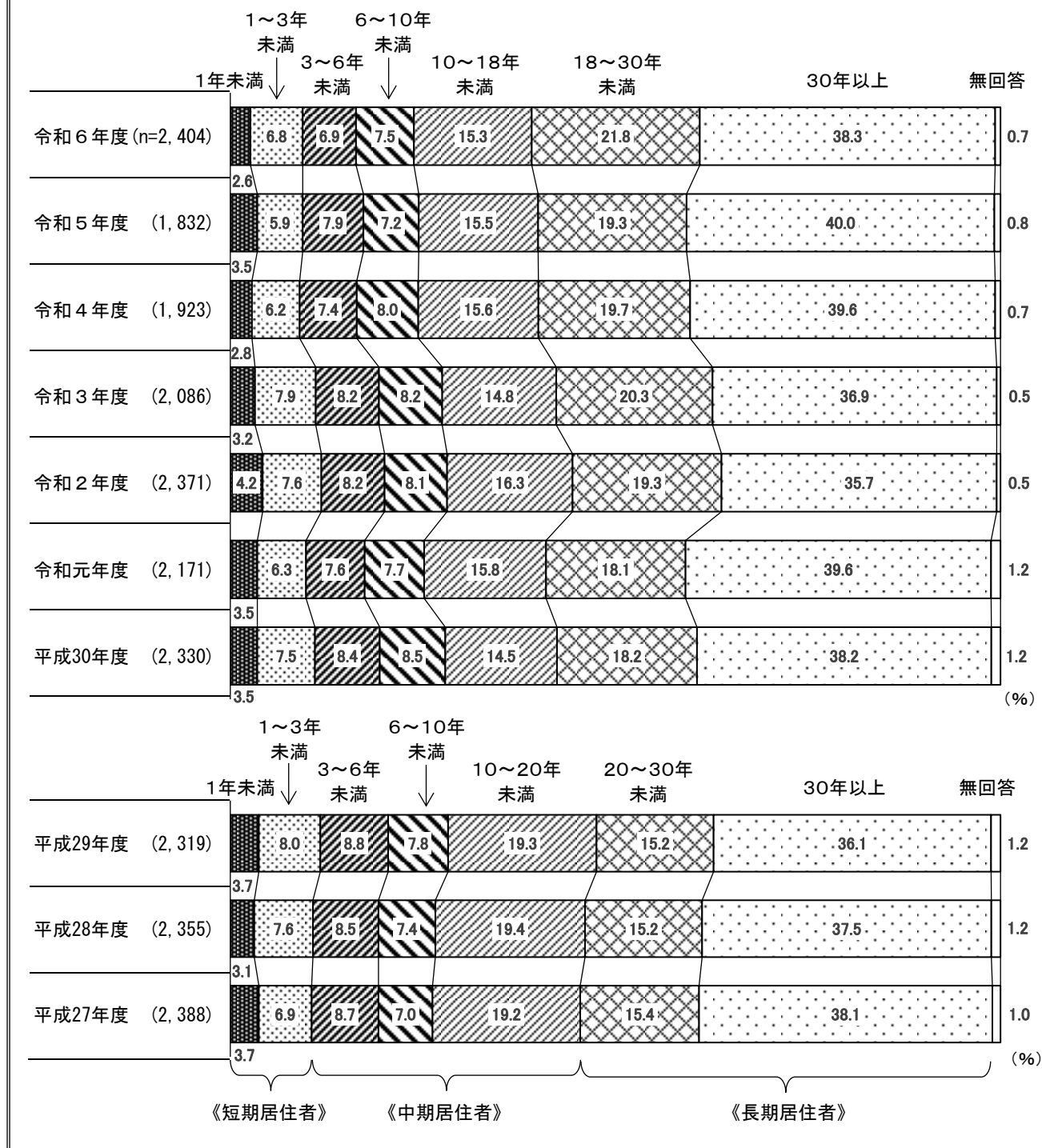
問 1 あなたは、世田谷区に住んで何年くらいになりますか。(○は 1 つ)

図 1-1-1



世田谷区での居住年数は、「1年未満」(2.6%)と「1～3年未満」(6.8%)を合わせた《短期居住者》(9.4%)がほぼ1割、「3～6年未満」(6.9%)、「6～10年未満」(7.5%)、「10～18年未満」(15.3%)を合わせた《中期居住者》(29.7%)が3割、「18～30年未満」(21.8%)と「30年以上」(38.3%)を合わせた《長期居住者》(60.1%)が6割となっている。(図1-1-1)

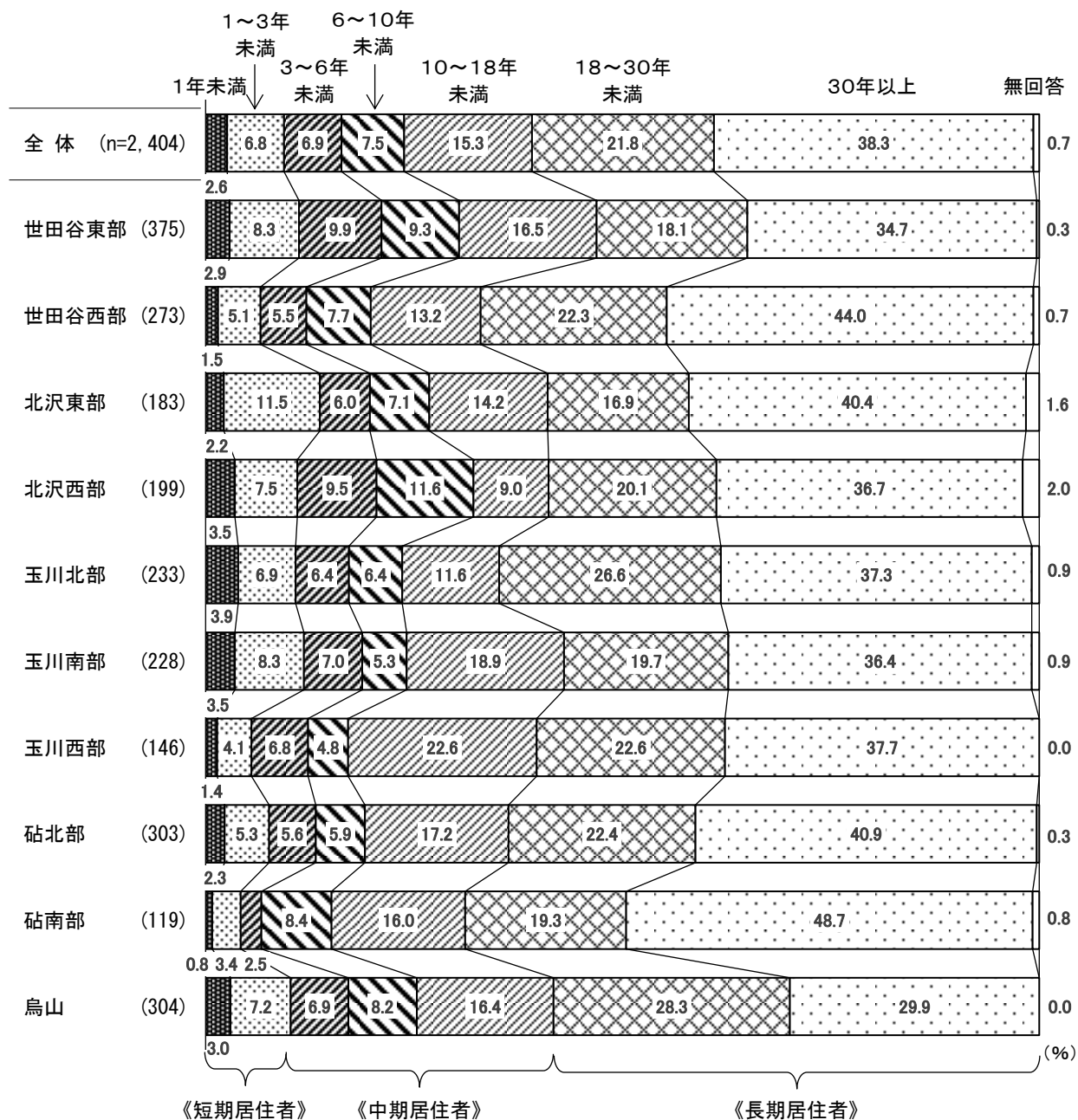
図 1 - 1 - 2 居住年数（時系列）



平成30年度以降と平成29年度以前では、「10～18年未満」と「18～30年未満」の区分が異なるが、平成27年度からの時系列の変化をみると、《短期居住者》、《中期居住者》、《長期居住者》ともに割合に大きな変化は見られない。《長期居住者》は令和4年度以降は6割前後で推移している。

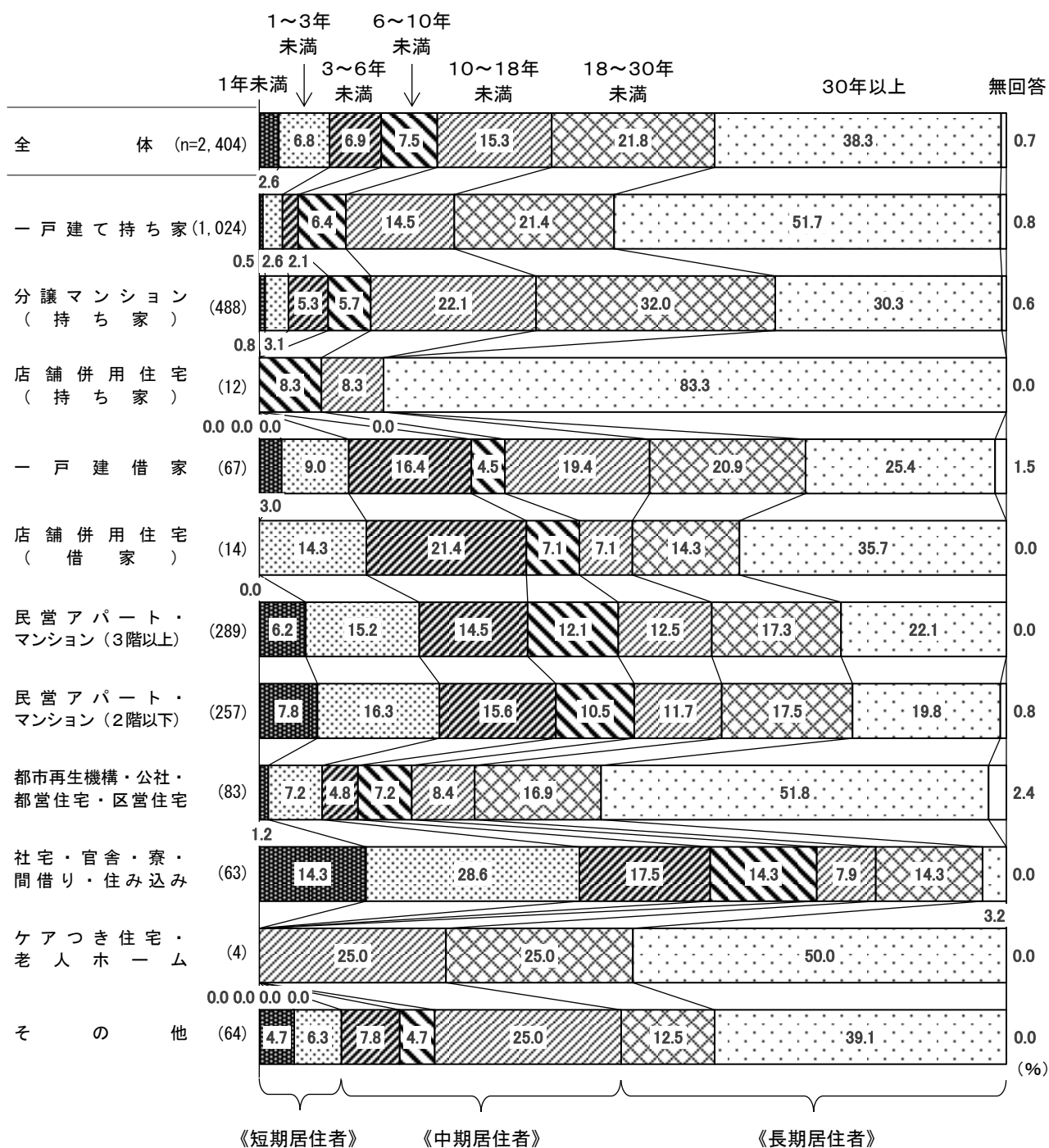
(図 1 - 1 - 2)

図 1-1-3 居住年数（地域別）



地域別にみると、《長期居住者》は砧南部が7割近くで最も高く、世田谷西部で6割半ば、玉川北部、砧北部で6割を超え、玉川西部で6割となっている。《短期居住者》は北沢東部、玉川南部、世田谷東部、北沢西部で1割を超えている。（図1-1-3）

図 1-1-4 居住年数（住居形態別）



住居形態別にみると、《長期居住者》は、一戸建て持ち家で7割を超え、都市再生機構（旧公団）・公社・都営住宅・区営住宅で7割近くとなっている。《短期居住者》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで4割を超えている。（図1-1-4）

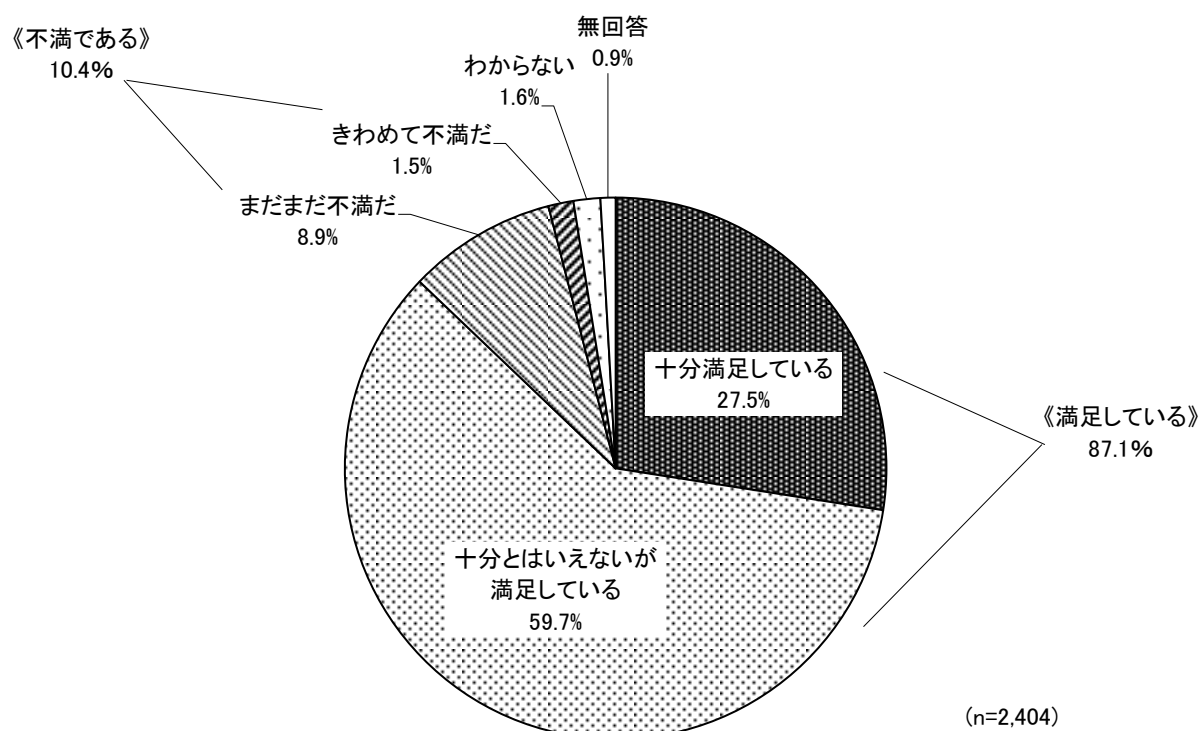
なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

(2) 暮らしの満足度

◎ 《満足している》が9割近く

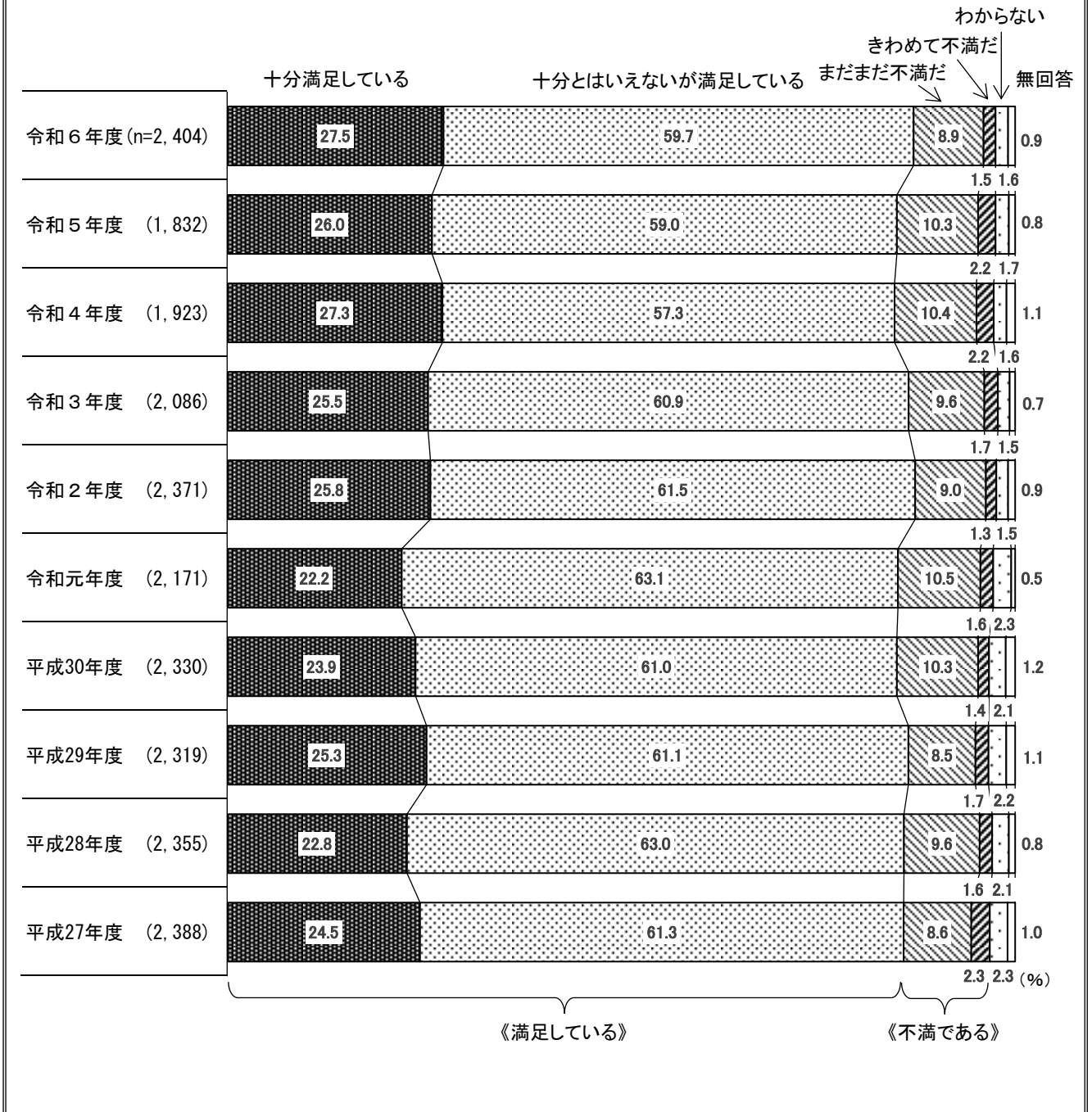
問2 あなたは、現在の暮らしについてどのように思っていますか。(○は1つ)

図1-2-1



現在の暮らしについてどのように思っているか聞いたところ、「十分満足している」(27.5%)と「十分とはいえないが満足している」(59.7%)を合わせた《満足している》(87.1%)が9割近くとなり、「まだまだ不満だ」(8.9%)と「きわめて不満だ」(1.5%)を合わせた《不満である》(10.4%)を大きく上回っている。(図1-2-1)

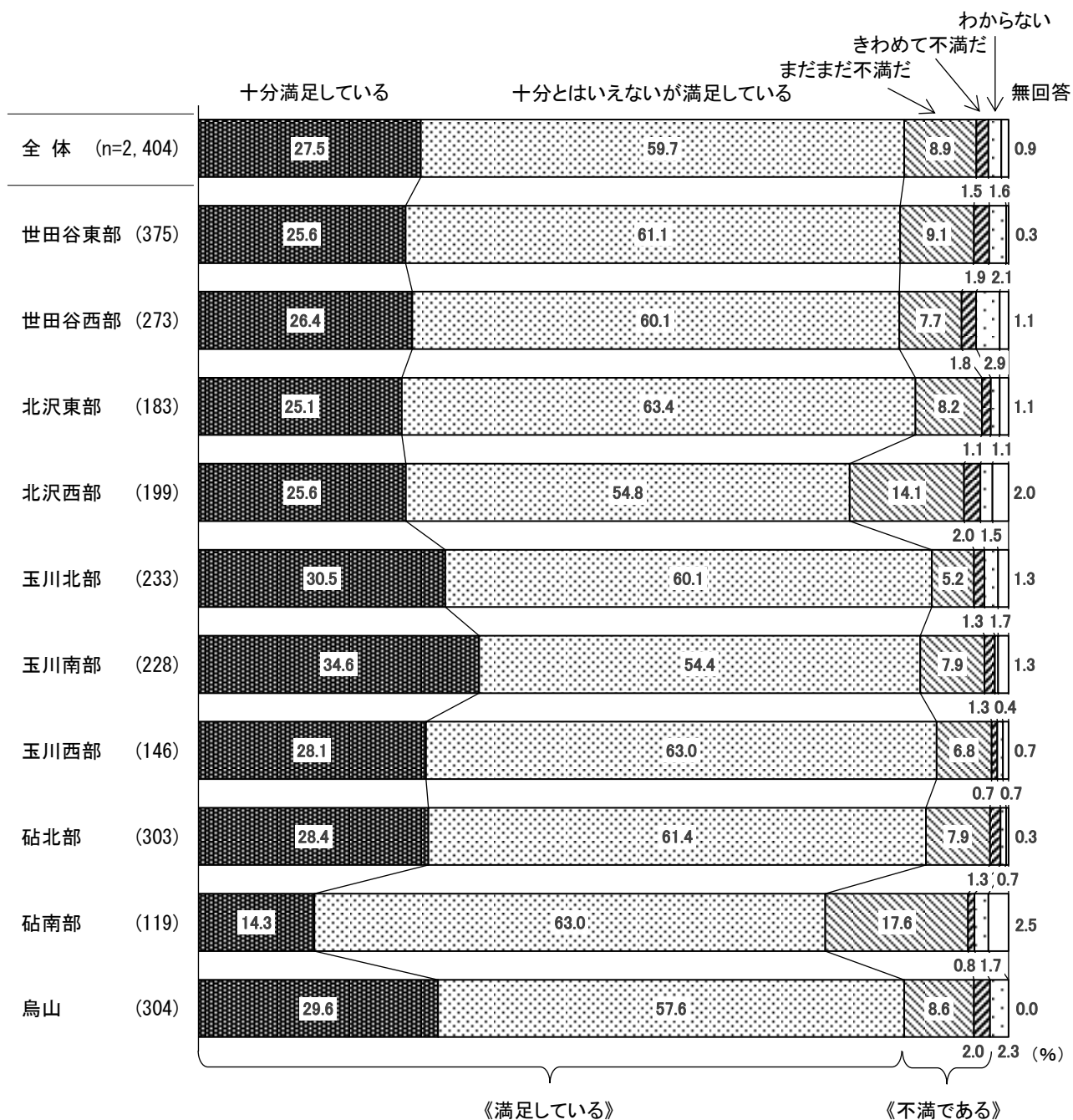
図 1-2-2 暮らしの満足度（時系列）



平成 27 年度からの時系列の変化をみると、《満足している》が多数を占める傾向に変化はない。

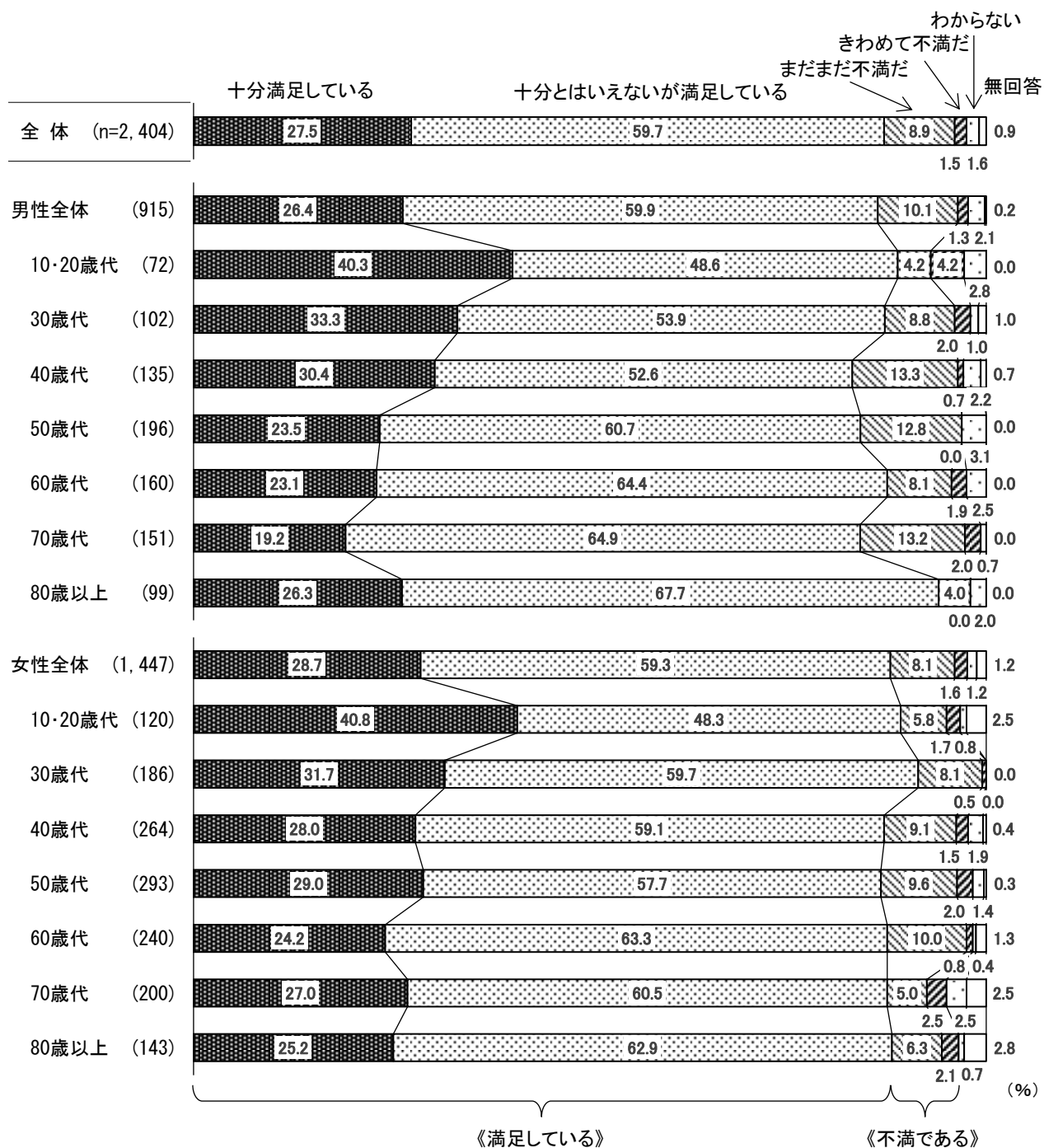
(図 1-2-2)

図 1-2-3 暮らしの満足度（地域別）



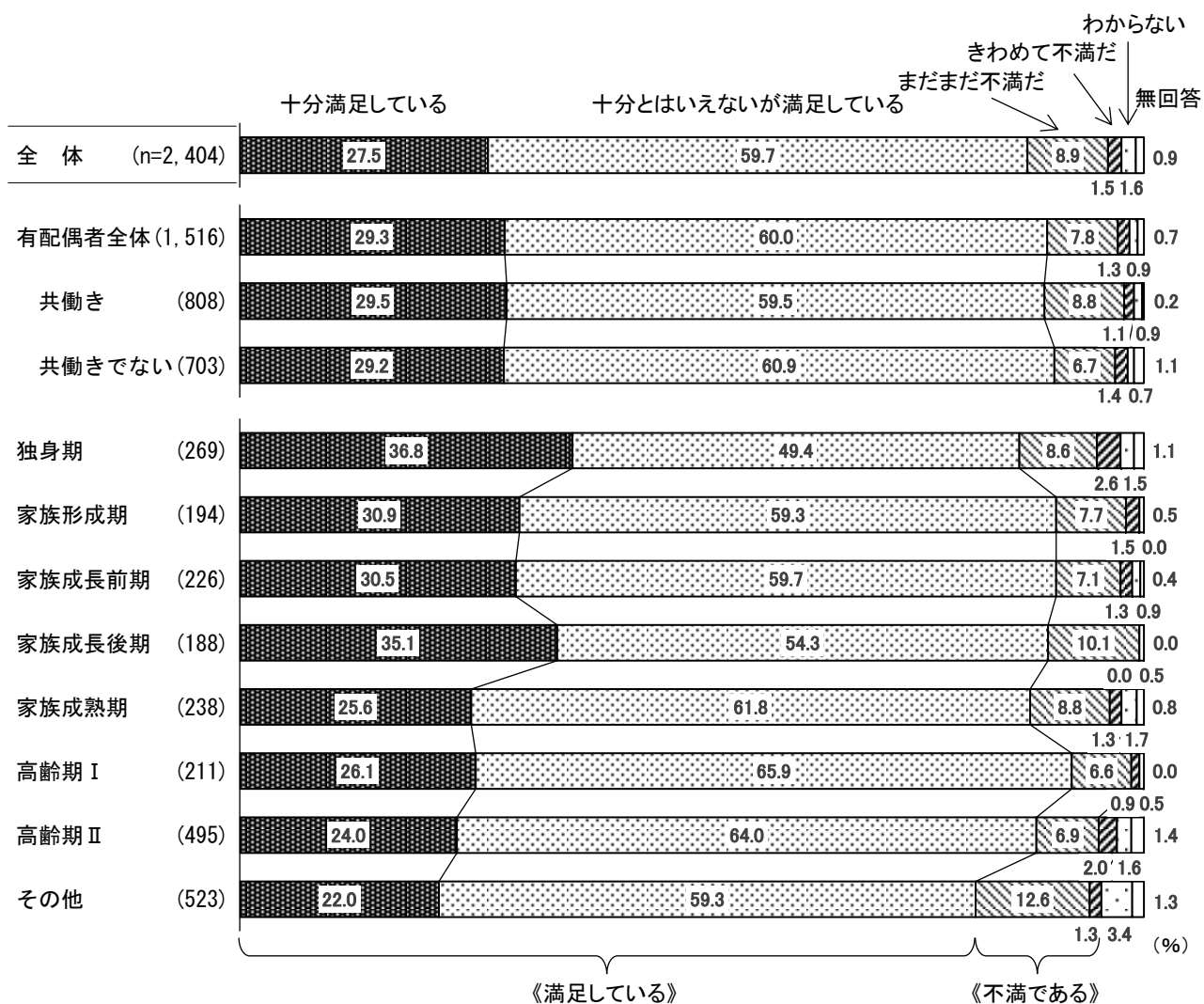
地域別にみると、いずれの地域も《満足している》が多数を占めており、「十分満足している」は玉川南部で3割半ば、玉川北部でほぼ3割、烏山で3割となっている。一方、《不満である》は砧南部で2割近く、北沢西部で1割半ばとなっている。（図1-2-3）

図 1-2-4 暮らしの満足度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《満足している》は男性の80歳以上、女性の30歳代で9割を超えている。「十分満足している」は女性の10・20歳代ではほぼ4割、男性の10・20歳代で4割となっている。《不満である》は、男性の40歳代と70歳代で1割半ばとなっている。（図1-2-4）

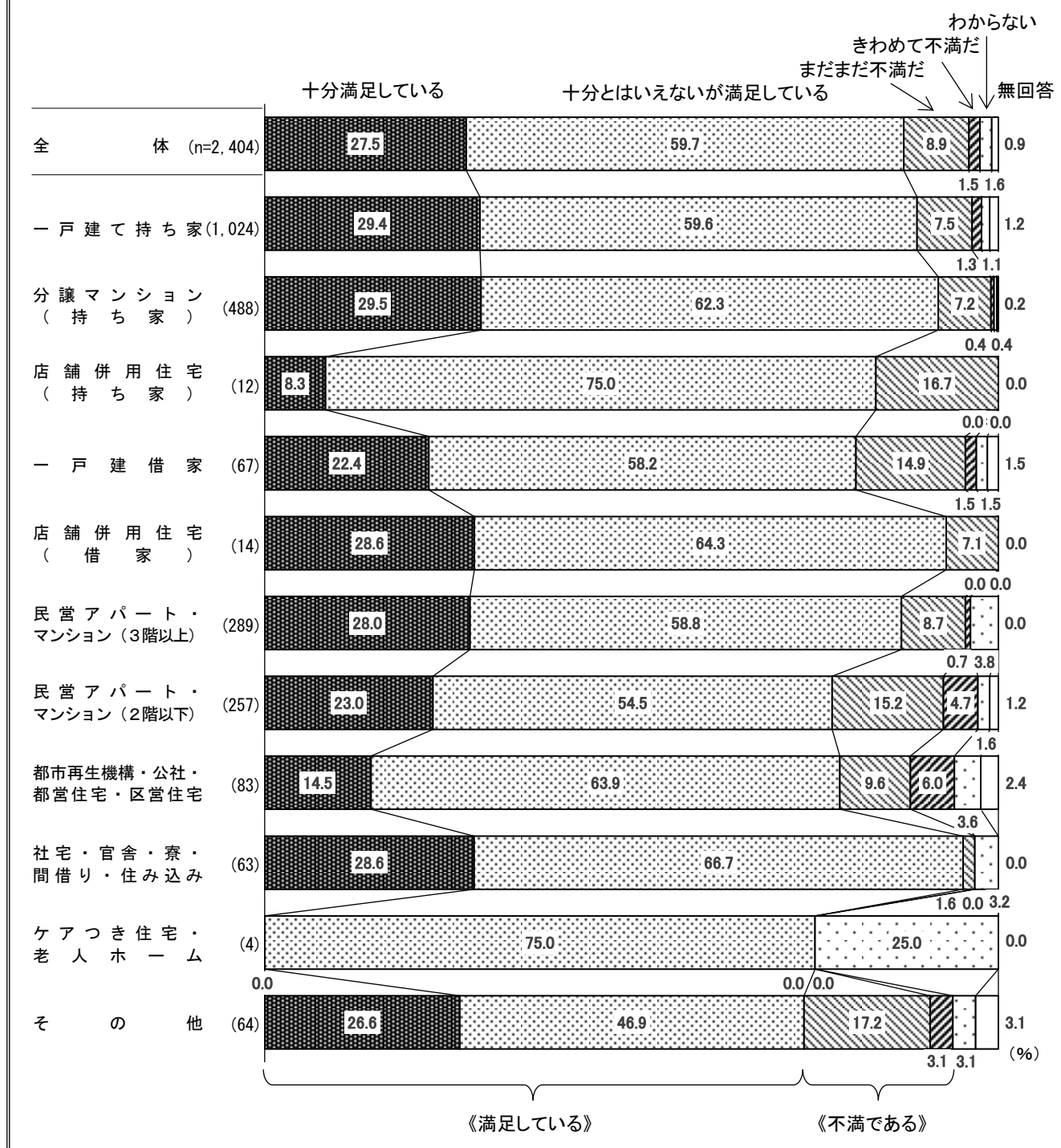
図 1-2-5 暮らしの満足度（共働きの有無別・ライフステージ別）



共働きの有無別にみると、《満足している》は共働きでない世帯で9割、共働き世帯もほぼ9割とほとんど差はみられない。

ライフステージ別にみると、《満足している》は高齢期 I で9割を超え、家族形成期、家族成長前期で9割、家族成長後期でほぼ9割となっている。「十分満足している」は独身期で4割近く、家族成長後期で3割半ばとなっている。（図1-2-5）

図 1-2-6 暮らしの満足度（住居形態別）



住居形態別にみると、《満足している》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込みで9割半ば、分譲マンション（持ち家）で9割を超えている。《不満である》は、その他、民営アパート・マンション（2階以下）で2割となっている。（図1-2-6）

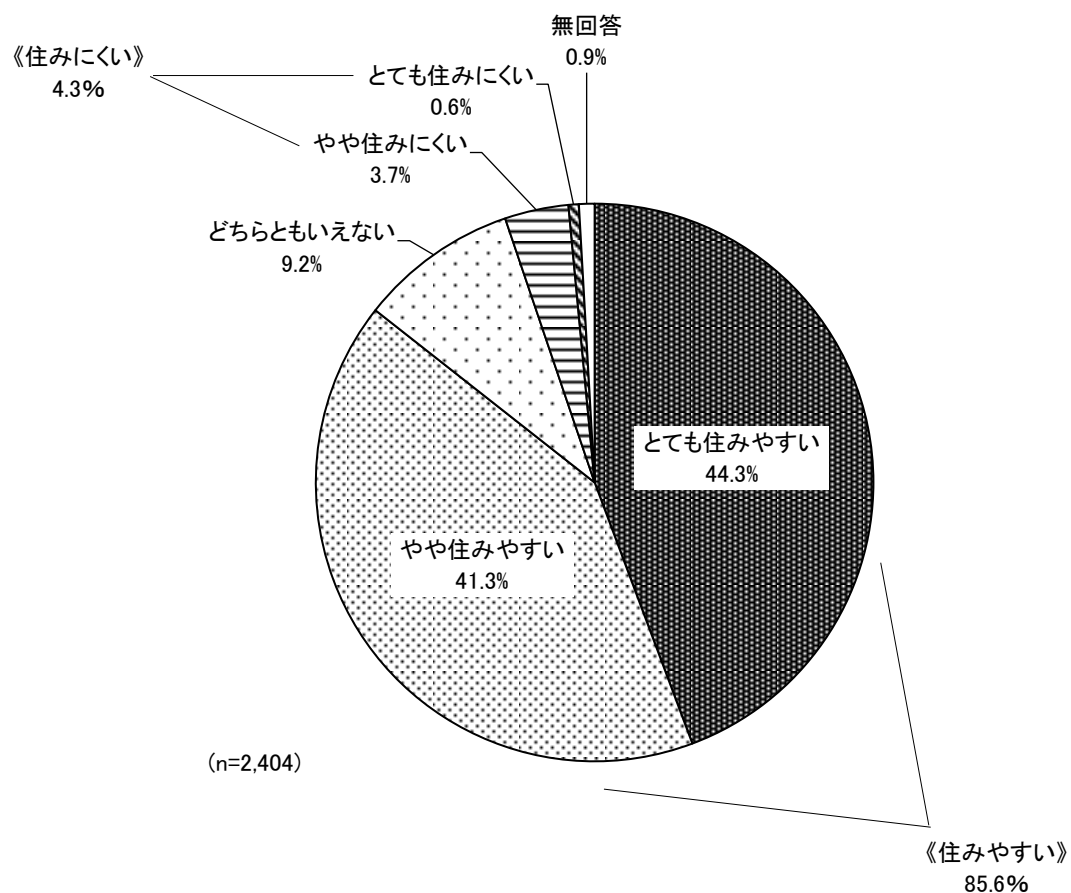
なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

(3) 住みやすさ

◎ 《住みやすい》が8割半ば

問3 あなたは、世田谷区は住みやすいところだと思いますか。それとも住みにくいところだと思いますか。(○は1つ)

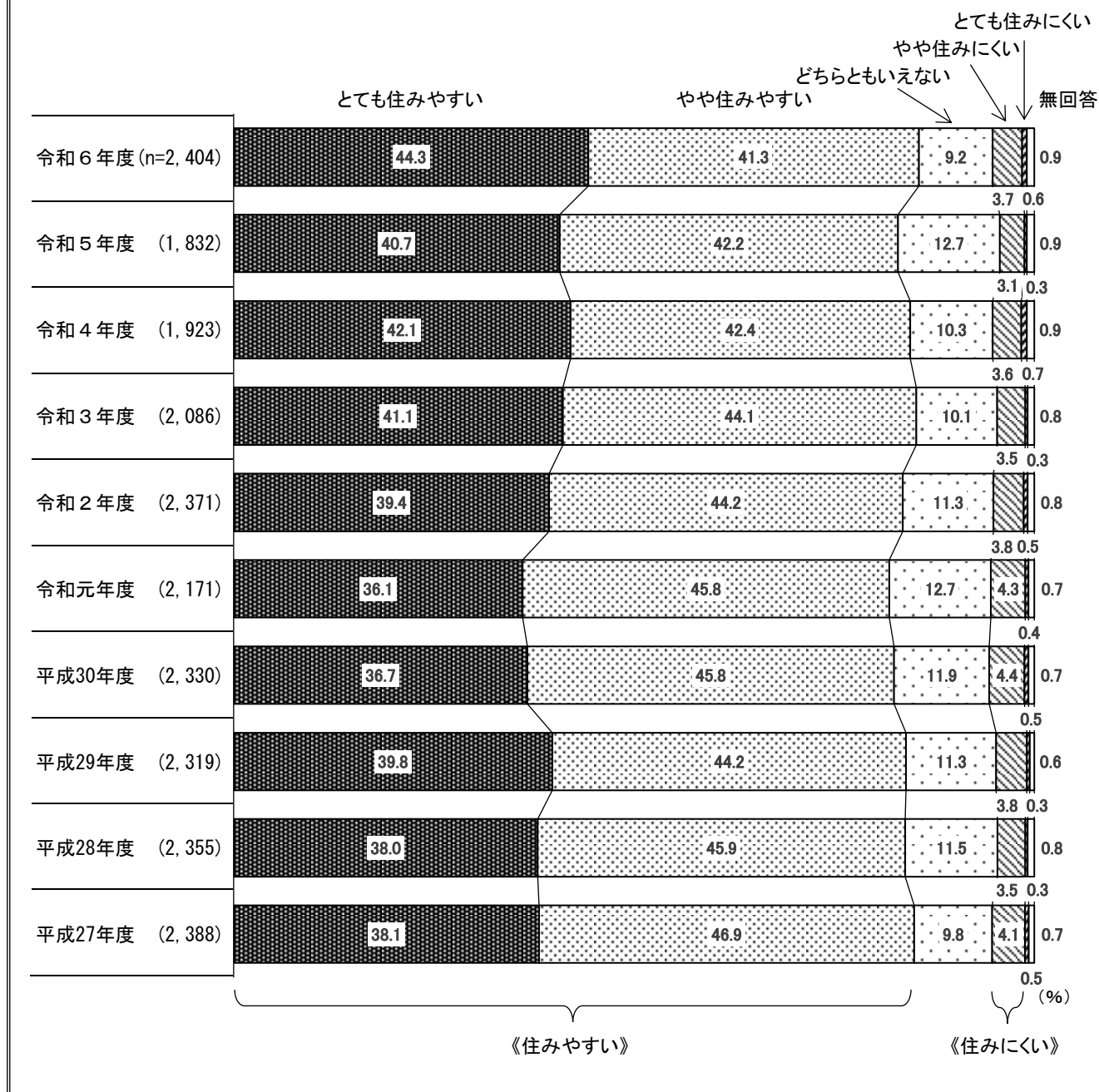
図1-3-1



世田谷区の住みやすさについて聞いたところ、「とても住みやすい」(44.3%)と「やや住みやすい」(41.3%)を合わせた《住みやすい》(85.6%)が8割半ばで、「やや住みにくい」(3.7%)と「とても住みにくい」(0.6%)を合わせた《住みにくい》(4.3%)を大きく上回っている。

(図1-3-1)

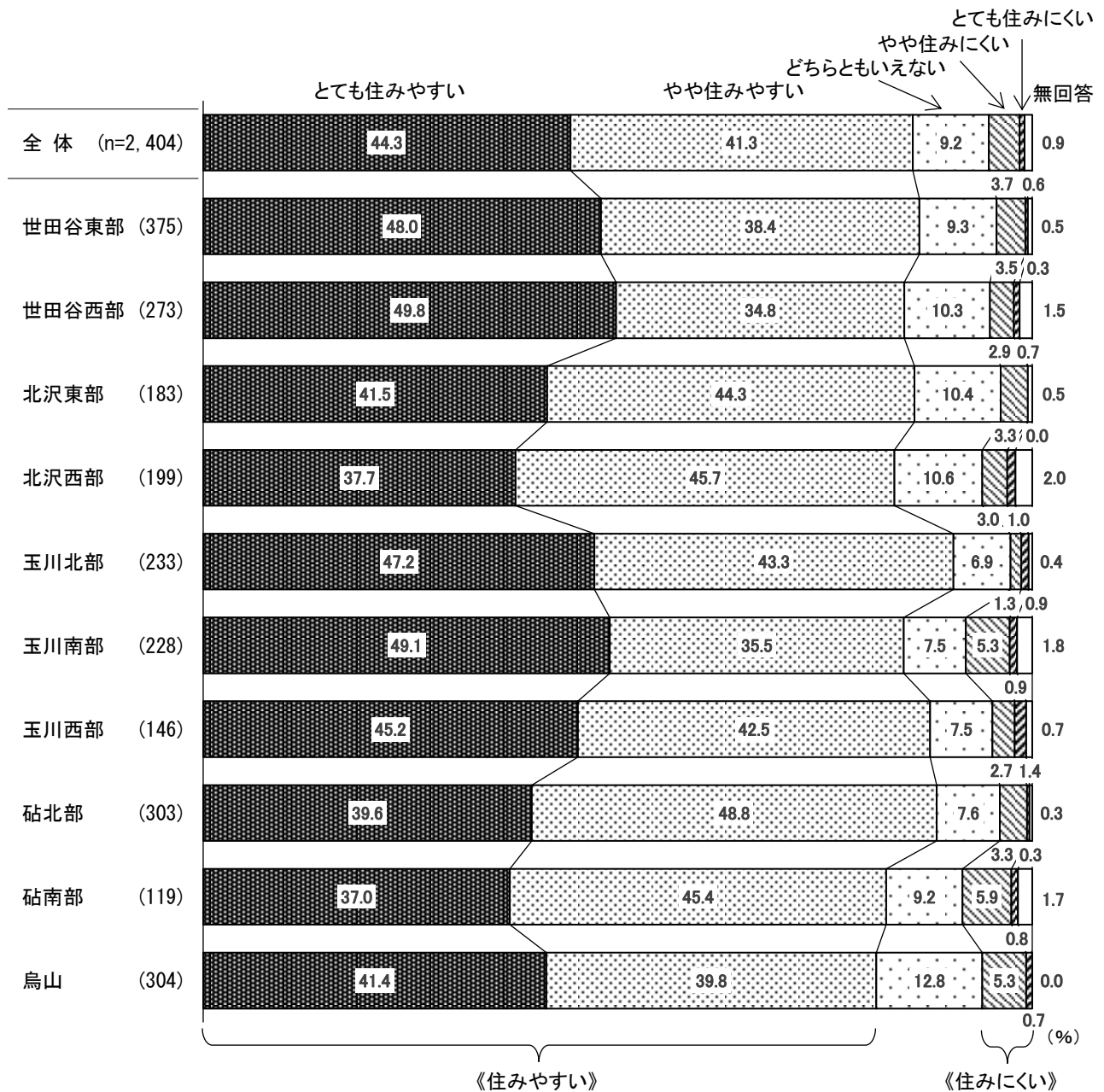
図 1－3－2 住みやすさ（時系列）



平成27年度からの時系列の変化をみると、《住みやすい》の割合は、いずれの年も8割台となっている。「とても住みやすい」の割合は、3割台後半で推移し、令和3年度から4割台となっている。

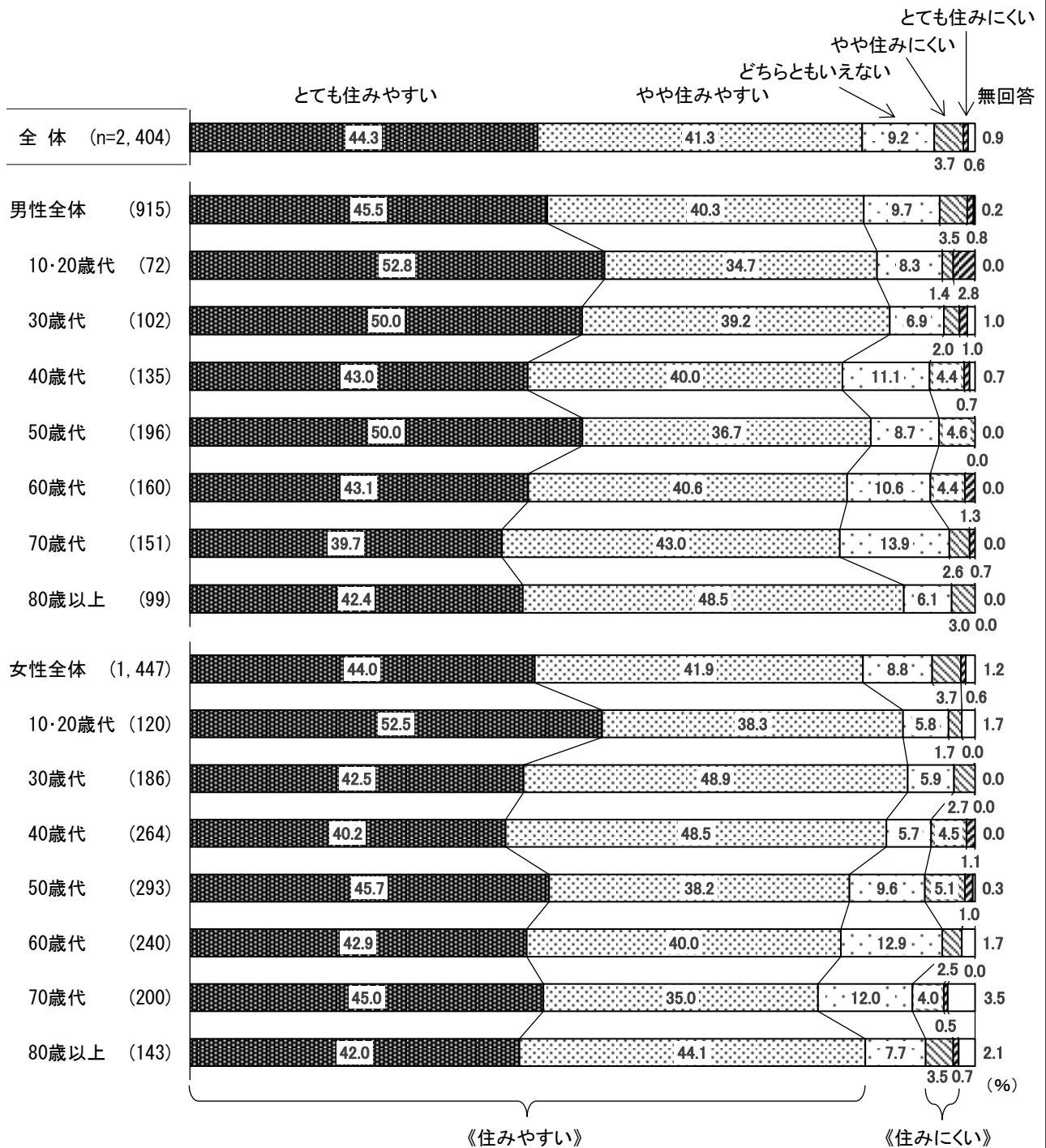
(図1－3－2)

図 1-3-3 住みやすさ（地域別）



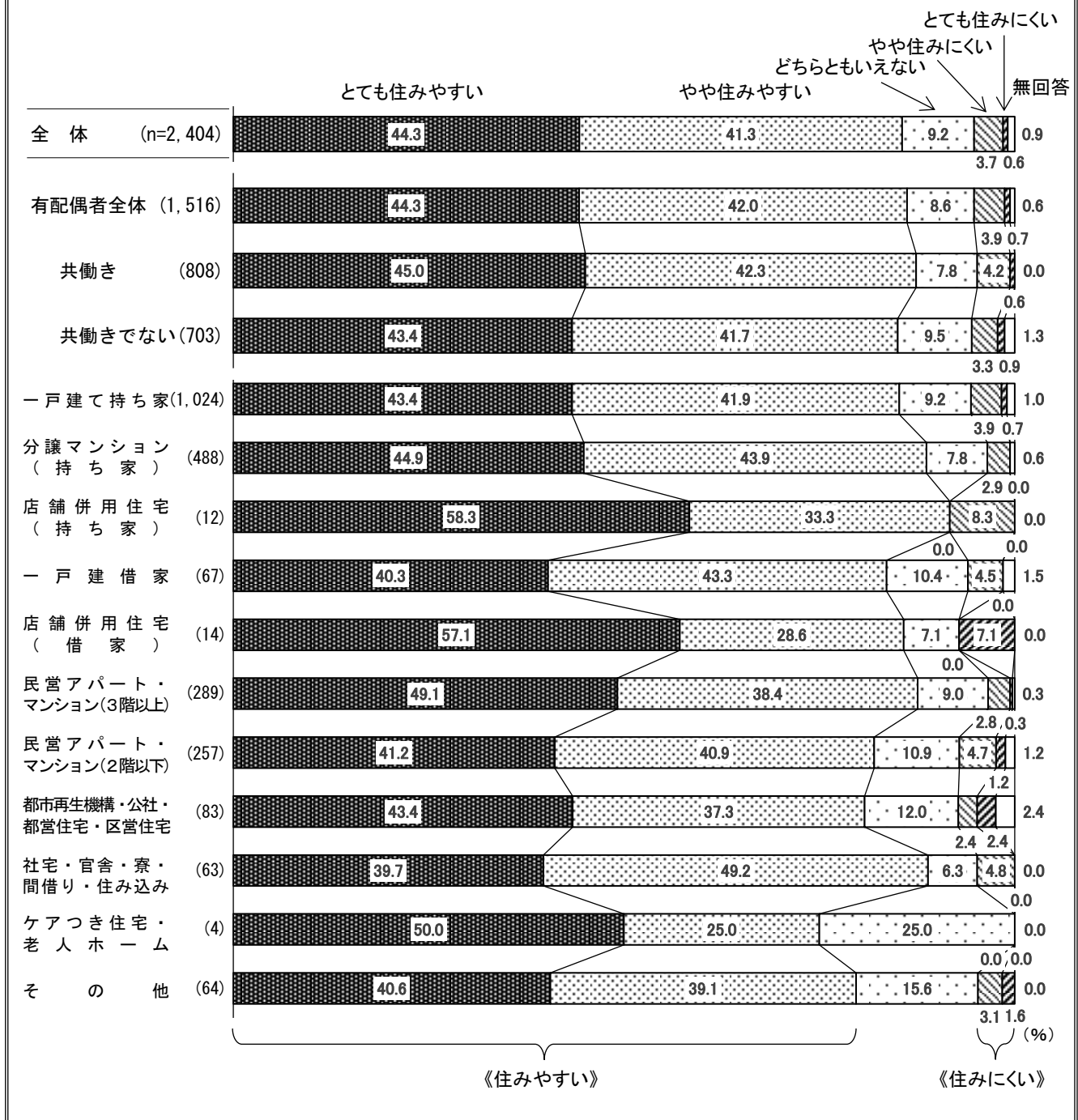
地域別にみると、いずれの地域も《住みやすい》が多数を占めており、「とても住みやすい」は世田谷西部で5割、玉川南部でほぼ5割、世田谷東部、玉川北部で5割近くとなっている。《住みにくい》は、いずれの地域でも1割に満たなかった。（図1-3-3）

図 1-3-4 住みやすさ（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《住みやすい》は女性の30歳代で9割を超え、男性の30歳代と80歳以上、女性の10・20歳代でほぼ9割となっている。「とても住みやすい」は男女とも10・20歳代で5割を超え、男性の30歳代と50歳代で5割となっている。《住みにくい》は、どの年代でも1割に満たなかった。（図1-3-4）

図 1-3-5 住みやすさ（共働きの有無別・住居形態別）



共働きの有無別にみると、共働き世帯と共働きでない世帯との間で大きな傾向の違いはみられない。住居形態別にみると、《住みやすい》は、社宅・官舎・寮・間借り・住み込み、分譲マンション（持ち家）で9割近く、「とても住みやすい」は民営アパート・マンション（3階以上）でほぼ5割となっている。（図1-3-5）

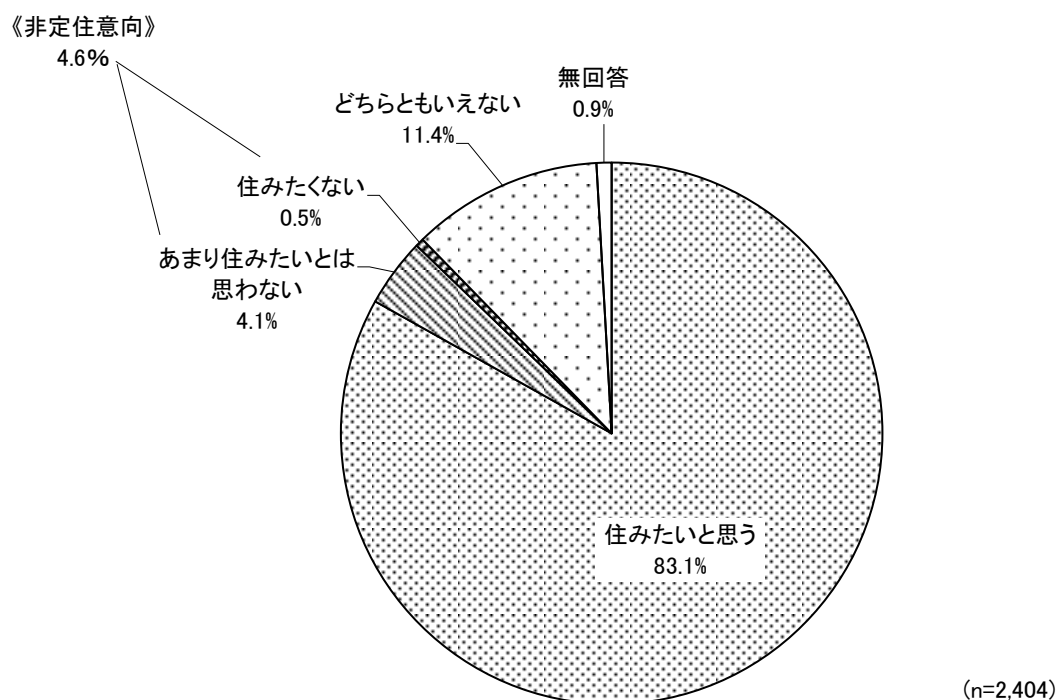
なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

(4) 定住意向

◎「住みたいと思う」が8割を超える

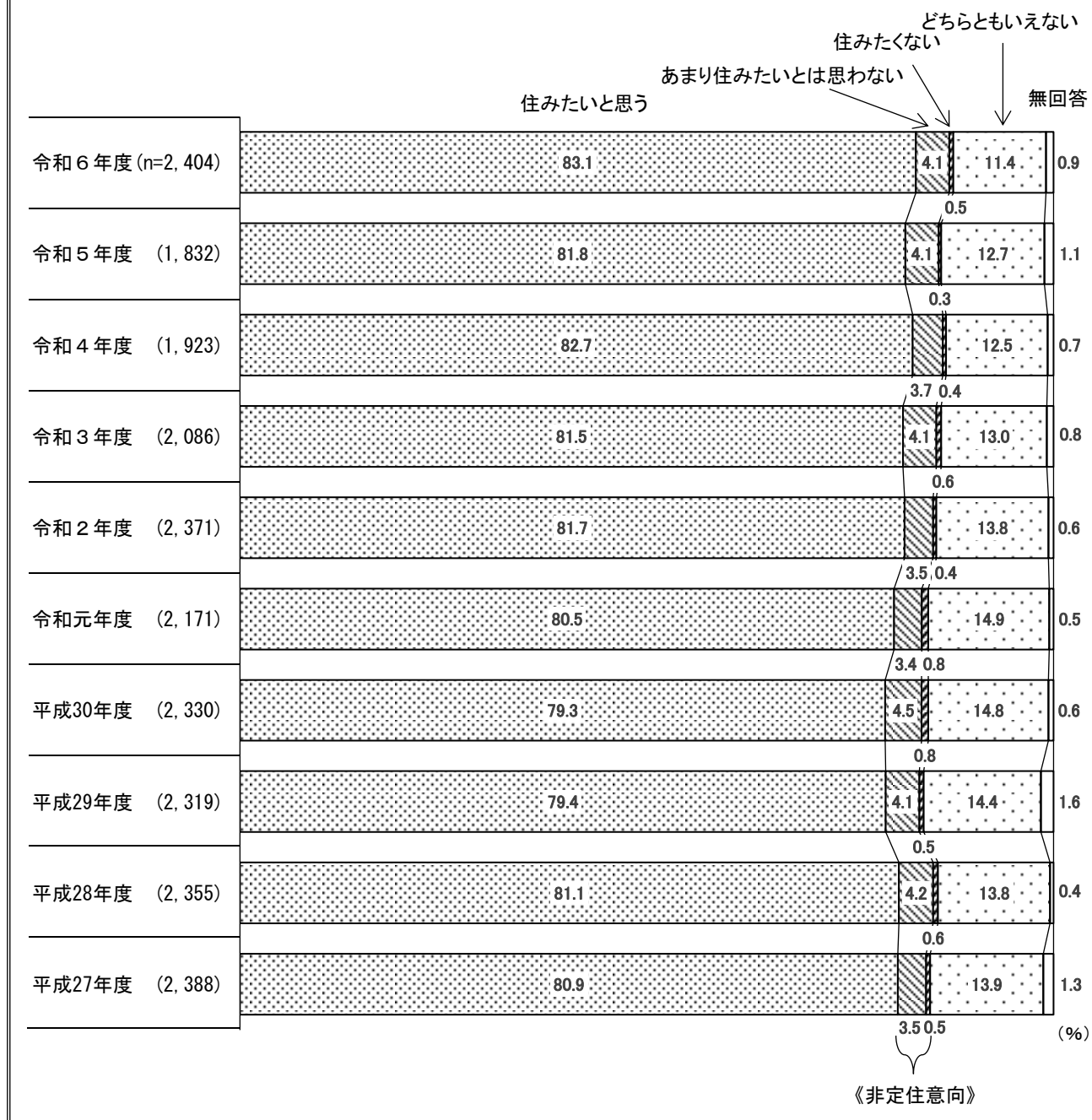
問4 あなたは、これからも世田谷区に住みたいと思いますか。(○は1つ)

図1-4-1



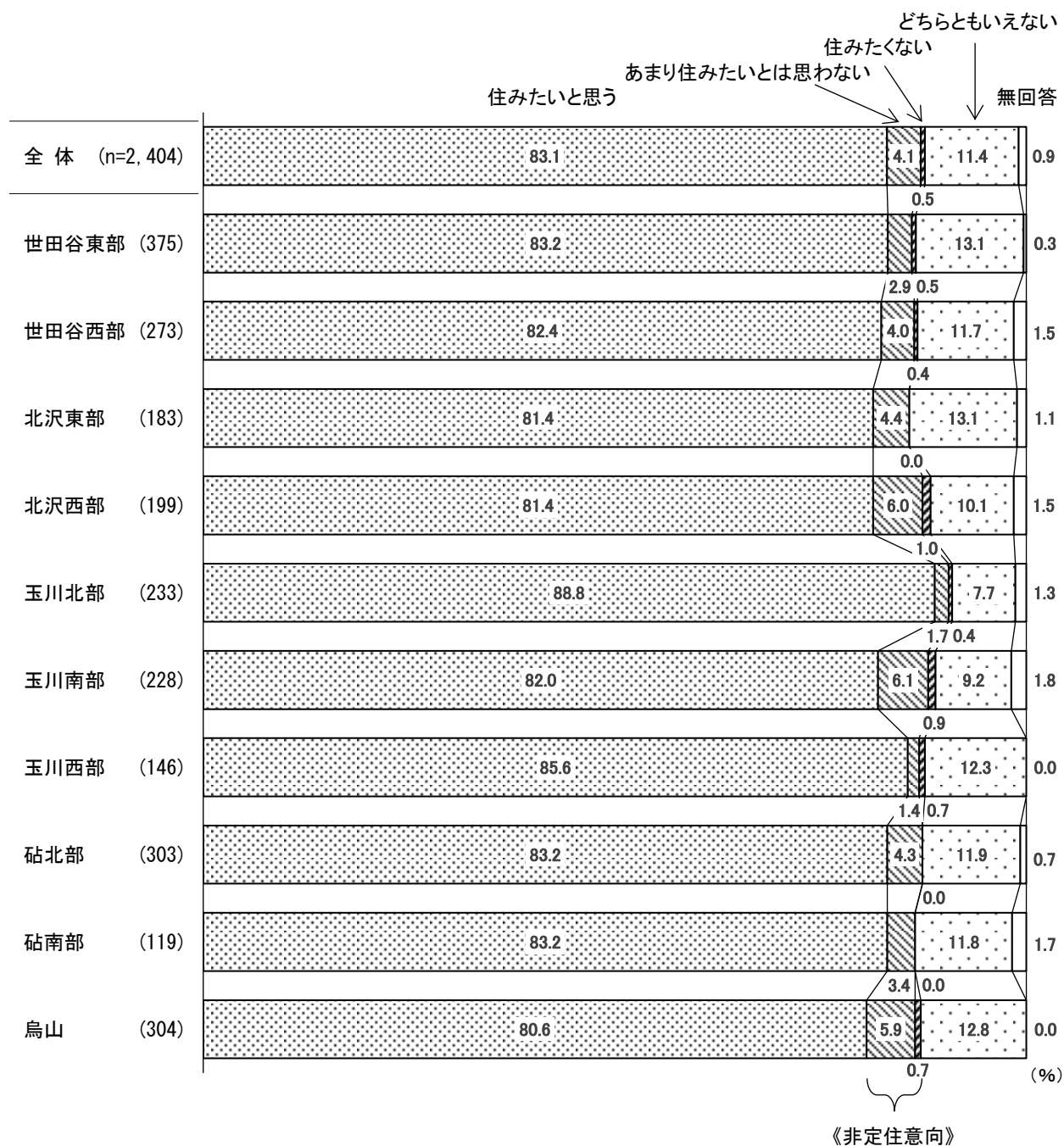
今後の世田谷区への定住意向を聞いたところ、「住みたいと思う」(83.1%)が8割を超えている。「あまり住みたいとは思わない」(4.1%)と「住みたくない」(0.5%)を合わせた《非定住意向》(4.6%)は1割に満たなかった。(図1-4-1)

図 1-4-2 定住意向（時系列）



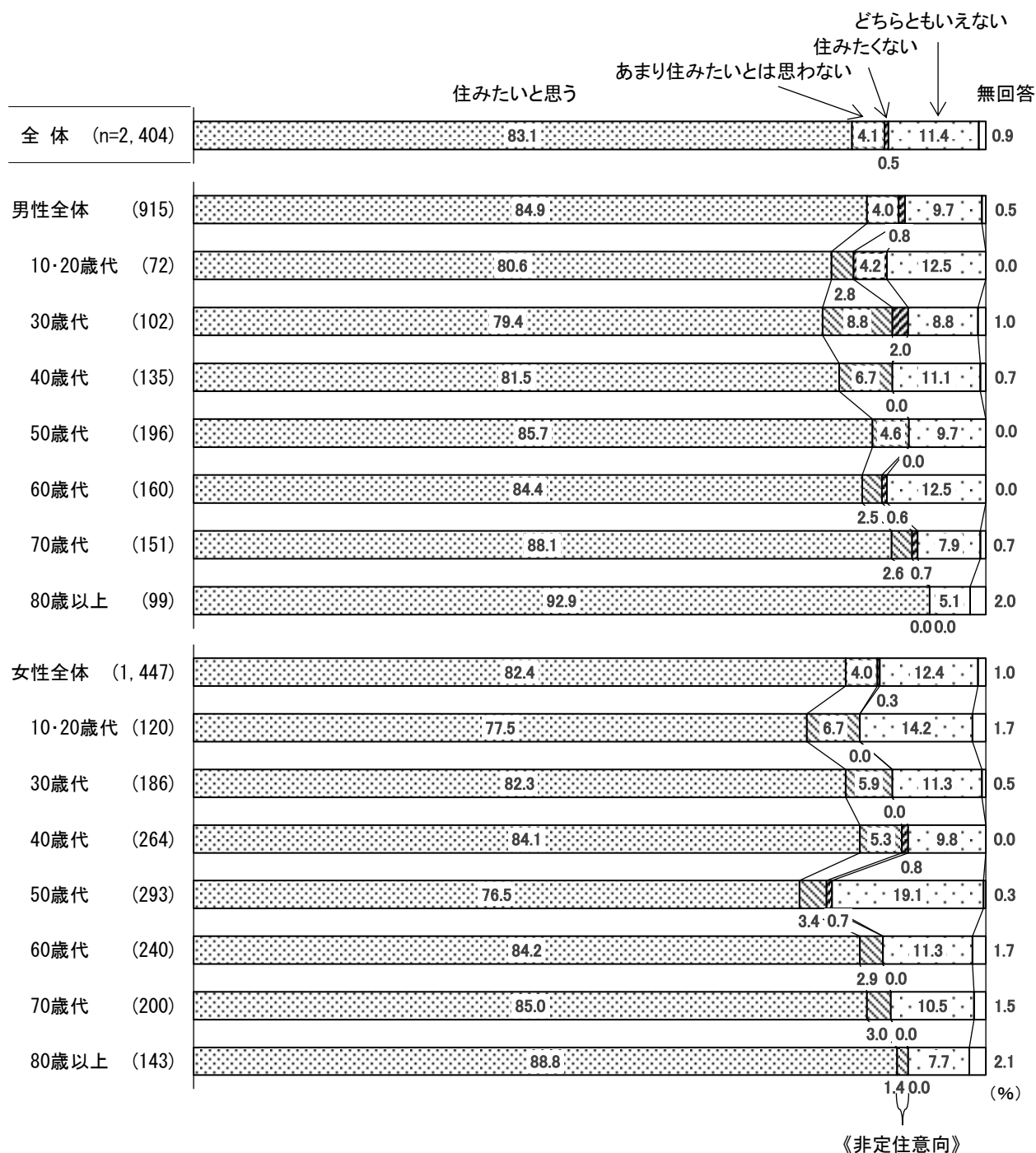
平成27年度からの時系列の変化をみると、「住みたいと思う」は、若干の変動はあるものの、8割前後で推移している。（図1-4-2）

図 1-4-3 定住意向（地域別）



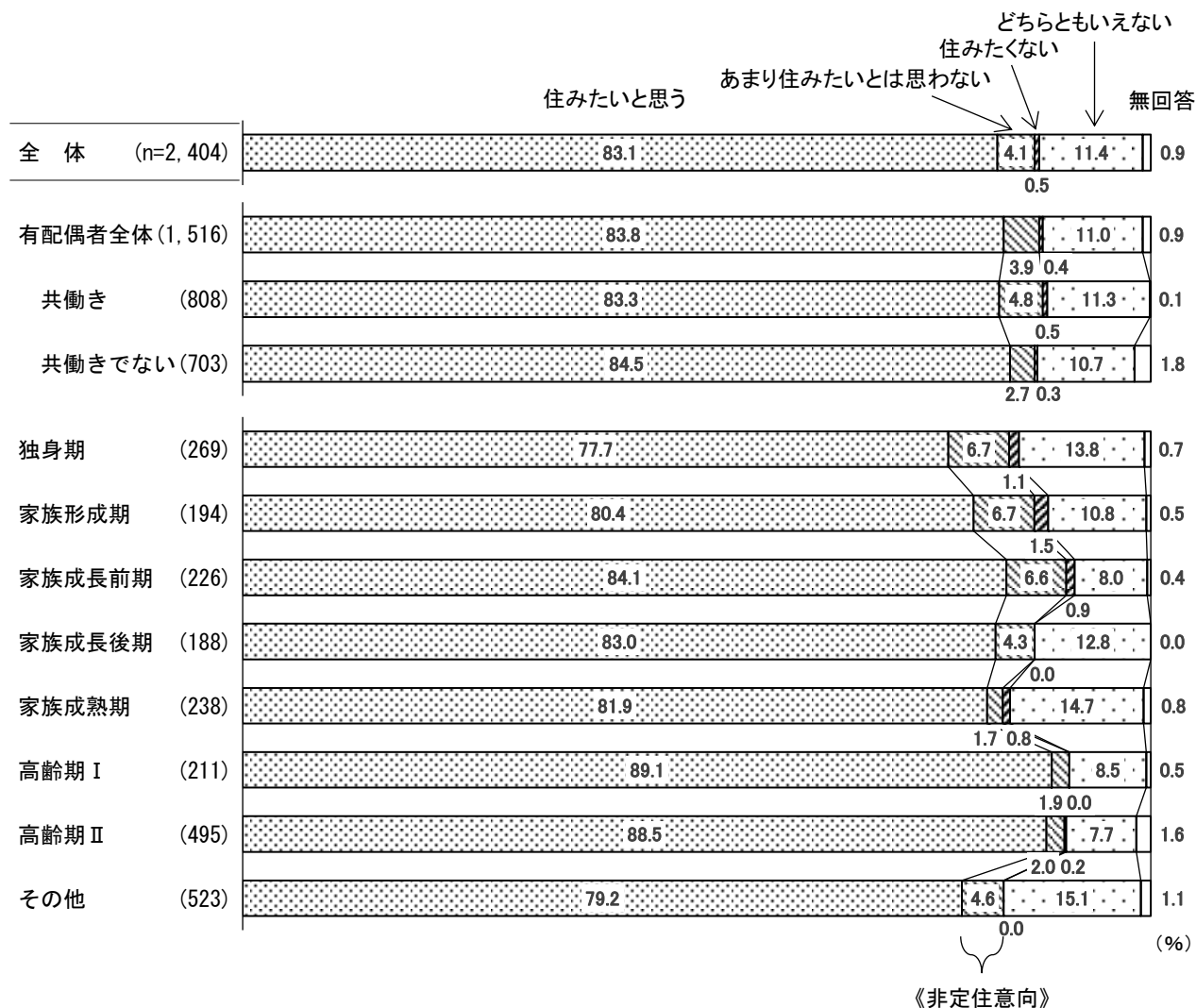
地域別にみると、「住みたいと思う」は、玉川北部で9割近く、玉川西部で8割半ばとなっている。いずれの地域でも《非定住意向》は1割に満たなかった。（図1-4-3）

図 1-4-4 定住意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「住みたいと思う」は男性の80歳以上で9割を超え、男性の70歳代、女性の80歳以上で9割近くとなっている。《非定住意向》は男性の30歳代でほぼ1割となっている。定住意向は高年層で高く、若年層で低い傾向が見られる。(図1-4-4)

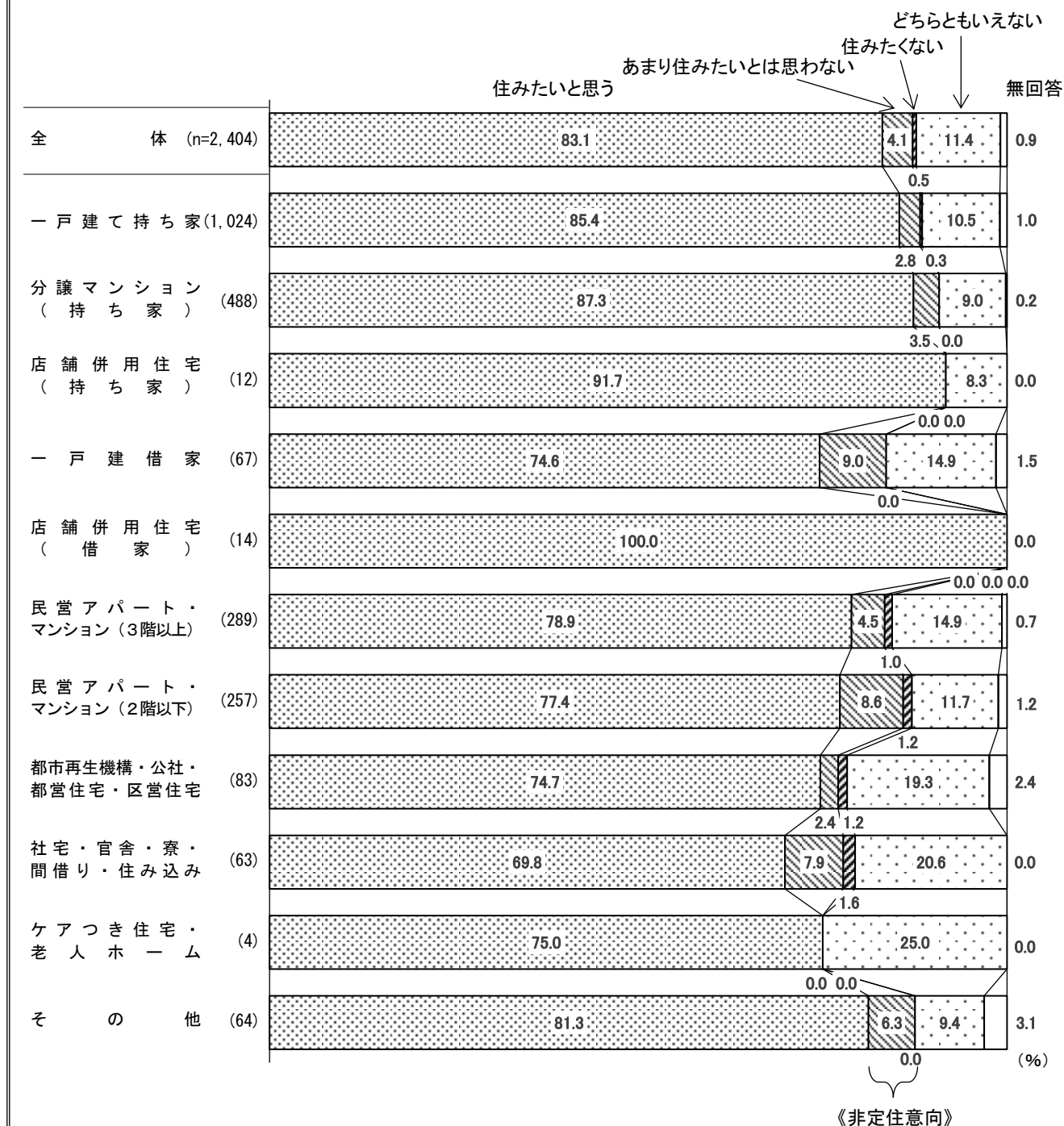
図 1-4-5 定住意向（共働きの有無別・ライフステージ別）



共働きの有無別にみると、「住みたいと思う」は共働きでない世帯で8割半ば、共働き世帯も8割を超えている。《非定住意向》は共働き世帯と共働きでない世帯で大きな差はみられない。

ライフステージ別にみると、「住みたいと思う」は高齢期Ⅰでほぼ9割、高齢期Ⅱで9割近く、家族成長前期で8割半ばとなっている。《非定住意向》はいずれのライフステージも1割に満たなかった。（図1-4-5）

図 1-4-6 定住意向（住居形態別）



住居形態別にみると、「住みたいと思う」は分譲マンション（持ち家）で9割近く、一戸建て持ち家で8割半ばとなっている。《非定住意向》は民営アパート・マンション（2階以下）で1割となっている。（図1-4-6）

なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

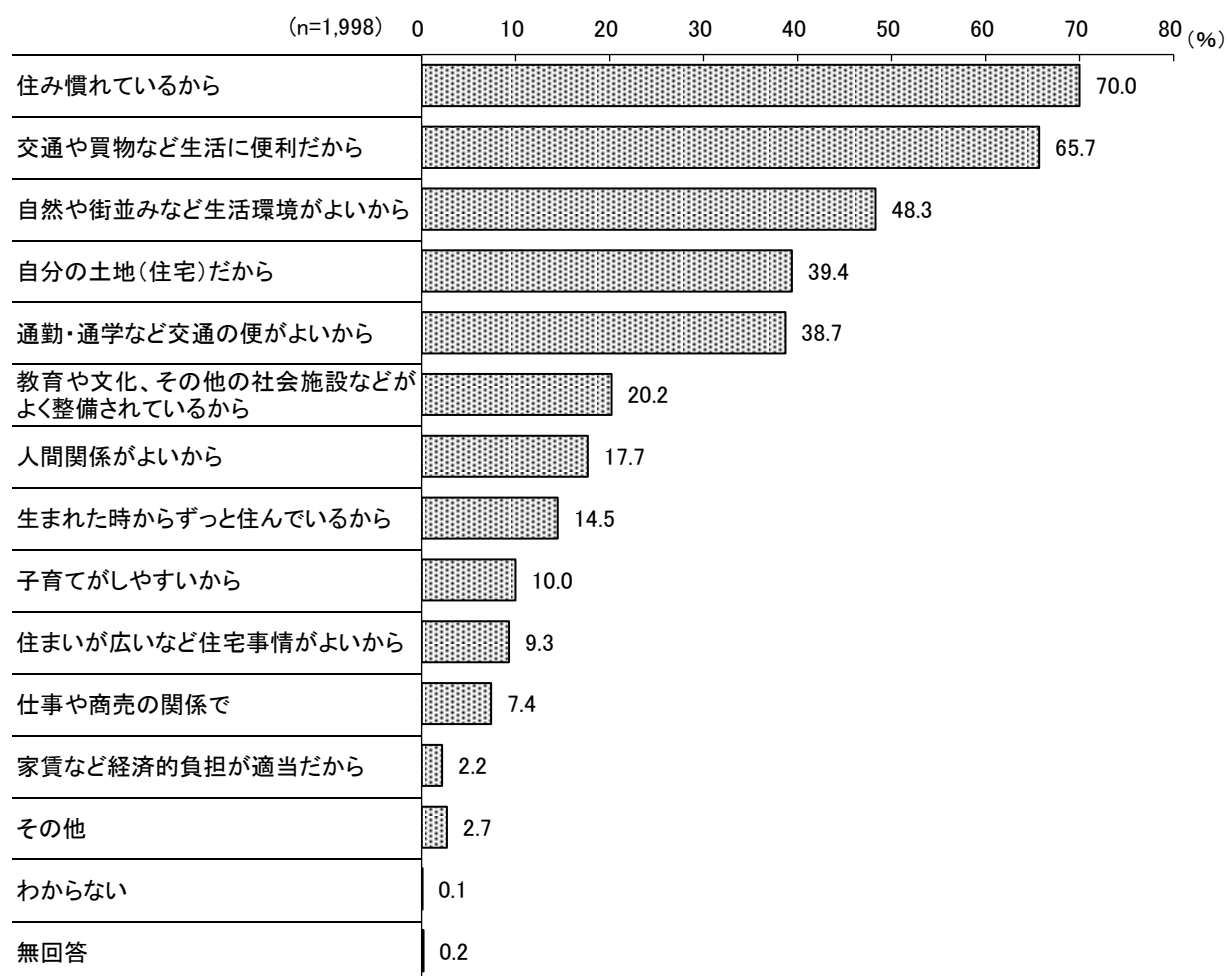
（５）定住意向理由

◎世田谷区に住みたい理由の第１位は「住み慣れているから」

（問４で「住みたいと思う」と答えた方に）

問４－１ これからも世田谷区に住みたいと思う理由はどんなことですか。（○はいくつでも）

図１－５－１



今後も世田谷区に「住みたいと思う」と答えた方（1,998人）に、その理由を聞いたところ、「住み慣れているから」（70.0%）が7割で最も高く、以下、「交通や買物など生活に便利だから」（65.7%）、「自然や街並みなど生活環境がよいから」（48.3%）、「自分の土地（住宅）だから」（39.4%）、「通勤・通学など交通の便がよいから」（38.7%）などと続く。（図１－５－１）

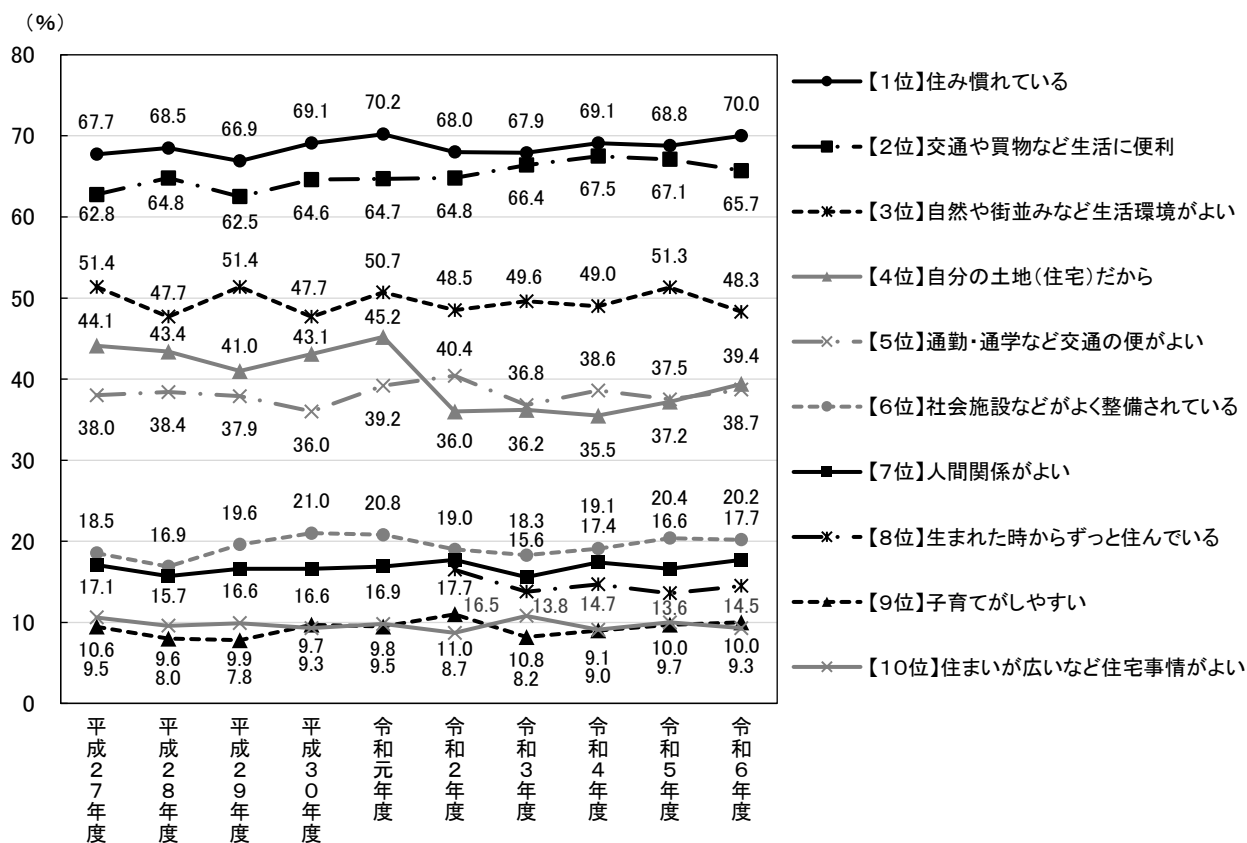
表 1-5-1 定住意向理由（時系列）

（％）

理 由	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
n	1,931	1,909	1,841	1,848	1,747	1,936	1,700	1,590	1,498	1,998
【1位】 住み慣れている	67.7	68.5	66.9	69.1	70.2	68.0	67.9	69.1	68.8	70.0
【2位】 交通や買物など生活に便利	62.8	64.8	62.5	64.6	64.7	64.8	66.4	67.5	67.1	65.7
【3位】 自然や街並みなど生活環境がよい	51.4	47.7	51.4	47.7	50.7	48.5	49.6	49.0	51.3	48.3
【4位】 自分の土地(住宅)だから	44.1	43.4	41.0	43.1	45.2	36.0	36.2	35.5	37.2	39.4
【5位】 通勤・通学など交通の便がよい	38.0	38.4	37.9	36.0	39.2	40.4	36.8	38.6	37.5	38.7
【6位】 社会施設などがよく整備されている	18.5	16.9	19.6	21.0	20.8	19.0	18.3	19.1	20.4	20.2
【7位】 人間関係がよい	17.1	15.7	16.6	16.6	16.9	17.7	15.6	17.4	16.6	17.7
【8位】 生まれた時からずっと住んでいる	-	-	-	-	-	16.5	13.8	14.7	13.6	14.5
【9位】 子育てがしやすい	9.5	8.0	7.8	9.7	9.5	11.0	8.2	9.0	9.7	10.0
【10位】 住まいが広いなど住宅事情がよい	10.6	9.6	9.9	9.3	9.8	8.7	10.8	9.1	10.0	9.3

注) 令和6年度の値で順位付けを行った。

図 1-5-2 定住意向理由（時系列）



平成27年度からの時系列の変化をみると、「住み慣れているから」と「交通や買物など生活に便利だから」の2項目が6割台以上で上位に挙げられ、「自然や街並みなど生活環境がよいから」が5割前後となっている。「自分の土地（住宅）だから」は令和元年度以前は4割台、令和2年度以降は3割台となっている。（表1-5-1、図1-5-2）

表 1-5-2 定住意向理由（地域別）

(%)											
	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	1,998	住み慣れて いる 70.0	交通や買物 など生活に 便利 65.7	自然や街並 みなど生活 環境がよい 48.3	自分の土地 (住宅)だか ら 39.4	通勤・通学 など交通の 便がよい 38.7	社会施設な どがよく整備 されている 20.2	人間関係が よい 17.7	生まれた時 からずっと住 んでいる 14.5	子育てがし やすい 10.0	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 9.3
世田谷 東 部	312	交通や買物 など生活に 便利 75.6	住み慣れて いる 68.3	通勤・通学 など交通の 便がよい 45.8	自分の土地 (住宅)だか ら 37.8	自然や街並 みなど生活 環境がよい 36.9	人間関係が よい 17.9	社会施設な どがよく整備 されている 15.4	生まれた時 からずっと住 んでいる 13.5	子育てがし やすい 11.9	仕事や商売 の関係で 11.2
世田谷 西 部	225	住み慣れて いる 74.2	交通や買物 など生活に 便利 64.4	自然や街並 みなど生活 環境がよい 46.7	自分の土地 (住宅)だか ら 40.4	通勤・通学 など交通の 便がよい 34.2	社会施設な どがよく整備 されている 20.4	人間関係が よい 17.8	生まれた時 からずっと住 んでいる 16.4	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 8.9	仕事や商売 の関係で 8.0
北 沢 東 部	149	交通や買物 など生活に 便利 74.5	住み慣れて いる 70.5	通勤・通学 など交通の 便がよい 49.7	自分の土地 (住宅)だか ら 40.3	自然や街並 みなど生活 環境がよい 32.9	社会施設な どがよく整備 されている 19.5	人間関係が よい 18.1	生まれた時 からずっと住 んでいる 15.4	仕事や商売 の関係で 10.1	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 8.1
北 沢 西 部	162	交通や買物 など生活に 便利 72.2	住み慣れて いる 65.4	通勤・通学 など交通の 便がよい 48.1	自然や街並 みなど生活 環境がよい 41.4	自分の土地 (住宅)だか ら 36.4	社会施設な どがよく整備 されている 20.4	人間関係が よい 16.0	生まれた時 からずっと住 んでいる 14.2	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 8.6	子育てがし やすい 8.0
玉 川 北 部	207	住み慣れて いる 70.5	自然や街並 みなど生活 環境がよい 58.9	交通や買物 など生活に 便利 58.0	自分の土地 (住宅)だか ら 38.2	通勤・通学 など交通の 便がよい 36.7	社会施設な どがよく整備 されている 23.2	人間関係が よい 16.9	生まれた時 からずっと住 んでいる 15.9	住まいが広い など住宅事 情がよい／ 子育てがし やすい 11.1	
玉 川 南 部	187	住み慣れて いる 72.7	交通や買物 など生活に 便利 66.3	自然や街並 みなど生活 環境がよい 52.4	自分の土地 (住宅)だから ／通勤・通学 など交通の便 がよい 39.6	人間関係が よい 21.4	社会施設な どがよく整備 されている 18.2	生まれた時 からずっと住 んでいる 16.6	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 10.7	子育てがし やすい 9.1	
玉 川 西 部	125	交通や買物 など生活に 便利 73.6	住み慣れて いる 67.2	自然や街並 みなど生活 環境がよい 65.6	通勤・通学 など交通の 便がよい 42.4	自分の土地 (住宅)だか ら 37.6	社会施設な どがよく整備 されている 21.6	生まれた時 からずっと住 んでいる 16.8	人間関係が よい 15.2	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 8.0	子育てがし やすい 6.4
砧北部	252	住み慣れて いる 70.2	交通や買物 など生活に 便利 60.7	自然や街並 みなど生活 環境がよい 55.2	自分の土地 (住宅)だか ら 41.3	通勤・通学 など交通の 便がよい 27.4	社会施設な どがよく整備 されている 21.4	人間関係が よい 18.7	子育てがし やすい 13.1	生まれた時 からずっと住 んでいる 12.7	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 9.9
砧南部	99	住み慣れて いる 71.7	自然や街並 みなど生活 環境がよい 69.7	交通や買物 など生活に 便利 41.4	自分の土地 (住宅)だか ら 40.4	社会施設な どがよく整備 されている 29.3	人間関係が よい 22.2	通勤・通学 など交通の 便がよい 18.2	生まれた時 からずっと住 んでいる 15.2	子育てがし やすい 13.1	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 10.1
烏 山	245	住み慣れて いる 67.8	交通や買物 など生活に 便利 62.0	自然や街並 みなど生活 環境がよい 42.0	自分の土地 (住宅)だか ら 41.2	通勤・通学 など交通の 便がよい 40.8	社会施設な どがよく整備 されている 20.0	人間関係が よい 14.7	生まれた時 からずっと住 んでいる／ 子育てがし やすい 11.0	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 7.8	

地域別にみると、「住み慣れているから」と「交通や買物など生活に便利だから」はすべての地域で3位以内に挙げられている。世田谷東部、北沢東部、北沢西部は「通勤・通学など交通の便がよいから」が3位になっており、それ以外の地域は「自然や街並みなど生活環境がよいから」が3位以内に挙げられている。（表1-5-2）

表 1 - 5 - 3 定住意向理由 (性・年齢別)

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	1,998	住み慣れている 70.0	交通や買物など生活に便利 65.7	自然や街並みなど生活環境がよい 48.3	自分の土地 (住宅) だから 39.4	通勤・通学など交通の便がよい 38.7	社会施設などがよく整備されている 20.2	人間関係がよい 17.7	生まれた時からずっと住んでいる 14.5	子育てがしやすい 10.0	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.3
男 性 全 体	777	住み慣れている 71.8	交通や買物など生活に便利 64.7	自然や街並みなど生活環境がよい 48.9	自分の土地 (住宅) だから 40.4	通勤・通学など交通の便がよい 40.2	社会施設などがよく整備されている 21.4	生まれた時からずっと住んでいる 17.0	人間関係がよい 14.4	子育てがしやすい 9.7	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.1
10・20歳代	58	住み慣れている 62.1	交通や買物など生活に便利／通勤・通学など交通の便がよい 60.3	自然や街並みなど生活環境がよい 53.4	自分の土地 (住宅) だから 53.4	社会施設などがよく整備されている 25.9	自分の土地 (住宅) だから 17.2	生まれた時からずっと住んでいる／住まいが広いなど住宅事情がよい／人間関係がよい 13.8			仕事や商売の関係で 6.9
30歳代	81	住み慣れている 63.0	交通や買物など生活に便利 60.5	自然や街並みなど生活環境がよい 49.4	通勤・通学など交通の便がよい 45.7	自分の土地 (住宅) だから 24.7	子育てがしやすい 21.0	社会施設などがよく整備されている 18.5	生まれた時からずっと住んでいる／人間関係がよい 11.1		仕事や商売の関係で 8.6
40歳代	110	住み慣れている 63.6	交通や買物など生活に便利 60.0	自然や街並みなど生活環境がよい 50.9	通勤・通学など交通の便がよい 50.0	自分の土地 (住宅) だから 32.7	子育てがしやすい 24.5	社会施設などがよく整備されている 22.7	人間関係がよい 17.3	生まれた時からずっと住んでいる 14.5	仕事や商売の関係で 12.7
50歳代	168	住み慣れている 73.8	交通や買物など生活に便利 66.7	通勤・通学など交通の便がよい 52.4	自然や街並みなど生活環境がよい 48.2	自分の土地 (住宅) だから 38.1	社会施設などがよく整備されている 21.4	生まれた時からずっと住んでいる 18.5	人間関係がよい 17.9	子育てがしやすい 11.3	仕事や商売の関係で 10.7
60歳代	135	住み慣れている 79.3	交通や買物など生活に便利 69.6	自分の土地 (住宅) だから 59.3	自然や街並みなど生活環境がよい 51.1	通勤・通学など交通の便がよい 41.5	生まれた時からずっと住んでいる 22.2	社会施設などがよく整備されている 20.7	人間関係がよい 8.9	住まいが広いなど住宅事情がよい 8.1	仕事や商売の関係で 6.7
70歳代	133	住み慣れている 72.2	交通や買物など生活に便利 64.7	自然や街並みなど生活環境がよい 46.6	自分の土地 (住宅) だから 44.4	社会施設などがよく整備されている 19.5	生まれた時からずっと住んでいる 18.8	通勤・通学など交通の便がよい 18.0	人間関係がよい 15.0	仕事や商売の関係で 7.5	住まいが広いなど住宅事情がよい 6.8
80歳以上	92	住み慣れている 80.4	交通や買物など生活に便利 66.3	自分の土地 (住宅) だから 48.9	自然や街並みなど生活環境がよい 44.6	社会施設などがよく整備されている 22.8	通勤・通学など交通の便がよい 18.5	住まいが広いなど住宅事情がよい／人間関係がよい 15.2	生まれた時からずっと住んでいる 14.1	子育てがしやすい 3.3	家賃など経済的負担が適当／子育てがしやすい 3.3
女 性 全 体	1,192	住み慣れている 68.6	交通や買物など生活に便利 66.6	自然や街並みなど生活環境がよい 48.2	自分の土地 (住宅) だから 38.9	通勤・通学など交通の便がよい 38.2	人間関係がよい 20.1	社会施設などがよく整備されている 19.6	生まれた時からずっと住んでいる 12.9	子育てがしやすい 10.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.6
10・20歳代	93	交通や買物など生活に便利 66.7	住み慣れている 54.8	通勤・通学など交通の便がよい 51.6	自然や街並みなど生活環境がよい 46.2	生まれた時からずっと住んでいる 29.0	自分の土地 (住宅) だから／社会施設などがよく整備されている 23.5	子育てがしやすい 21.6	人間関係がよい 20.9	生まれた時からずっと住んでいる 11.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.8
30歳代	153	交通や買物など生活に便利 68.0	住み慣れている 51.6	通勤・通学など交通の便がよい 47.7	自然や街並みなど生活環境がよい 42.5	自分の土地 (住宅) だから 42.5	社会施設などがよく整備されている 23.5	子育てがしやすい 21.6	人間関係がよい 20.9	生まれた時からずっと住んでいる 11.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 9.8
40歳代	222	住み慣れている 65.3	交通や買物など生活に便利 60.8	自然や街並みなど生活環境がよい／通勤・通学など交通の便がよい 50.0	自分の土地 (住宅) だから 35.6	社会施設などがよく整備されている 23.9	子育てがしやすい 22.5	人間関係がよい 21.6	生まれた時からずっと住んでいる 12.6	住まいが広いなど住宅事情がよい 10.4	
50歳代	224	交通や買物など生活に便利 71.4	住み慣れている 67.9	自然や街並みなど生活環境がよい 54.5	通勤・通学など交通の便がよい 44.2	自分の土地 (住宅) だから 37.5	社会施設などがよく整備されている 21.4	人間関係がよい 19.2	仕事や商売の関係で 10.7	生まれた時からずっと住んでいる 10.3	子育てがしやすい 9.8
60歳代	202	住み慣れている 80.2	交通や買物など生活に便利 73.3	自然や街並みなど生活環境がよい 51.0	自分の土地 (住宅) だから 48.0	通勤・通学など交通の便がよい 34.7	人間関係がよい 21.3	社会施設などがよく整備されている 18.3	生まれた時からずっと住んでいる 15.3	仕事や商売の関係で 7.4	住まいが広いなど住宅事情がよい 6.9
70歳代	170	住み慣れている 80.6	交通や買物など生活に便利 68.8	自分の土地 (住宅) だから 54.7	自然や街並みなど生活環境がよい 46.5	人間関係がよい 21.8	通勤・通学など交通の便がよい 18.8	社会施設などがよく整備されている 17.1	住まいが広いなど住宅事情がよい 12.9	生まれた時からずっと住んでいる 8.8	仕事や商売の関係で 5.3
80歳以上	127	住み慣れている 82.7	交通や買物など生活に便利 52.8	自分の土地 (住宅) だから 46.5	自然や街並みなど生活環境がよい 34.6	人間関係がよい 18.9	通勤・通学など交通の便がよい 11.8	社会施設などがよく整備されている 11.0	生まれた時からずっと住んでいる 10.2	住まいが広いなど住宅事情がよい 7.9	家賃など経済的負担が適当 3.1

性・年齢別にみると、女性の 30 歳代以外は各年代とも「住み慣れているから」、「交通や買物など生活に便利だから」が 2 位以内に挙げられている。女性の 30 歳代は「通勤・通学など交通の便がよいから」が 2 位、「自然や街並みなど生活環境がよいから」が 3 位となっている。(表 1 - 5 - 3)

表 1－5－4 定住意向理由（共働きの有無別・ライフステージ別）

(%)											
	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	1,998	住み慣れている 70.0	交通や買物 など生活に 便利 65.7	自然や街並 みなど生活 環境がよい 48.3	自分の土地 (住宅)だか ら 39.4	通勤・通学 など交通の 便がよい 38.7	社会施設な どがよく整備 されている 20.2	人間関係が よい 17.7	生まれた時 からずっと住 んでいる 14.5	子育てがし やすい 10.0	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 9.3
有配偶者 全 体	1,270	住み慣れている 67.6	交通や買物 など生活に 便利 66.1	自然や街並 みなど生活 環境がよい 50.6	自分の土地 (住宅)だか ら 46.1	通勤・通学 など交通の 便がよい 38.9	社会施設な どがよく整備 されている 22.4	人間関係が よい 19.3	子育てがし やすい 14.4	生まれた時 からずっと住 んでいる 11.3	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 9.8
共 働 き	673	交通や買物 など生活に 便利 64.6	住み慣れて いる 62.9	自然や街並 みなど生活 環境がよい 51.4	通勤・通学 など交通の 便がよい 46.1	自分の土地 (住宅)だか ら 41.0	社会施設な どがよく整備 されている 22.1	人間関係が よい 20.5	子育てがし やすい 19.3	生まれた時 からずっと住 んでいる 11.3	仕事や商売 の関係で 10.4
共 働 き で ない	594	住み慣れて いる 73.1	交通や買物 など生活に 便利 67.8	自分の土地 (住宅)だか ら 51.7	自然や街並 みなど生活 環境がよい 49.8	通勤・通学 など交通の 便がよい 30.8	社会施設な どがよく整備 されている 22.4	人間関係が よい 17.7	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 11.4	生まれた時 からずっと住 んでいる 11.3	子育てがし やすい 8.8
独 身 期	209	交通や買物 など生活に 便利 70.8	住み慣れて いる 63.6	通勤・通学 など交通の 便がよい 57.4	自然や街並 みなど生活 環境がよい 46.4	生まれた時 からずっと住 んでいる 25.4	社会施設な どがよく整備 されている 17.7	自分の土地 (住宅)だか ら 16.7	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 12.4	人間関係が よい 11.5	仕事や商売 の関係で 9.6
家 族 形 成 期	156	交通や買物 など生活に 便利 62.2	自然や街並 みなど生活 環境がよい 53.2	通勤・通学 など交通の 便がよい 48.1	住み慣れて いる 39.7	子育てがし やすい 34.0	社会施設な どがよく整備 されている 25.6	自分の土地 (住宅)だか ら 21.8	人間関係が よい 19.2	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 9.6	仕事や商売 の関係で 7.7
家 族 成 長 前 期	190	住み慣れて いる 62.1	自然や街並 みなど生活 環境がよい 57.4	交通や買物 など生活に 便利 54.7	自分の土地 (住宅)だか ら 52.6	通勤・通学 など交通の 便がよい 48.9	社会施設な どがよく整備 されている 40.0	人間関係が よい 31.1	子育てがし やすい 25.8	生まれた時 からずっと住 んでいる 11.1	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 9.5
家 族 成 長 後 期	156	住み慣れて いる 73.1	交通や買物 など生活に 便利 69.9	通勤・通学 など交通の 便がよい 53.8	自然や街並 みなど生活 環境がよい 47.4	自分の土地 (住宅)だか ら 39.1	社会施設な どがよく整備 されている 25.6	人間関係が よい 25.0	子育てがし やすい 20.5	仕事や商売 の関係で 9.6	生まれた時 からずっと住 んでいる 9.0
家 族 成 熟 期	195	住み慣れて いる 73.8	交通や買物 など生活に 便利 71.8	自然や街並 みなど生活 環境がよい 52.3	自分の土地 (住宅)だか ら 46.7	通勤・通学 など交通の 便がよい 44.1	社会施設な どがよく整備 されている 23.1	人間関係が よい 12.8	生まれた時 からずっと住 んでいる 11.8	仕事や商売 の関係で 10.8	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 6.7
高 齢 期 Ⅰ	188	住み慣れて いる 77.7	交通や買物 など生活に 便利 70.7	自分の土地 (住宅)だか ら 54.8	自然や街並 みなど生活 環境がよい 45.7	通勤・通学 など交通の 便がよい 26.6	人間関係が よい 19.7	社会施設な どがよく整備 されている 16.0	生まれた時 からずっと住 んでいる 14.9	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 10.6	仕事や商売 の関係で 6.9
高 齢 期 Ⅱ	438	住み慣れて いる 78.1	交通や買物 など生活に 便利 64.6	自分の土地 (住宅)だか ら 48.6	自然や街並 みなど生活 環境がよい 45.9	社会施設な どがよく整備 されている 20.8	通勤・通学 など交通の 便がよい 20.3	人間関係が よい 17.6	生まれた時 からずっと住 んでいる 14.8	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 9.4	仕事や商売 の関係で 4.6
そ の 他	414	住み慣れて いる 72.7	交通や買物 など生活に 便利 64.5	自然や街並 みなど生活 環境がよい 45.4	通勤・通学 など交通の 便がよい 38.9	自分の土地 (住宅)だか ら 31.4	生まれた時 からずっと住 んでいる 16.7	人間関係が よい 15.2	社会施設な どがよく整備 されている 12.1	仕事や商売 の関係で 9.2	住まいが広 いなど住宅 事情がよい 7.2

共働きの有無別にみると、いずれも「住み慣れているから」、「交通や買物など生活に便利だから」が2位以内に挙げられている。共働き世帯は「自然や街並みなど生活環境がよいから」が3位、共働きでない世帯は「自分の土地（住宅）だから」が3位となっている。

ライフステージ別にみると、「交通や買物など生活に便利だから」はすべてのライフステージで3位以内に入っている。「自然や街並みなど生活環境がよいから」は家族形成期と家族成長前期で2位、「通勤・通学など交通の便がよいから」は独身期、家族形成期、家族成長後期で3位となっている。

(表 1－5－4)

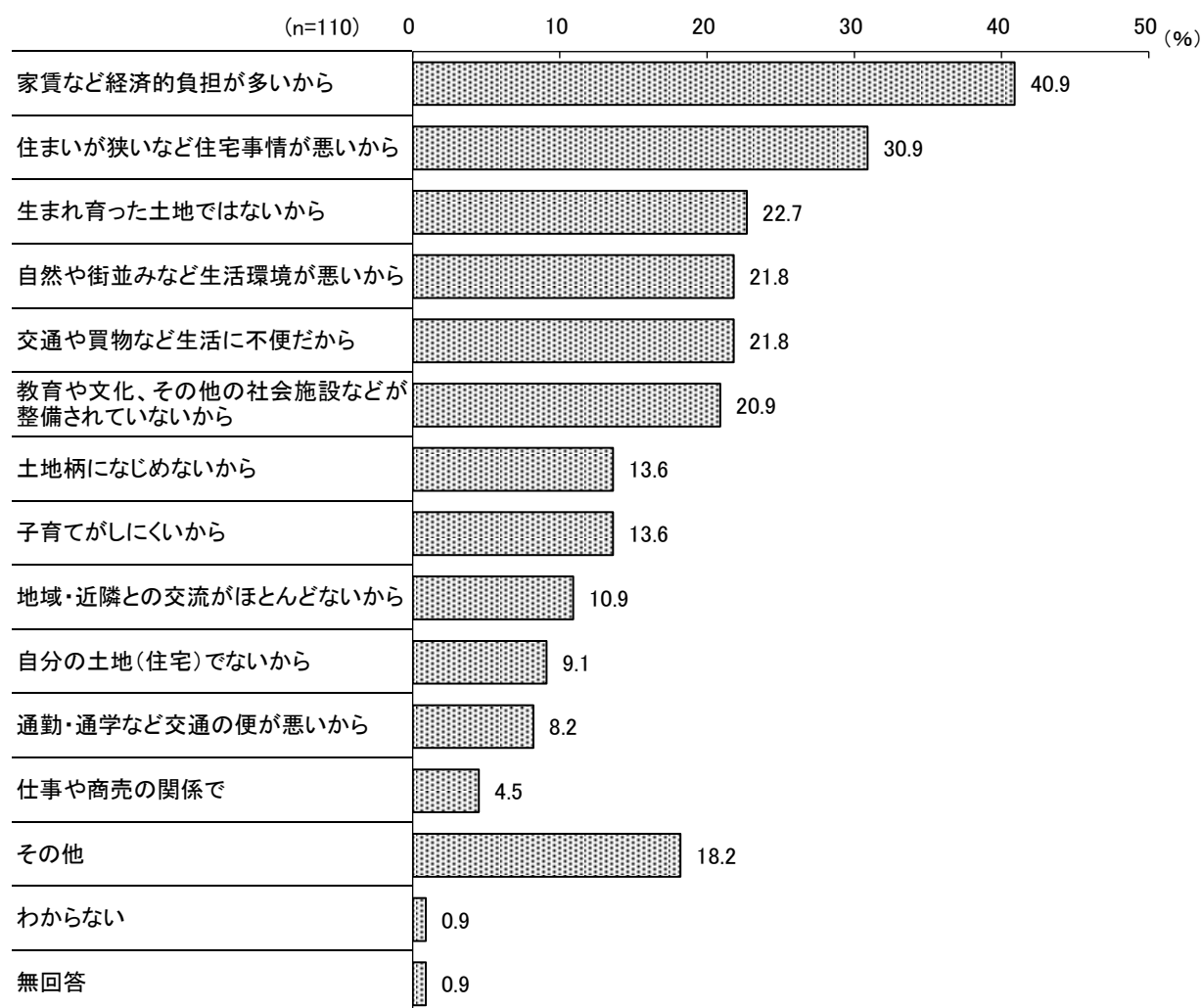
（６）非定住意向理由

◎世田谷区に住みたくない理由の第１位は「家賃など経済的負担が多いから」

（問４で「あまり住みたいとは思わない」または「住みたくない」と答えた方に）

問４－２ 世田谷区に住みたくない理由はどんなことですか。（○はいくつでも）

図 1－6－1



今後は世田谷区に「あまり住みたいとは思わない」または「住みたくない」と答え、《非定住意向》を示した方（110人）に、その理由を聞いたところ、「家賃など経済的負担が多いから」（40.9%）がほぼ4割、「住まいが狭いなど住宅事情が悪いから」（30.9%）がほぼ3割となっている。以下、「生まれ育った土地ではないから」（22.7%）、「自然や街並みなど生活環境が悪いから」（21.8%）、「交通や買物など生活に不便だから」（21.8%）、「教育や文化、その他の社会施設などが整備されていないから」（20.9%）などと続く。（図1－6－1）

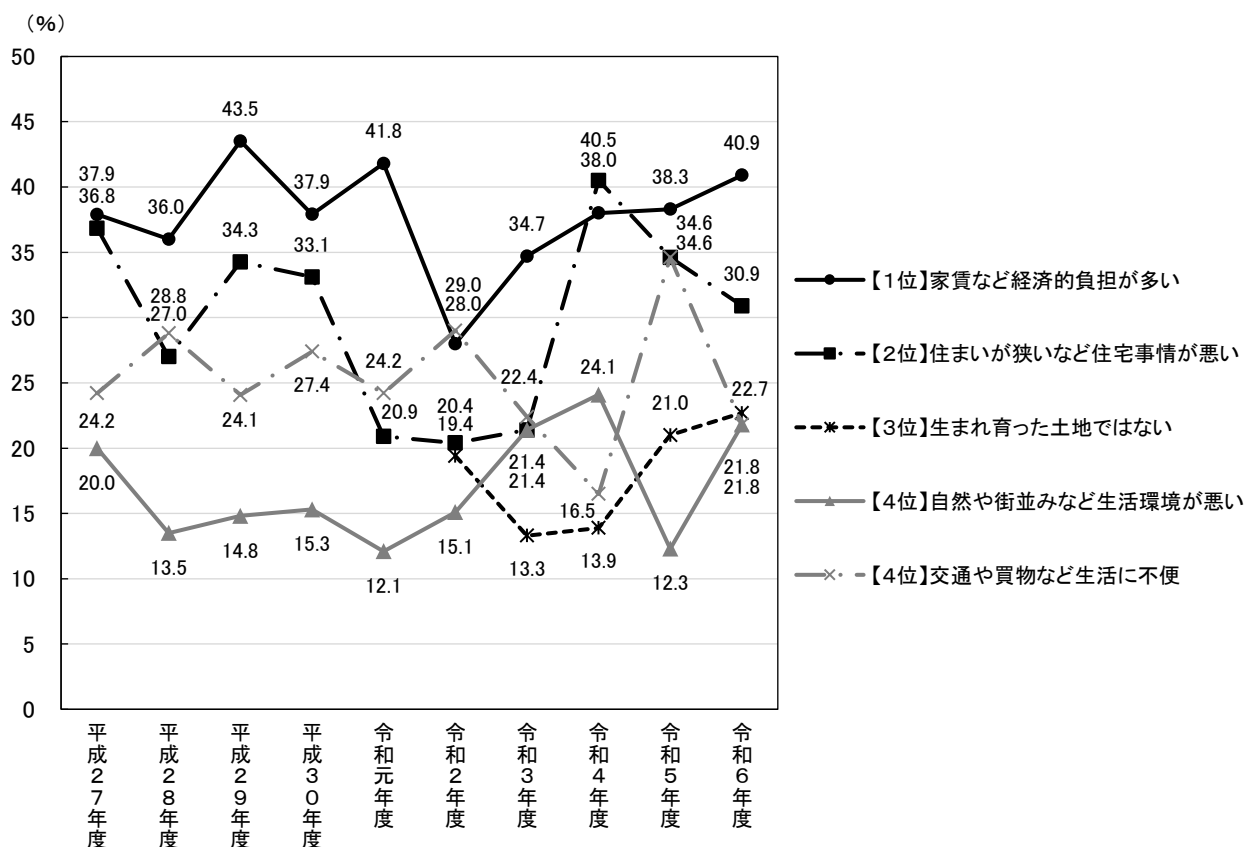
表 1-6-1 非定住意向理由（時系列）

（％）

理 由	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
n	95	111	108	124	91	93	98	79	81	110
【1位】 家賃など経済的負担が多い	37.9	36.0	43.5	37.9	41.8	28.0	34.7	38.0	38.3	40.9
【2位】 住まいが狭いなど住宅事情が悪い	36.8	27.0	34.3	33.1	20.9	20.4	21.4	40.5	34.6	30.9
【3位】 生まれ育った土地ではない	-	-	-	-	-	19.4	13.3	13.9	21.0	22.7
【4位】 自然や街並みなど生活環境が悪い	20.0	13.5	14.8	15.3	12.1	15.1	21.4	24.1	12.3	21.8
【4位】 交通や買物など生活に不便	24.2	28.8	24.1	27.4	24.2	29.0	22.4	16.5	34.6	21.8
【6位】 社会施設などが整備されていない	16.8	17.1	14.8	16.9	15.4	11.8	11.2	16.5	22.2	20.9
【7位】 土地柄になじめない	15.8	14.4	13.0	12.1	15.4	10.8	12.2	7.6	13.6	13.6
【7位】 子育てがしにくい	22.1	15.3	13.9	21.8	16.5	9.7	17.3	16.5	14.8	13.6
【9位】 地域・近隣との交流がほとんどない	13.7	10.8	13.9	15.3	11.0	12.9	9.2	19.0	14.8	10.9
【10位】 自分の土地（住宅）でない	18.9	18.9	24.1	19.4	24.2	17.2	12.2	11.4	13.6	9.1

注）令和6年度の値で順位付けを行った。

図 1-6-2 非定住意向理由（時系列）



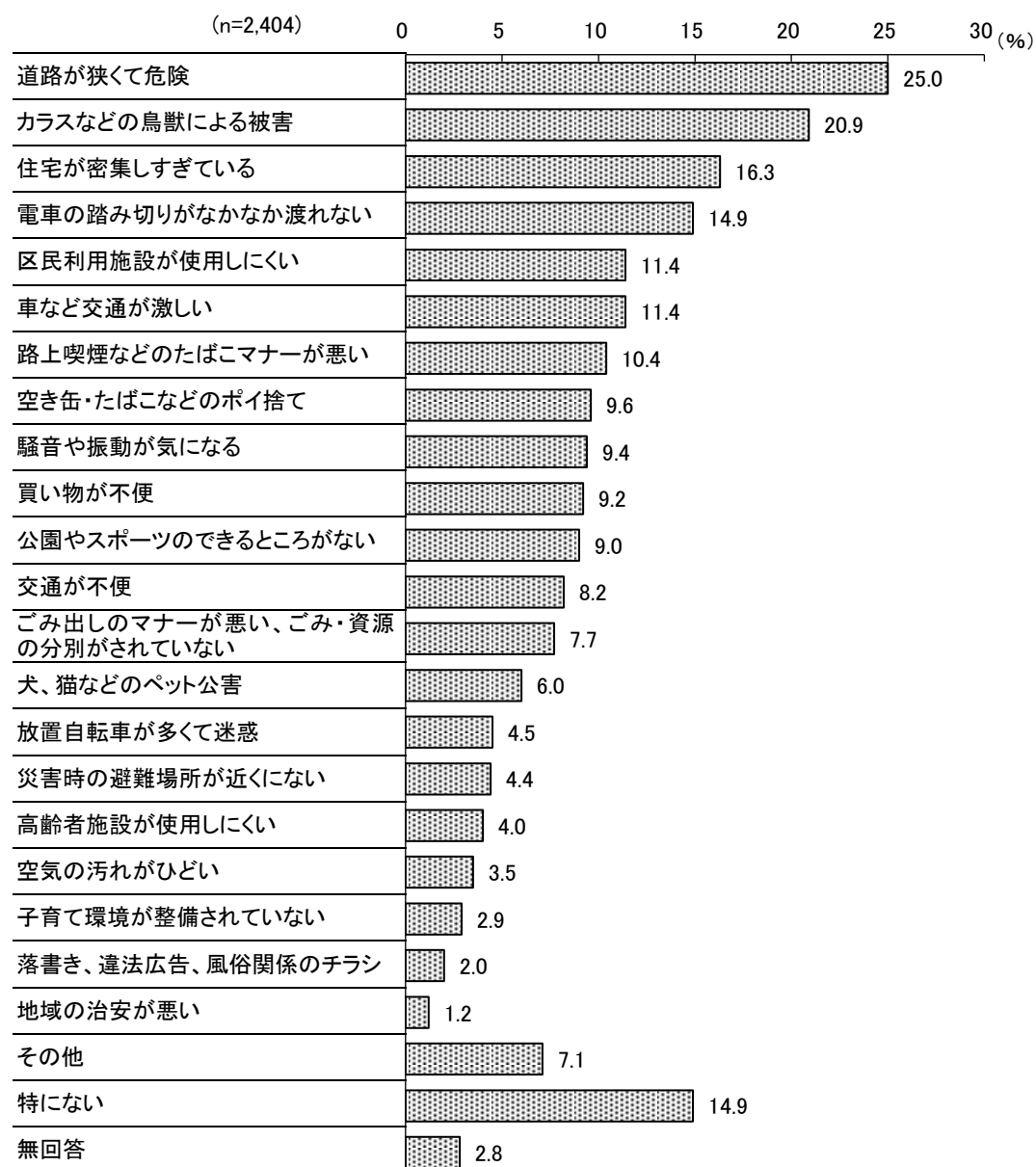
平成27年度からの時系列の変化をみると、「家賃など経済的負担が多いから」は令和2年度を除くすべての年度で3割～4割台で、常に2位以内に挙げられている。（表1-6-1、図1-6-2）

(7) 地域における日常生活での困りごと

◎「道路が狭くて危険」が2割半ば

問5 あなたは、普段生活している地域でどんなことにお困りですか。(〇は3つまで)

図1-7-1



地域内での日常生活で困っていることを聞いたところ、「道路が狭くて危険」(25.0%)が2割半ばで最も高く、以下、「カラスなどの鳥獣による被害」(20.9%)、「住宅が密集しすぎている」(16.3%)、「電車の踏み切りがなかなか渡れない」(14.9%)、「区民利用施設が使用しにくい」(11.4%)、「車など交通が激しい」(11.4%)、「路上喫煙などのたばこマナーが悪い」(10.4%)などと続く。

(図1-7-1)

表 1-7-1 地域における日常生活での困りごと（時系列）

											(%)
	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
令和6年度	2,404	道路が狭くて危険 25.0	カラスなどの鳥獣による被害 20.9	住宅が密集しすぎている 16.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.9	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 11.4		路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.6	騒音や振動が気になる 9.4	買い物が不便 9.2
令和5年度	1,832	道路が狭くて危険 26.3	カラスなどの鳥獣による被害 20.2	住宅が密集しすぎている 16.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.1	区民利用施設が使用しにくい 12.9	車など交通が激しい 12.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.5	公園やスポーツのできるところがない 10.3	空き缶・たばこなどのポイ捨て 10.2	買い物が不便／交通が不便 9.2
令和4年度	1,923	道路が狭くて危険 25.1	住宅が密集しすぎている 16.6	カラスなどの鳥獣による被害 15.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 12.4	車など交通が激しい 9.9	公園やスポーツのできるところがない 9.5	区民利用施設が使用しにくい 9.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.4	空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.0	交通が不便 7.6
令和3年度	2,086	道路が狭くて危険 24.4	住宅が密集しすぎている 17.2	カラスなどの鳥獣による被害 14.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.7	車など交通が激しい 10.7	区民利用施設が使用しにくい 10.5	公園やスポーツのできるところがない 10.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.1	空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.3	買い物が不便 7.6
令和2年度	2,371	道路が狭くて危険 28.2	住宅が密集しすぎている 19.3	カラスなどの鳥獣による被害 18.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	区民利用施設が使用しにくい 13.3	車など交通が激しい 12.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.9	公園やスポーツのできるところがない 10.0	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.7	騒音や振動が気になる 9.0
令和元年度	2,171	道路が狭くて危険 26.7	カラスなどの鳥獣による被害 19.2	住宅が密集しすぎている 17.0	車など交通が激しい 13.8	区民利用施設が使用しにくい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.7		空き缶・たばこなどのポイ捨て 12.4	騒音や振動が気になる 9.7	公園やスポーツのできるところがない 9.5	ごみ出しのマナーが悪い 8.8
平成29年度	2,319	道路が狭くて危険 26.0	車など交通が激しい 16.1	住宅が密集しすぎている 15.9	カラスなどの鳥獣による被害 15.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.4	区民利用施設が使用しにくい 10.1	交通が不便 9.1	騒音や振動が気になる 8.8	買い物が不便 8.6	公園やスポーツのできるところがない／空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.1
平成28年度	2,355	道路が狭くて危険 23.4	住宅が密集しすぎている 15.1	カラスなどの鳥獣による被害 14.6	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.6	車など交通が激しい 13.2	区民利用施設が使用しにくい 10.2	公園やスポーツのできるところがない／交通が不便 8.0	買い物が不便 7.6		犬、猫などのペット公害 7.3
平成27年度	2,388	道路が狭くて危険 25.3	住宅が密集しすぎている 15.7	カラスなどの鳥獣による被害 14.7	車など交通が激しい 14.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.9	区民利用施設が使用しにくい 11.6	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.0	交通が不便／犬、猫などのペット公害 8.6		買い物が不便 8.5
平成26年度	2,362	道路が狭くて危険 24.1	カラスなどの鳥獣による被害 15.9	住宅が密集しすぎている 15.5	車など交通が激しい 15.4	区民利用施設が使用しにくい 11.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 11.1	放置自転車が多くて迷惑 9.6	公園やスポーツのできるところがない 8.7	交通が不便 8.5	騒音や振動が気になる 8.4

注) 平成30年度は質問項目がなかった。

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「道路が狭くて危険」はいずれの年も 1 位で、2 割半ば前後で推移している。「住宅が密集しすぎている」はいずれの年も 3 位以内に挙げられ、「カラスなどの鳥獣による被害」も平成 29 年度の 4 位を除くと常に 3 位以内に挙げられている。

(表 1-7-1)

図 1-7-2 地域における日常生活での困りごと—地域別（上位3項目）

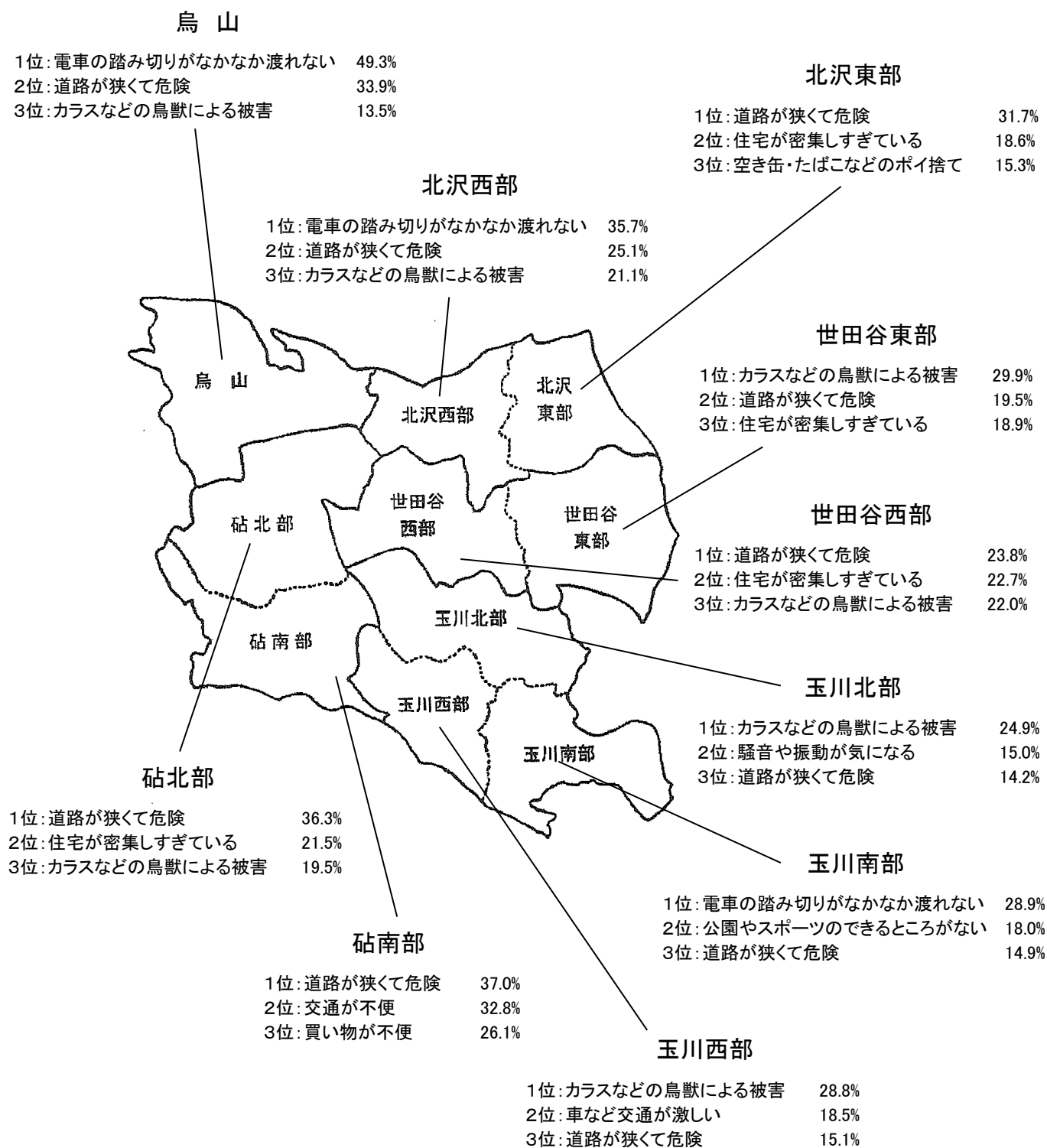


表 1-7-2 地域における日常生活での困りごと（地域別）

（％）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	道路が狭くて危険 25.0	カラスなどの鳥獣による被害 20.9	住宅が密集しすぎている 16.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.9	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 11.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.6	騒音や振動が気になる 9.4	買い物が不便 9.2	
世田谷東 部	375	カラスなどの鳥獣による被害 29.9	道路が狭くて危険 19.5	住宅が密集しすぎている 18.9	車など交通が激しい 17.1	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 15.5	区民利用施設が使用しにくい 13.3	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 12.3	空き缶・たばこなどのポイ捨て 12.0	騒音や振動が気になる 11.2	公園やスポーツのできる場所がない 7.5
世田谷西 部	273	道路が狭くて危険 23.8	住宅が密集しすぎている 22.7	カラスなどの鳥獣による被害 22.0	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 13.9	空き缶・たばこなどのポイ捨て 10.3	車など交通が激しい 9.9	区民利用施設が使用しにくい 8.8	公園やスポーツのできる場所がない／犬、猫などのペット公害 8.4	買い物が不便 7.3	
北 沢 東 部	183	道路が狭くて危険 31.7	住宅が密集しすぎている 18.6	空き缶・たばこなどのポイ捨て 15.3	車など交通が激しい／カラスなどの鳥獣による被害 14.2	公園やスポーツのできる場所がない 12.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない／騒音や振動が気になる 10.9	区民利用施設が使用しにくい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4			
北 沢 西 部	199	電車の踏み切りがなかなか渡れない 35.7	道路が狭くて危険 25.1	カラスなどの鳥獣による被害 21.1	住宅が密集しすぎている 17.1	区民利用施設が使用しにくい 12.6	空き缶・たばこなどのポイ捨て／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.6	公園やスポーツのできる場所がない／買い物が不便／騒音や振動が気になる 10.1			
玉 川 北 部	233	カラスなどの鳥獣による被害 24.9	騒音や振動が気になる 15.0	道路が狭くて危険 14.2	住宅が密集しすぎている 13.3	交通が不便 12.4	区民利用施設が使用しにくい 12.0	車など交通が激しい 11.2	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 8.6	買い物が不便／犬、猫などのペット公害 8.2	
玉 川 南 部	228	電車の踏み切りがなかなか渡れない 28.9	公園やスポーツのできる場所がない 18.0	道路が狭くて危険 14.9	カラスなどの鳥獣による被害 13.2	区民利用施設が使用しにくい 12.7	買い物が不便／車など交通が激しい 11.4	住宅が密集しすぎている 11.0	騒音や振動が気になる 10.1	交通が不便 7.0	
玉 川 西 部	146	カラスなどの鳥獣による被害 28.8	車など交通が激しい 18.5	道路が狭くて危険 15.1	買い物が不便 13.0	公園やスポーツのできる場所がない／区民利用施設が使用しにくい 11.6	住宅が密集しすぎている 10.3	空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.9	騒音や振動が気になる／空気の汚れがひどい／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 6.8		
砧北部	303	道路が狭くて危険 36.3	住宅が密集しすぎている 21.5	カラスなどの鳥獣による被害 19.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.2	車など交通が激しい 10.6	区民利用施設が使用しにくい／交通が不便 10.2	空き缶・たばこなどのポイ捨て 7.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 6.9	騒音や振動が気になる／犬、猫などのペット公害 6.3	
砧南部	119	道路が狭くて危険 37.0	交通が不便 32.8	買い物が不便 26.1	カラスなどの鳥獣による被害 22.7	住宅が密集しすぎている 13.4	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 9.2	騒音や振動が気になる 8.4	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない／犬、猫などのペット公害 7.6		
烏 山	304	電車の踏み切りがなかなか渡れない 49.3	道路が狭くて危険 33.9	カラスなどの鳥獣による被害 13.5	公園やスポーツのできる場所がない 12.2	区民利用施設が使用しにくい 11.5	住宅が密集しすぎている 11.2	放置自転車が多くて迷惑 10.9	交通が不便 9.9	路上喫煙などのたばこマナーが悪い／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 9.2	

地域別にみると、「道路が狭くて危険」は世田谷西部、北沢東部、砧北部、砧南部の4つの地域で1位となっている。「カラスなどの鳥獣による被害」は世田谷東部、玉川北部、玉川西部の3つの地域で、「電車の踏み切りがなかなか渡れない」は北沢西部、玉川南部、烏山の3つの地域で1位となっている。（表1-7-2）

表 1-7-3 地域における日常生活での困りごと（性・年齢別）

（％）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	道路が狭くて危険 25.0	カラスなどの鳥獣による被害 20.9	住宅が密集しすぎている 16.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.9	区民利用施設が使用しにくい／車など交通が激しい 11.4	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.4	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.6	騒音や振動が気になる 9.4	買い物が不便 9.2	
男 性 全 体	915	道路が狭くて危険 28.1	カラスなどの鳥獣による被害 20.9	住宅が密集しすぎている 18.0	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.7	車など交通が激しい 12.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.0	騒音や振動が気になる 9.8	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.7	区民利用施設が使用しにくい 9.3	公園やスポーツのできる場所がない 8.6
10・20歳代	72	道路が狭くて危険 34.7	住宅が密集しすぎている 19.4	公園やスポーツのできる場所がない 18.1	車など交通が激しい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 16.7	カラスなどの鳥獣による被害 15.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない／騒音や振動が気になる 13.9	交通が不便 11.1	空き缶・たばこなどのポイ捨て 8.3		
30歳代	102	道路が狭くて危険 33.3	車など交通が激しい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 16.7	カラスなどの鳥獣による被害 13.7	住宅が密集しすぎている／騒音や振動が気になる／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 12.7	公園やスポーツのできる場所がない 11.8	子育て環境が整備されていない 9.8	買い物が不便／交通が不便 7.8			
40歳代	135	道路が狭くて危険 31.1	住宅が密集しすぎている 22.2	カラスなどの鳥獣による被害 19.3	車など交通が激しい 18.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.8	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 12.6	区民利用施設が使用しにくい 11.1	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 10.4	騒音や振動が気になる／空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.6	
50歳代	196	道路が狭くて危険 26.0	カラスなどの鳥獣による被害 24.0	住宅が密集しすぎている 18.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.8	車など交通が激しい 13.3	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 11.2	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 9.7	交通が不便／騒音や振動が気になる 9.2	区民利用施設が使用しにくい／買い物が不便 8.2	
60歳代	160	道路が狭くて危険 26.9	カラスなどの鳥獣による被害 26.3	住宅が密集しすぎている 20.0	区民利用施設が使用しにくい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 13.1	車など交通が激しい／空き缶・たばこなどのポイ捨て 11.3	電車の踏み切りがなかなか渡れない 10.0	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない／犬、猫などのペット公害 9.4			
70歳代	151	道路が狭くて危険 27.2	カラスなどの鳥獣による被害 21.9	住宅が密集しすぎている 18.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.2	空き缶・たばこなどのポイ捨て 12.6	高齢者施設が使用しにくい 11.9	区民利用施設が使用しにくい 9.3	騒音や振動が気になる 8.6	車など交通が激しい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない／犬、猫などのペット公害 7.9	
80歳以上	99	道路が狭くて危険 21.2	高齢者施設が使用しにくい／カラスなどの鳥獣による被害 18.2	区民利用施設が使用しにくい／電車の踏み切りがなかなか渡れない 13.1	住宅が密集しすぎている 12.1	空き缶・たばこなどのポイ捨て 11.1	騒音や振動が気になる 10.1	買い物が不便／犬、猫などのペット公害 9.1			
女 性 全 体	1,447	道路が狭くて危険 23.1	カラスなどの鳥獣による被害 20.8	電車の踏み切りがなかなか渡れない 15.8	住宅が密集しすぎている 15.3	区民利用施設が使用しにくい 12.5	買い物が不便／車など交通が激しい 10.7	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.0	空き缶・たばこなどのポイ捨て 9.5	公園やスポーツのできる場所がない 9.4	
10・20歳代	120	カラスなどの鳥獣による被害 22.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 20.8	住宅が密集しすぎている 16.7	道路が狭くて危険 15.0	買い物が不便／騒音や振動が気になる 14.2	公園やスポーツのできる場所がない 10.8	車など交通が激しい／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.2	交通が不便 8.3		
30歳代	186	道路が狭くて危険 30.6	住宅が密集しすぎている／電車の踏み切りがなかなか渡れない／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 17.2	カラスなどの鳥獣による被害 15.6	買い物が不便 15.1	車など交通が激しい 14.0	公園やスポーツのできる場所がない／交通が不便／騒音や振動が気になる 11.8				
40歳代	264	道路が狭くて危険 35.2	カラスなどの鳥獣による被害 21.6	住宅が密集しすぎている 20.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない 20.1	車など交通が激しい 18.6	公園やスポーツのできる場所がない／区民利用施設が使用しにくい 13.6	騒音や振動が気になる 12.5	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.2	買い物が不便／交通が不便 9.8	
50歳代	293	道路が狭くて危険 24.2	カラスなどの鳥獣による被害 22.2	住宅が密集しすぎている 15.4	電車の踏み切りがなかなか渡れない 14.3	車など交通が激しい 11.9	区民利用施設が使用しにくい 10.9	買い物が不便／路上喫煙などのたばこマナーが悪い 9.9	交通が不便 9.6	公園やスポーツのできる場所がない 8.9	
60歳代	240	カラスなどの鳥獣による被害 27.1	道路が狭くて危険 22.1	住宅が密集しすぎている 17.1	電車の踏み切りがなかなか渡れない 15.4	区民利用施設が使用しにくい／空き缶・たばこなどのポイ捨て 15.0	路上喫煙などのたばこマナーが悪い 10.0	騒音や振動が気になる 9.2	買い物が不便 8.8	ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 7.9	
70歳代	200	カラスなどの鳥獣による被害 20.0	区民利用施設が使用しにくい 18.0	災害時の避難場所が近くにない 12.5	電車の踏み切りがなかなか渡れない／道路が狭くて危険 12.0	空き缶・たばこなどのポイ捨て 11.0	高齢者施設が使用しにくい 9.5	住宅が密集しすぎている／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 9.0	犬、猫などのペット公害 8.5		
80歳以上	143	買い物が不便 14.0	道路が狭くて危険／カラスなどの鳥獣による被害 12.6	区民利用施設が使用しにくい 11.9	電車の踏み切りがなかなか渡れない 10.5	高齢者施設が使用しにくい 9.8	災害時の避難場所が近くにない 9.1	住宅が密集しすぎている／ごみ出しのマナーが悪い、ごみ・資源の分別がされていない 7.7	車など交通が激しい／空き缶・たばこなどのポイ捨て 7.0		

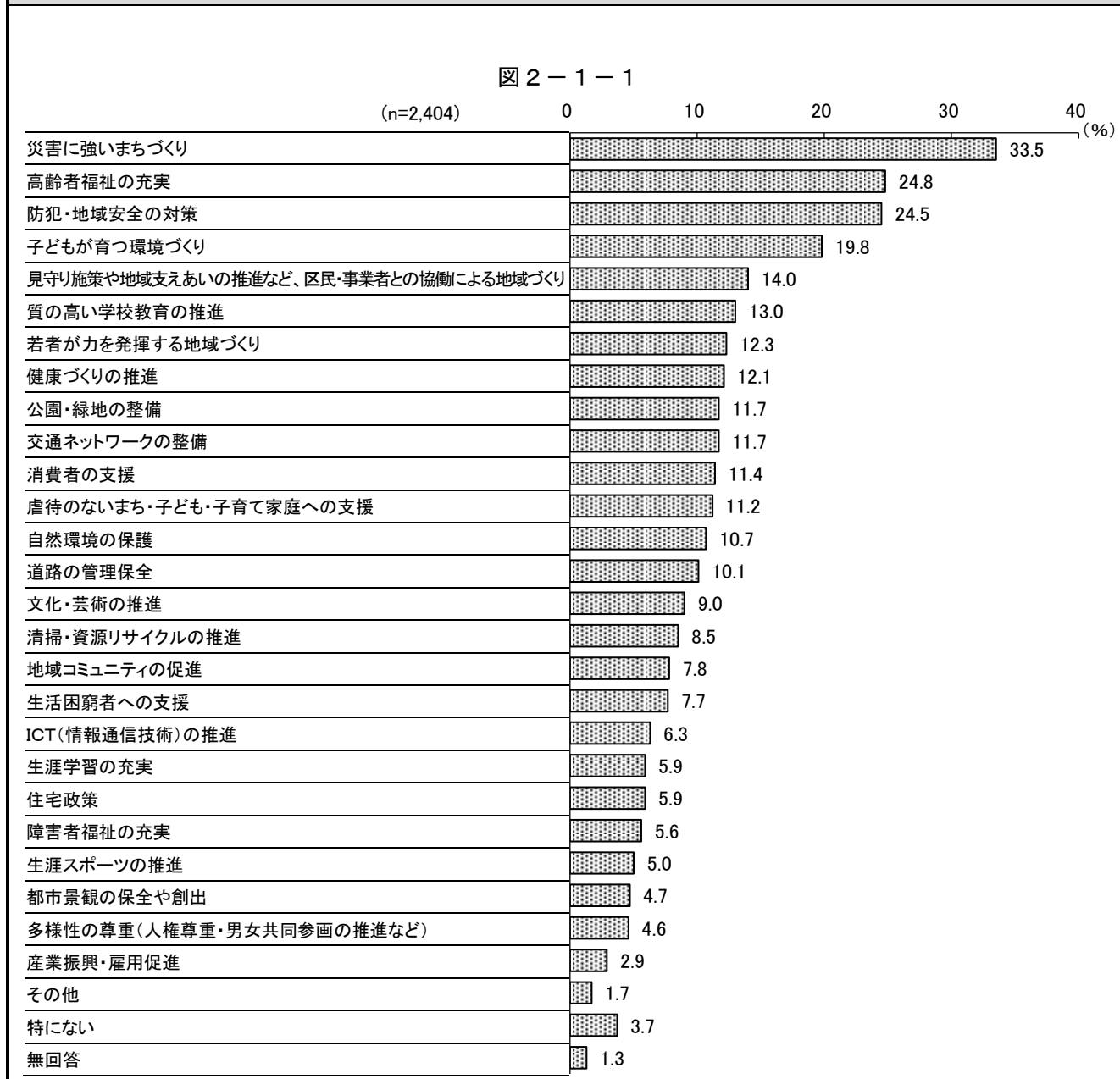
性・年齢別にみると、男性は各年代とも「道路が狭くて危険」が1位となっている。女性は30歳代～50歳代で「道路が狭くて危険」、10・20歳代、60歳代、70歳代で「カラスなどの鳥獣による被害」、80歳以上で「買い物が不便」が1位となっている。「電車の踏み切りがなかなか渡れない」は男性の30歳代、女性の10・20歳代と30歳代で2位となっている。（表1-7-3）

2. 区政

(1) 区が積極的に取り組むべき事業

◎「災害に強いまちづくり」が第1位、「高齢者福祉の充実」が第2位、「防犯・地域安全の対策」が第3位

問6 あなたは、今後世田谷区が積極的に取り組む事業として、どれが必要だと思いますか。
(○は3つまで)



今後区が積極的に取り組むべき事業について聞いたところ、「災害に強いまちづくり」(33.5%)が3割を超え、「高齢者福祉の充実」(24.8%)と「防犯・地域安全の対策」(24.5%)が2割半ば、「子どもが育つ環境づくり」(19.8%)が2割となっている。(図2-1-1)

表 2-1-1 区が積極的に取り組むべき事業（時系列）

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
令和6年度	2,404	災害に強いまちづくり 33.5	高齢者福祉の充実 24.8	防犯・地域安全の対策 24.5	子どもが育つ環境づくり 19.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.0	質の高い学校教育の推進 13.0	若者が力を発揮する地域づくり 12.3	健康づくりの推進 12.1	公園・緑地の整備／交通ネットワークの整備 11.7	
令和5年度	1,832	災害に強いまちづくり 31.5	防犯・地域安全の対策 28.5	高齢者福祉の充実 25.4	子どもが育つ環境づくり 20.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.7	若者が力を発揮する地域づくり 13.0	質の高い学校教育の推進／公園・緑地の整備 12.4		自然環境の保護 12.2	健康づくりの推進 12.0
令和4年度	1,923	災害に強いまちづくり 28.1	高齢者福祉の充実 21.1	防犯・地域安全の対策 18.7	子どもが育つ環境づくり 16.5	区民・事業者との協働による地域づくり 11.2	若者が力を発揮する地域づくり 10.5	質の高い学校教育の推進 10.1	健康づくりの推進 9.4	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.0	
令和3年度	2,086	災害に強いまちづくり 29.8	防犯・地域安全の対策 21.3	高齢者福祉の充実 19.4	子どもが育つ環境づくり 16.9	区民・事業者との協働による地域づくり 9.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 9.4		健康づくりの推進 9.3	質の高い学校教育の推進 9.0	ICT(情報通信技術)の推進 8.7
令和2年度	2,371	災害に強いまちづくり 42.9	防犯・地域安全の対策 26.9	高齢者福祉の充実 25.3	子どもが育つ環境づくり 18.6	ICT(情報通信技術)の推進 13.6	健康づくりの推進 13.1	自然環境の保護 12.4	区民・事業者との協働による地域づくり 12.2	質の高い学校教育の推進／交通ネットワークの整備 12.1	
令和元年度	2,171	災害に強いまちづくり 32.8	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 31.2	子どもが育つ環境づくり 21.1	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 15.3	区民・事業者との協働による地域づくり 13.4	質の高い学校教育の推進 12.2	健康づくりの推進 11.7	交通ネットワークの整備 11.3	公園・緑地の整備／自然環境の保護 10.6
平成30年度	2,330	防犯・地域安全の対策 35.7	高齢者福祉の充実 35.2	災害に強いまちづくり 34.6	子どもが育つ環境づくり 27.8	健康づくりの推進／区民・事業者との協働による地域づくり 16.1		自然環境の保護 13.6	交通ネットワークの整備 13.4	質の高い学校教育の推進 13.0	公園・緑地の整備 12.7
平成28年度	2,355	災害に強いまちづくり 32.0	高齢者福祉の充実 31.3	防犯・地域安全の対策 26.2	子どもが育つ環境づくり 22.9	区民・事業者との協働による地域づくり 13.0	健康づくりの推進 11.6	質の高い学校教育の推進 9.9	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 9.3	交通ネットワークの整備 8.8	若者が力を発揮する地域づくり 8.3
平成27年度	2,388	高齢者福祉の充実 33.8	災害に強いまちづくり 27.2	防犯・地域安全の対策 24.0	子ども子育て家庭への支援 16.8	児童(保育)福祉の充実 16.0	区民・事業者との協働による地域づくり／若者が力を発揮する地域づくり 11.9		自然環境の保護 11.6	健康づくりの推進 10.7	交通ネットワークの整備 10.2
平成26年度	2,362	災害に強いまちづくり 46.3	防犯・地域安全の対策 37.9	高齢者福祉の充実 29.2	児童(保育)福祉の充実 19.3	自然環境の保護 18.0	道路の管理保全 14.9	公園・緑地の整備 12.1	消費者の支援 8.1	住宅施策 8.0	健康づくり 7.7

注) 平成29年度は質問項目がなかった。

平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「災害に強いまちづくり」、「防犯・地域安全の対策」、「高齢者福祉の充実」が常に 3 位以内に挙げられている。また、「子どもが育つ環境づくり」は平成 28 年度以降、4 位となっている。（表 2-1-1）

表 2-1-2 区が積極的に取り組むべき事業（地域別）

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	災害に強い まちづくり 33.5	高齢者福祉 の充実 24.8	防犯・地域 安全の対策 24.5	子どもが育 つ環境づくり 19.8	区民・事業 者との協働 による地域 づくり 14.0	質の高い学 校教育の推 進 13.0	若者が力を 発揮する地 域づくり 12.3	健康づくり の推進 12.1	公園・緑地 の整備／交 通ネットワ ークの整備	11.7
世田谷 東 部	375	災害に強い まちづくり 33.1	高齢者福祉 の充実 26.4	防犯・地域 安全の対策 20.3	子どもが育 つ環境づくり 18.7	消費者の支 援 13.9	質の高い学 校教育の推 進 13.1	公園・緑地 の整備 12.5	清掃・資源リ サイクルの推 進 11.5	区民・事業者との協働による地 域づくり／虐待のないまち・子 ども・子育て家庭への支援	11.2
世田谷 西 部	273	災害に強い まちづくり 41.0	防犯・地域 安全の対策 26.4	高齢者福祉 の充実 22.3	子どもが育 つ環境づくり 18.7	健康づくり の推進 15.4	質の高い学 校教育の推 進 ／虐待のないまち・子ども・ 子育て家庭への支援 13.2	若者が力を 発揮する地 域づくり 12.5	交通ネット ワークの整 備 11.0	消費者の支援	10.6
北 沢 東 部	183	防犯・地域 安全の対策 36.1	災害に強い まちづくり 33.3	高齢者福祉 の充実 20.8	子どもが育 つ環境づくり 20.2	公園・緑地 の整備 15.3	区民・事業 者との協働 による地域 づくり 14.8	質の高い学 校教育の推 進 14.2	若者が力を 発揮する地 域づくり 13.1	文化・芸術 の推進 12.0	健康づくりの推進 ／消費者の支援 11.5
北 沢 西 部	199	災害に強い まちづくり 33.2	高齢者福祉 の充実 28.6	子どもが育 つ環境づくり 20.6	防犯・地域 安全の対策 18.1	区民・事業 者との協働 による地域 づくり 17.1	質の高い学 校教育の推 進 13.1	消費者の支 援 12.6	公園・緑地 の整備／交 通ネットワ ークの整備 12.1	健康づくりの推進 ／虐待のないま ち・子ども・子 育て家庭への支援	10.6
玉 川 北 部	233	災害に強い まちづくり 32.6	子どもが育 つ環境づくり 22.3	防犯・地域 安全の対策 19.7	高齢者福祉 の充実 18.9	区民・事業 者との協働 による地域 づくり 15.9	質の高い学 校教育の推 進 13.3	若者が力を 発揮する地 域づくり／ 虐待のないまち・ 子ども・子育て家庭への支 援 12.9	清掃・資源リ サイクルの推 進／自然環 境の保護	健康づくりの推進	10.7
玉 川 南 部	228	災害に強い まちづくり 32.5	高齢者福祉 の充実 21.9	子どもが育 つ環境づくり 21.5	防犯・地域 安全の対策 20.2	区民・事業 者との協働 による地域 づくり 15.4	質の高い学 校教育の推 進 ／自然環境の保護 14.0	若者が力を 発揮する地 域づくり 13.2	公園・緑地 の整備 12.7	健康づくりの推進	12.3
玉 川 西 部	146	災害に強い まちづくり 32.9	防犯・地域 安全の対策 26.0	高齢者福祉 の充実 25.3	子どもが育 つ環境づくり 19.9	区民・事業 者との協働 による地域 づくり 18.5	自然環境の 保護 17.1	若者が力を 発揮する地 域づくり／ 質の高い学 校教育の推 進 13.0	健康づくりの推進／文化・芸術 の推進／公園・緑地の整備	11.6	
砧北部	303	災害に強い まちづくり 34.3	高齢者福祉 の充実 27.7	防犯・地域 安全の対策 27.1	子どもが育 つ環境づくり 22.1	道路の管理 保全 13.9	若者が力を 発揮する地 域づくり 13.5	健康づくりの推進／区民・事業者との協働による地域づくり ／消費者の支援／交通ネットワークの整備	12.9		
砧南部	119	災害に強い まちづくり 37.0	防犯・地域 安全の対策 26.9	高齢者福祉 の充実 25.2	交通ネット ワークの整 備 21.0	質の高い学 校教育の推 進 18.5	区民・事業 者との協働 による地域 づくり 17.6	若者が力を 発揮する地 域づくり／ 消費者の支 援 13.4	健康づくり の推進 12.6	子どもが育 つ環境 づくり 11.8	
烏 山	304	災害に強い まちづくり 28.3	高齢者福祉 の充実 27.6	防犯・地域 安全の対策 27.0	子どもが育 つ環境づくり 20.1	交通ネット ワークの整 備 17.1	健康づくり の推進 14.1	公園・緑地 の整備 13.2	若者が力を 発揮する地 域づくり／ 道路の管理 保全 12.5	区民・事業者との 協働による地 域づくり 12.2	

地域別にみると、北沢東部は「防犯・地域安全の対策」が1位、その他の地域はすべて「災害に強いまちづくり」が1位となっている。「子どもが育つ環境づくり」は玉川北部で2位、北沢西部と玉川南部で3位となっている。（表2-1-2）

表 2-1-3 区が積極的に取り組むべき事業（性・年齢別）

（％）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	災害に強いまちづくり 33.5	高齢者福祉の充実 24.8	防犯・地域安全の対策 24.5	子どもが育つ環境づくり 19.8	区民・事業者との協働による地域づくり 14.0	質の高い学校教育の推進 13.0	若者が力を発揮する地域づくり 12.3	健康づくりの推進 12.1	公園・緑地の整備／交通ネットワークの整備 11.7	
男 性 全 体	915	災害に強いまちづくり 29.4	高齢者福祉の充実 23.7	防犯・地域安全の対策 23.2	子どもが育つ環境づくり 21.6	公園・緑地の整備 14.4	健康づくりの推進 13.7	質の高い学校教育の推進 13.2	区民・事業者との協働による地域づくり 13.1	若者が力を発揮する地域づくり 12.9	道路の管理保全 11.4
10・20歳代	72	若者が力を発揮する地域づくり 26.4	ICT(情報通信技術)の推進 25.0	子どもが育つ環境づくり 23.6	質の高い学校教育の推進 20.8	消費者の支援／公園・緑地の整備 19.4	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／災害に強いまちづくり 16.7	道路の管理保全 13.9	交通ネットワークの整備 12.5		
30歳代	102	子どもが育つ環境づくり 45.1	質の高い学校教育の推進 27.5	若者が力を発揮する地域づくり／公園・緑地の整備 23.5	災害に強いまちづくり 22.5	交通ネットワークの整備 18.6	ICT(情報通信技術)の推進／防犯・地域安全の対策／文化・芸術の推進 12.7	健康づくりの推進／住宅政策 10.8			
40歳代	135	子どもが育つ環境づくり 31.1	質の高い学校教育の推進 25.9	災害に強いまちづくり 23.0	防犯・地域安全の対策 19.3	若者が力を発揮する地域づくり／公園・緑地の整備 15.6	地域コミュニティの促進 13.3	生涯スポーツの推進 12.6	ICT(情報通信技術)の推進／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／交通ネットワークの整備 11.9		
50歳代	196	災害に強いまちづくり 29.6	高齢者福祉の充実 21.9	防犯・地域安全の対策 20.4	区民・事業者との協働による地域づくり／交通ネットワークの整備 16.3	子どもが育つ環境づくり 15.8	消費者の支援 13.8	健康づくりの推進 12.8	道路の管理保全 11.7	若者が力を発揮する地域づくり／地域コミュニティの促進 11.2	
60歳代	160	防犯・地域安全の対策 34.4	災害に強いまちづくり 33.1	高齢者福祉の充実 31.3	子どもが育つ環境づくり 18.8	健康づくりの推進 18.1	公園・緑地の整備 17.5	区民・事業者との協働による地域づくり 16.9	自然環境の保護 13.8	道路の管理保全 12.5	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 10.6
70歳代	151	高齢者福祉の充実 40.4	災害に強いまちづくり 37.1	防犯・地域安全の対策 30.5	区民・事業者との協働による地域づくり 18.5	健康づくりの推進 15.9	子どもが育つ環境づくり／地域コミュニティの促進 13.9	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 12.6	清掃・資源リサイクルの推進 11.9	道路の管理保全 11.3	
80歳以上	99	高齢者福祉の充実 46.5	災害に強いまちづくり 36.4	防犯・地域安全の対策 25.3	健康づくりの推進 18.2	区民・事業者との協働による地域づくり 17.2	生活困窮者への支援／自然環境の保護 15.2	道路の管理保全 14.1	質の高い学校教育の推進 12.1	子どもが育つ環境づくり／公園・緑地の整備 11.1	
女 性 全 体	1,447	災害に強いまちづくり 36.2	防犯・地域安全の対策 25.6	高齢者福祉の充実 25.2	子どもが育つ環境づくり 19.0	区民・事業者との協働による地域づくり 14.7	質の高い学校教育の推進 12.8	若者が力を発揮する地域づくり 12.2	交通ネットワークの整備 12.0	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 11.8	消費者の支援 11.5
10・20歳代	120	災害に強いまちづくり 25.0	防犯・地域安全の対策 24.2	若者が力を発揮する地域づくり 23.3	子どもが育つ環境づくり 22.5	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 15.0	消費者の支援 13.3	文化・芸術の推進 12.5	交通ネットワークの整備 10.8	ICT(情報通信技術)の推進／自然環境の保護 10.0	
30歳代	186	子どもが育つ環境づくり 40.3	災害に強いまちづくり 30.1	質の高い学校教育の推進 26.3	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／防犯・地域安全の対策／消費者の支援 16.1	若者が力を発揮する地域づくり 14.5	公園・緑地の整備／交通ネットワークの整備 13.4	文化・芸術の推進 10.8			
40歳代	264	災害に強いまちづくり 37.9	防犯・地域安全の対策 26.1	子どもが育つ環境づくり 25.4	質の高い学校教育の推進 24.6	交通ネットワークの整備 21.2	公園・緑地の整備 15.2	高齢者福祉の充実 14.8	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 13.6	文化・芸術の推進 12.9	
50歳代	293	災害に強いまちづくり 39.6	高齢者福祉の充実 27.6	防犯・地域安全の対策 26.3	健康づくりの推進 15.7	自然環境の保護 14.7	区民・事業者との協働による地域づくり 13.7	交通ネットワークの整備 11.3	子どもが育つ環境づくり 10.9	消費者の支援 10.2	若者が力を発揮する地域づくり 9.6
60歳代	240	災害に強いまちづくり 41.7	高齢者福祉の充実 33.8	防犯・地域安全の対策 32.5	区民・事業者との協働による地域づくり 21.3	子どもが育つ環境づくり 17.9	健康づくりの推進 12.9	交通ネットワークの整備 10.0	清掃・資源リサイクルの推進 9.6	若者が力を発揮する地域づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／公園・緑地の整備 9.2	
70歳代	200	高齢者福祉の充実／災害に強いまちづくり 39.0	防犯・地域安全の対策 25.0	区民・事業者との協働による地域づくり 24.5	自然環境の保護 14.5	若者が力を発揮する地域づくり 13.5	消費者の支援 13.0	子どもが育つ環境づくり／虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援 11.5	健康づくりの推進 11.0		
80歳以上	143	高齢者福祉の充実 44.1	災害に強いまちづくり 30.1	防犯・地域安全の対策 25.9	区民・事業者との協働による地域づくり 21.0	消費者の支援 14.0	虐待のないまち・子ども・子育て家庭への支援／自然環境の保護 12.6	道路の管理保全 11.2	地域コミュニティの促進 9.8	健康づくりの推進／清掃・資源リサイクルの推進／公園・緑地の整備 8.4	

性・年齢別にみると、「災害に強いまちづくり」は男性の40歳代以上と女性のすべての年代で3位以内に挙げられている。「子どもが育つ環境づくり」は男性の30歳代と40歳代、女性の30歳代で1位となっている。「若者が力を発揮する地域づくり」は男性の30歳代以下、女性の10・20歳代で3位以内に挙げられている。（表2-1-3）

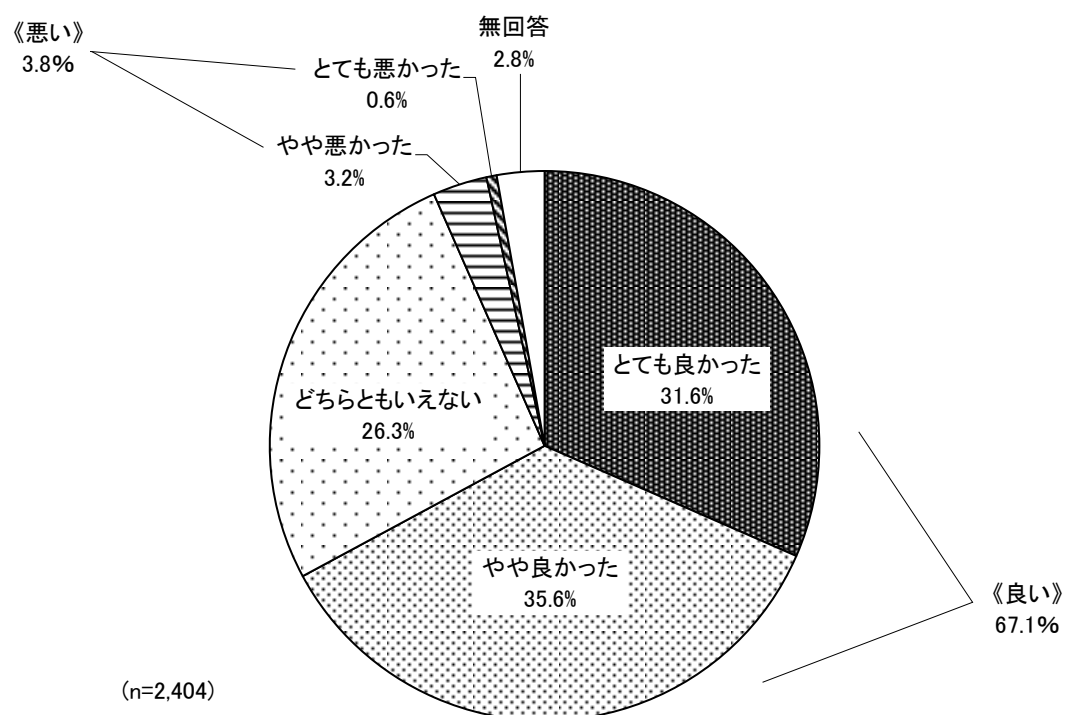
3. 職員応対

(1) 窓口応対

◎窓口応対が《良い》と感じている人が7割近く

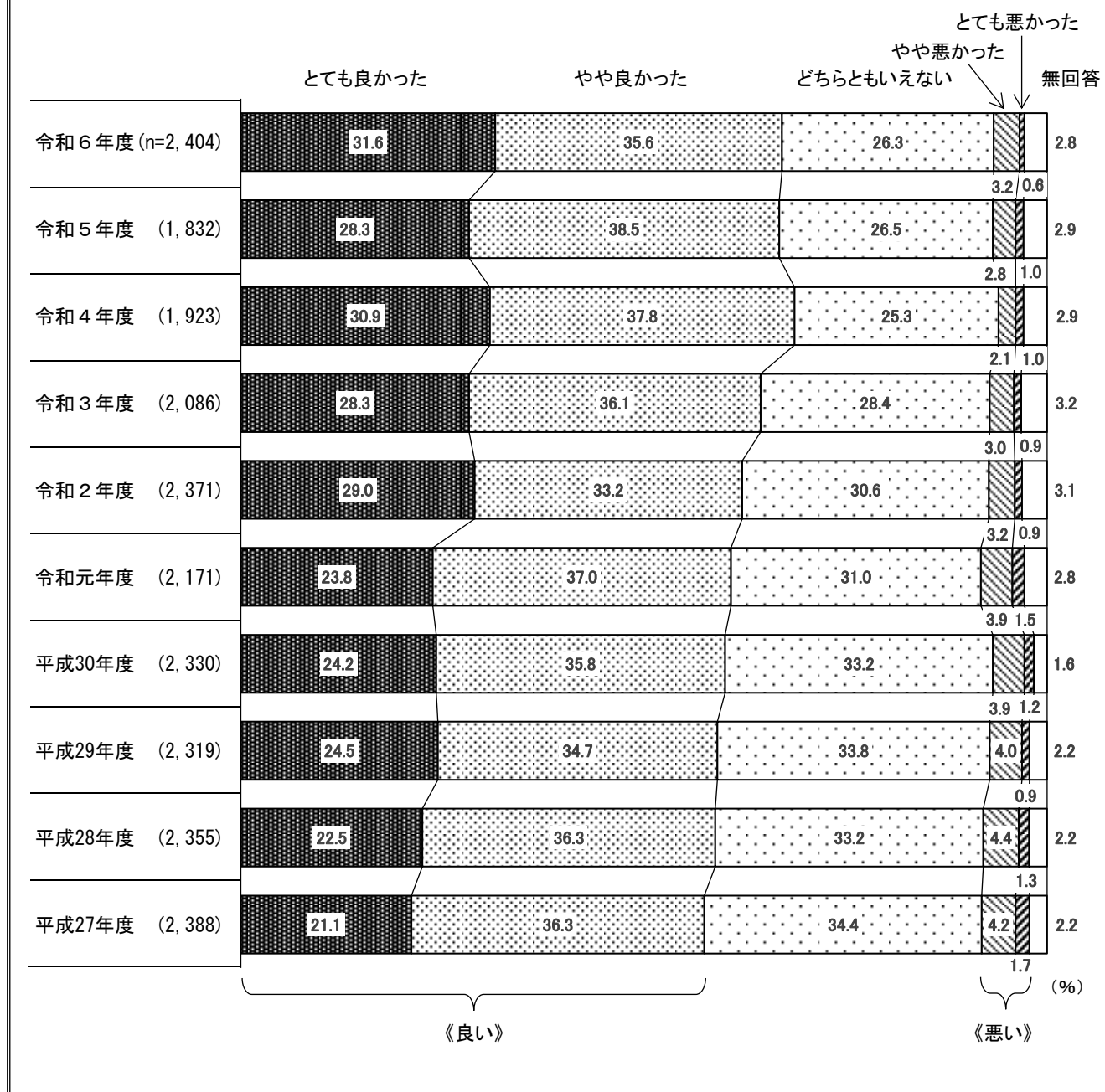
問7 区の窓口や応対について印象はいかがでしたか。(○は1つ)

図3-1-1



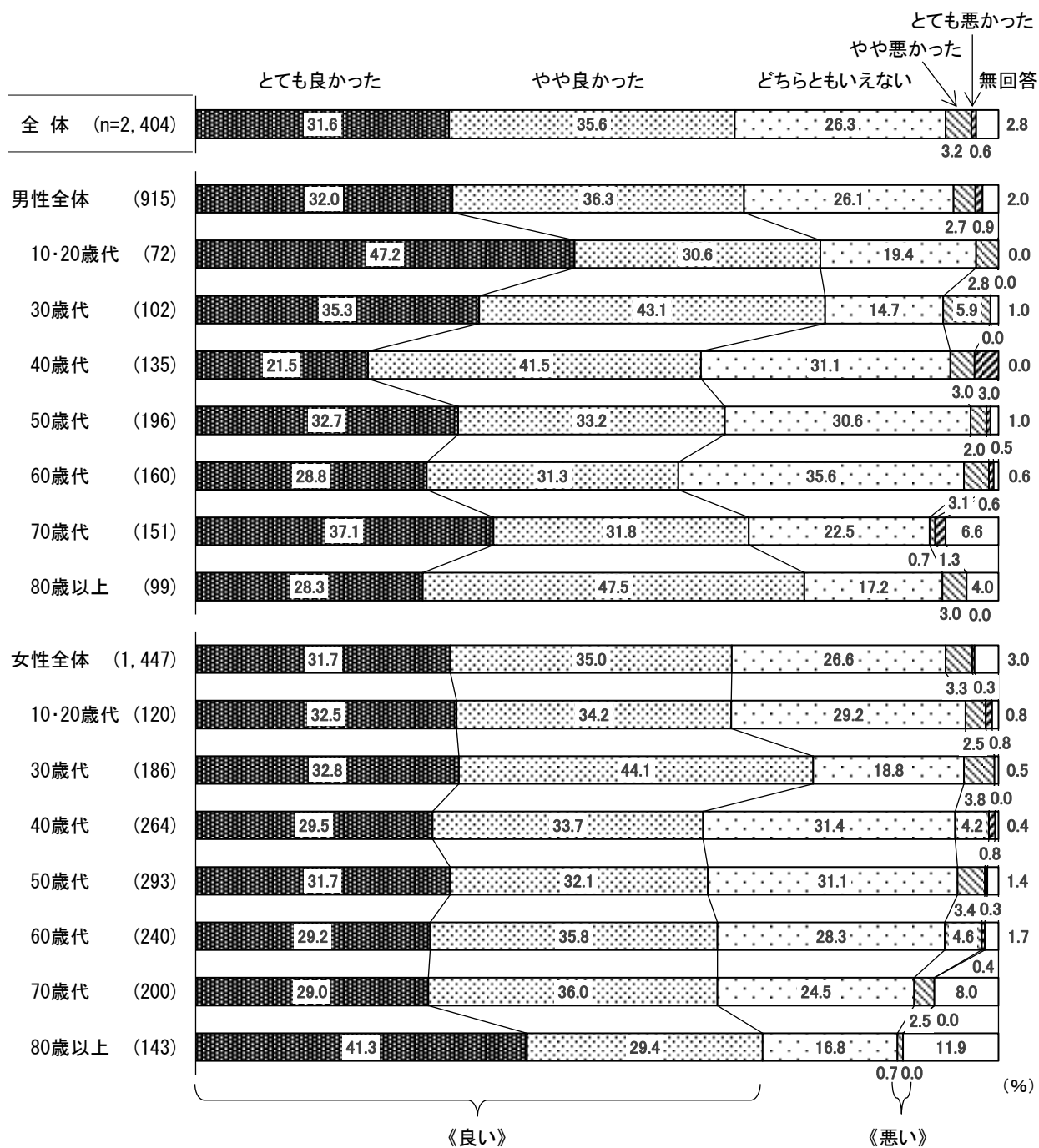
世田谷区の窓口や応対についての印象を聞いたところ、「とても良かった」(31.6%)と「やや良かった」(35.6%)を合わせた《良い》(67.1%)が7割近くとなっている。「どちらともいえない」(26.3%)は2割半ば、「やや悪かった」(3.2%)と「とても悪かった」(0.6%)を合わせた《悪い》(3.8%)は1割に満たない。(図3-1-1)

図 3-1-2 窓口対応（時系列）



平成27年度からの時系列の変化をみると、《良い》は年々増える傾向にあり、令和4年度以降は7割近くで推移している。《悪い》は、いずれの年度も1割に満たない。（図3-1-2）

図 3-1-3 窓口対応（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《良い》は男性の10・20歳代と30歳代、女性の30歳代で8割近く、男性の80歳以上で7割半ばとなっている。「とても良かった」は男性の10・20歳代で5割近く、女性の80歳以上で4割を超えている。（図3-1-3）

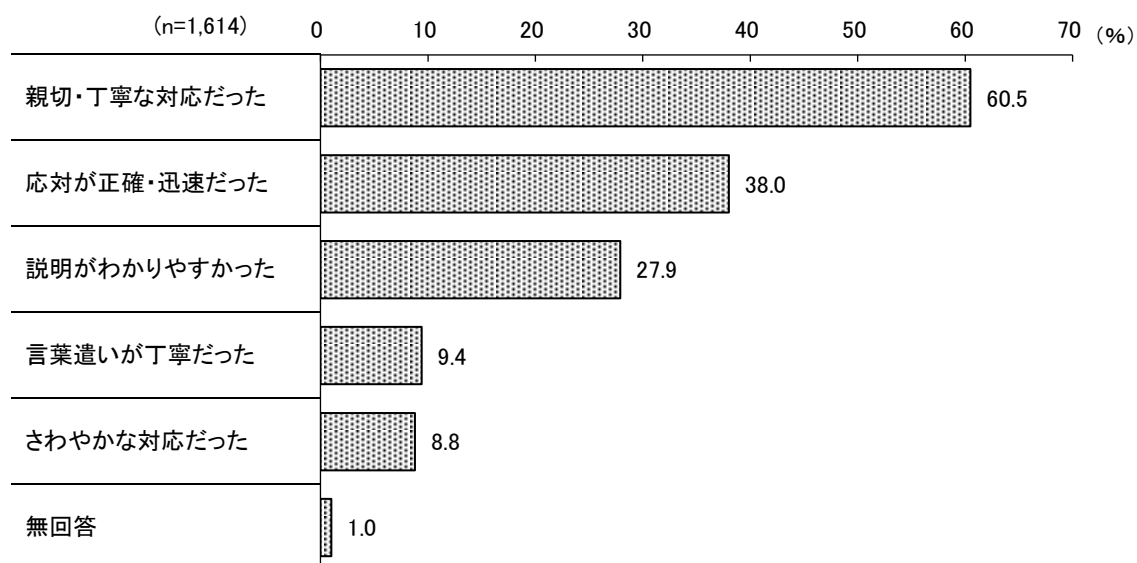
（２）印象が良かった点

◎印象が良かった点としては「親切・丁寧な対応だった」がほぼ６割

（問７で「とても良かった」または「やや良かった」と答えた方に）

問７－１ 印象が良かった点はどれですか。（○は２つまで）

図３－２－１



区の窓口や対応について「とても良かった」または「やや良かった」と答えた方（1,614人）に、印象の良かった点を聞いたところ、「親切・丁寧な対応だった」（60.5%）がほぼ６割で最も高い。以下、「対応が正確・迅速だった」（38.0%）、「説明がわかりやすかった」（27.9%）、「言葉遣いが丁寧だった」（9.4%）、「さわやかな対応だった」（8.8%）と続く。（図３－２－１）

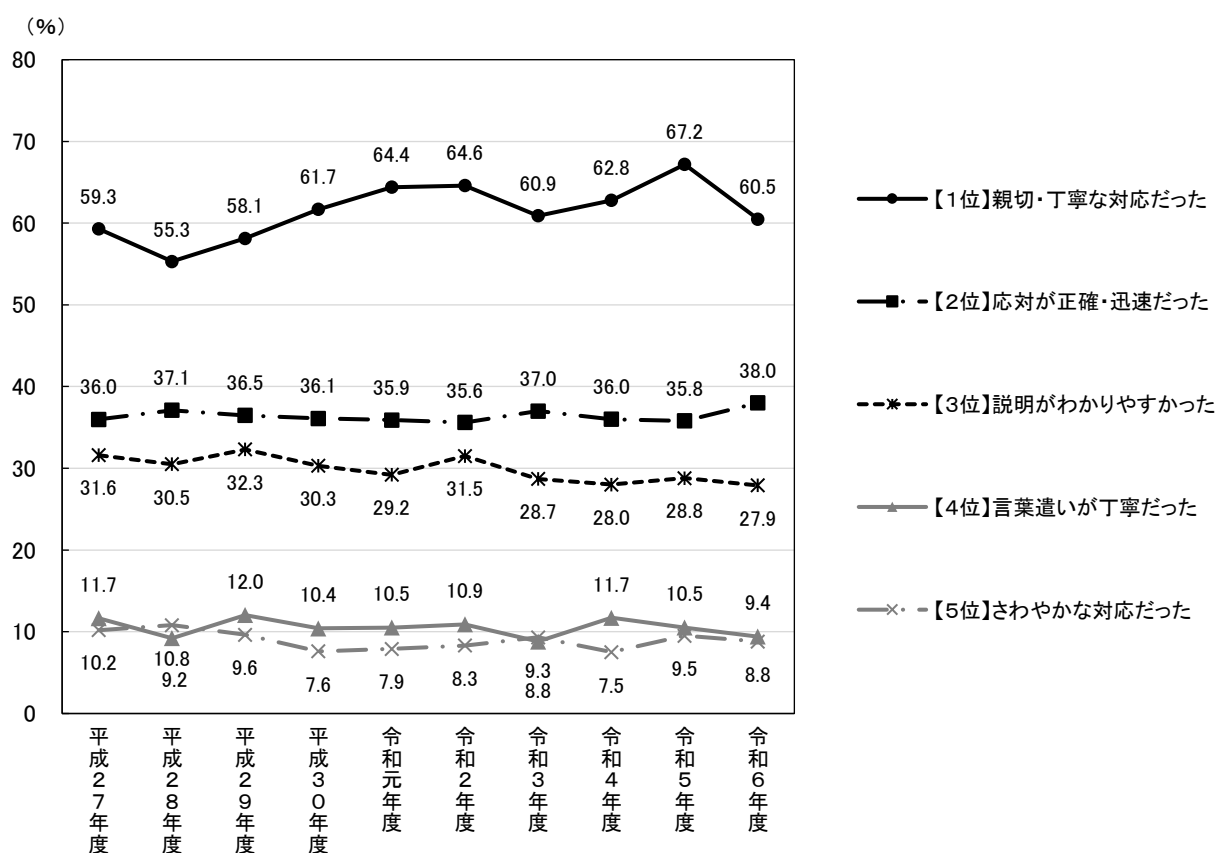
表 3-2-1 印象が良かった点（時系列）

（％）

理 由	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
n	1,373	1,386	1,371	1,399	1,319	1,473	1,344	1,320	1,224	1,614
【1位】 親切・丁寧な対応だった	59.3	55.3	58.1	61.7	64.4	64.6	60.9	62.8	67.2	60.5
【2位】 対応が正確・迅速だった	36.0	37.1	36.5	36.1	35.9	35.6	37.0	36.0	35.8	38.0
【3位】 説明がわかりやすかった	31.6	30.5	32.3	30.3	29.2	31.5	28.7	28.0	28.8	27.9
【4位】 言葉遣いが丁寧だった	11.7	9.2	12.0	10.4	10.5	10.9	8.8	11.7	10.5	9.4
【5位】 さわやかな対応だった	10.2	10.8	9.6	7.6	7.9	8.3	9.3	7.5	9.5	8.8

注) 令和6年度の値で順位付けを行った。

図 3-2-2 印象が良かった点（時系列）



平成 27 年度からの時系列での変化をみると、「親切・丁寧な対応だった」がいずれの年度も 1 位で、平成 30 年度以降は 6 割台で推移している。以下、3 位まではすべて同じ順位になっている。「言葉遣いが丁寧だった」は平成 28 年度と令和 3 年度が 5 位、その他の年度は 4 位となっている。

（表 3-2-1、図 3-2-2）

表 3 - 2 - 2 印象が良かった点（性・年齢別）

(%)

		n	親切・丁寧な対応だった	対応が正確・迅速だった	説明がわかりやすかった	言葉遣いが丁寧だった	さわやかな対応だった	無回答
	全 体	1,614	60.5	38.0	27.9	9.4	8.8	1.0
性・年齢別	男性全体	625	58.6	38.4	28.2	11.4	10.2	1.1
	10・20歳代	56	48.2	46.4	37.5	7.1	12.5	1.8
	30歳代	80	56.3	42.5	23.8	11.3	17.5	—
	40歳代	85	54.1	34.1	28.2	14.1	7.1	2.4
	50歳代	129	61.2	34.1	30.2	13.2	10.1	1.6
	60歳代	96	57.3	41.7	19.8	13.5	12.5	1.0
	70歳代	104	65.4	35.6	31.7	8.7	4.8	1.0
	80歳以上	75	61.3	40.0	28.0	9.3	9.3	—
	女性全体	965	61.9	37.6	27.7	8.2	7.8	0.8
	10・20歳代	80	40.0	47.5	28.8	10.0	7.5	—
	30歳代	143	53.8	41.3	29.4	10.5	8.4	0.7
	40歳代	167	58.7	40.1	19.8	12.6	11.4	1.2
	50歳代	187	71.7	34.8	22.5	6.4	7.0	0.5
	60歳代	156	67.3	37.2	29.5	7.7	2.6	—
	70歳代	130	70.0	30.8	28.5	5.4	6.2	2.3
	80歳以上	101	58.4	35.6	42.6	4.0	12.9	1.0

性・年齢別にみると、「親切・丁寧な対応だった」は女性の 50 歳代で 7 割を超え、女性の 70 歳代で 7 割、女性の 60 歳代で 7 割近くとなっている。「対応が正確・迅速だった」は女性の 10・20 歳代で 5 割近く、男性の 10・20 歳代で 4 割半ばとなっている。「説明がわかりやすかった」は女性の 80 歳以上で 4 割を超えている。（表 3 - 2 - 2）

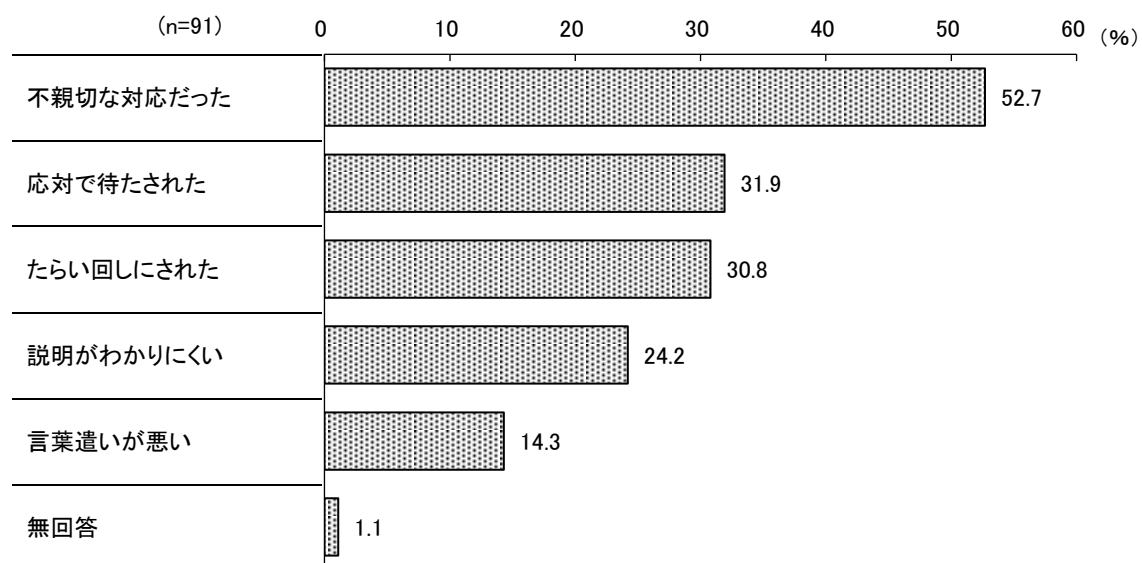
（３）印象が悪かった点

◎印象が悪かった点としては「不親切な対応だった」が５割を超える

（問７で「やや悪かった」または「とても悪かった」と答えた方に）

問７－２ 印象が悪かった点はどれですか。（○は２つまで）

図 3-3-1



区の窓口や対応について「やや悪かった」または「とても悪かった」と答えた方（91人）に、対応の印象が悪かった点を聞いたところ、「不親切な対応だった」（52.7%）が５割を超えて最も高い。以下、「対応で待たされた」（31.9%）、「たらい回しにされた」（30.8%）、「説明がわかりにくい」（24.2%）、「言葉遣いが悪い」（14.3%）と続く。（図 3-3-1）

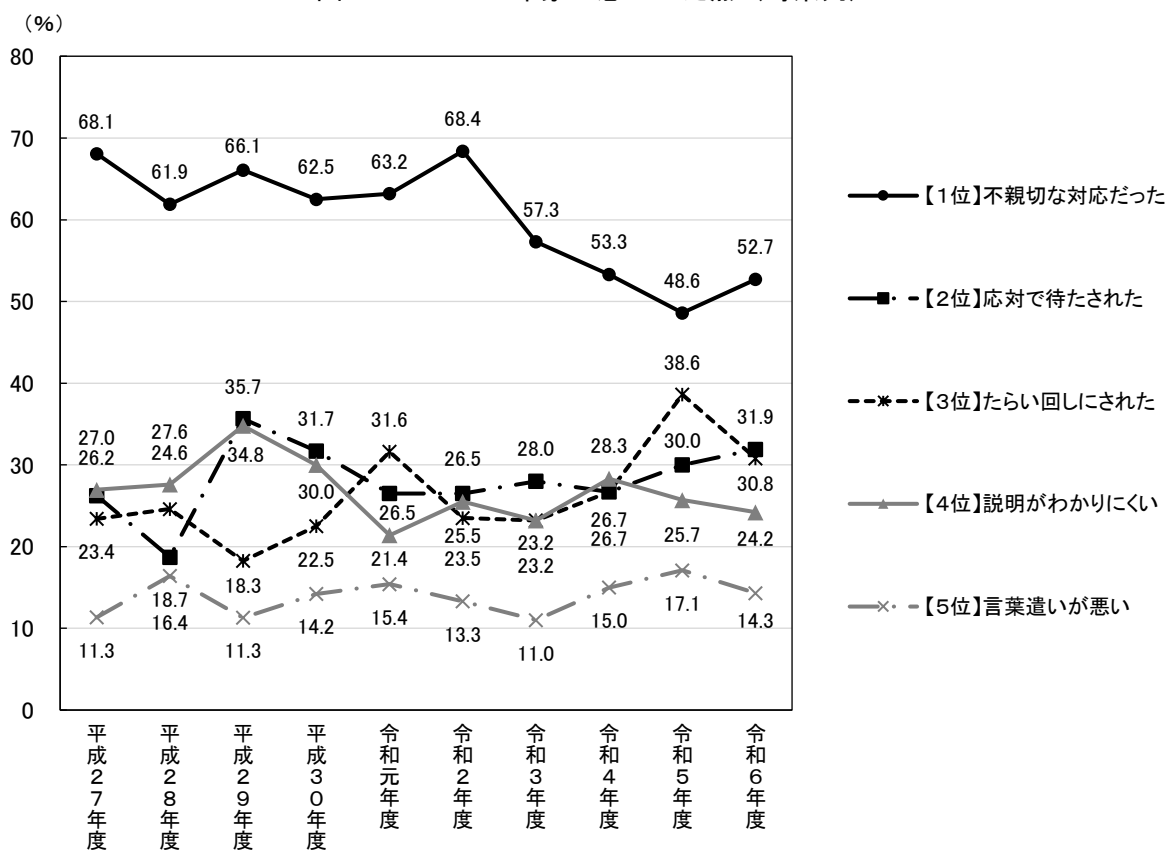
表 3-3-1 印象が悪かった点（時系列）

（％）

理 由	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
n	141	134	115	120	117	98	82	60	70	91
【1位】 不親切な対応だった	68.1	61.9	66.1	62.5	63.2	68.4	57.3	53.3	48.6	52.7
【2位】 対応で待たされた	26.2	18.7	35.7	31.7	26.5	26.5	28.0	26.7	30.0	31.9
【3位】 たらい回しにされた	23.4	24.6	18.3	22.5	31.6	23.5	23.2	26.7	38.6	30.8
【4位】 説明がわかりにくい	27.0	27.6	34.8	30.0	21.4	25.5	23.2	28.3	25.7	24.2
【5位】 言葉遣いが悪い	11.3	16.4	11.3	14.2	15.4	13.3	11.0	15.0	17.1	14.3

注) 令和6年度の値で順位付けを行った。

図 3-3-2 印象が悪かった点（時系列）

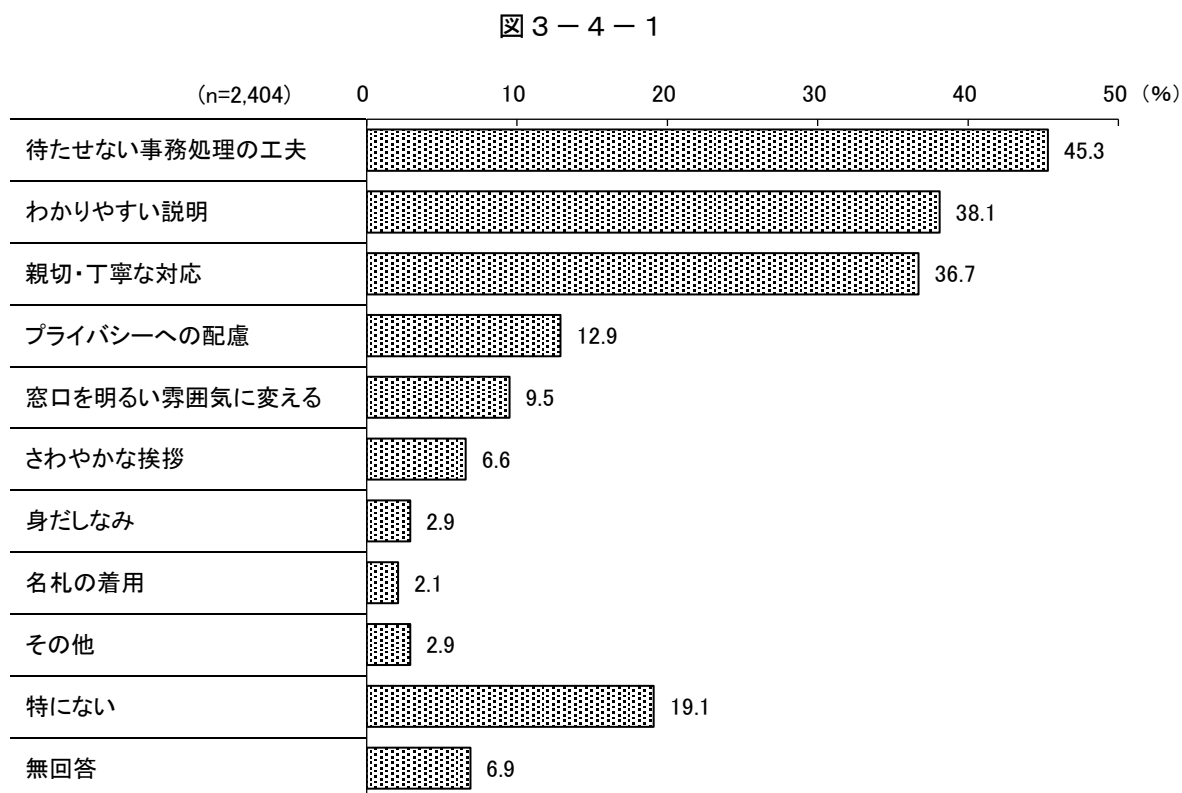


平成27年度からの時系列での変化をみると、「不親切な対応だった」がいずれの年度も1位となっているが、令和2年度以降は年々割合が減少し、令和6年度は令和5年度に次いで低い。「対応で待たされた」は令和元年度以降は2割台で推移していたが、令和5年度以降3割台となっている。「たらい回しにされた」は令和5年度が4割近くで過去最も高かったが、令和6年度はほぼ3割まで下がっている。（表3-3-1、図3-3-2）

（４）職員応対での注意点

◎「待たせない事務処理の工夫」「わかりやすい説明」「親切・丁寧な対応」の３点が高い

問 8 今後、職員応対について、どのような点に注意すべきだと思いますか。（○は３つまで）



今後の職員応対で注意すべき点を聞いたところ、「待たせない事務処理の工夫」（45.3%）が４割半ば、「わかりやすい説明」（38.1%）と「親切・丁寧な対応」（36.7%）が４割近くとなっている。以下、「プライバシーへの配慮」（12.9%）、「窓口を明るい雰囲気に変える」（9.5%）、「さわやかな挨拶」（6.6%）などと続いている。「特にない」（19.1%）はほぼ２割となっている。

（図 3 - 4 - 1）

表 3-4-1 職員応対での注意点（時系列）

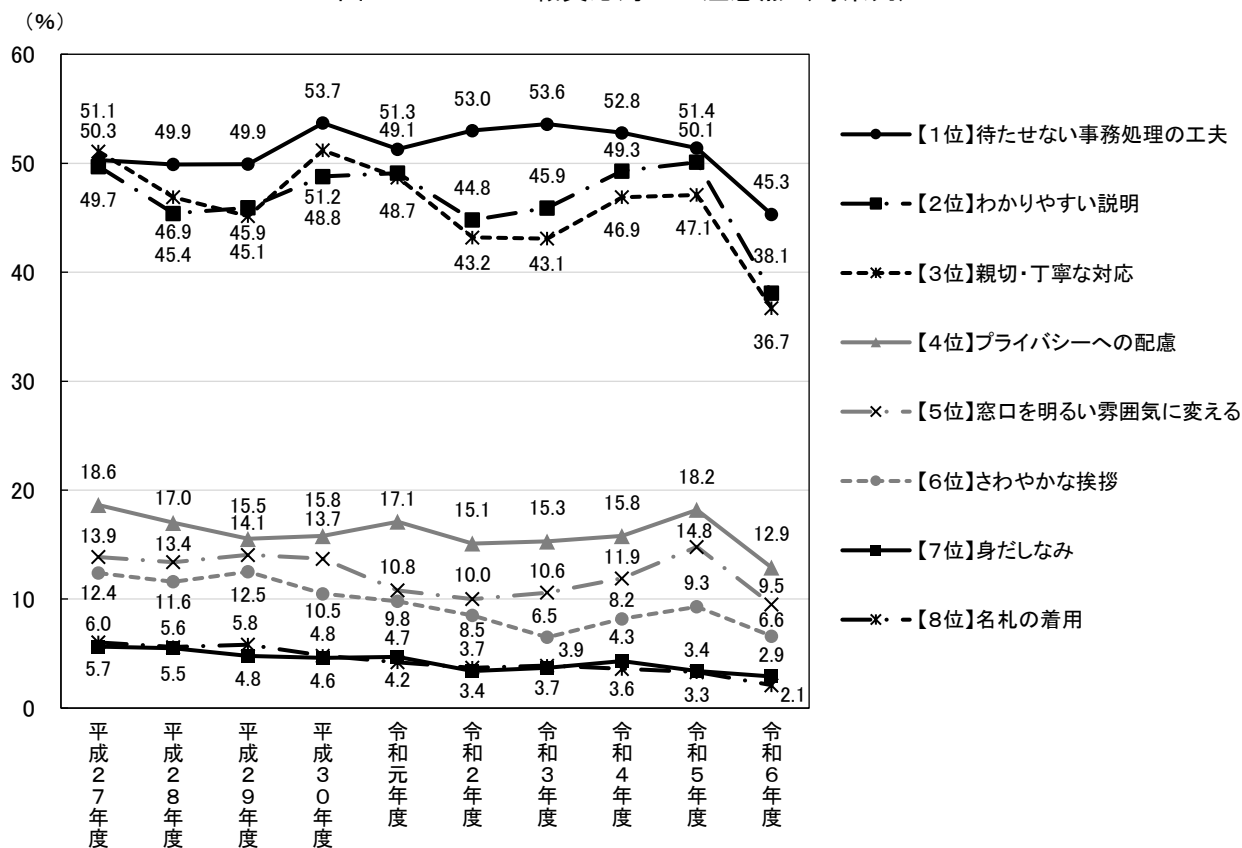
（％）

理 由	平成 27年度	平成 28年度	平成 29年度	平成 30年度	令和 元年度	令和 2年度	令和 3年度	令和 4年度	令和 5年度	令和 6年度
n	2,388	2,355	2,319	2,330	2,171	2,371	2,086	1,923	1,832	2,404
【1位】 待たせない事務処理の工夫	50.3	49.9	49.9	53.7	51.3	53.0	53.6	52.8	51.4	45.3
【2位】 わかりやすい説明	49.7	45.4	45.9	48.8	49.1	44.8	45.9	49.3	50.1	38.1
【3位】 親切・丁寧な対応	51.1	46.9	45.1	51.2	48.7	43.2	43.1	46.9	47.1	36.7
【4位】 プライバシーへの配慮	18.6	17.0	15.5	15.8	17.1	15.1	15.3	15.8	18.2	12.9
【5位】 窓口を明るい雰囲気に変える	13.9	13.4	14.1	13.7	10.8	10.0	10.6	11.9	14.8	9.5
【6位】 さわやかな挨拶	12.4	11.6	12.5	10.5	9.8	8.5	6.5	8.2	9.3	6.6
【7位】 身だしなみ	5.7	5.5	4.8	4.6	4.7	3.4	3.7	4.3	3.4	2.9
【8位】 名札の着用	6.0	5.6	5.8	4.8	4.2	3.7	3.9	3.6	3.3	2.1

注) 令和6年度の値で順位付けを行った。

注) 令和6年度は選択肢に「その他」と「特にない」が追加。

図 3-4-2 職員応対での注意点（時系列）



注) 令和6年度は選択肢に「その他」と「特にない」が追加。

平成27年度からの時系列での変化をみると、令和6年度は選択肢に「その他」と「特にない」が追加されたため、割合の数値は全体的に令和5年度に比べ低下しているが、傾向に大きな違いはみられない。「待たせない事務処理の工夫」、「わかりやすい説明」、「親切・丁寧な対応」の3項目がいずれの年度でも上位3位に挙げられている。（表3-4-1、図3-4-2）

表 3-4-2 職員対応での注意点（性・年齢別）

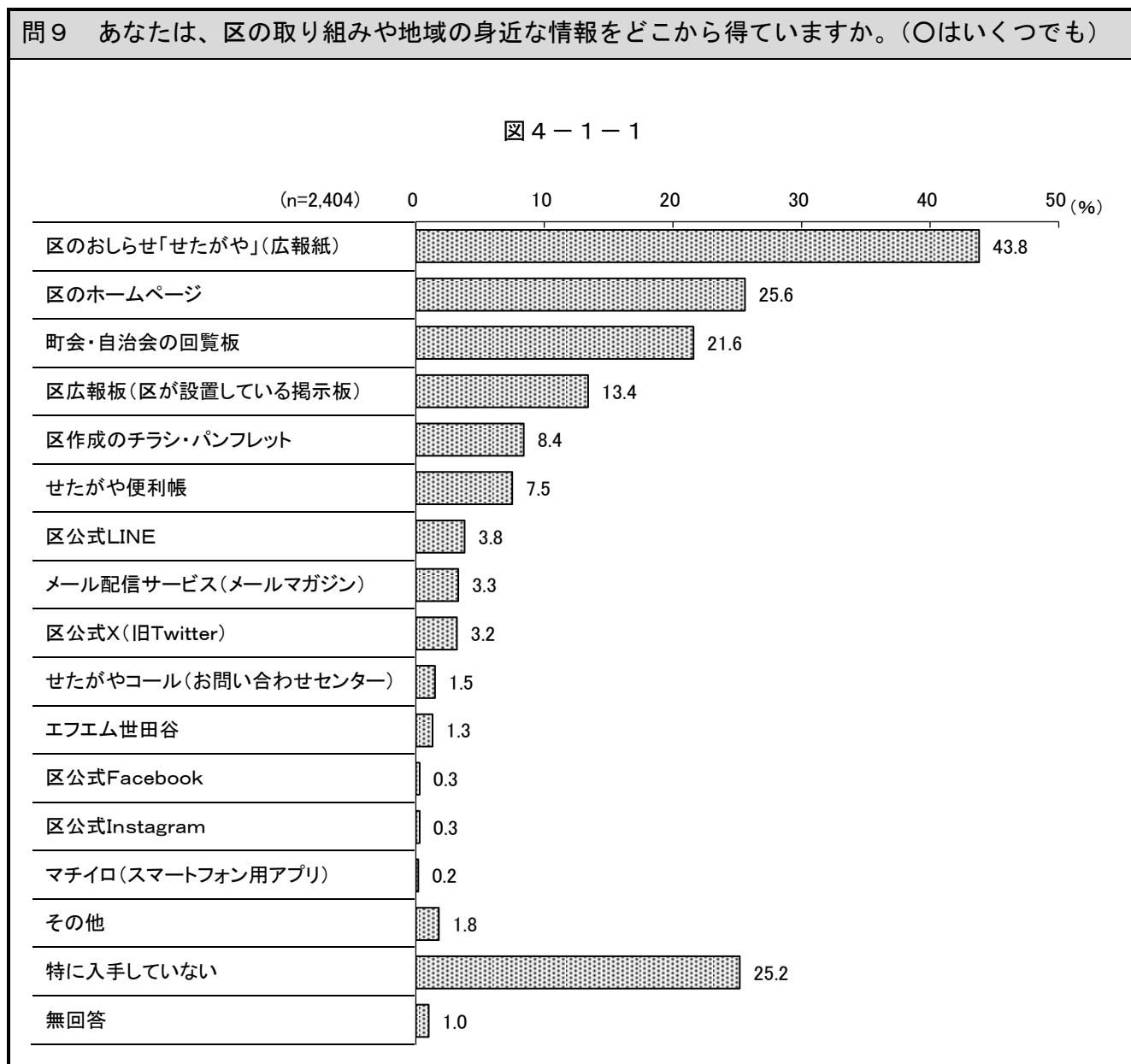
													(%)
		n	待たせない事務処理の工夫	わかりやすい説明	親切・丁寧な対応	プライバシーへの配慮	窓口を明るいきれいに変える	さわやかな挨拶	身だしなみ	名札の着用	その他	特にない	無回答
全 体		2,404	45.3	38.1	36.7	12.9	9.5	6.6	2.9	2.1	2.9	19.1	6.9
性・年齢別	男性全体	915	45.4	36.6	33.6	10.3	11.1	7.8	3.2	2.2	3.2	20.7	6.8
	10・20歳代	72	34.7	18.1	19.4	9.7	8.3	8.3	2.8	—	5.6	43.1	1.4
	30歳代	102	42.2	26.5	21.6	9.8	12.7	5.9	3.9	2.0	3.9	28.4	6.9
	40歳代	135	51.9	34.1	36.3	8.1	14.8	9.6	3.0	2.2	3.7	22.2	3.0
	50歳代	196	44.4	37.8	31.6	12.2	14.8	8.2	3.1	3.6	1.5	22.4	5.6
	60歳代	160	48.1	45.6	40.0	11.3	7.5	5.6	4.4	1.9	4.4	15.6	6.3
	70歳代	151	49.7	35.1	39.1	11.9	6.6	8.6	2.0	1.3	2.6	11.9	10.6
	80歳以上	99	38.4	49.5	37.4	6.1	12.1	8.1	3.0	3.0	2.0	12.1	13.1
	女性全体	1,447	45.5	39.5	39.2	14.4	8.6	5.9	2.7	2.0	2.6	17.9	6.8
	10・20歳代	120	32.5	23.3	25.0	11.7	9.2	4.2	2.5	0.8	1.7	32.5	9.2
	30歳代	186	44.1	36.0	32.8	10.8	10.8	7.5	3.2	—	2.7	26.3	3.2
	40歳代	264	46.6	40.2	35.2	15.5	12.1	6.1	2.7	1.5	3.4	18.2	3.8
	50歳代	293	43.7	37.9	43.0	18.4	7.5	5.5	2.7	0.7	5.5	17.4	5.8
	60歳代	240	52.1	43.3	47.5	13.3	9.2	5.8	2.5	3.8	1.7	10.8	7.9
70歳代	200	49.5	46.5	39.5	15.5	4.0	5.5	2.5	3.0	—	13.0	11.5	
80歳以上	143	44.1	42.7	44.1	11.2	6.3	6.3	2.8	4.9	1.4	14.0	9.1	

性・年齢別にみると、「待たせない事務処理の工夫」は男性の40歳代、女性の60歳代で5割を超え、男性の70歳代、女性の70歳代で5割となっている。「わかりやすい説明」は男性の80歳以上で5割、女性の70歳代で5割近く、男性60歳代で4割半ばとなっている。「親切・丁寧な対応」は女性の60歳代で5割近く、女性の80歳以上で4割半ばとなっている。（表3-4-2）

4. 広報

(1) 区の取り組みや身近な情報の入手経路

◎「区のおしらせ「せたがや」(広報紙)」が4割を超える



区の取り組みや身近な情報の入手経路を聞いたところ、「区のおしらせ「せたがや」(広報紙)」(43.8%)が4割を超えて最も高く、以下、「区のホームページ」(25.6%)、「町会・自治会の回覧板」(21.6%)、「区広報板(区が設置している掲示板)」(13.4%)などと続く。一方、「特に入手していない」(25.2%)は2割半ばとなっている。(図4-1-1)

表 4-1-1 区の取り組みや身近な情報の入手経路（性・年齢別）

（％）

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 43.8	区のホームページ 25.6	町会・自治会の回覧板 21.6	区広報板（区が設置している掲示版） 13.4	区作成のチラシ・パンフレット 8.4	せたがや便利帳 7.5	区公式LINE 3.8	メール配信サービス（メールマガジン） 3.3	区公式X（旧Twitter） 3.2	せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.5
男 性 全 体	915	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 44.2	区のホームページ 25.8	町会・自治会の回覧板 18.7	区広報板（区が設置している掲示版） 11.9	区作成のチラシ・パンフレット 9.8	せたがや便利帳 6.3	区公式X（旧Twitter） 3.4	区公式LINE 2.8	メール配信サービス（メールマガジン） 2.0	エフエム世田谷 1.6
10・20歳代	72	区のホームページ 22.2	区広報板（区が設置している掲示版） 13.9	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 9.7	区作成のチラシ・パンフレット／町会・自治会の回覧板 8.3	区公式X（旧Twitter） 6.9	区公式LINE／せたがや便利帳 4.2	区公式Instagram／エフエム世田谷 2.8			
30歳代	102	区のホームページ 21.6	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 19.6	区広報板（区が設置している掲示版） 8.8	町会・自治会の回覧板 7.8	区公式X（旧Twitter）／区公式LINE 5.9	区作成のチラシ・パンフレット 4.9	区公式Instagram／メール配信サービス（メールマガジン）／エフエム世田谷／せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.0			
40歳代	135	区のホームページ 31.9	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 25.9	町会・自治会の回覧板 12.6	区広報板（区が設置している掲示版） 9.6	区作成のチラシ・パンフレット 7.4	区公式X（旧Twitter）／区公式LINE 5.9	メール配信サービス（メールマガジン）／せたがや便利帳 3.0	区公式Facebook 0.7		
50歳代	196	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 40.8	区のホームページ 28.6	区広報板（区が設置している掲示版） 11.2	町会・自治会の回覧板 10.2	区作成のチラシ・パンフレット 8.7	せたがや便利帳 4.6	区公式X（旧Twitter）／メール配信サービス（メールマガジン） 3.6	せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.5	区公式LINE／エフエム世田谷 1.0	
60歳代	160	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 51.9	区のホームページ 31.9	町会・自治会の回覧板 20.6	区広報板（区が設置している掲示版） 11.3	区作成のチラシ・パンフレット 8.1	せたがや便利帳 4.4	区公式LINE 3.8	区公式X（旧Twitter） 2.5	エフエム世田谷 1.9	区公式Facebook 1.3
70歳代	151	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 70.2	町会・自治会の回覧板 33.1	区のホームページ 23.8	区作成のチラシ・パンフレット 17.9	区広報板（区が設置している掲示版） 16.6	せたがや便利帳 13.2	エフエム世田谷 4.0	メール配信サービス（メールマガジン） 2.6	せたがやコール（お問い合わせセンター） 2.0	区公式X（旧Twitter）／区公式LINE／区公式Instagram 0.7
80歳以上	99	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 73.7	町会・自治会の回覧板 37.4	せたがや便利帳 15.2	区のホームページ／区広報板（区が設置している掲示版）／区作成のチラシ・パンフレット 12.1	せたがやコール（お問い合わせセンター） 5.1	メール配信サービス（メールマガジン）／エフエム世田谷 1.0				
女 性 全 体	1,447	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 43.5	区のホームページ 25.6	町会・自治会の回覧板 23.2	区広報板（区が設置している掲示版） 14.3	せたがや便利帳 8.1	区作成のチラシ・パンフレット 7.5	区公式LINE 4.4	メール配信サービス（メールマガジン） 4.3	区公式X（旧Twitter） 3.1	せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.5
10・20歳代	120	区のホームページ 19.2	区広報板（区が設置している掲示版） 11.7	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 6.7	町会・自治会の回覧板 5.8	区公式LINE／区作成のチラシ・パンフレット 5.0	区公式X（旧Twitter） 2.5	せたがや便利帳 1.7	せたがやコール（お問い合わせセンター） 0.8		
30歳代	186	区のホームページ 21.0	区公式LINE 17.2	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 13.4	区広報板（区が設置している掲示版） 10.8	町会・自治会の回覧板 9.1	区公式X（旧Twitter） 7.0	メール配信サービス（メールマガジン）／区作成のチラシ・パンフレット 3.8	せたがや便利帳 1.6	マチイロ（スマートフォン用アプリ） 1.1	
40歳代	264	区のホームページ 31.1	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 29.9	町会・自治会の回覧板 17.8	区広報板（区が設置している掲示版） 12.9	メール配信サービス（メールマガジン） 10.2	区作成のチラシ・パンフレット 6.8	区公式X（旧Twitter） 6.1	区公式LINE 5.3	せたがや便利帳 0.8	区公式Facebook／マチイロ（スマートフォン用アプリ）／せたがやコール（お問い合わせセンター） 0.4
50歳代	293	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 39.9	区のホームページ 35.8	町会・自治会の回覧板 19.1	区広報板（区が設置している掲示版） 11.9	区作成のチラシ・パンフレット 6.1	メール配信サービス（メールマガジン） 5.8	せたがや便利帳 5.1	区公式X（旧Twitter） 3.8	区公式LINE 3.1	エフエム世田谷 1.7
60歳代	240	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 61.3	区のホームページ 29.6	町会・自治会の回覧板 27.1	区広報板（区が設置している掲示版） 18.3	せたがや便利帳 10.8	区作成のチラシ・パンフレット 10.0	メール配信サービス（メールマガジン） 2.9	せたがやコール（お問い合わせセンター） 1.3	区公式X（旧Twitter）／エフエム世田谷 0.8	
70歳代	200	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 73.0	町会・自治会の回覧板 44.0	せたがや便利帳 22.5	区のホームページ 20.5	区広報板（区が設置している掲示版） 18.5	区作成のチラシ・パンフレット 10.5	せたがやコール（お問い合わせセンター） 4.5	エフエム世田谷 2.5	メール配信サービス（メールマガジン） 2.0	区公式LINE 1.0
80歳以上	143	区のおしらせ「せたがや」（広報紙） 74.1	町会・自治会の回覧板 38.5	せたがや便利帳 16.8	区広報板（区が設置している掲示版） 16.1	区作成のチラシ・パンフレット 9.8	区のホームページ 6.3	せたがやコール（お問い合わせセンター） 2.8	エフエム世田谷 2.1		

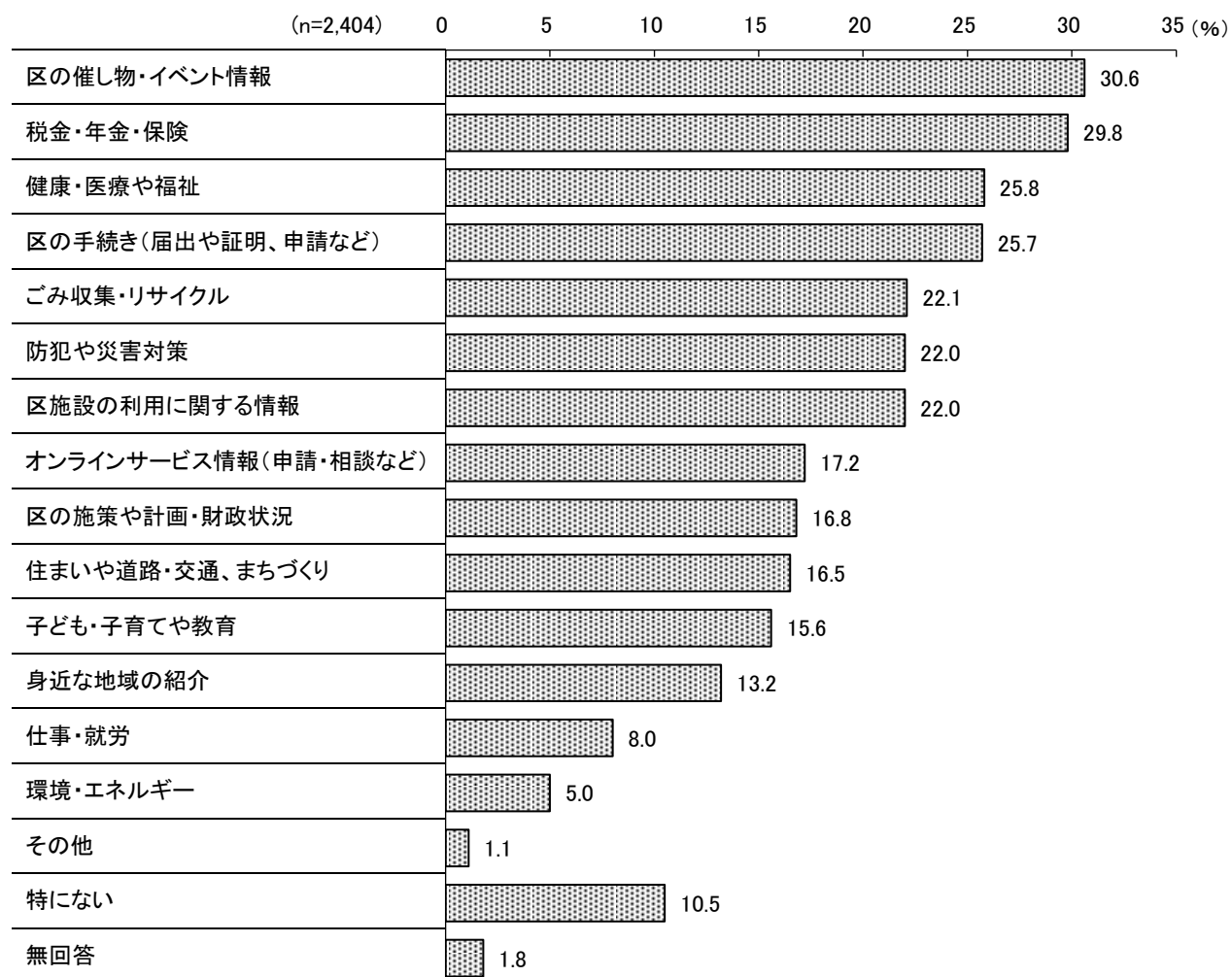
性・年齢別にみると、男女とも40歳代以下は「区のホームページ」が1位、「区のおしらせ「せたがや」（広報紙）」も3位以内に挙げられている。50歳代以上は「区のおしらせ「せたがや」（広報紙）」が1位で、50歳代、60歳代は「区のホームページ」が2位となっている。（表4-1-1）

(2) 発信してほしい区の取り組みや情報

◎「区の催し物・イベント情報」がほぼ3割

問10 区が発信する取り組みや情報の中で、もっと知らせてほしいと思うものはどれですか。
(〇はいくつでも)

図4-2-1



もっと発信してほしい区の取り組みや情報を聞いたところ、「区の催し物・イベント情報」(30.6%)がほぼ3割、「税金・年金・保険」(29.8%)が3割となっている。以下、「健康・医療や福祉」(25.8%)、「区の手続き(届出や証明、申請など)」(25.7%)、「ごみ収集・リサイクル」(22.1%)、「防犯や災害対策」(22.0%)、「区施設の利用に関する情報」(22.0%)などと続く。(図4-2-1)

表 4-2-1 発信してほしい区の取り組みや情報（性・年齢別）

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	区の催し物・イベント情報 30.6	税金・年金・保険 29.8	健康・医療や福祉 25.8	区の手続き(届出や証明、申請など) 25.7	ごみ収集・リサイクル 22.1	防犯や災害対策／区施設の利用に関する情報 22.0	区施設の利用に関する情報 22.0	オンラインサービス情報(申請・相談など) 17.2	区の施策や計画・財政状況 16.8	住まいや道路・交通、まちづくり 16.5
男 性 全 体	915	税金・年金・保険 30.9	区の催し物・イベント情報 27.8	区の手続き(届出や証明、申請など) 24.5	健康・医療や福祉 22.5	ごみ収集・リサイクル 21.6	区施設の利用に関する情報 21.4	住まいや道路・交通、まちづくり 21.3	区の施策や計画・財政状況 21.2	防犯や災害対策 19.6	オンラインサービス情報(申請・相談など) 17.4
10・20歳代	72	区の施策や計画・財政状況 27.8	区の手続き(届出や証明、申請など) 26.4	税金・年金・保険／区の催し物・イベント情報／オンラインサービス情報(申請・相談など) 25.0	区の手続き(届出や証明、申請など)／区施設の利用に関する情報 21.6	ごみ収集・リサイクル 20.8	子ども・子育てや教育 16.7	区施設の利用に関する情報 15.3	防犯や災害対策／住まいや道路・交通、まちづくり／仕事・就労 13.9		
30歳代	102	子ども・子育てや教育 44.1	区の催し物・イベント情報 32.4	区の施策や計画・財政状況 25.5	区の手続き(届出や証明、申請など)／区施設の利用に関する情報 21.6	税金・年金・保険 20.6	ごみ収集・リサイクル 19.6	オンラインサービス情報(申請・相談など) 17.6	住まいや道路・交通、まちづくり 16.7	防犯や災害対策 8.8	
40歳代	135	税金・年金・保険 36.3	区の催し物・イベント情報 34.1	子ども・子育てや教育 30.4	オンラインサービス情報(申請・相談など) 28.1	区の手続き(届出や証明、申請など) 26.7	防犯や災害対策 25.2	住まいや道路・交通、まちづくり 24.4	区の施策や計画・財政状況／区施設の利用に関する情報 22.2	ごみ収集・リサイクル 20.0	
50歳代	196	税金・年金・保険／区の催し物・イベント情報 29.6	区の手続き(届出や証明、申請など) 26.5	住まいや道路・交通、まちづくり 24.5	ごみ収集・リサイクル 24.0	区の施策や計画・財政状況／健康・医療や福祉 23.0	オンラインサービス情報(申請・相談など) 20.9	区の手続き(届出や証明、申請など) 19.9	区施設の利用に関する情報 19.9	防犯や災害対策 17.9	
60歳代	160	税金・年金・保険 38.1	区の催し物・イベント情報 28.1	健康・医療や福祉 26.3	区の手続き(届出や証明、申請など) 25.0	住まいや道路・交通、まちづくり 23.8	ごみ収集・リサイクル／区施設の利用に関する情報 23.1	防犯や災害対策 21.9	区の施策や計画・財政状況 18.1	オンラインサービス情報(申請・相談など) 15.0	
70歳代	151	税金・年金・保険 31.8	健康・医療や福祉 31.1	防犯や災害対策 24.5	区の手続き(届出や証明、申請など)／ごみ収集・リサイクル／区施設の利用に関する情報 22.5	住まいや道路・交通、まちづくり 21.2	区施設の利用に関する情報 20.5	区の催し物・イベント情報 19.9	区の施策や計画・財政状況 10.6	身近な地域の紹介 10.6	
80歳以上	99	健康・医療や福祉 34.3	区の手続き(届出や証明、申請など) 32.3	税金・年金・保険 28.3	区施設の利用に関する情報／区の催し物・イベント情報 23.2	身近な地域の紹介 20.2	防犯や災害対策 19.2	ごみ収集・リサイクル 17.2	住まいや道路・交通、まちづくり 13.1	区の施策や計画・財政状況 12.1	
女 性 全 体	1,447	区の催し物・イベント情報 32.6	税金・年金・保険 29.2	健康・医療や福祉 28.0	区の手続き(届出や証明、申請など) 26.8	防犯や災害対策 23.8	ごみ収集・リサイクル 22.6	区施設の利用に関する情報 22.3	オンラインサービス情報(申請・相談など) 17.3	子ども・子育てや教育 16.7	身近な地域の紹介 14.6
10・20歳代	120	税金・年金・保険 34.2	区の手続き(届出や証明、申請など) 27.5	区の催し物・イベント情報 26.7	防犯や災害対策 24.2	子ども・子育てや教育 21.7	区の施策や計画・財政状況 20.0	オンラインサービス情報(申請・相談など) 19.2	ごみ収集・リサイクル 16.7	健康・医療や福祉 15.0	住まいや道路・交通、まちづくり／区施設の利用に関する情報 10.0
30歳代	186	子ども・子育てや教育 50.0	区の催し物・イベント情報 42.5	区の手続き(届出や証明、申請など) 30.6	税金・年金・保険 26.9	健康・医療や福祉／オンラインサービス情報(申請・相談など) 23.1	ごみ収集・リサイクル 19.9	区の施策や計画・財政状況 19.4	防犯や災害対策 18.8	住まいや道路・交通、まちづくり／区施設の利用に関する情報 15.6	
40歳代	264	区の催し物・イベント情報 42.8	子ども・子育てや教育 29.2	区の手続き(届出や証明、申請など) 25.4	税金・年金・保険 23.5	ごみ収集・リサイクル 22.3	健康・医療や福祉 20.8	区施設の利用に関する情報 20.5	オンラインサービス情報(申請・相談など) 19.7	防犯や災害対策 18.2	住まいや道路・交通、まちづくり 16.3
50歳代	293	税金・年金・保険 35.8	健康・医療や福祉 34.1	区の手続き(届出や証明、申請など)／区の催し物・イベント情報 29.4	ごみ収集・リサイクル 28.3	防犯や災害対策 27.3	区施設の利用に関する情報 26.3	オンラインサービス情報(申請・相談など) 24.9	区の施策や計画・財政状況 16.0	住まいや道路・交通、まちづくり 15.7	
60歳代	240	健康・医療や福祉／区の催し物・イベント情報 32.5	税金・年金・保険 32.1	防犯や災害対策 27.1	ごみ収集・リサイクル 26.7	区の手続き(届出や証明、申請など) 26.3	区施設の利用に関する情報 24.2	オンラインサービス情報(申請・相談など) 18.3	身近な地域の紹介 14.2	住まいや道路・交通、まちづくり 11.3	
70歳代	200	健康・医療や福祉 33.5	区施設の利用に関する情報 31.0	区の催し物・イベント情報 29.5	防犯や災害対策 29.0	税金・年金・保険 28.5	区の手続き(届出や証明、申請など) 19.5	身近な地域の紹介 19.0	ごみ収集・リサイクル 18.5	住まいや道路・交通、まちづくり 14.5	区の施策や計画・財政状況 13.0
80歳以上	143	健康・医療や福祉 30.8	区の手続き(届出や証明、申請など) 29.4	区施設の利用に関する情報 21.7	税金・年金・保険 21.0	防犯や災害対策 20.3	ごみ収集・リサイクル 18.2	区の催し物・イベント情報 16.8	身近な地域の紹介 16.1	住まいや道路・交通、まちづくり 6.3	区の施策や計画・財政状況 5.6

性・年齢別にみると、「区の催し物・イベント情報」は男性の60歳代以下、女性の70歳代以下で3位以内に挙げられている。「税金・年金・保険」は男性の40歳代～70歳代、女性の10・20歳代と50歳代で1位となっている。「健康・医療や福祉」は男性の60歳代以上、女性の50歳代以上で3位以内に挙げられている。(表4-2-1)

表 4-2-2 発信してほしい区の取り組みや情報（ライフステージ別）

(%)

	n	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位	6 位	7 位	8 位	9 位	10 位
全 体	2,404	区の催し物・イベント情報 30.6	税金・年金・保険 29.8	健康・医療や福祉 25.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 25.7	ごみ収集・リサイクル 22.1	防犯や災害対策／区施設の利用に関する情報 22.0	オンラインサービス情報（申請・相談など） 17.2	区の施策や計画・財政状況 16.8	住まいや道路・交通、まちづくり 16.5	
独 身 期	269	税金・年金・保険 31.6	区の手続き（届出や証明、申請など）／区の催し物・イベント情報 29.0	区の施策や計画・財政状況 24.2	オンラインサービス情報（申請・相談など） 23.0	ごみ収集・リサイクル 21.9	防犯や災害対策 18.6	健康・医療や福祉 16.7	子ども・子育てや教育 16.4	住まいや道路・交通、まちづくり 14.5	
家 族 形 成 期	194	子ども・子育てや教育 65.5	区の催し物・イベント情報 41.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 26.3	区の施策や計画・財政状況／税金・年金・保険 22.7	区施設の利用に関する情報／オンラインサービス情報（申請・相談など） 21.6	防犯や災害対策 17.5	住まいや道路・交通、まちづくり 16.0	健康・医療や福祉／ごみ収集・リサイクル 15.5		
家族成長前期	226	子ども・子育てや教育 54.0	区の催し物・イベント情報 46.0	税金・年金・保険 26.5	住まいや道路・交通、まちづくり 23.5	区の手続き（届出や証明、申請など） 22.6	ごみ収集・リサイクル 21.7	防犯や災害対策 21.2	区施設の利用に関する情報 19.5	健康・医療や福祉／オンラインサービス情報（申請・相談など） 17.7	
家族成長後期	188	区の催し物・イベント情報 33.0	税金・年金・保険 27.1	防犯や災害対策／健康・医療や福祉 24.5	区の手続き（届出や証明、申請など）／オンラインサービス情報（申請・相談など） 22.3	ごみ収集・リサイクル 19.7	区施設の利用に関する情報 19.1	区の施策や計画・財政状況 18.6	住まいや道路・交通、まちづくり 18.1		
家 族 成 熟 期	238	税金・年金・保険 36.1	健康・医療や福祉 31.5	区の手続き（届出や証明、申請など）／区の催し物・イベント情報 30.3	オンラインサービス情報（申請・相談など） 27.7	防犯や災害対策 26.5	区施設の利用に関する情報 23.1	ごみ収集・リサイクル 21.8	区の施策や計画・財政状況／住まいや道路・交通、まちづくり 15.1		
高 齢 期Ⅰ	211	税金・年金・保険／健康・医療や福祉 30.3	ごみ収集・リサイクル／区の催し物・イベント情報 28.4	区施設の利用に関する情報 27.5	区の手続き（届出や証明、申請など） 26.5	防犯や災害対策 25.6	住まいや道路・交通、まちづくり 20.9	身近な地域の紹介 12.8	区の施策や計画・財政状況 12.3		
高 齢 期Ⅱ	495	健康・医療や福祉 32.9	税金・年金・保険 30.5	防犯や災害対策 24.8	区の手続き（届出や証明、申請など） 24.0	区の催し物・イベント情報 23.8	区施設の利用に関する情報 23.4	ごみ収集・リサイクル 18.8	身近な地域の紹介 17.8	区の施策や計画・財政状況 13.7	住まいや道路・交通、まちづくり 12.3
そ の 他	523	税金・年金・保険 31.0	区の催し物・イベント情報 27.9	健康・医療や福祉 27.3	ごみ収集・リサイクル 26.2	区の手続き（届出や証明、申請など） 25.8	区施設の利用に関する情報 24.1	オンラインサービス情報（申請・相談など） 20.3	防犯や災害対策 20.1	住まいや道路・交通、まちづくり 17.2	区の施策や計画・財政状況 15.5

ライフステージ別にみると、「区の催し物・イベント情報」は高齢期Ⅱ以外のライフステージで3位以内に、「税金・年金・保険」は家族形成期以外のライフステージで3位以内に挙げられている。「子ども・子育てや教育」は家族形成期と家族成長前期で1位、「健康・医療や福祉」は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで1位、家族成熟期で2位となっている。（表4-2-2）

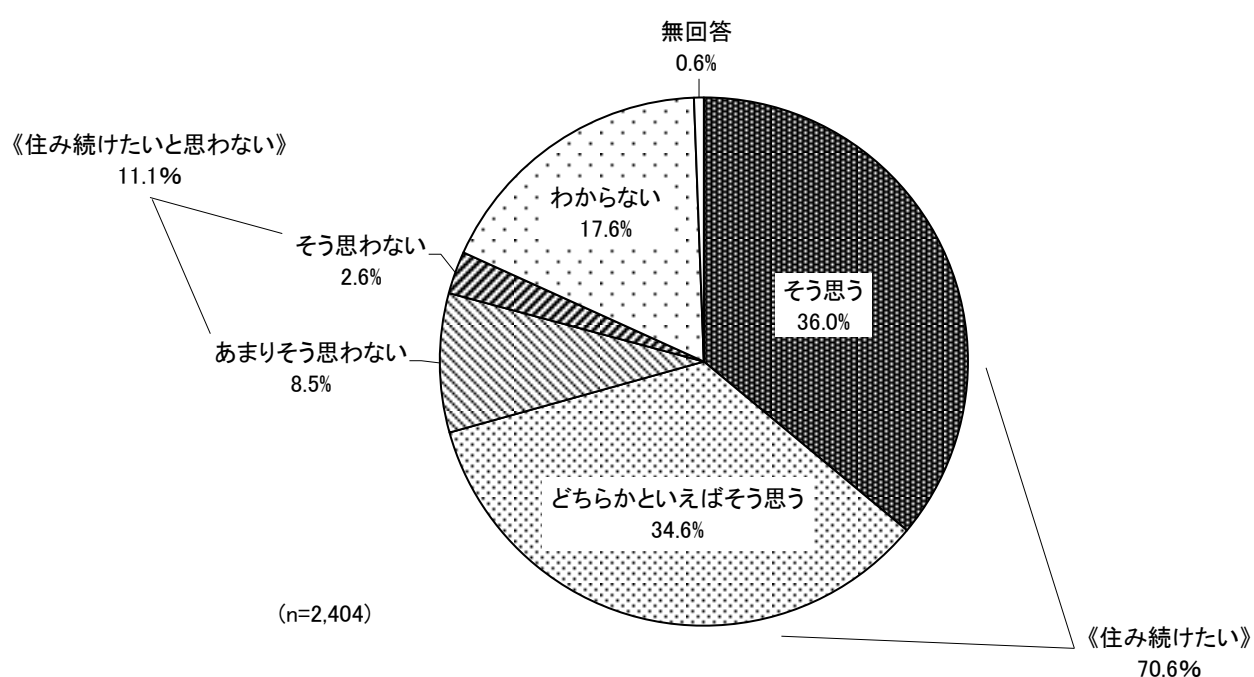
5. 福祉と医療

(1) 介護や医療必要時の居住意向

◎ 《住み続けたい》がほぼ7割

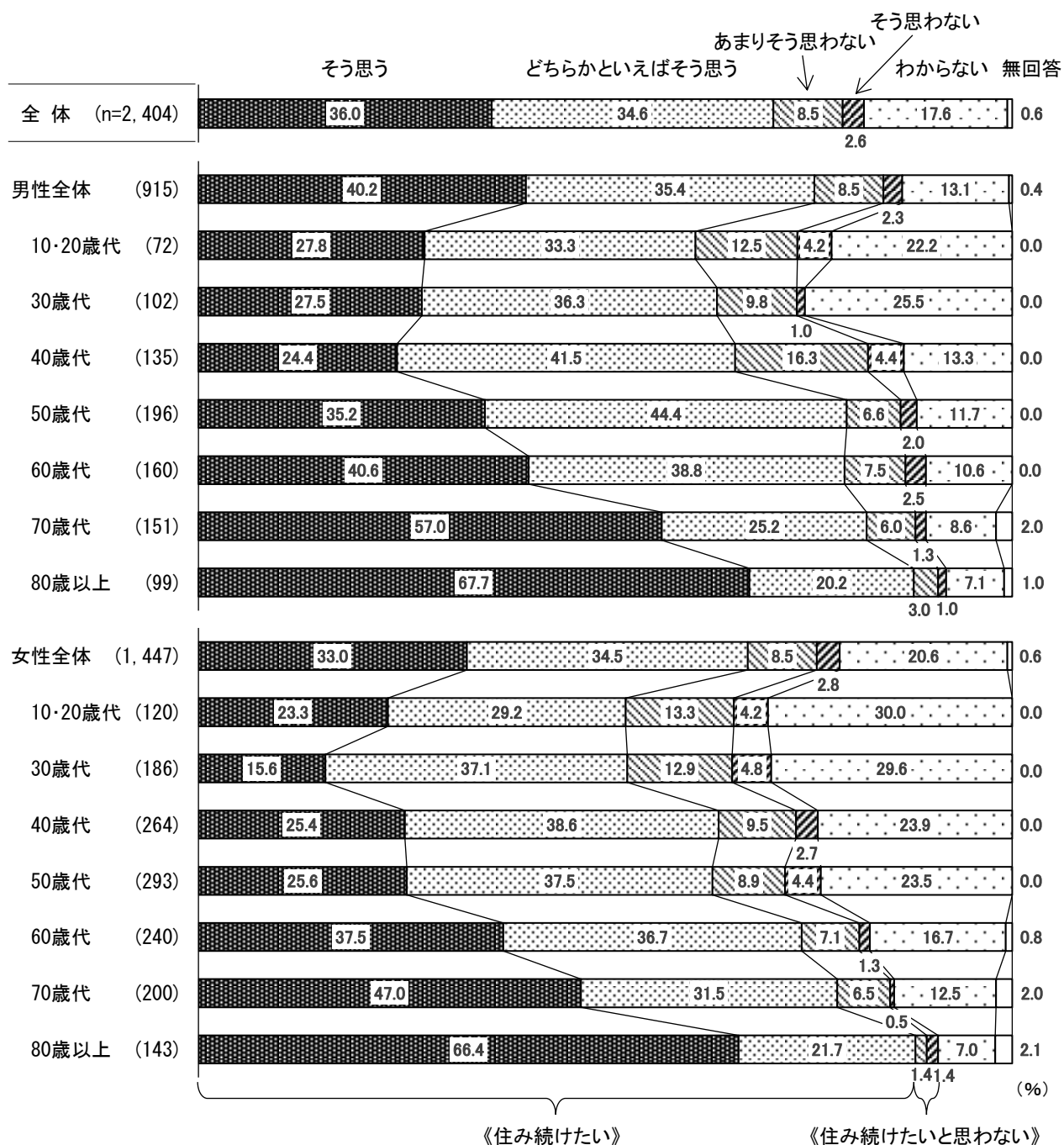
問 1 1 あなたは、介護や医療が必要になっても世田谷区に住み続けたいですか。(○は1つ)

図 5 - 1 - 1



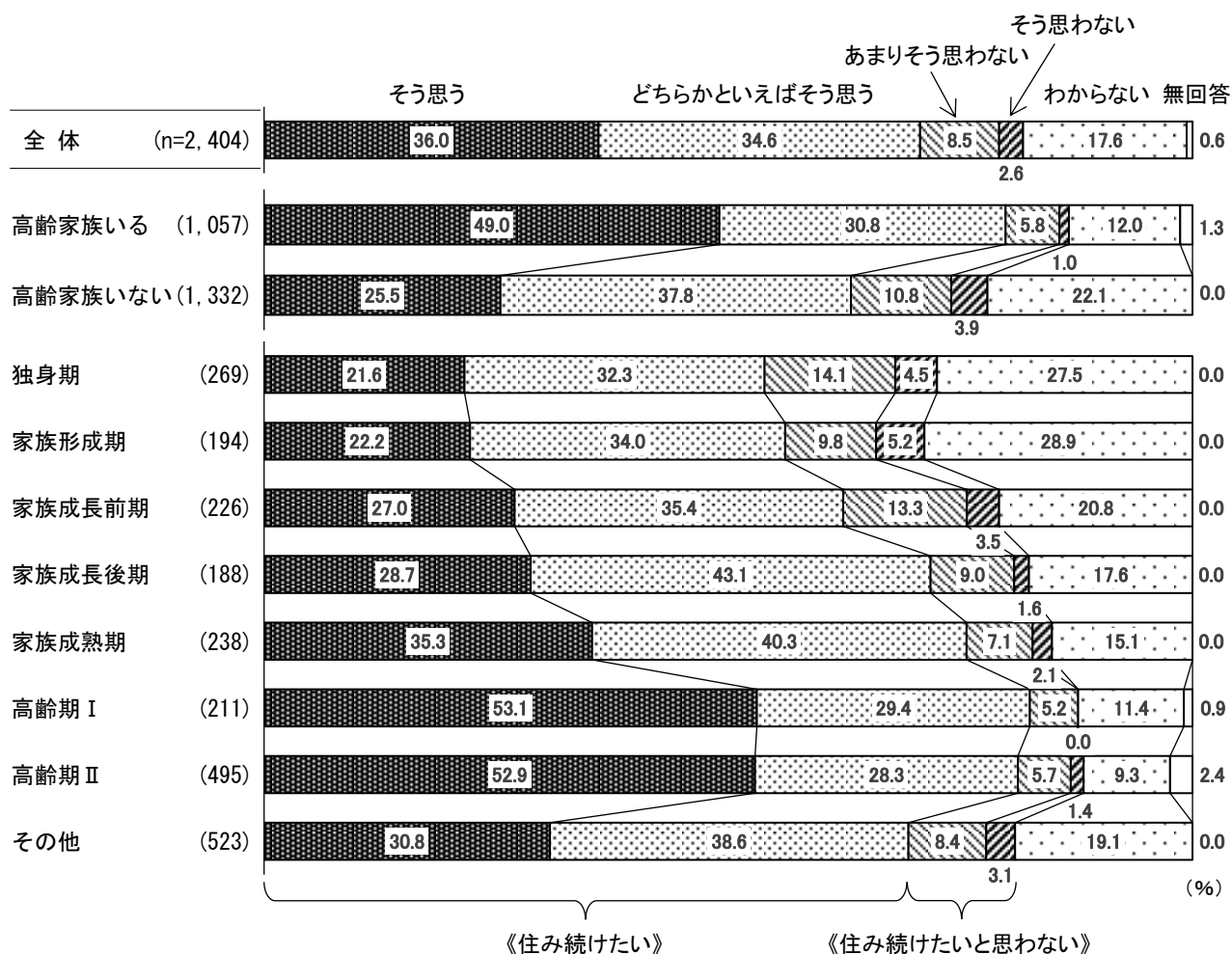
介護や医療必要時にも世田谷区に住み続けたいか聞いたところ、「そう思う」（36.0%）と「どちらかといえばそう思う」（34.6%）を合わせた《住み続けたい》（70.6%）がほぼ7割、「あまりそう思わない」（8.5%）と「そう思わない」（2.6%）を合わせた《住み続けたいと思わない》（11.1%）は1割を超えている。（図 5 - 1 - 1）

図 5 - 1 - 2 介護や医療必要時の居留意向（性・年齢別）



性・年齢別にみると、年代が上がるにつれ《住み続けたい》が高くなる傾向にあり、男女とも80歳以上で9割近く、男性の70歳代で8割を超え、男性の50歳代で8割、男性の60歳代でほぼ8割、女性の70歳代で8割近くとなっている。《住み続けたいと思わない》は男性の40歳代でほぼ2割、男性の10・20歳代、女性の10・20歳代と30歳代で2割近くとなっている。（図5-1-2）

図 5-1-3 介護や医療必要時の居留意向（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、《住み続けたい》は高齢家族がいる世帯で8割、高齢家族がいない世帯で6割を超えている。「そう思う」は高齢家族がいる世帯でほぼ5割となっている。

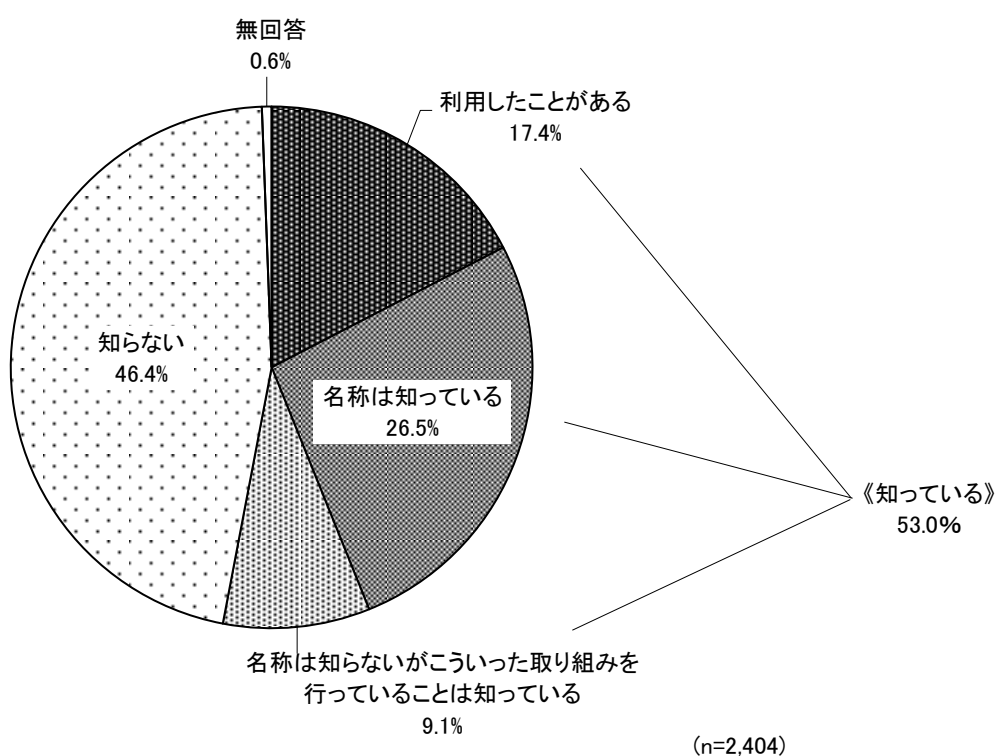
ライフステージ別にみると、《住み続けたい》は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで8割を超え、そのうち、「そう思う」は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱとも5割を超えている。《住み続けたいと思わない》は独身期、家族成長前期で2割近くとなっている。（図5-1-3）

（２）「福祉の相談窓口」の認知度

◎ 《知っている》が５割を超え、「利用したことがある」は２割近く

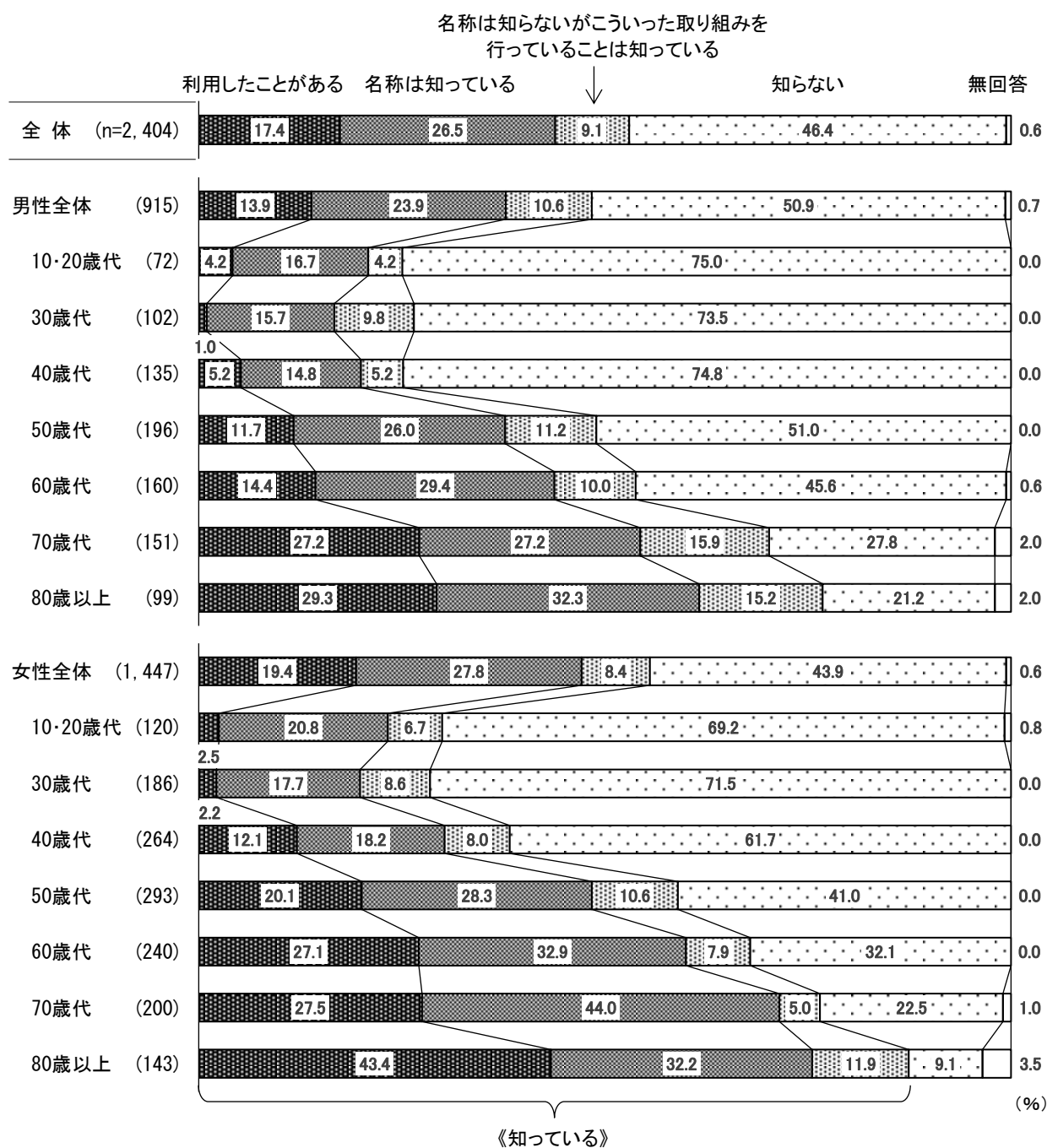
問１２ あなたは、区内２８地区で実施しているまちづくりセンター、あんしんすこやかセンター（地域包括支援センター）、社会福祉協議会が連携して相談を受ける「福祉の相談窓口」を知っていますか。（○は１つ）

図５－２－１



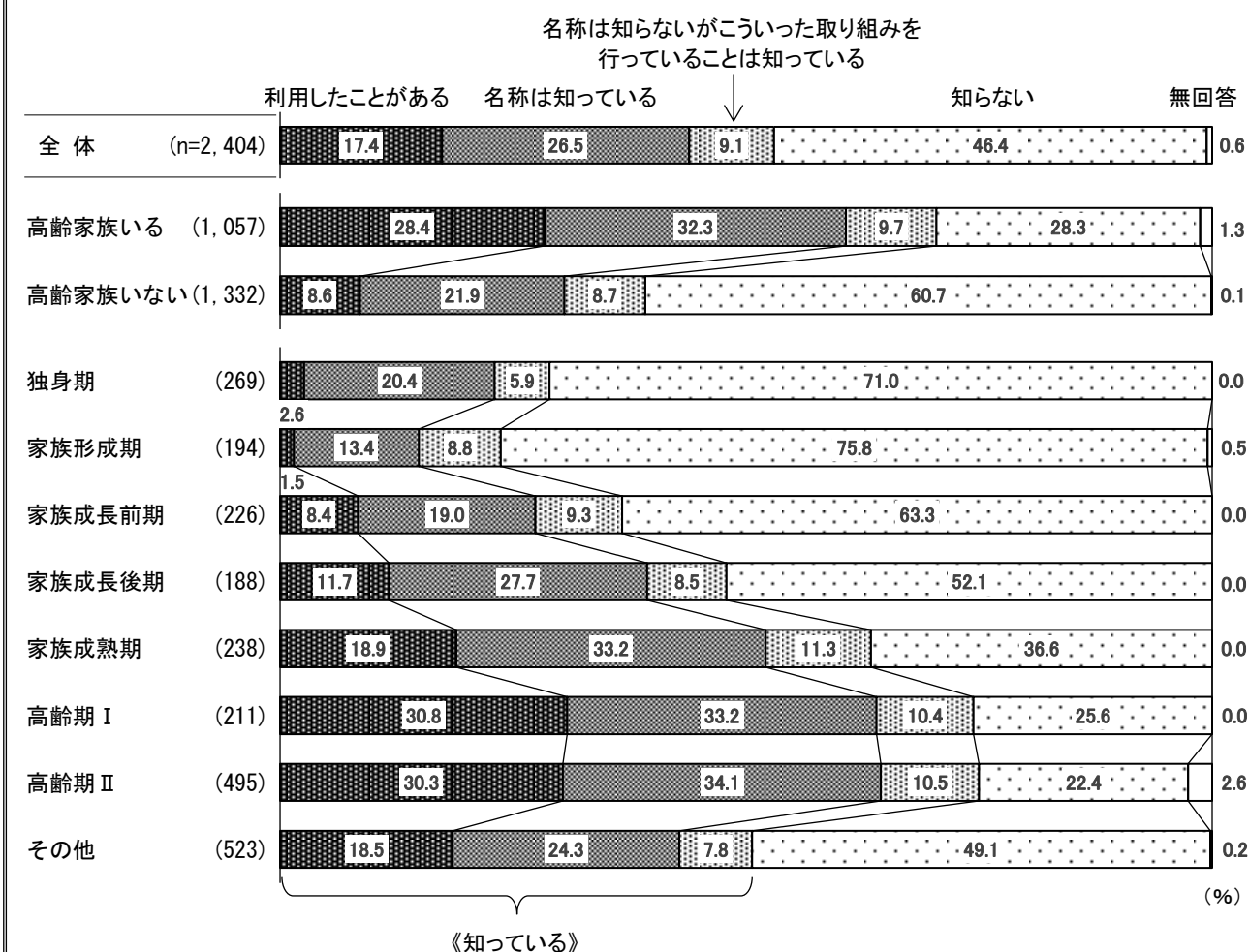
「福祉の相談窓口」の認知度を聞いたところ、「名称は知っている」（26.5%）、「利用したことがある」（17.4%）、「名称は知らないがこういった取り組みを行っていることは知っている」（9.1%）を合わせた《知っている》（53.0%）が５割を超え、「知らない」（46.4%）が４割半ばとなっている。（図５－２－１）

図 5-2-2 「福祉の相談窓口」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》は男女ともに年代が上がるにつれ高くなる傾向がみられ、女性の80歳以上で9割近く、男性の80歳以上、女性の70歳代で8割近く、男性の70歳代で7割となっている。「利用したことがある」は女性の80歳以上で4割を超えている。（図5-2-2）

図 5 - 2 - 3 「福祉の相談窓口」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「利用したことがある」が3割近く、「名称は知っている」が3割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフステージ別にみると、「利用したことがある」は高齢期Ⅰでほぼ3割、高齢期Ⅱで3割となっている。《知っている》は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで7割半ば、家族成熟期で6割を超えている。

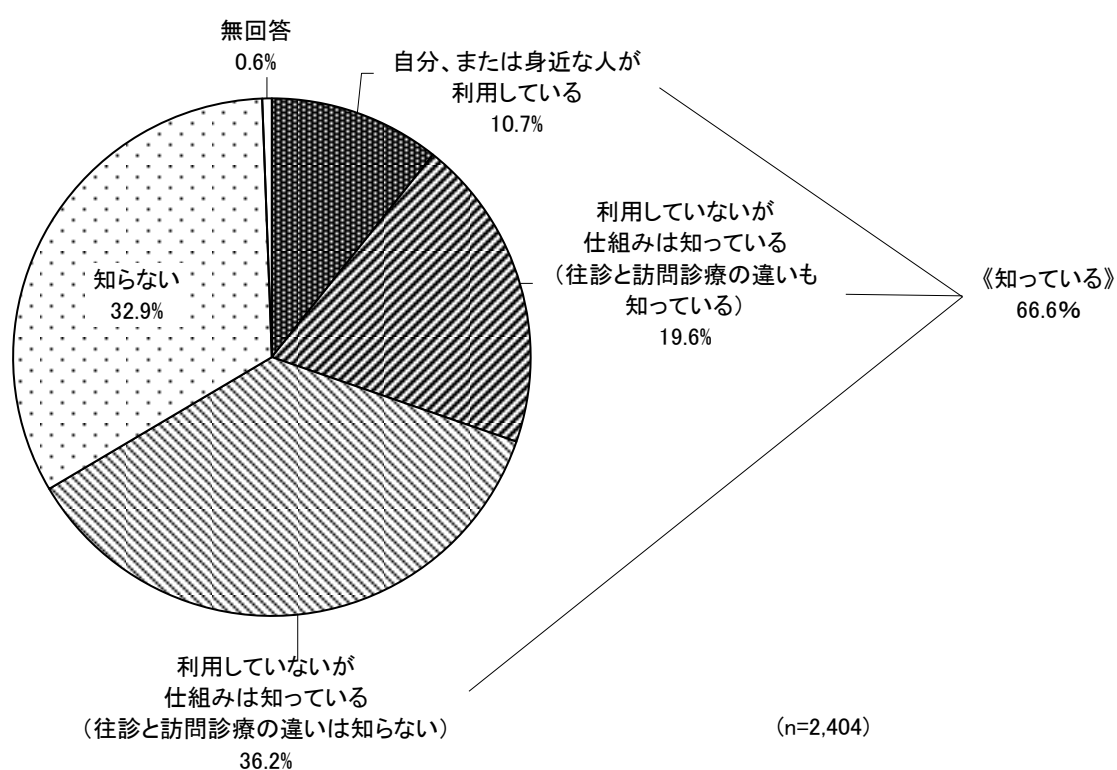
(図 5 - 2 - 3)

（３）「在宅医療」の認知度

◎ 《知っている》が７割近く、「自分、または身近な人が利用している」はほぼ１割

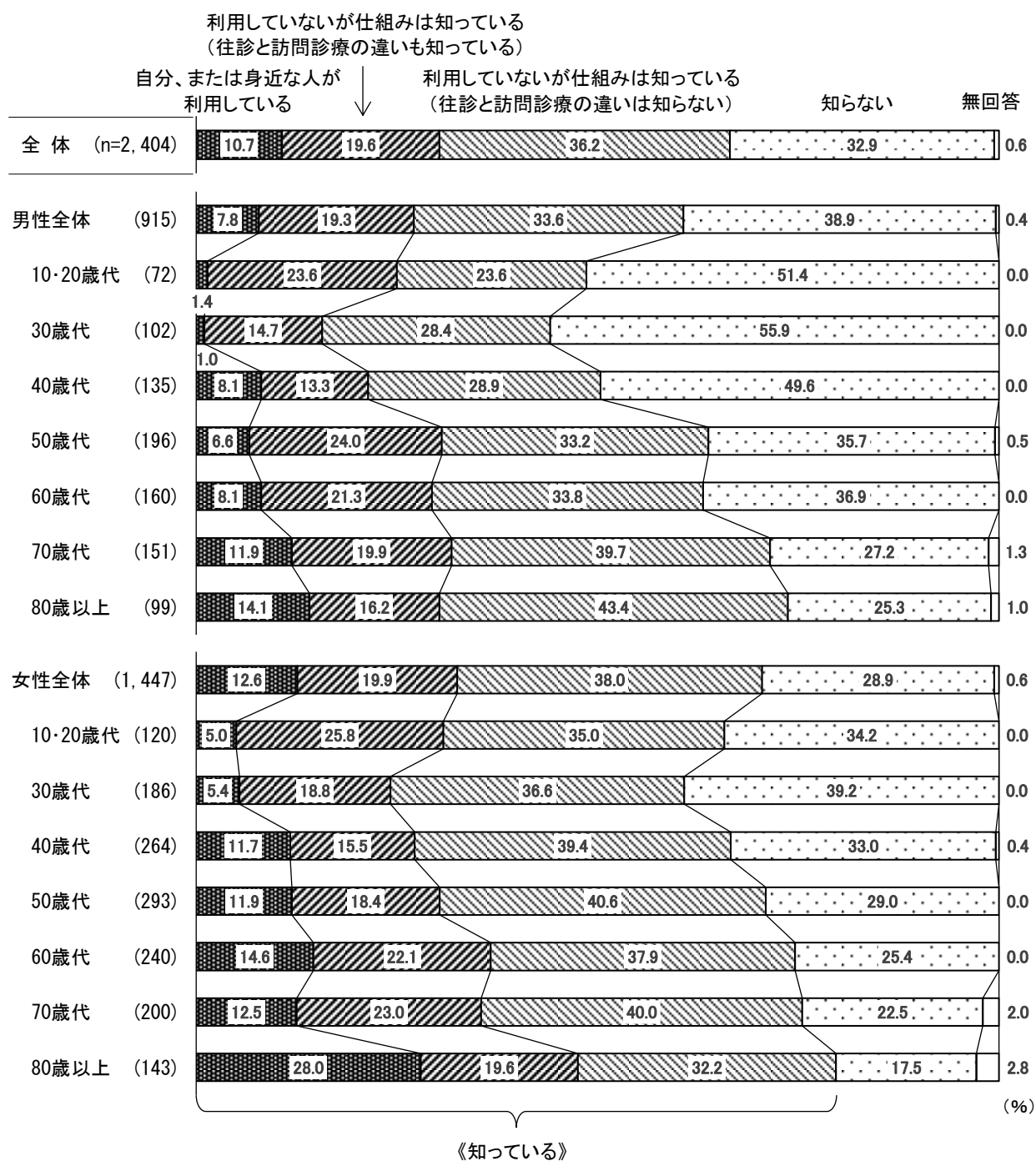
問１３ あなたは、訪問診療や訪問看護を受けながら自宅で療養する「在宅医療」を知っていますか。（○は１つ）

図５－３－１



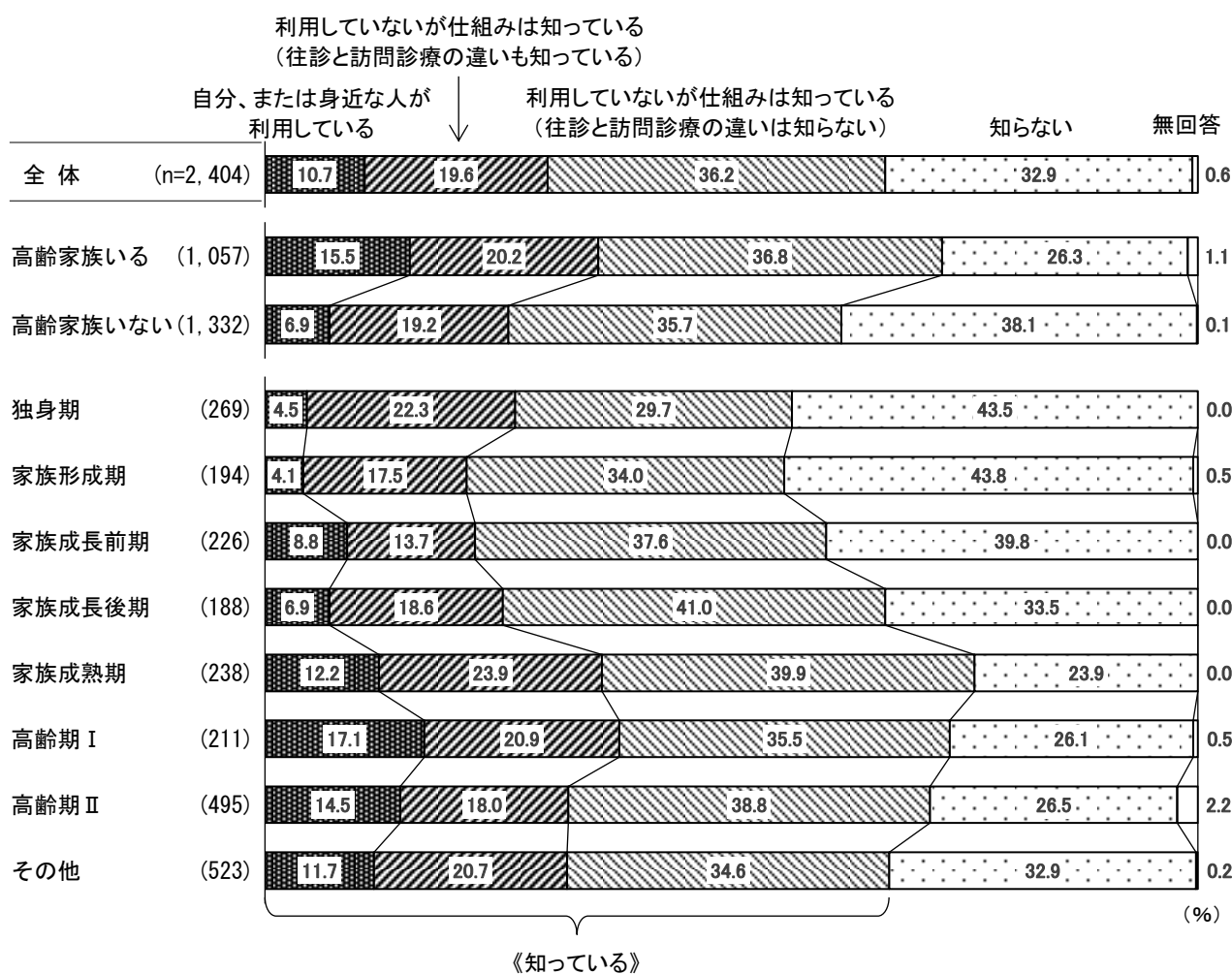
「在宅医療」の認知度を聞いたところ、「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いは知らない）」（36.2%）が３割半ば、「利用していないが仕組みは知っている（往診と訪問診療の違いも知っている）」（19.6%）、「自分、または身近な人が利用している」（10.7%）と合わせた《知っている》（66.6%）が７割近くとなっている。（図５－３－１）

図 5-3-2 「在宅医療」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知っている》はすべての年代で男性より女性の方が高く、特に女性の80歳以上で8割となっている。「自分、または身近な人が利用している」は女性の80歳以上で3割近くとなっている。(図5-3-2)

図 5-3-3 「在宅医療」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、「自分、または身近な人が利用している」は高齢家族がいる世帯が1割半ばで、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフステージ別にみると、《知っている》は家族成熟期で7割半ば、高齢期 I、高齢期 II で7割を超えている。「自分、または身近な人が利用している」は高齢期 I で2割近くとなっている。

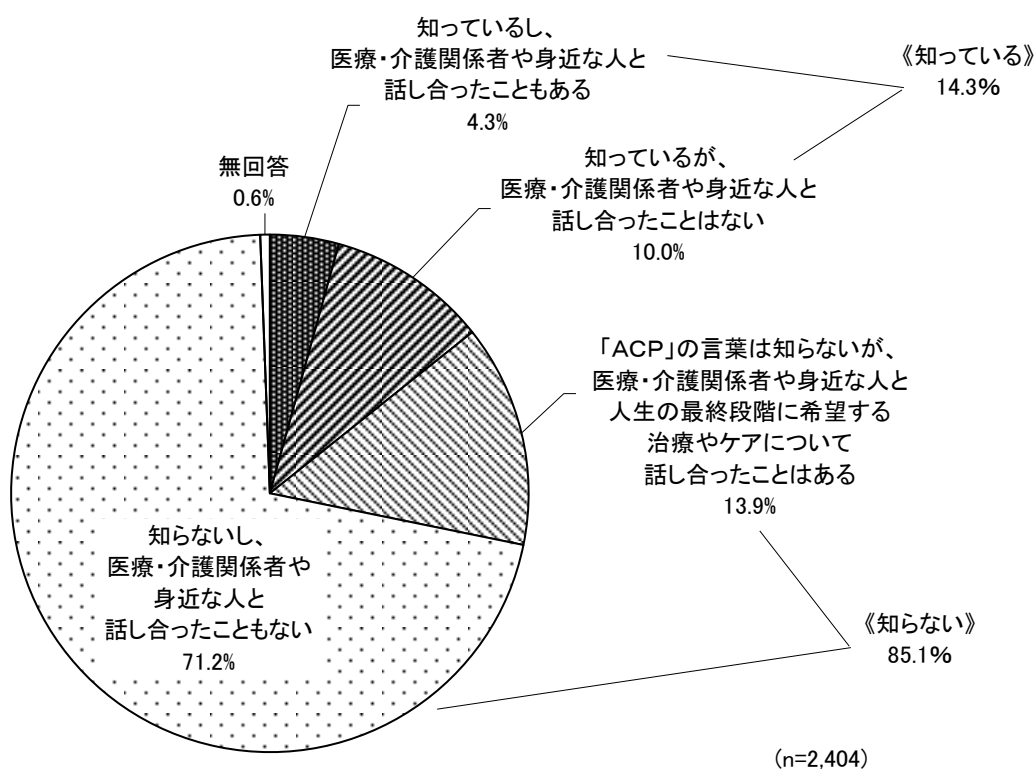
(図 5-3-3)

(4)「ACP」(アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)の認知度

◎《知らない》が8割半ば、《知っている》は1割半ば

問14 あなたは、「ACP (アドバンス・ケア・プランニング：人生会議)」を知っていますか。
(○は1つ)

図5-4-1

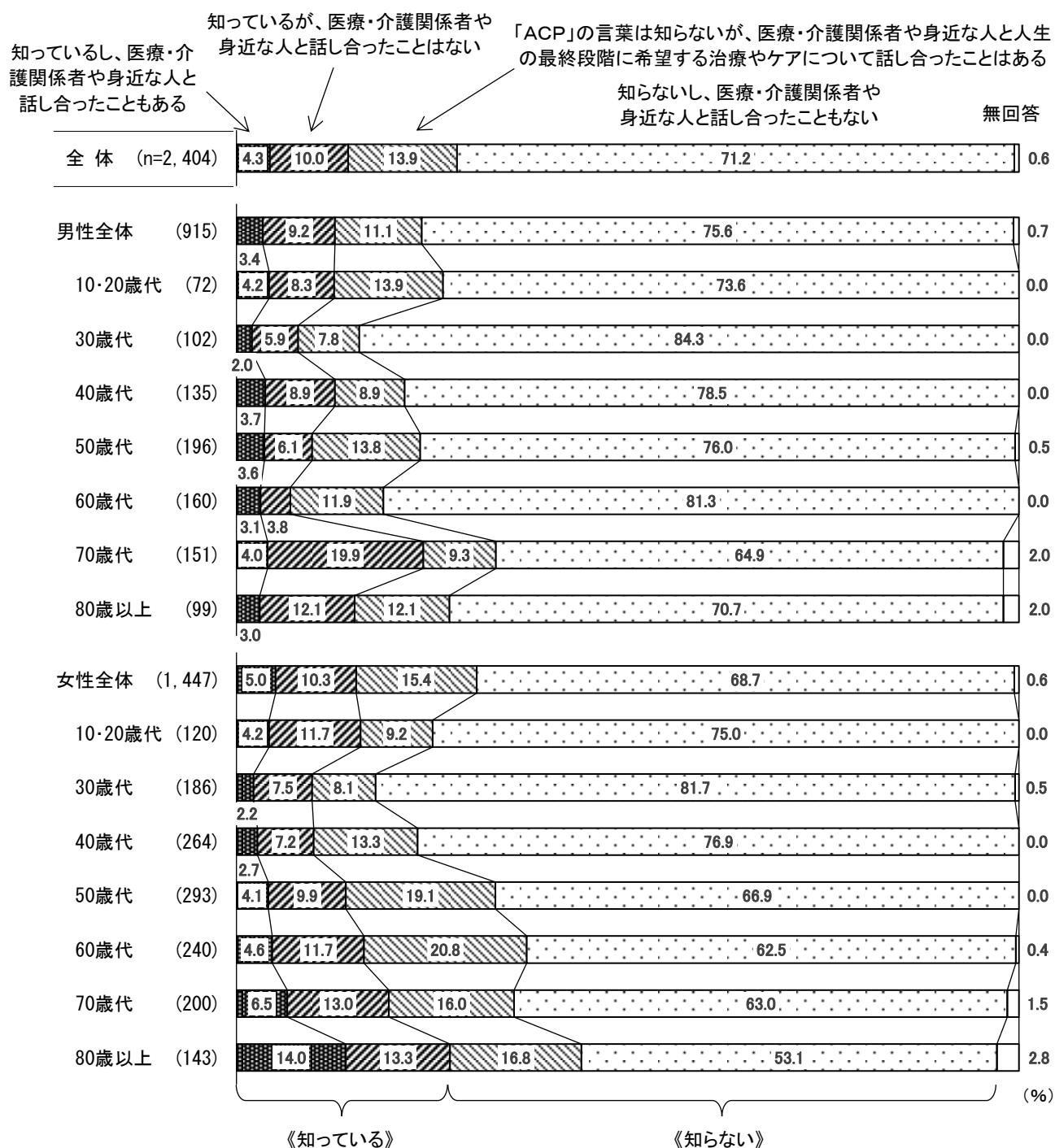


「ACP」の認知度を聞いたところ、「知らないし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともない」(71.2%)が7割を超えて最も高く、「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する治療やケアについて話し合ったことはある」(13.9%)を合わせた《知らない》(85.1%)は8割半ばとなっている。「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」(4.3%)と「知っているが、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったことはない」(10.0%)を合わせた《知っている》(14.3%)は1割半ばとなっている。

「知っているし、医療・介護関係者や身近な人と話し合ったこともある」と「「ACP」の言葉は知らないが、医療・介護関係者や身近な人と人生の最終段階に希望する治療やケアについて話し合ったことはある」を合わせた《話し合ったことがある》(18.2%)は2割近くとなっている。

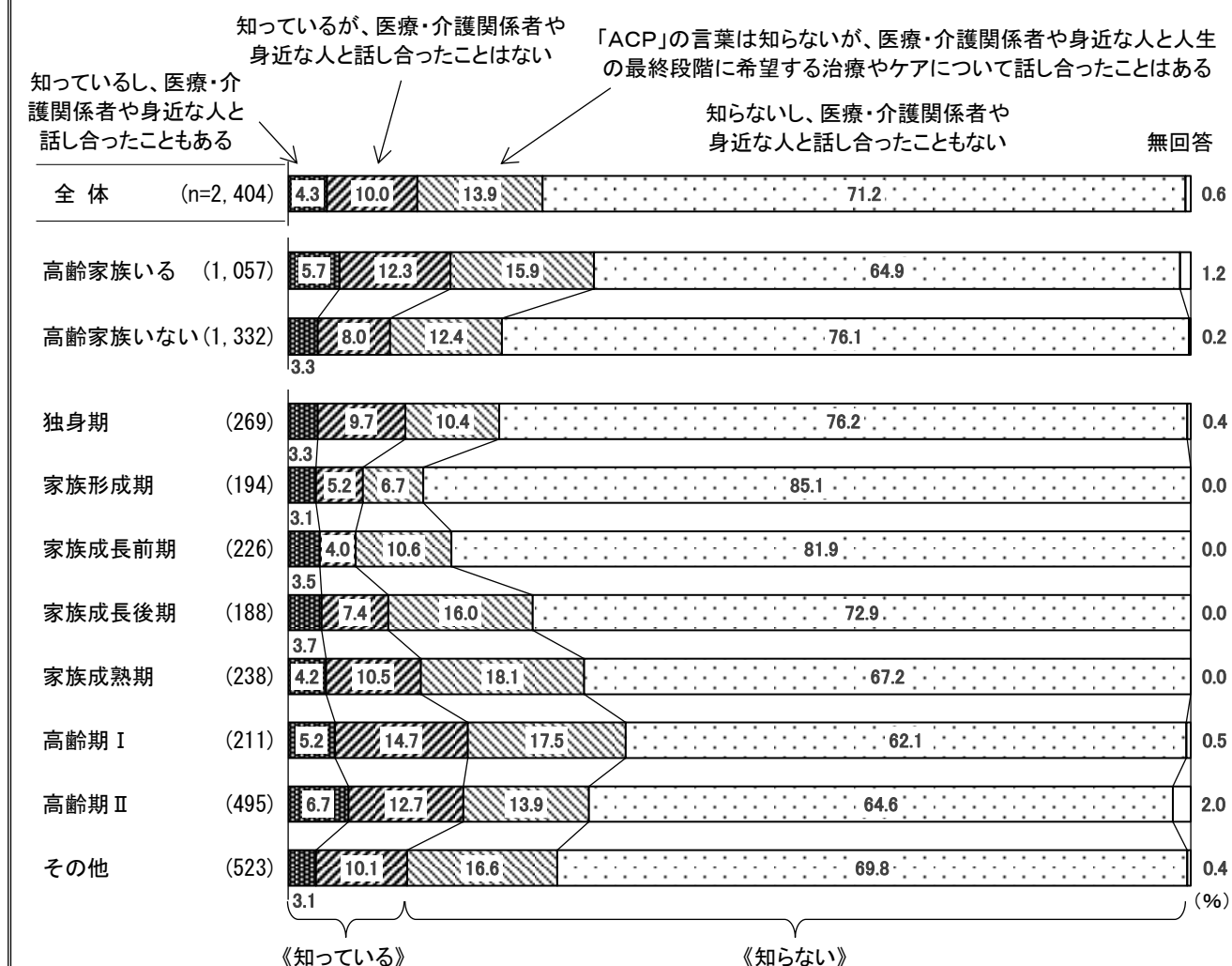
(図5-4-1)

図 5-4-2 「ACP」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《知らない》は男性の30歳代と60歳代で9割を超え、男性の50歳代、女性の30歳代と40歳代で9割となっている。《知っている》は女性の80歳以上で3割近く、男性の70歳代で2割を超えている。《話し合ったことがある》は女性の80歳以上でほぼ3割、女性の50歳代～70歳代で2割台と高くなっている。（図5-4-2）

図5-4-3 「ACP」の認知度（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は《知っている》が2割近く、《話し合ったことがある》が2割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

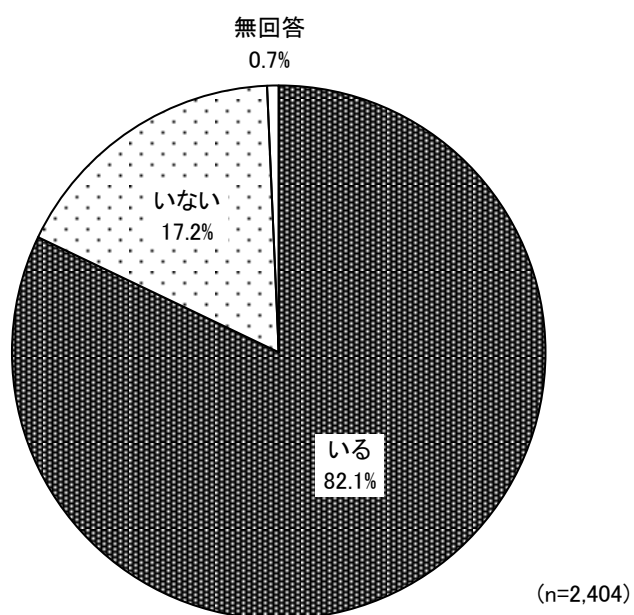
ライフステージ別にみると、《知らない》は家族形成期、家族成長前期で9割を超えている。《知っている》は高齢期Ⅰで2割、高齢期Ⅱではほぼ2割、《話し合ったことがある》は家族成熟期、高齢期Ⅰで2割を超えている。（図5-4-3）

（５）身近な相談相手の有無

◎「いる」が８割を超える

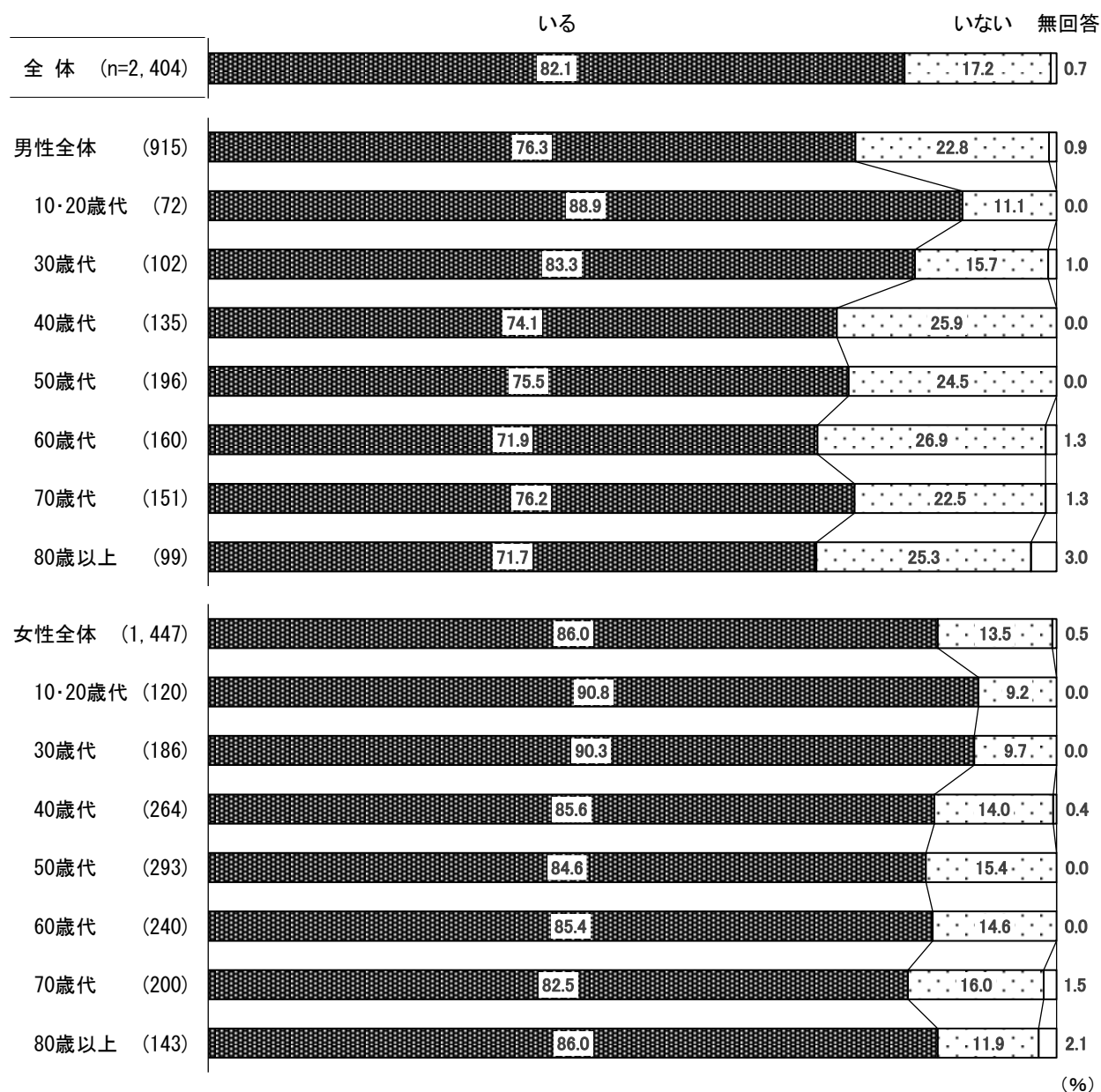
問１５ あなたは、あなたに不安や悩みが生じた場合、身近に相談相手はいますか。（○は１つ）

図５－５－１



不安や悩みが生じた場合に身近な相談相手がいるかを聞いたところ、「いる」（82.1％）が８割を超え、「いない」（17.2％）は２割近くとなっている。（図５－５－１）

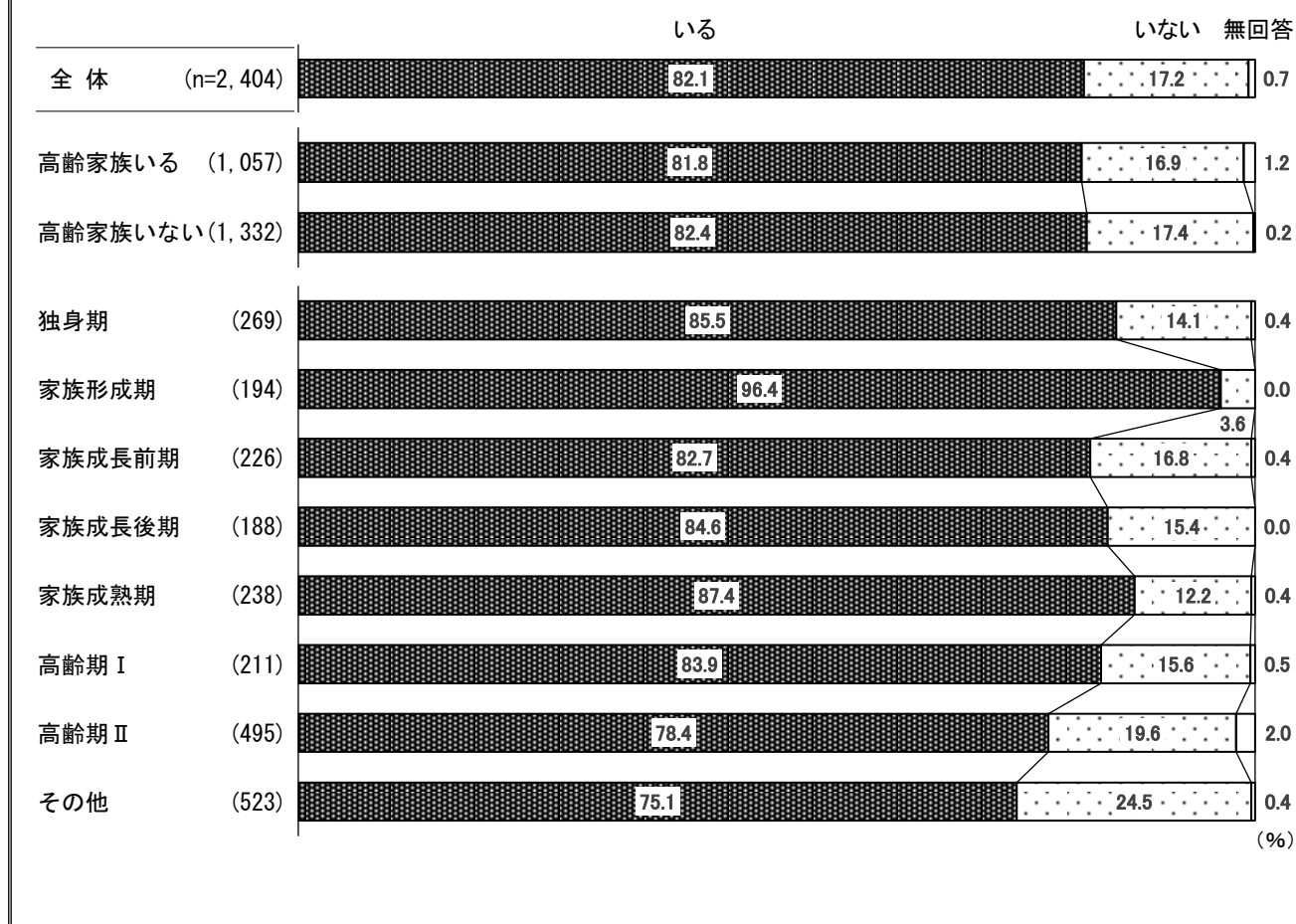
図 5-5-2 身近な相談相手の有無（性・年齢別）



(%)

性・年齢別にみると、「いる」は女性の10・20歳代でほぼ9割、女性の30歳代で9割、男性の10・20歳代で9割近くとなっており、男女とも30歳代以下が40歳代以上より高く、すべての年代で女性の方が男性より高い。「いない」は男性の40歳代以上で2割台となっている。（図5-5-2）

図 5-5-3 身近な相談相手の有無（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯といない世帯で大きな差はみられない。

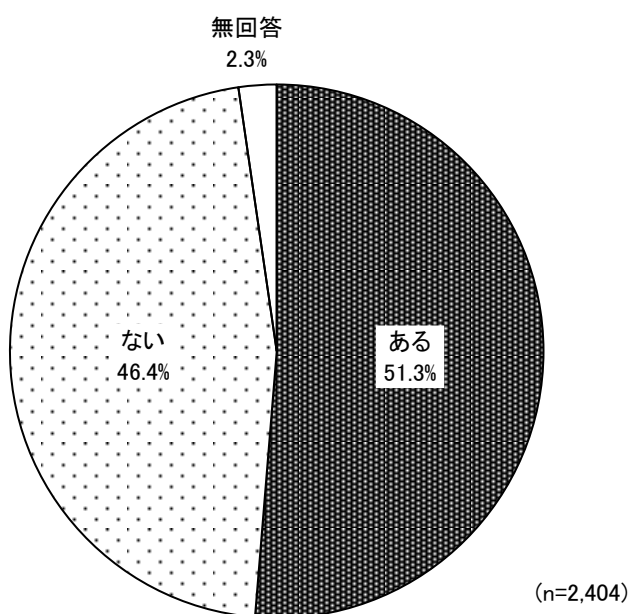
ライフステージ別にみると、「いる」は家族形成期で9割半ばと高い。「いない」はその他が2割半ば、高齢期Ⅱが2割となっている。（図5-5-3）

（６）日常生活の不安や悩みの有無

◎「ある」が５割を超える

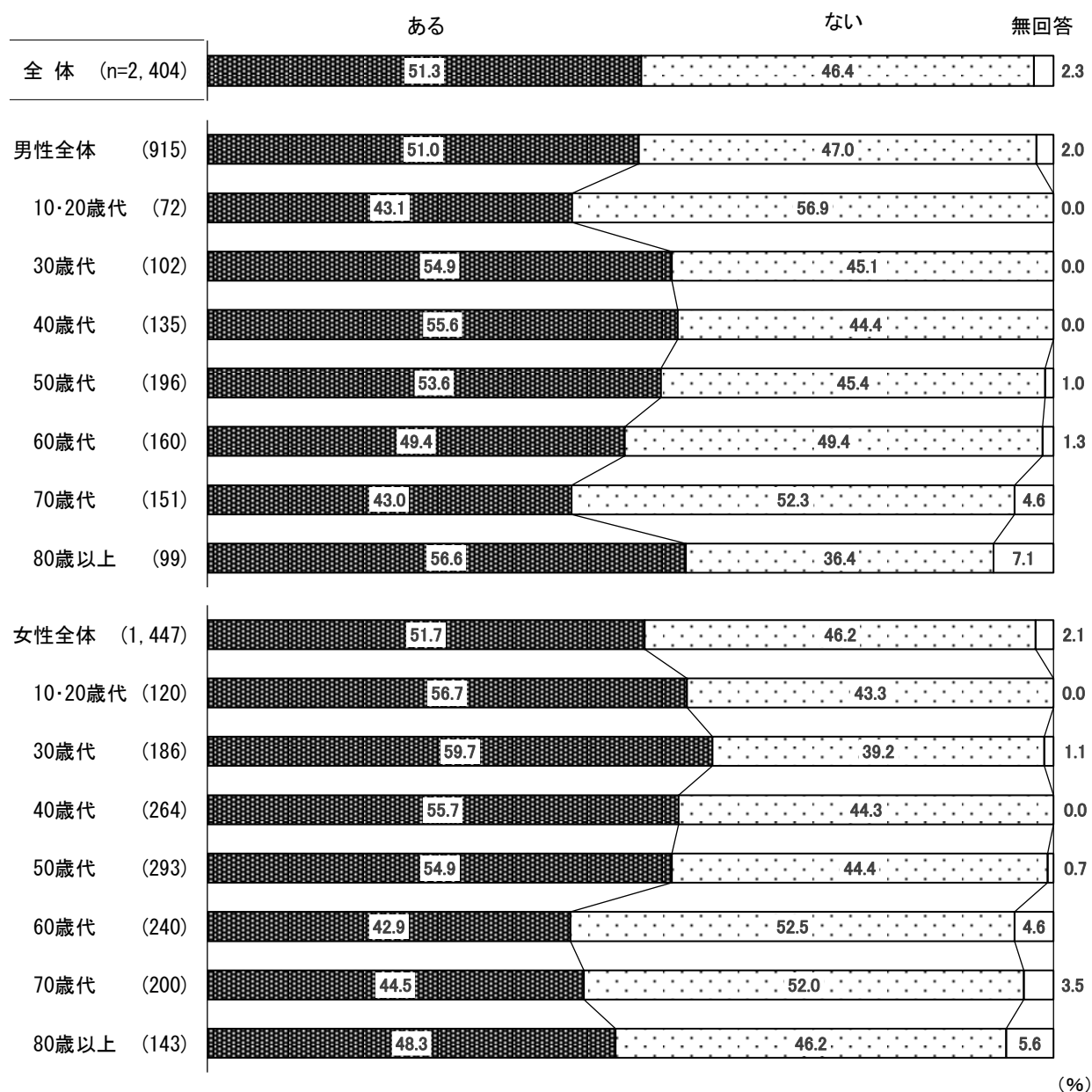
問１６ あなたは現在日常生活において不安や悩みを感じることはありますか。（○は１つ）

図５－６－１



現在、日常生活において不安や悩みを感じることはあるかを聞いたところ、「ある」（51.3％）が５割を超え、「ない」（46.4％）は４割半ばとなっている。（図５－６－１）

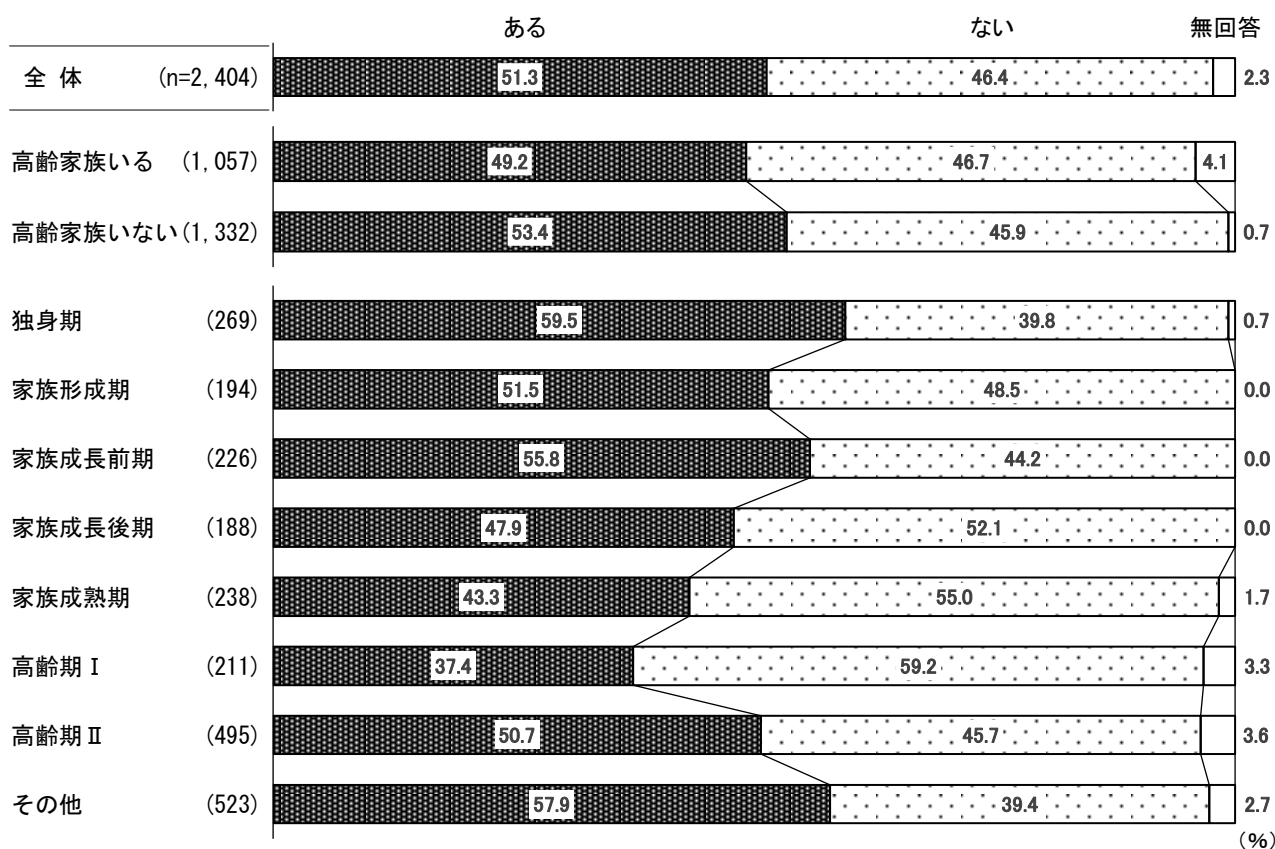
図 5 - 6 - 2 日常生活の不安や悩みの有無（性・年齢別）



(%)

性・年齢別にみると、「ある」は男性の30歳代～50歳代と80歳以上、女性の50歳代以下で5割台となっている。「ない」は男性の10・20歳代で6割近く、男性の70歳代、女性の60歳代と70歳代で5割を超えている。（図5-6-2）

図 5 - 6 - 3 日常生活の不安や悩みの有無（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、「ある」は高齢家族がいない世帯で5割を超え、高齢家族がいる世帯より高い。

ライフステージ別にみると、「ある」は独身期で6割、その他で6割近く、家族成長前期で5割半ばとなっている。「ない」は高齢期 I でほぼ6割、家族成熟期で5割半ば、家族成長後期で5割を超えている。（図 5 - 6 - 3）

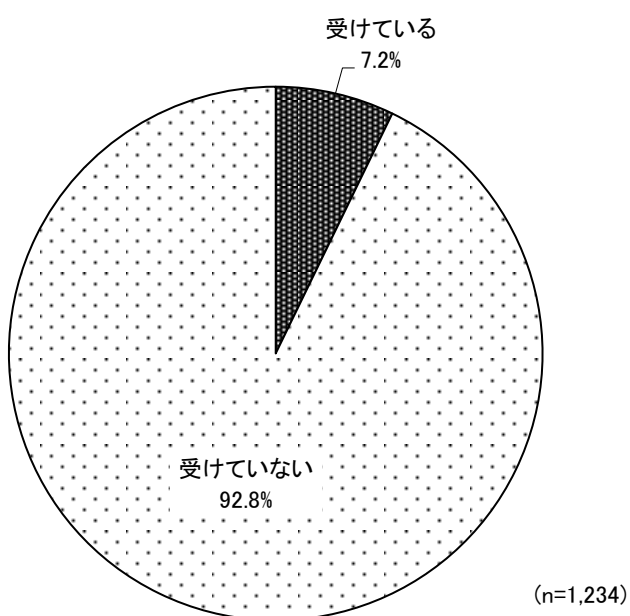
(7) 行政機関や民間団体からの支援

◎「受けていない」が9割を超える

(問16で「ある」と答えた方に)

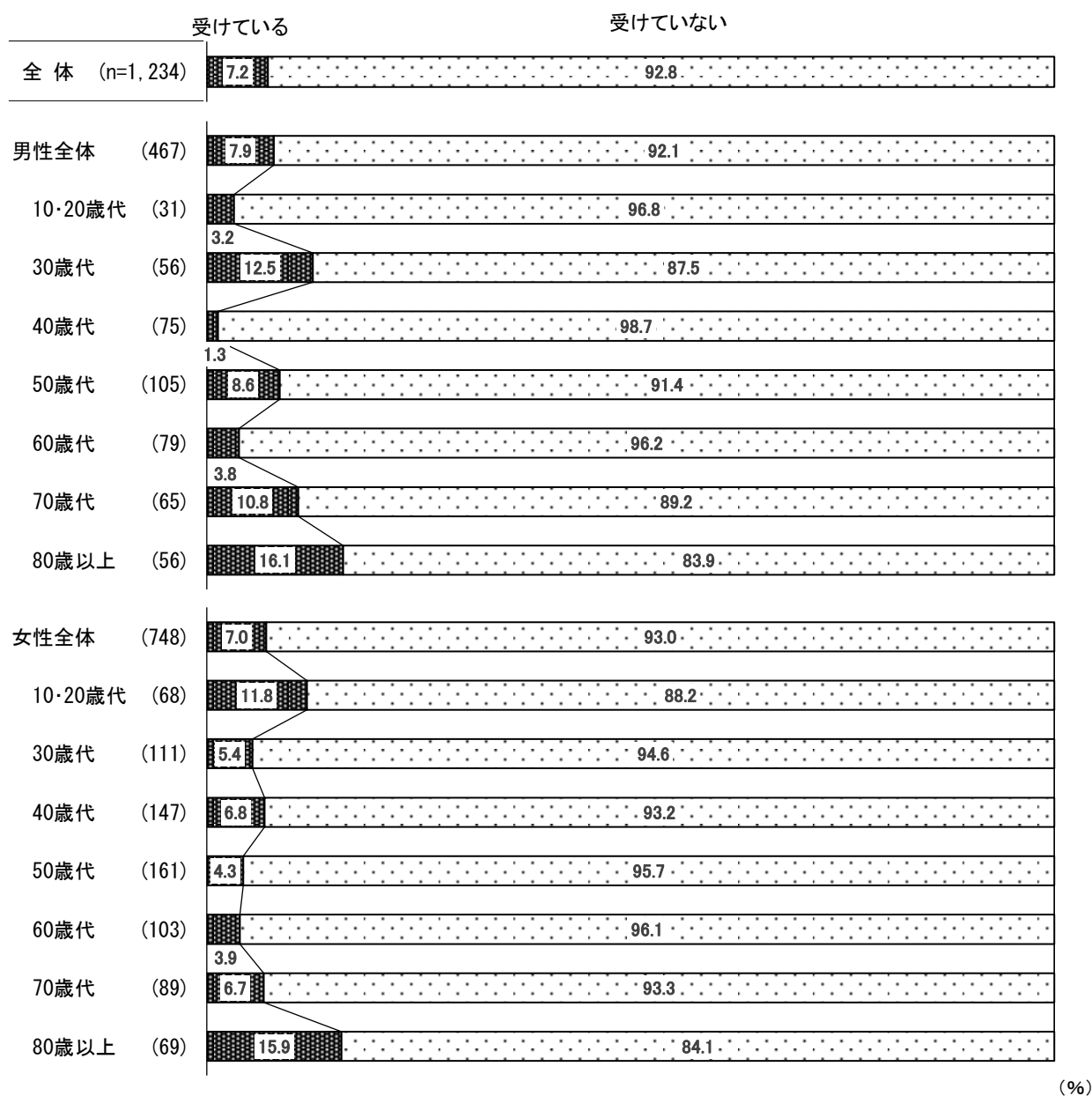
問16-1 あなたは、日常生活における不安や悩みについて、行政機関やNPOなどの民間団体から支援を受けていますか。(○は1つ)

図5-7-1



日常生活の不安や悩みが「ある」と答えた方(1,234人)に、日常生活の不安や悩みについて行政機関や民間団体からの支援を受けているか聞いたところ、「受けていない」(92.8%)が9割を超え、「受けている」(7.2%)は1割未満となっている。(図5-7-1)

図 5 - 7 - 2 行政機関や民間団体からの支援（性・年齢別）

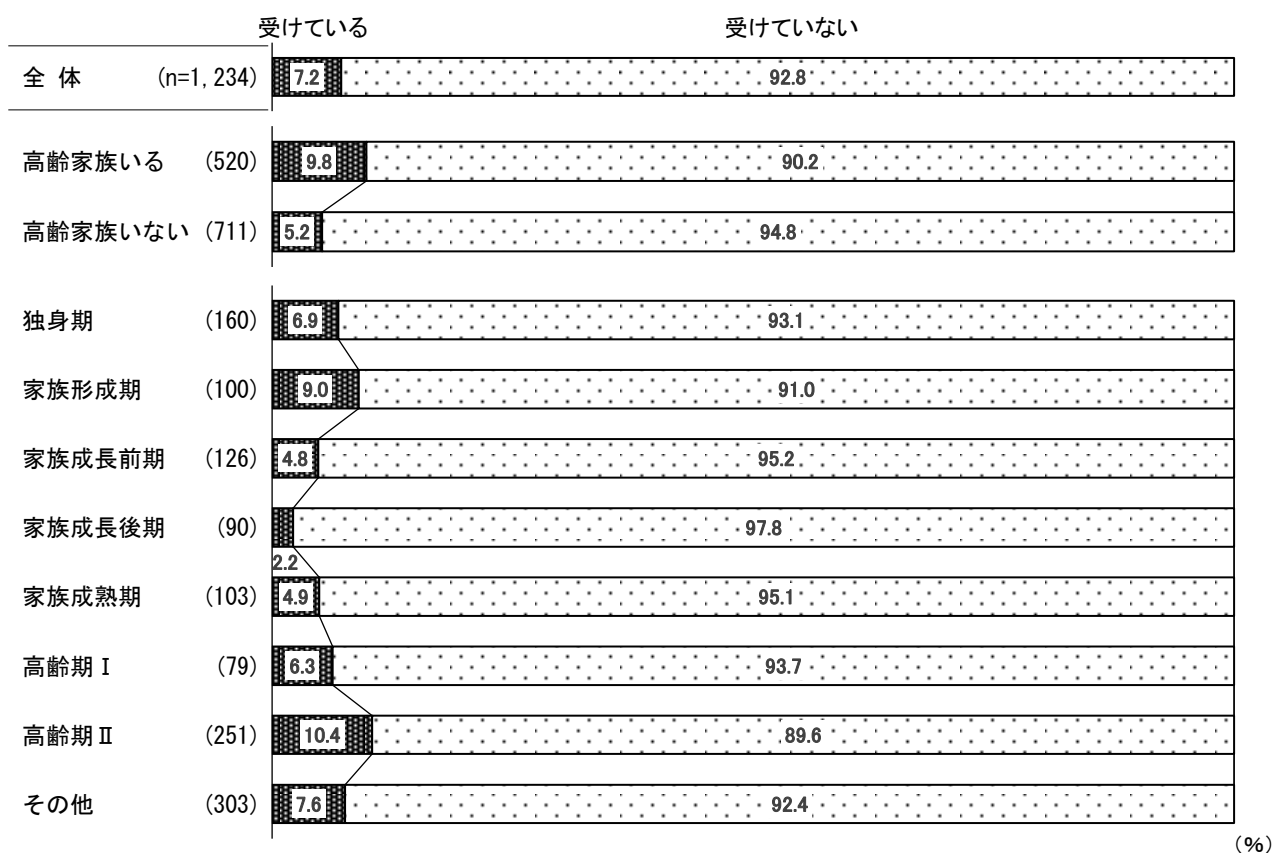


(%)

性・年齢別にみると、「受けている」は男女とも80歳以上が最も高く1割半ばとなっている。男性の30歳代、女性の10・20歳代で1割を超え、男性の70歳代でほぼ1割となっている。

(図 5 - 7 - 2)

図 5-7-3 行政機関や民間団体からの支援（高齢家族の有無別・ライフステージ別）



高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「受けている」が1割で、高齢家族がいない世帯より高い。

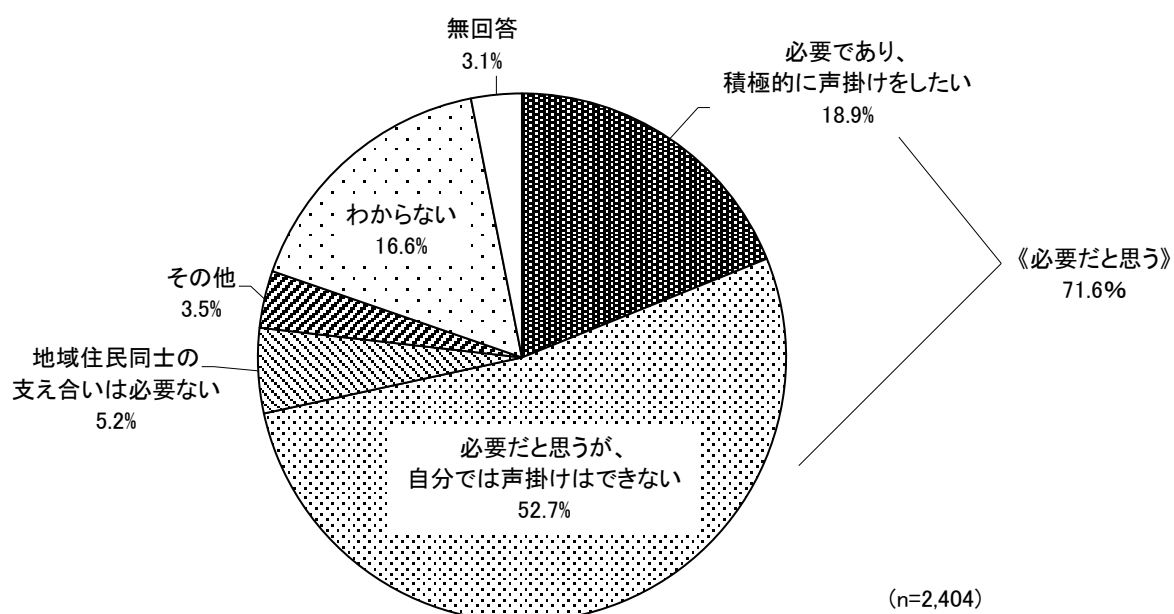
ライフステージ別にみると、「受けている」は高齢期Ⅱで1割、家族形成期でほぼ1割となっている。（図5-7-3）

（８）地域住民同士の支え合いについて

◎「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」が５割を超える

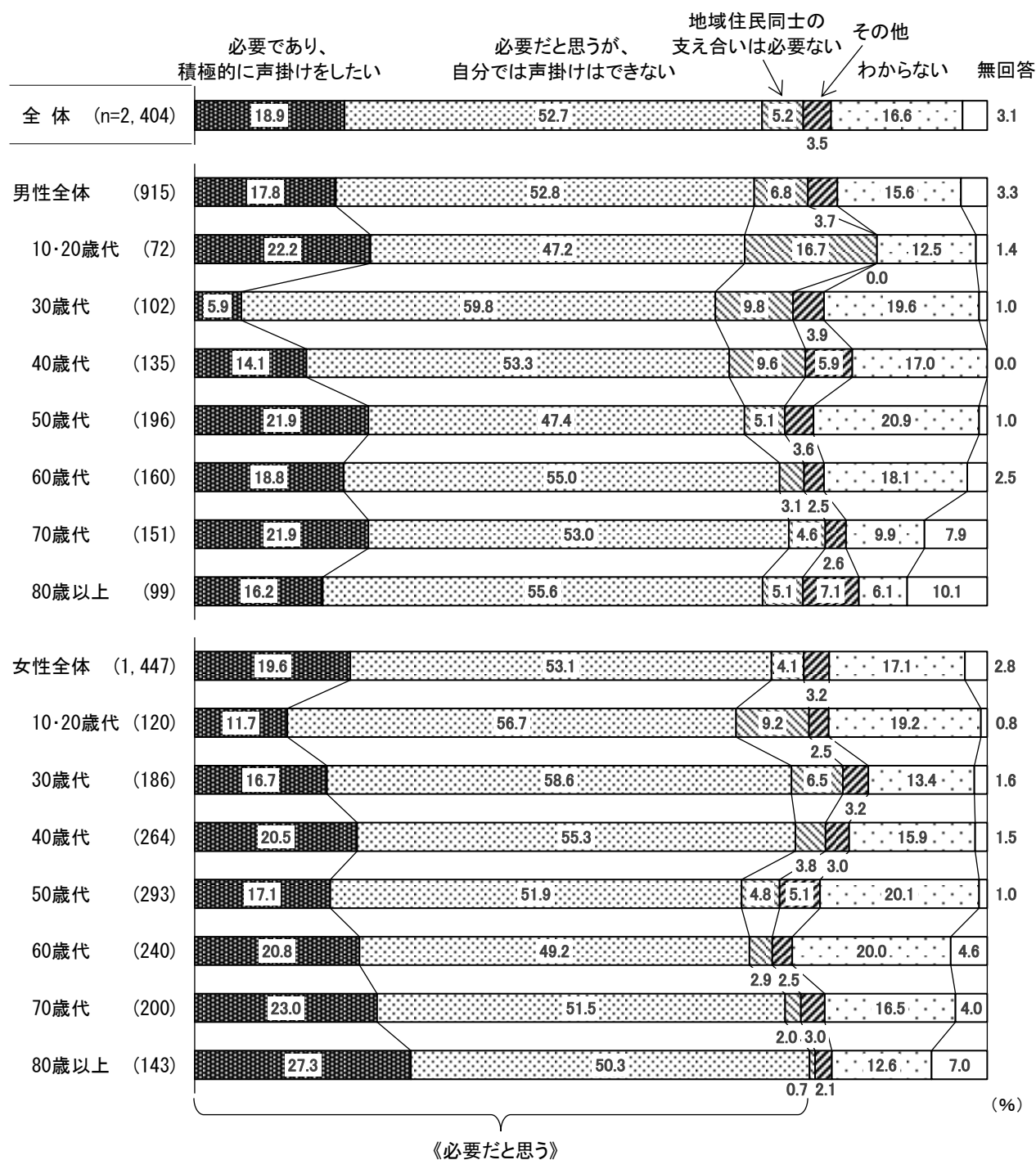
問１７ 不安や悩みを抱えている周りの人へ声掛けをするなどの地域住民同士の支え合いについて、最も近い考え方はどれですか。（○は１つ）

図５－８－１



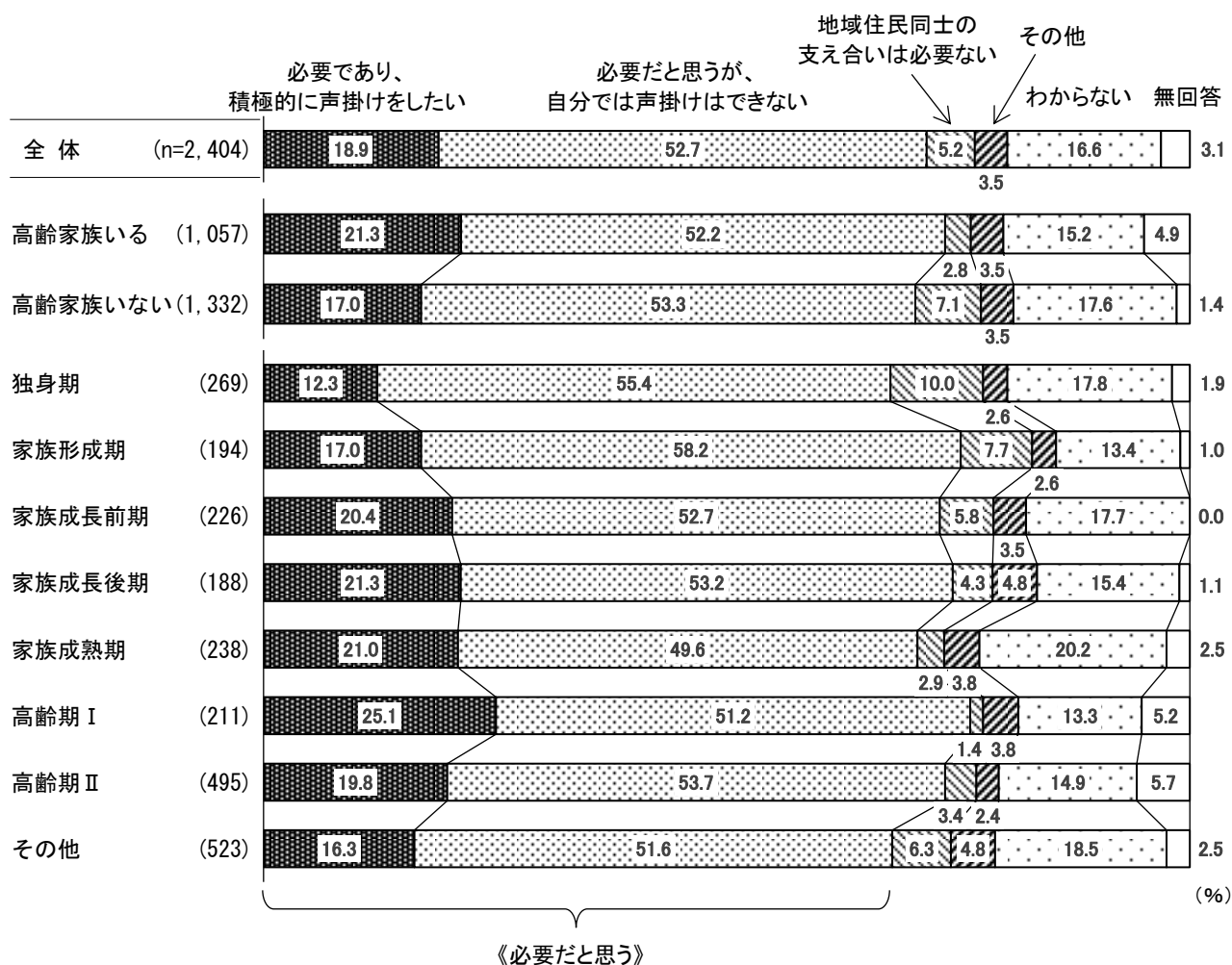
地域住民同士の支え合いについて聞いたところ、「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」（52.7%）が５割を超えて最も高く、次いで「必要であり、積極的に声掛けをしたい」（18.9%）が続く。「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」と「必要であり、積極的に声掛けをしたい」を合わせた《必要だと思う》（71.6%）は７割を超える。（図５－８－１）

図 5 - 8 - 2 地域住民同士の支え合いについて（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《必要だと思う》は女性の80歳以上で8割近く、男性の70歳代、女性の30歳代と40歳代と70歳代で7割半ばとなっている。「必要であり、積極的に声掛けをしたい」は女性の80歳以上で3割近く、「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」は男性の30歳代で6割、女性の10・20歳代と30歳代で6割近くとなっている。一方、「地域住民同士の支え合いは必要ない」は男性の10・20歳代で2割近くとなっている。（図5-8-2）

図 5-8-3 地域住民同士の支え合いについて（高齢家族の有無別・ライフステージ別）

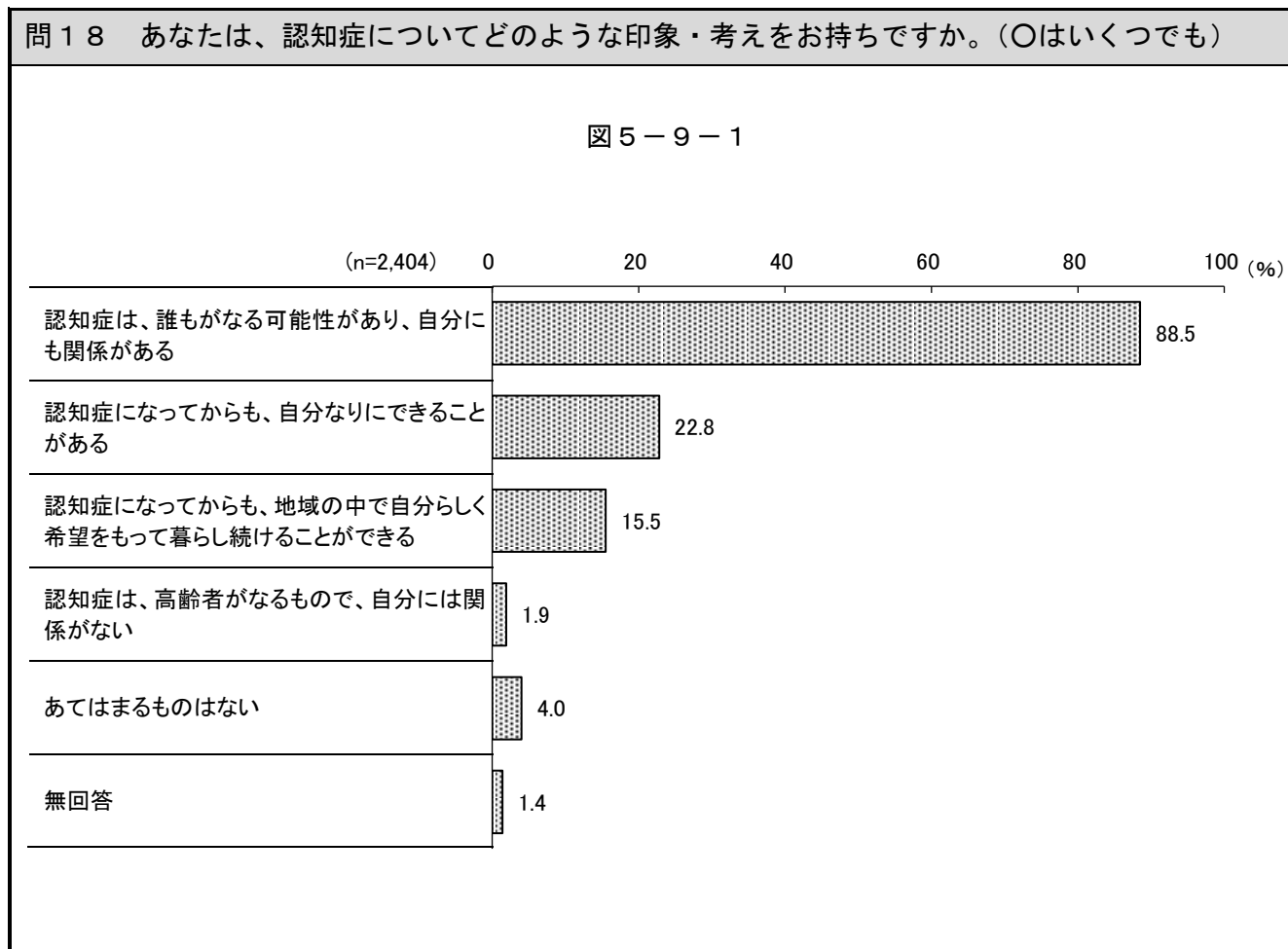


高齢家族の有無別にみると、「必要であり、積極的に声掛けをしたい」は高齢家族がいる世帯で2割を超え、高齢家族がいない世帯より高い。

ライフステージ別にみると、「必要であり、積極的に声掛けをしたい」は高齢期Ⅰで2割半ば、家族成長後期、家族成熟期で2割を超える。「必要だと思うが、自分では声掛けはできない」は家族形成期で6割近く、独身期で5割半ばとなっている。《必要だと思う》は独身期とその他を除くすべてのライフステージで7割台となっている。（図5-8-3）

（９）認知症についての印象

◎「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」と考えている方が９割近く



認知症についての印象・考えを聞いたところ、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」（88.5%）が９割近くで最も高く、以下、「認知症になってからも、自分なりにできることがある」（22.8%）、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」（15.5%）などと続く。（図 5－9－1）

表 5－9－1 認知症についての印象（性・年齢別）

(%)

		n	認知症は、 自分にも誰 も関係があ る可能性が ある	認知症にな ってからも 、自分なり にできるこ とがある	認知症にな ってからも 、地域の中 で自分らし く希望をも って暮らし 続けること ができる	認知症は、 関係がな い	あてはまる ものはない	無 回 答
全 体		2,404	88.5	22.8	15.5	1.9	4.0	1.4
性・ 年 齢 別	男性全体	915	86.1	19.6	13.8	1.7	5.4	1.6
	10・20歳代	72	79.2	16.7	12.5	2.8	9.7	1.4
	30歳代	102	83.3	12.7	3.9	4.9	8.8	1.0
	40歳代	135	87.4	13.3	5.9	2.2	4.4	0.7
	50歳代	196	87.8	16.8	12.2	2.6	5.1	1.5
	60歳代	160	91.3	21.3	15.6	－	4.4	1.3
	70歳代	151	88.1	29.8	23.2	0.7	3.3	2.6
	80歳以上	99	77.8	24.2	21.2	－	5.1	3.0
	女性全体	1,447	90.2	24.8	16.5	2.0	3.2	1.1
	10・20歳代	120	78.3	11.7	7.5	10.0	6.7	0.8
	30歳代	186	87.6	12.9	7.0	5.9	5.4	1.1
	40歳代	264	91.3	17.8	14.0	1.1	4.2	－
	50歳代	293	93.2	24.6	16.0	0.7	1.7	0.3
	60歳代	240	91.7	33.8	20.8	－	0.8	3.3
	70歳代	200	94.0	37.5	25.0	－	2.0	0.5
	80歳以上	143	87.4	32.2	22.4	0.7	4.9	2.1

性・年齢別にみると、「認知症は、誰もができる可能性があり、自分にも関係がある」はいずれの年代も7割～9割台と高い。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は女性の60歳代以上で3割台、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」は男性の70歳代以上、女性の60歳代以上で2割台と高い。（表5－9－1）

表 5-9-2 認知症についての印象（高齢家族の有無別・ライフステージ別）

(%)								
		n	認知症は、 自分にも 関係がある 可能性が あり	認知症にな ってからも 、自分な りにでき ることが ある	認知症にな ってからも 、地域の中 で自分らし く希望をも って暮らし 続けること ができる	認知症は、 高齢者が なるもので 、自分には 関係がない	あてはまる ものはない	無回答
全 体		2,404	88.5	22.8	15.5	1.9	4.0	1.4
高齢家族別	いる	1,057	89.3	28.7	20.0	0.7	2.8	1.9
	いない	1,332	87.9	18.3	12.1	2.9	5.0	0.9
ライフステージ別	独身期	269	81.8	14.1	9.3	6.3	7.8	1.1
	家族形成期	194	85.1	14.4	6.7	6.2	4.6	1.5
	家族成長前期	226	92.0	11.1	7.5	1.8	2.7	—
	家族成長後期	188	92.6	23.4	16.5	0.5	4.3	0.5
	家族成熟期	238	94.5	28.2	16.4	0.4	0.4	1.7
	高齢期Ⅰ	211	90.0	34.1	24.6	—	1.4	2.4
	高齢期Ⅱ	495	88.7	30.3	21.2	0.2	3.4	1.6
	その他	523	88.0	20.8	14.9	1.9	5.4	1.1

高齢家族の有無別にみると、高齢家族がいる世帯は「認知症になってからも、自分なりにできることがある」が3割近く、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」が2割で、いずれも高齢家族がいない世帯に比べ高い。

ライフステージ別にみると、「認知症は、誰もがなる可能性があり、自分にも関係がある」は家族成熟期が9割半ばで最も高い。「認知症になってからも、自分なりにできることがある」は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱが3割台で、「認知症になってからも、地域の中で自分らしく希望をもって暮らし続けることができる」も高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱが2割台となっている。（表5-9-2）

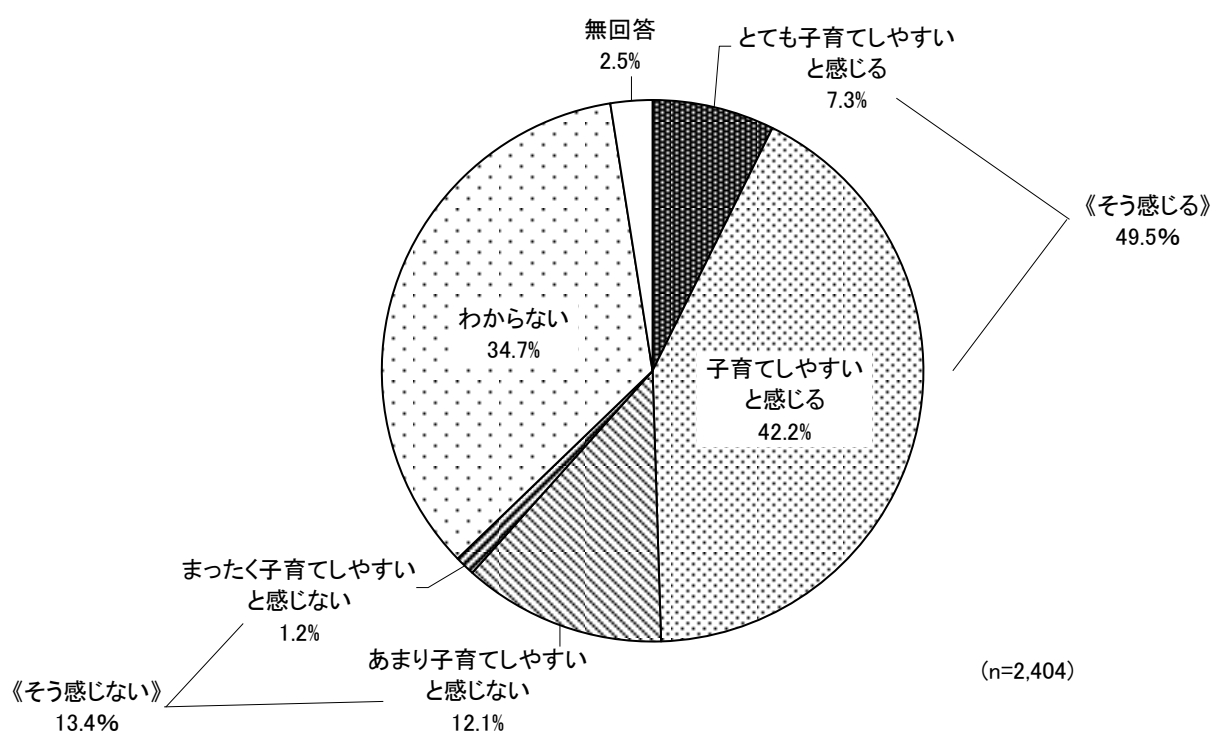
6. 子育て

(1) 区の子育て環境

◎「とても子育てしやすいと感じる」と「子育てしやすいと感じる」を合わせると5割

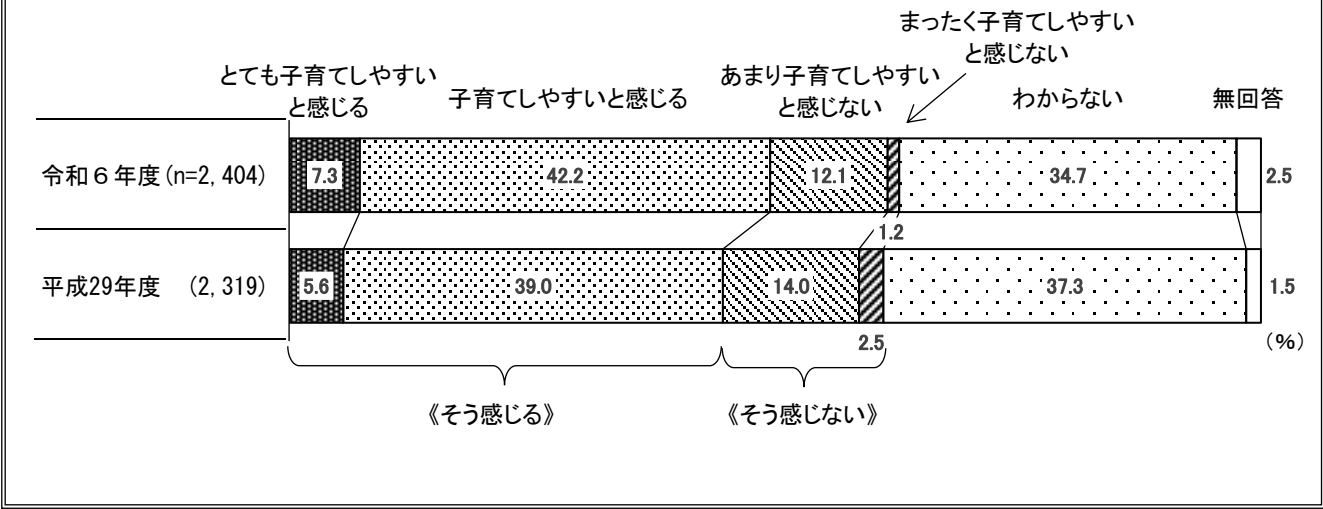
問19 あなたは、世田谷区は子育てをしやすいまちだと感じますか。(○は1つ)

図6-1-1



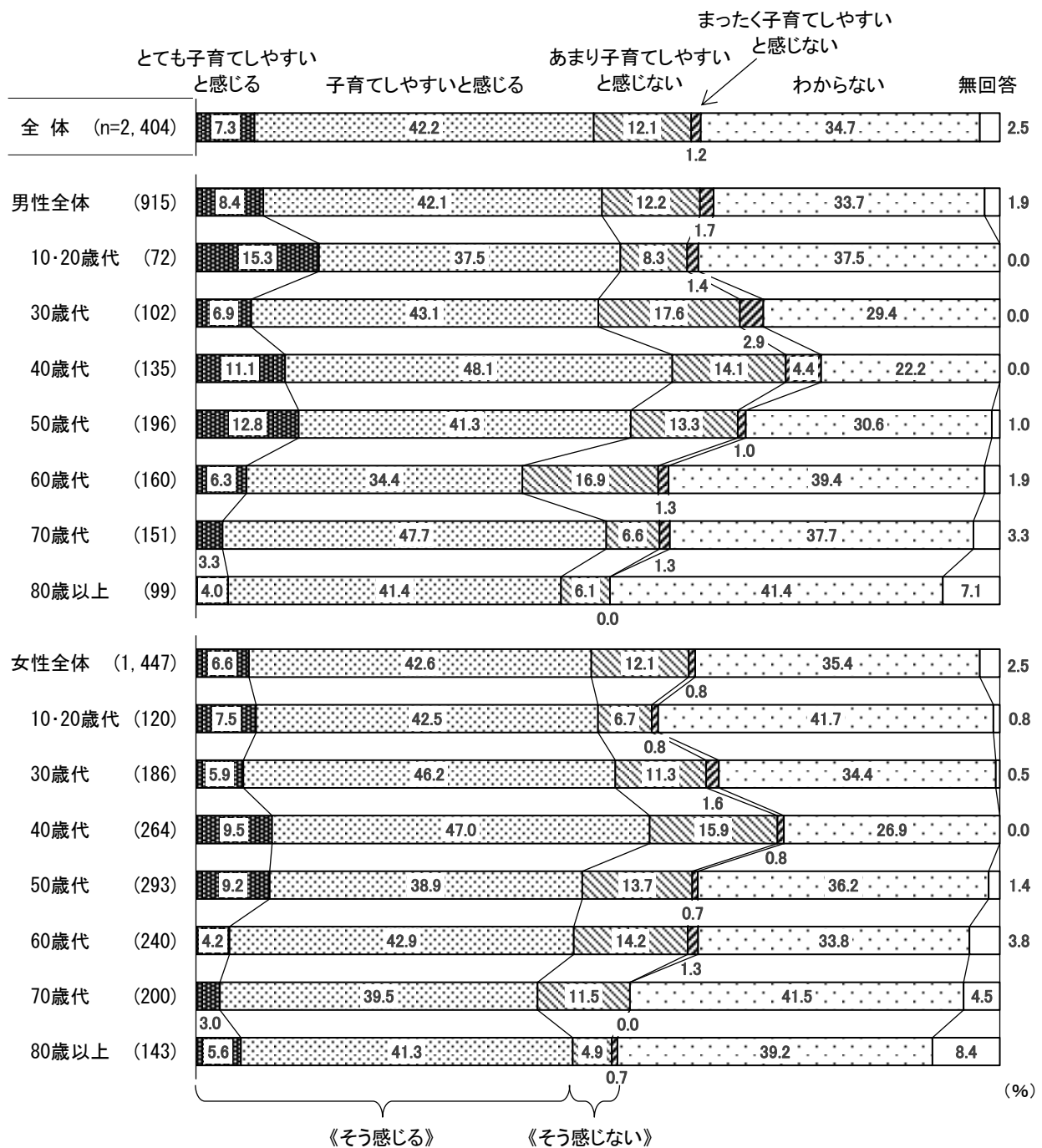
世田谷区の子育て環境について聞いたところ、「子育てしやすいと感じる」(42.2%)が4割を超え、「とても子育てしやすいと感じる」(7.3%)と合わせた《そう感じる》(49.5%)が5割、「あまり子育てしやすいと感じない」(12.1%)と「まったく子育てしやすいと感じない」(1.2%)を合わせた《そう感じない》(13.4%)が1割を超えている。(図6-1-1)

図 6－1－2 区の子育て環境（時系列）



平成 29 年度からの時系列の変化をみると、《そう感じる》は平成 29 年度（44.6％）から令和 6 年度（49.5％）で増加している。《そう感じない》は平成 29 年度（16.5％）から令和 6 年度（13.4％）でやや減少している。（図 6－1－2）

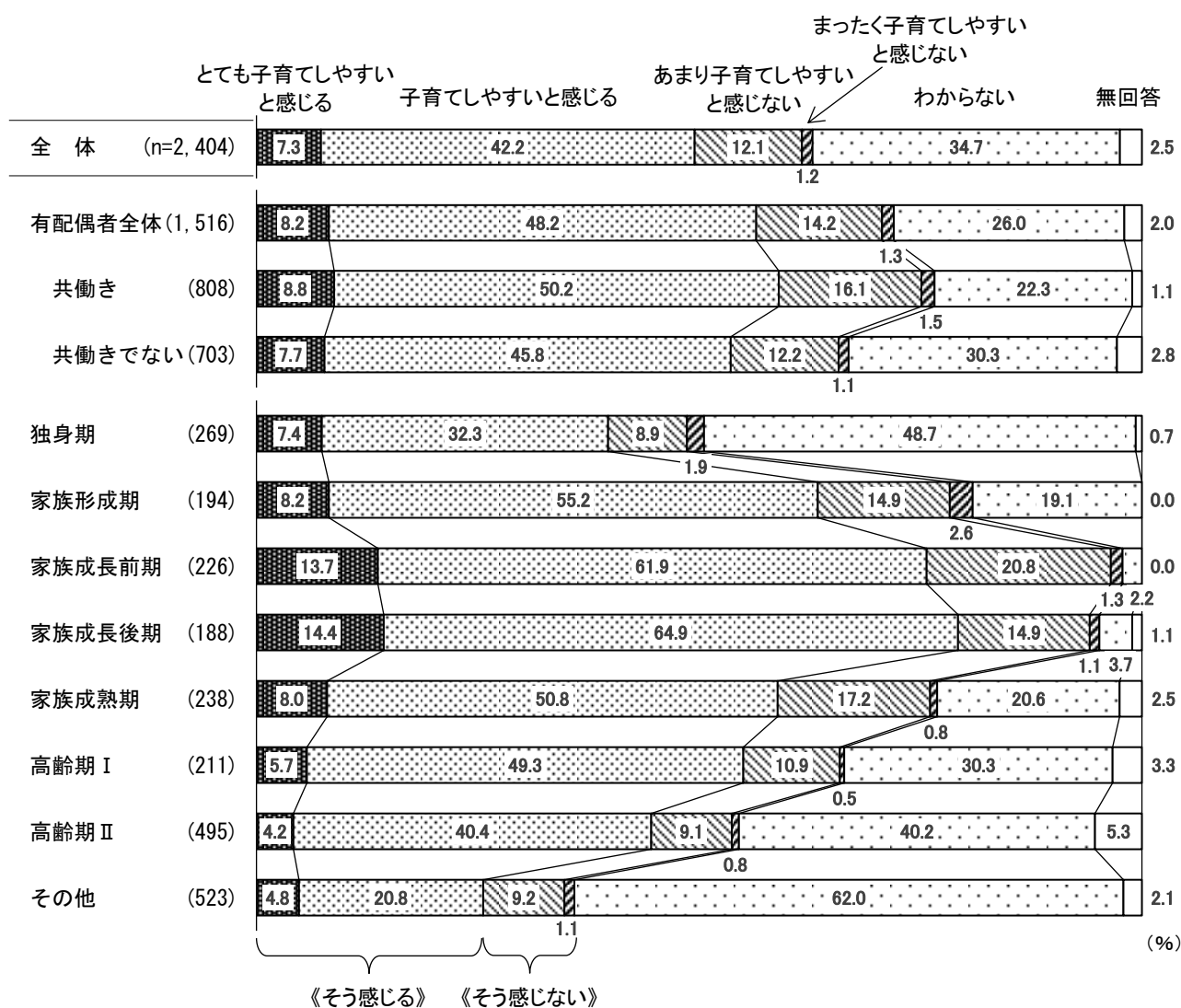
図 6 - 1 - 3 区の子育て環境（性・年齢別）



性・年齢別にみると、《そう感じる》は男性の40歳代でほぼ6割、男性の50歳代、女性の40歳代で5割半ば、男性の10・20歳代と70歳代、女性の30歳代で5割を超えている。《そう感じない》は男性の30歳代でほぼ2割、男性の40歳代と60歳代、女性の40歳代で2割近くとなっている。

(図 6 - 1 - 3)

図 6-1-4 区の子育て環境（共働きの有無別・ライフステージ別）



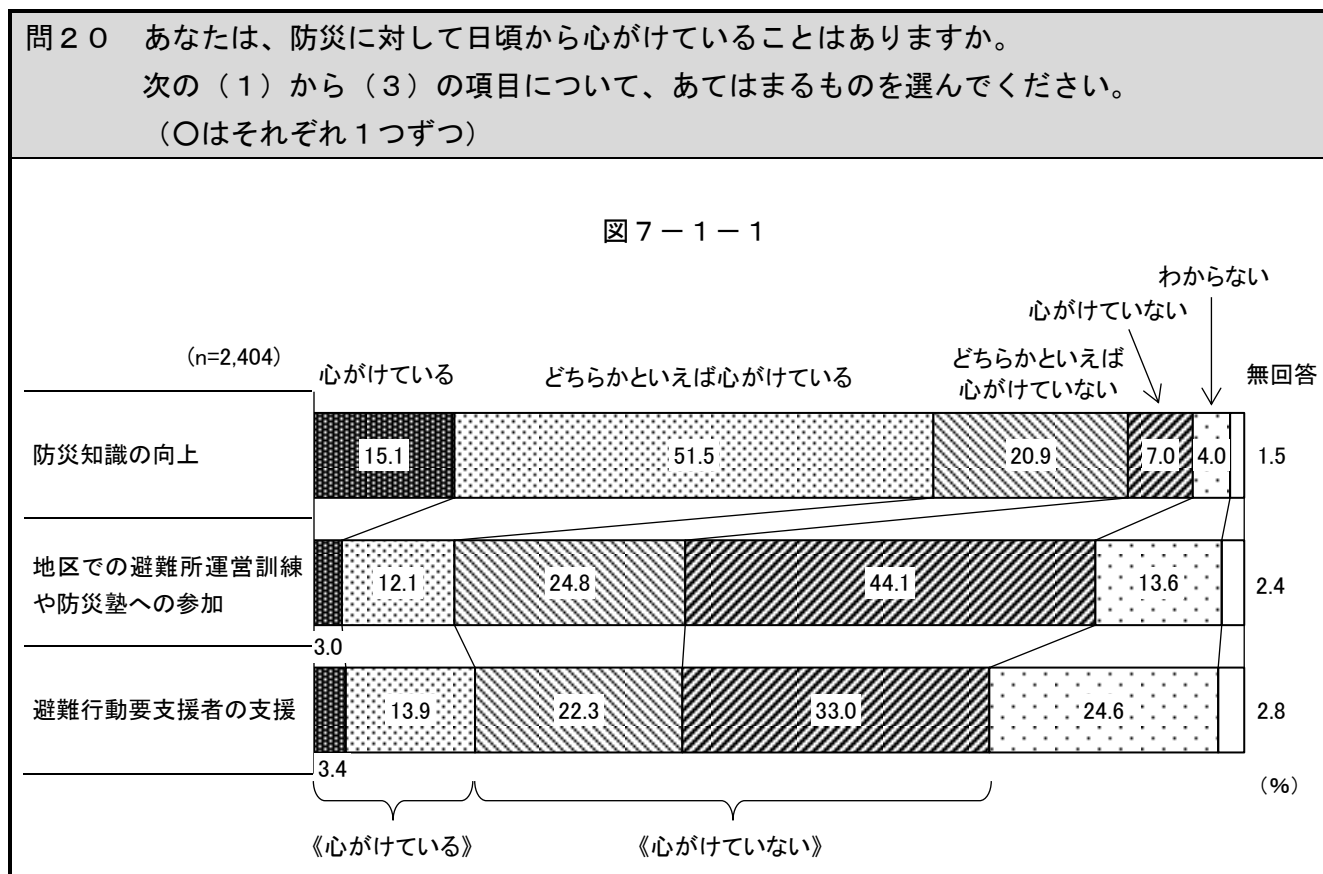
共働きの有無別にみると、共働き世帯は《そう感じる》がほぼ6割、《そう感じない》が2割近くで、いずれも共働きでない世帯より高い。

ライフステージ別にみると、《そう感じる》は家族成長後期でほぼ8割、家族成長前期で7割半ばとなっている。一方、《そう感じない》は家族成長前期で2割を超えている。（図6-1-4）

7. 災害時の備え

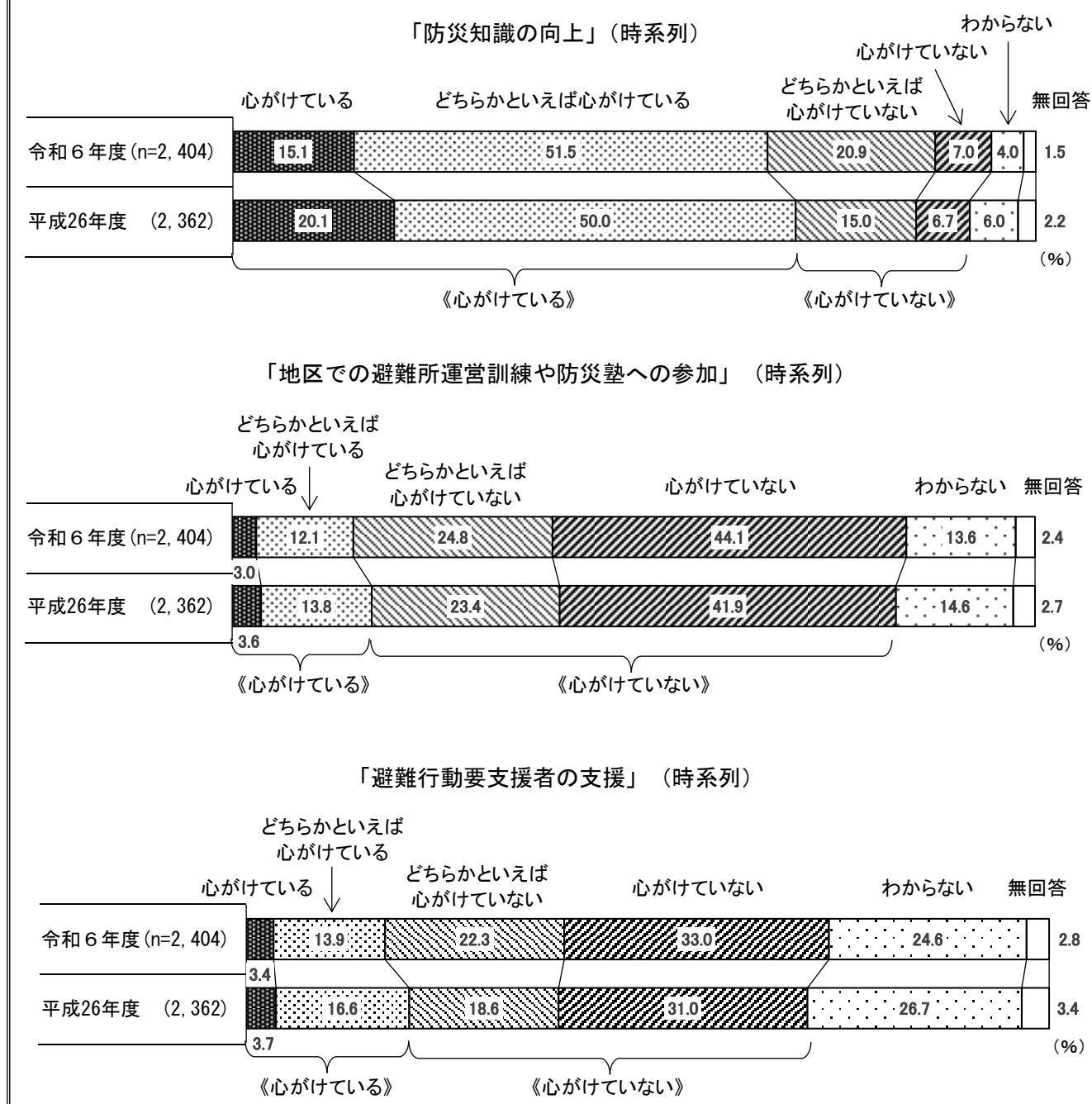
(1) 防災への対処

◎「防災知識の向上」は《心がけている》が7割近く



防災に対して日頃から心がけていることがあるか聞いたところ、「心がけている」と「どちらかといえば心がけている」を合わせた《心がけている》は「防災知識の向上」(66.5%)が7割近く、「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(15.1%)が1割半ば、「避難行動要支援者の支援」(17.3%)が2割近くとなっており、「防災知識の向上」を心がけている人が多い。「どちらかといえば心がけていない」と「心がけていない」を合わせた《心がけていない》は「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(68.8%)が7割近くで、他の2項目より高い。(図7-1-1)

図 7-1-2 防災への対処（時系列）



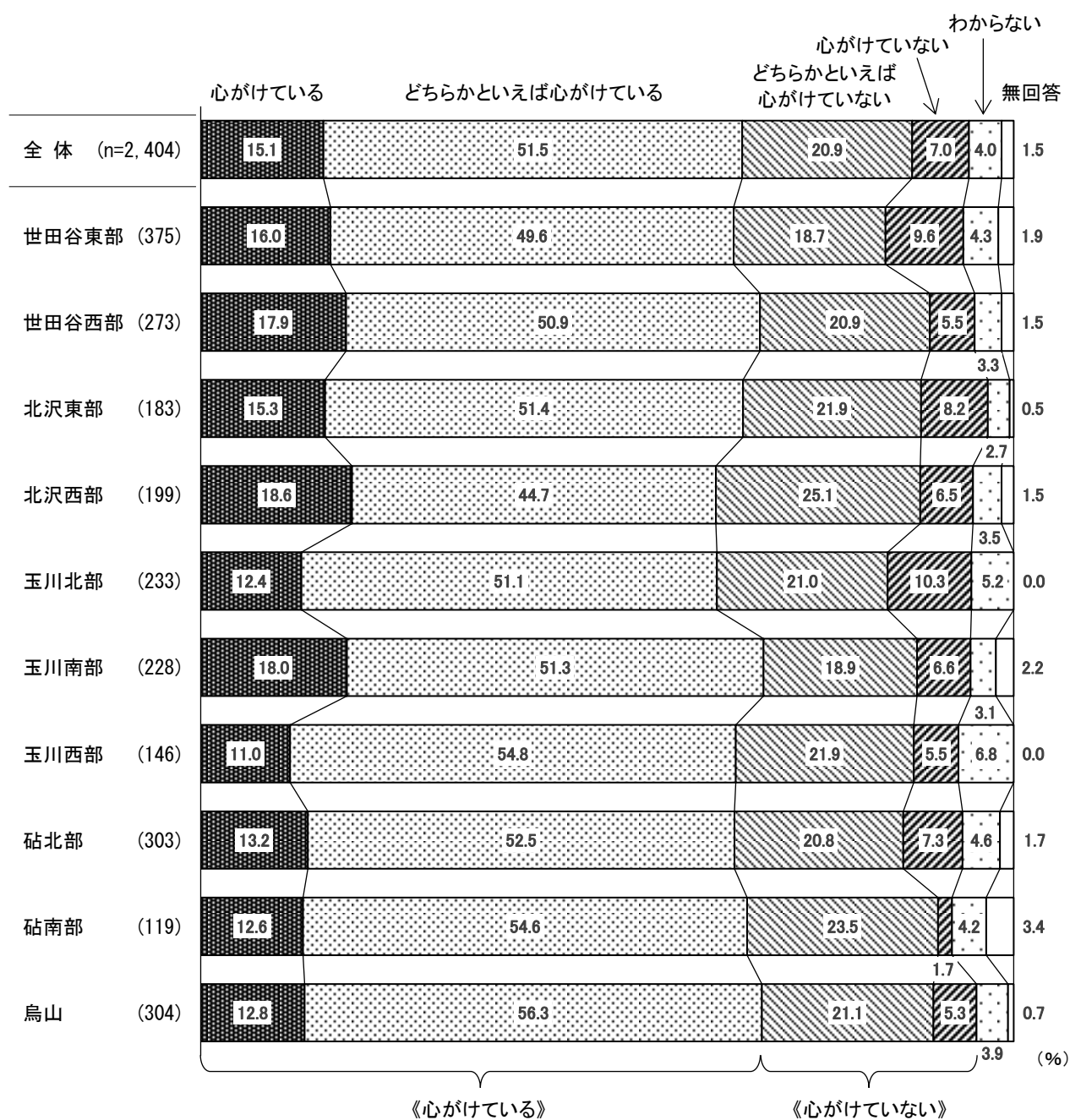
「防災知識の向上」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度（70.1%）から令和 6 年度（66.5%）でやや減少しており、《心がかけていない》は平成 26 年度（21.7%）から令和 6 年度（27.9%）で増加している。

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度（17.4%）から令和 6 年度（15.1%）で大きな違いはみられない。《心がかけていない》は平成 26 年度（65.3%）から令和 6 年度（68.8%）でやや増加している。

「避難行動要支援者の支援」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《心がかけている》は平成 26 年度（20.3%）から令和 6 年度（17.3%）でやや減少しており、《心がかけていない》は平成 26 年度（49.6%）から令和 6 年度（55.3%）で増加している。（図 7-1-2）

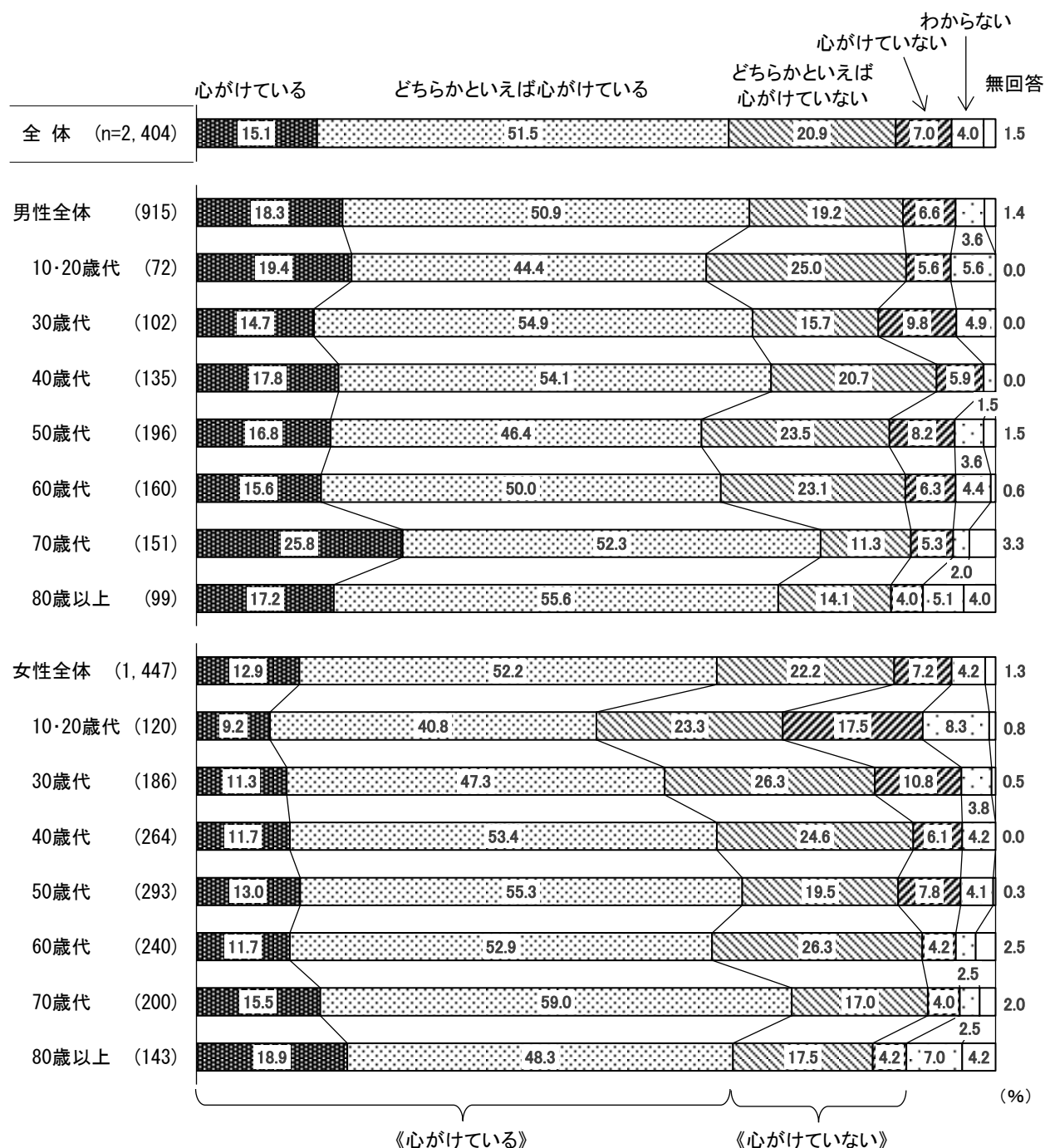
図 7-1-3 防災への対処

「防災知識の向上」(地域別)



「防災知識の向上」について地域別にみると、《心がけている》は玉川南部、烏山でほぼ7割、世田谷西部、砧南部、北沢東部で7割近くとなっている。《心がけていない》は北沢西部、玉川北部で3割を超えている。(図7-1-3)

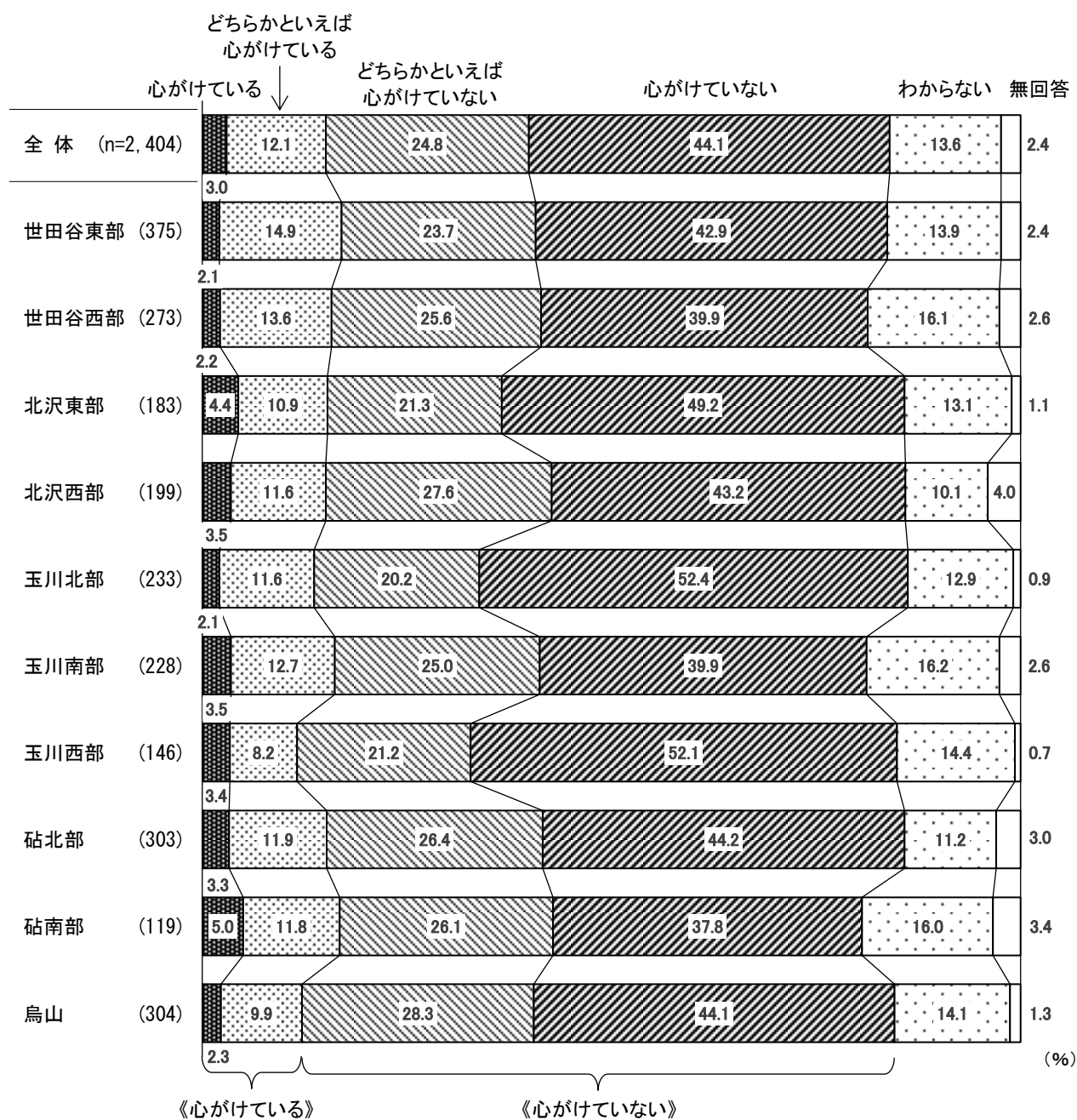
図 7-1-4 防災への対処
「防災知識の向上」(性・年齢別)



「防災知識の向上」について性・年齢別にみると、《心がけている》は男性の 70 歳代で 8 割近く、女性の 70 歳代で 7 割半ばとなっている。一方、《心がけていない》は女性の 10・20 歳代でほぼ 4 割、女性の 30 歳代で 4 割近くとなっている。（図 7-1-4）

図 7-1-5 防災への対処

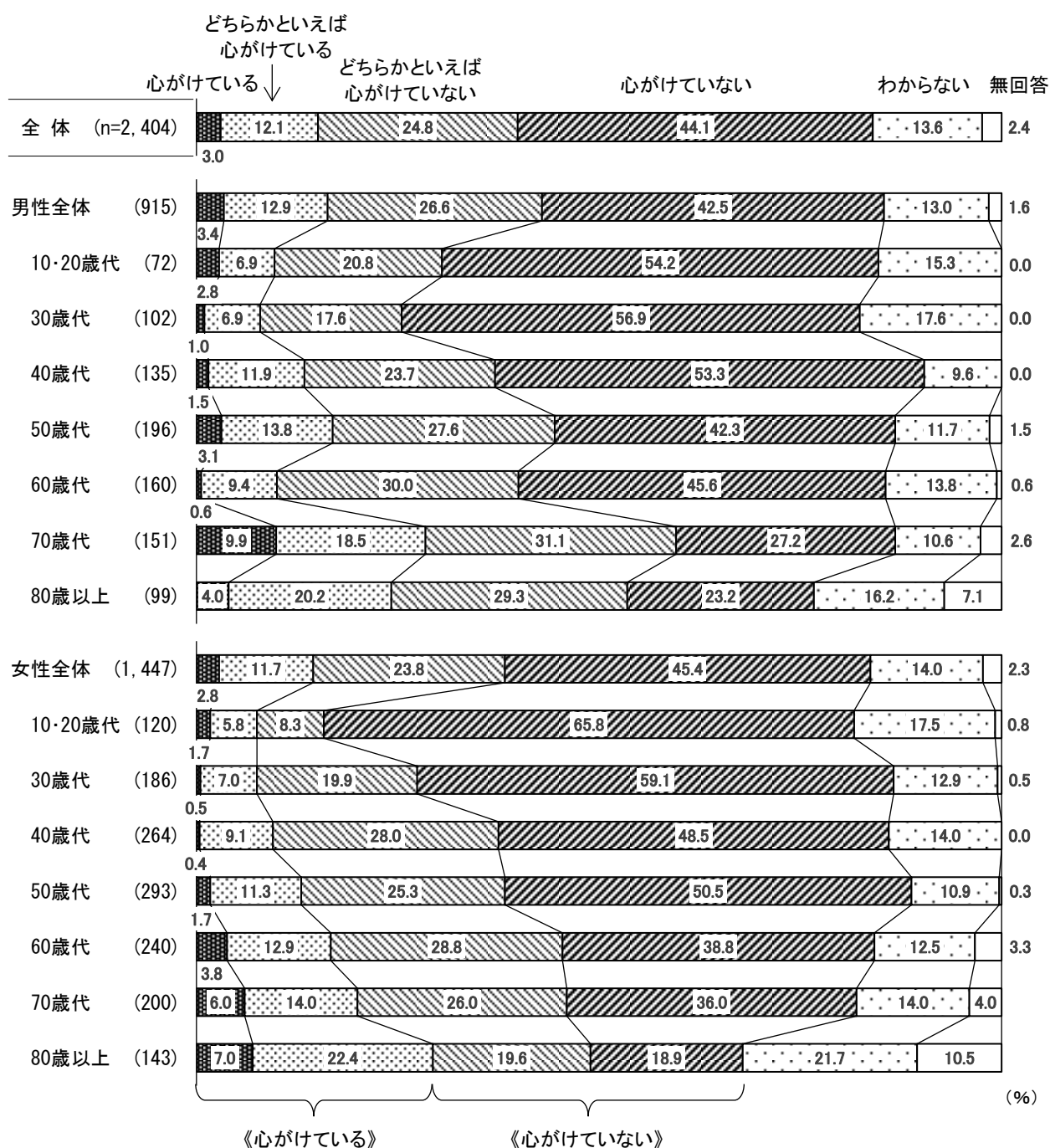
「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(地域別)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について地域別にみると、《心がけている》は世田谷東部、砧南部で2割近くとなっている。《心がけていない》は玉川西部、玉川北部、烏山で7割を超えている。(図7-1-5)

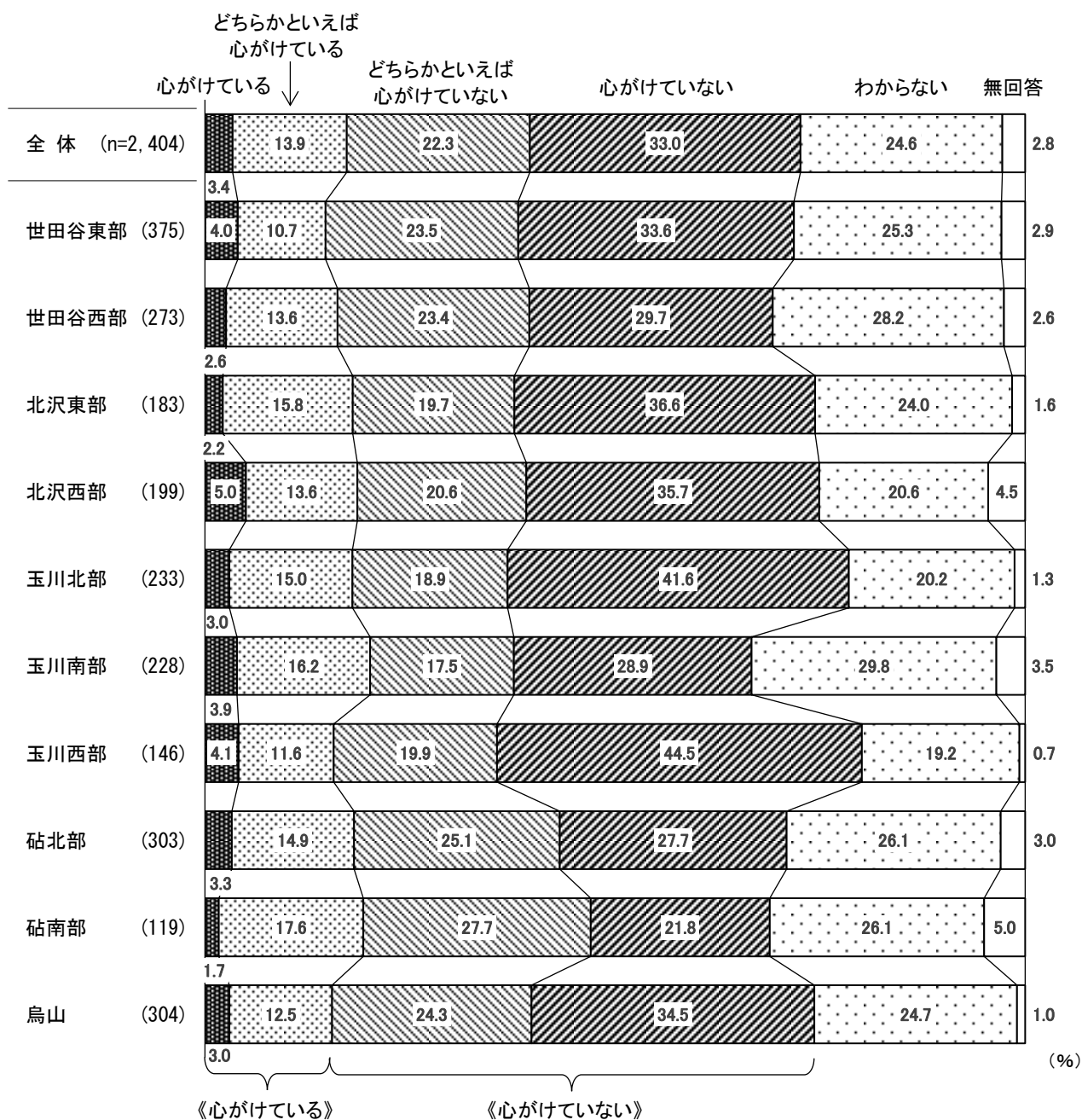
図 7-1-6 防災への対処

「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」(性・年齢別)



「地区での避難所運営訓練や防災塾への参加」について性・年齢別にみると、《心がけている》は男女とも70歳代以上で2割台となっている。《心がけていない》は女性の30歳代でほぼ8割、男性の40歳代、女性の40歳代で8割近く、男性の30歳代以下と60歳代、女性の10・20歳代と50歳代で7割半ばとなっている。(図7-1-6)

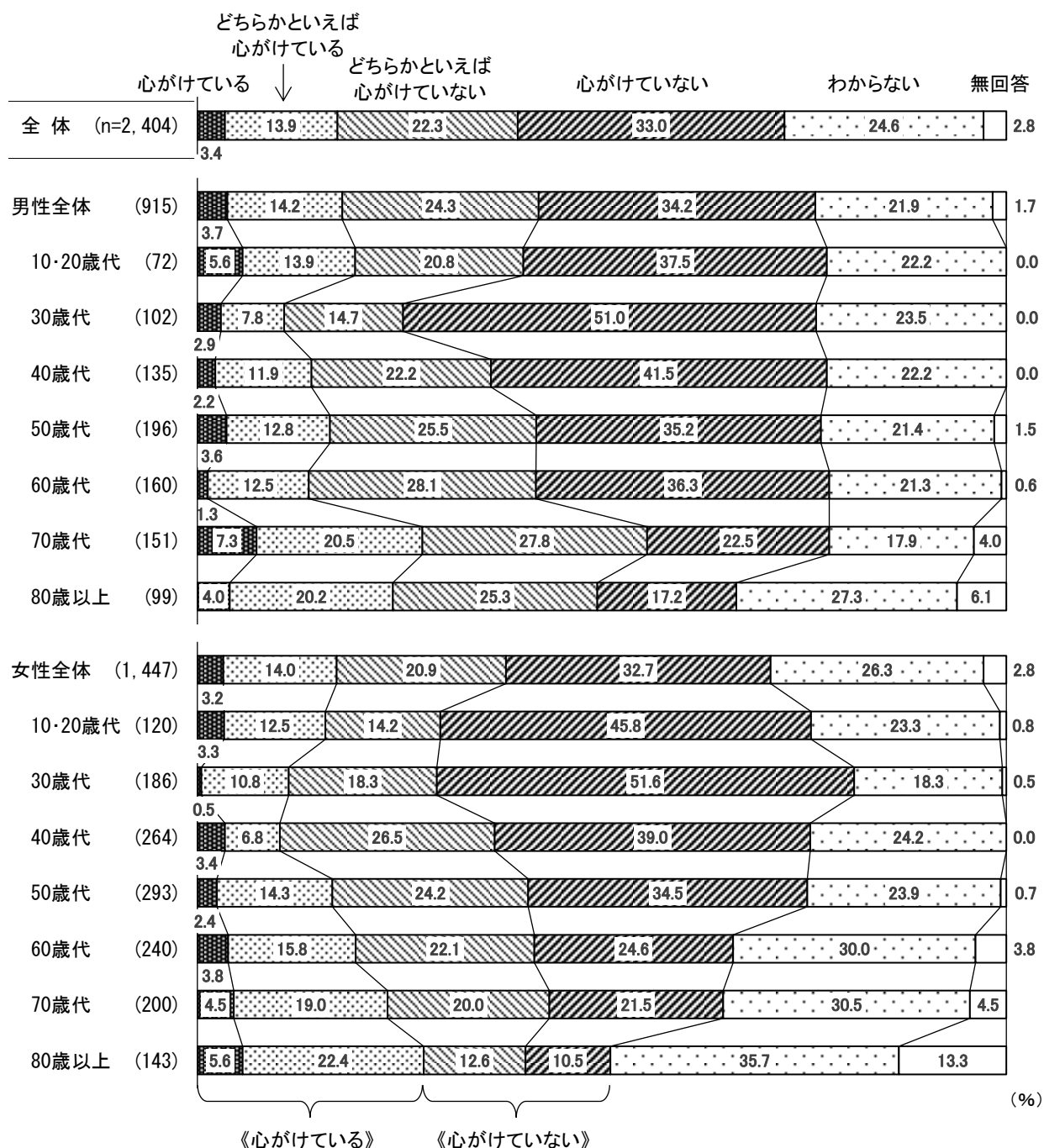
図 7-1-7 防災への対処
「避難行動要支援者の支援」(地域別)



「避難行動要支援者の支援」について地域別にみると、《心がけている》は玉川南部で2割、砧南部ではほぼ2割となっている。《心がけていない》は玉川西部で6割半ば、玉川北部ではほぼ6割となっている。(図7-1-7)

図 7-1-8 防災への対処

「避難行動要支援者の支援」(性・年齢別)



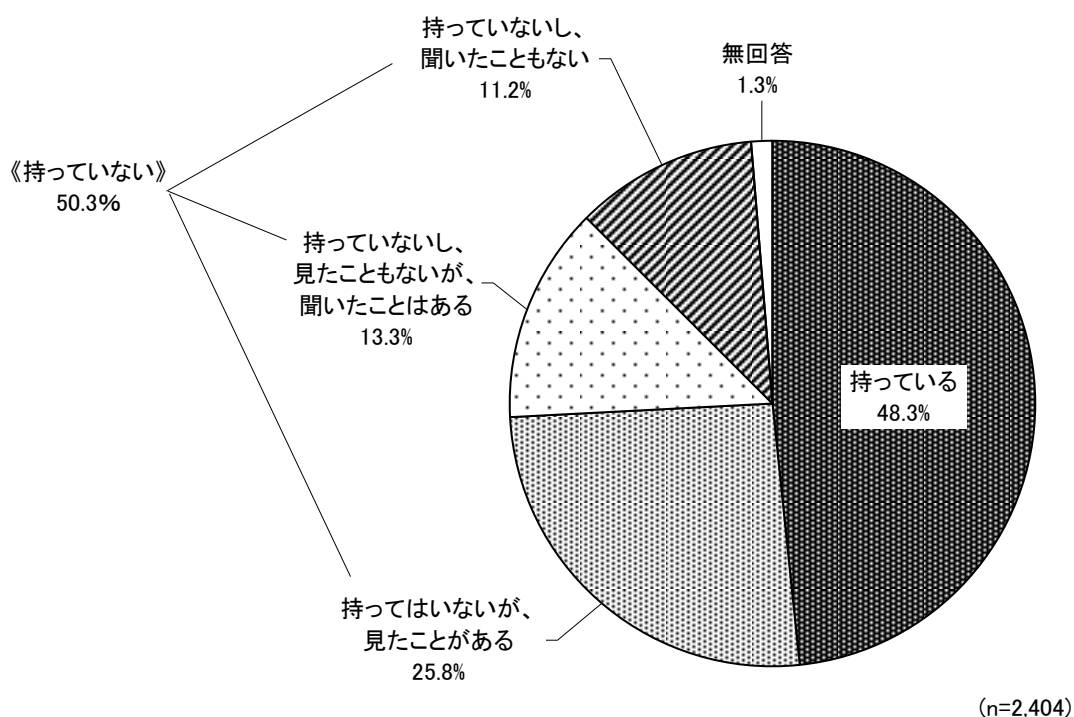
「避難行動要支援者の支援」について性・年齢別にみると、《心がけている》は男女とも70歳代以上で2割台となっている。《心がけていない》は女性の30歳代で7割、男性の30歳代と60歳代、女性の40歳代で6割半ばとなっている。(図7-1-8)

(2)「ハザードマップ」の認知度

◎「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を「持っている」が
5割近く

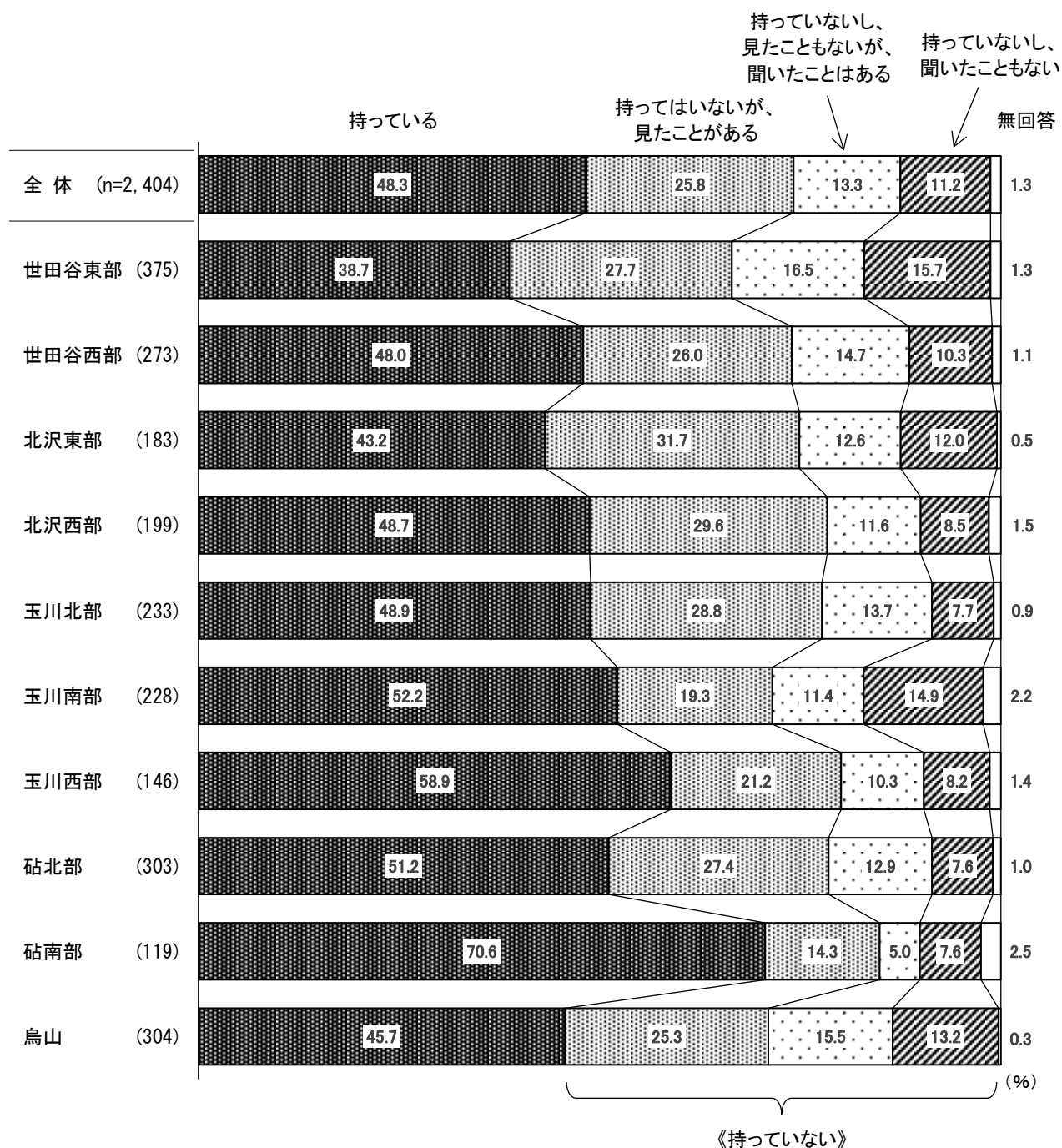
問 2 1 あなたは、「世田谷区洪水・内水氾濫ハザードマップ」を持っていますか。(○は1つ)

図 7 - 2 - 1



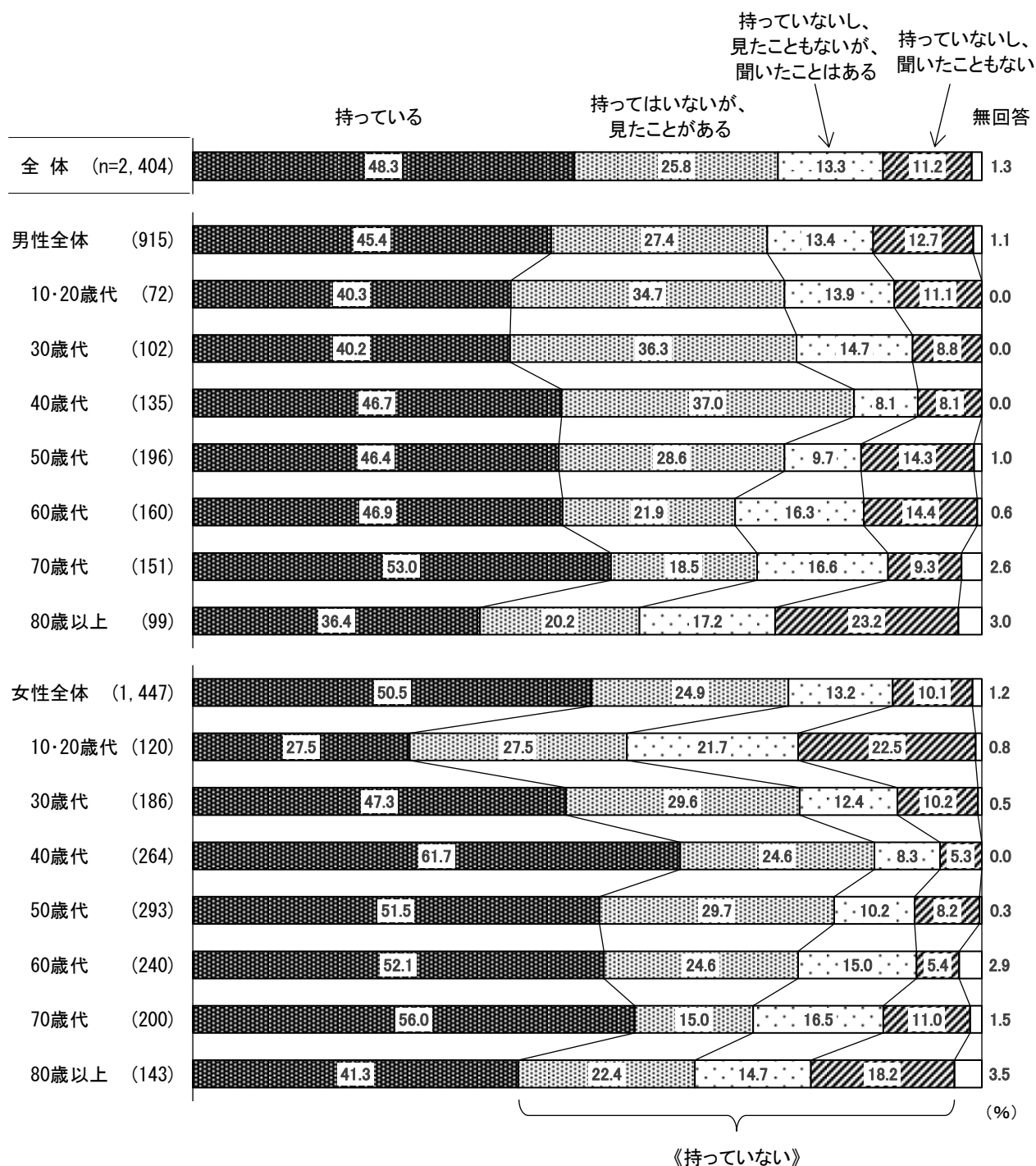
「ハザードマップ」の認知度を聞いたところ、「持っている」(48.3%)が5割近くで、「持っていないが、見たことがある」(25.8%)と「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」(13.3%)と「持っていないし、聞いたこともない」(11.2%)を合わせた《持っていない》(50.3%)が5割となっている。(図 7 - 2 - 1)

図 7-2-2 「ハザードマップ」の認知度（地域別）



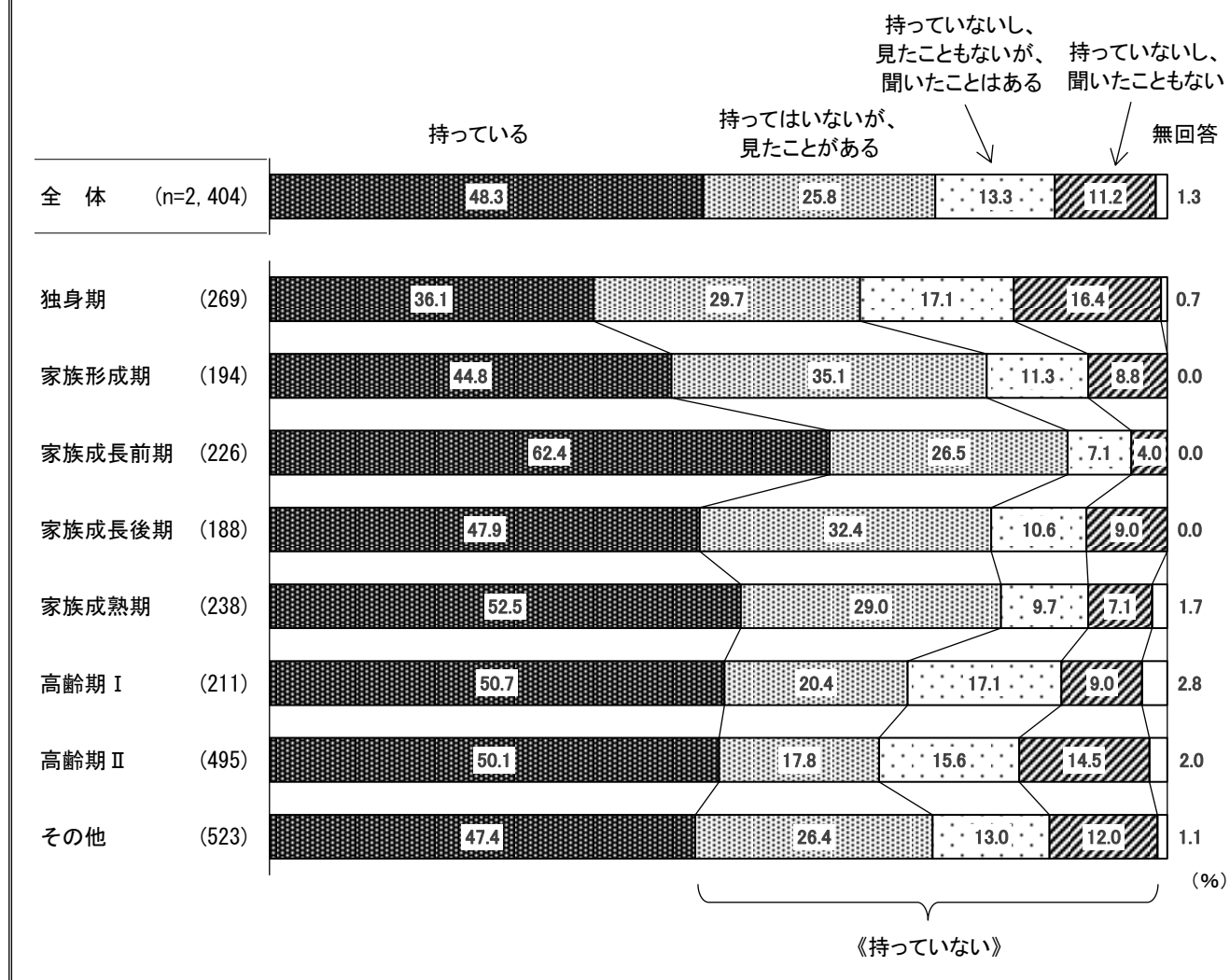
地域別にみると、「持っている」は砧南部でほぼ7割と他の地域より高く、次いで、玉川西部で6割近く、玉川南部、砧北部で5割を超えている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は世田谷東部で3割を超えている。（図7-2-2）

図 7-2-3 「ハザードマップ」の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「持っている」は女性の40歳代で6割を超え、女性の70歳代で5割半ばとなっている。「《持っていない》」は女性の10・20歳代で7割を超え、男性の80歳以上でほぼ6割、男性の10・20歳代と30歳代で6割となっている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は女性の10・20歳代で4割半ば、男性の80歳以上で4割となっている。（図7-2-3）

図 7-2-4 「ハザードマップ」の認知度（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「持っている」は家族成長前期で6割を超え、家族成熟期で5割を超え、高齢期Ⅰでほぼ5割、高齢期Ⅱで5割となっている。《持っていない》は独身期で6割を超えている。「持っていないし、見たこともないが、聞いたことはある」と「持っていないし、聞いたこともない」を合わせた《見たことがない》は独身期で3割を超え、高齢期Ⅱで3割となっている。

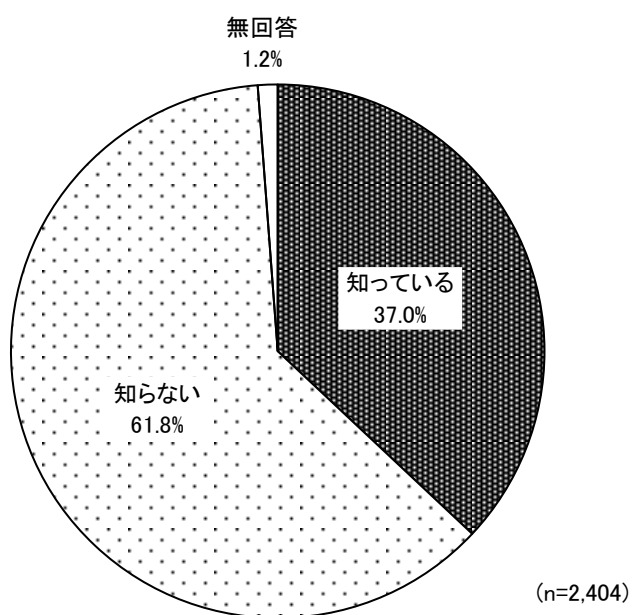
(図 7-2-4)

（３）在宅避難推奨の認知度

◎「知っている」が４割近く、「知らない」が６割を超える

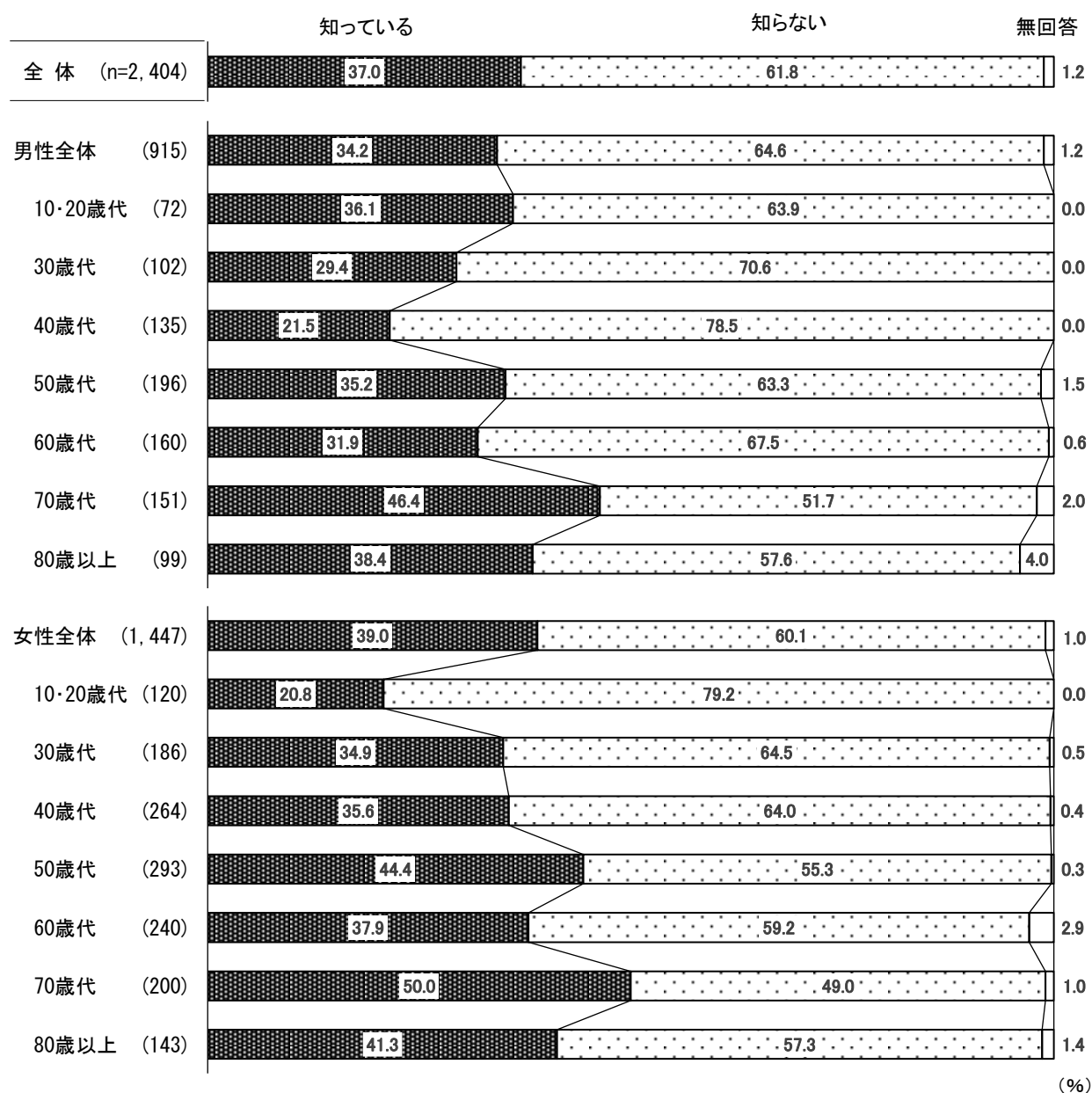
問２２ あなたは区が在宅避難を推奨していることを知っていましたか。（○は１つ）

図 7-3-1



区が在宅避難を推奨していることを知っているか聞いたところ、「知っている」（37.0％）が４割近く、「知らない」（61.8％）が６割を超える。（図 7-3-1）

図 7-3-2 在宅避難推奨の認知度（性・年齢別）

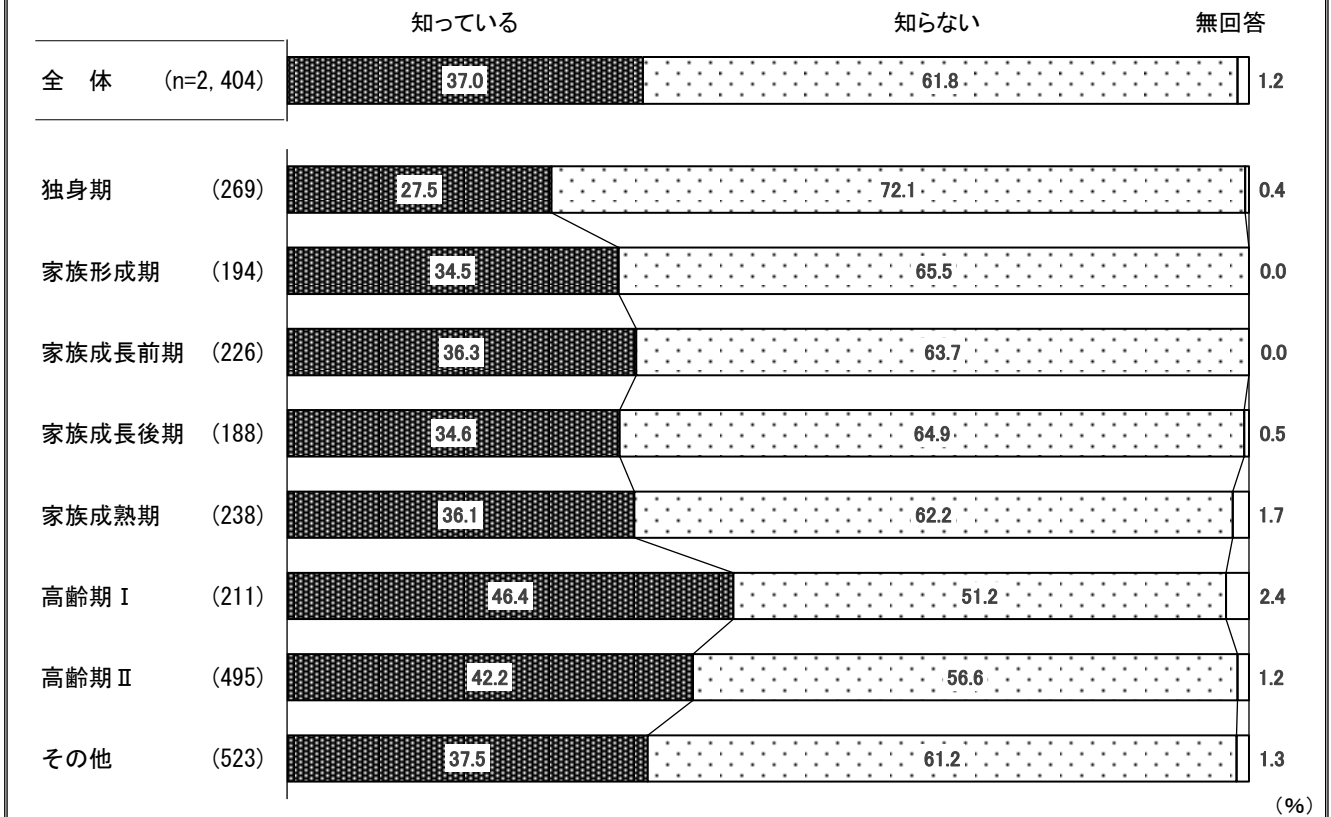


(%)

性・年齢別にみると、女性の70歳代を除くすべての年代で「知っている」より「知らない」の方が高い。「知っている」は女性の70歳代で5割、男性の70歳代、女性の50歳代で4割半ばとなっている。一方、「知らない」は女性の10・20歳代でほぼ8割、男性の40歳代で8割近くとなっている。

(図 7-3-2)

図 7-3-3 在宅避難推奨の認知度（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「知っている」は高齢期Ⅰで4割半ば、高齢期Ⅱで4割を超えている。一方、「知らない」は独身期で7割を超え、家族形成期、家族成長後期で6割半ばとなっている。

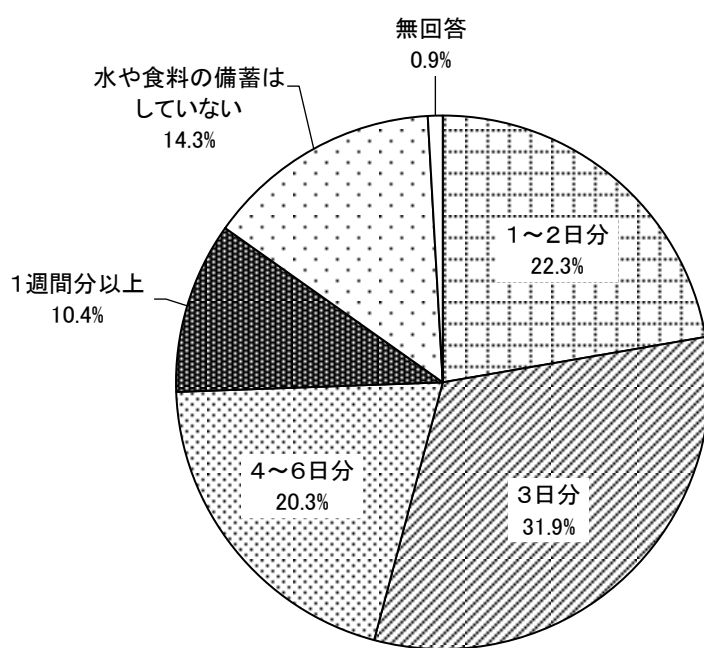
(図 7-3-3)

(4) 水や食料の備蓄について

◎水や食料の備蓄は「3日分」が3割を超える

問23 あなたのご家庭では、災害に備えて水や食料は何日分備蓄していますか。(○は1つ)

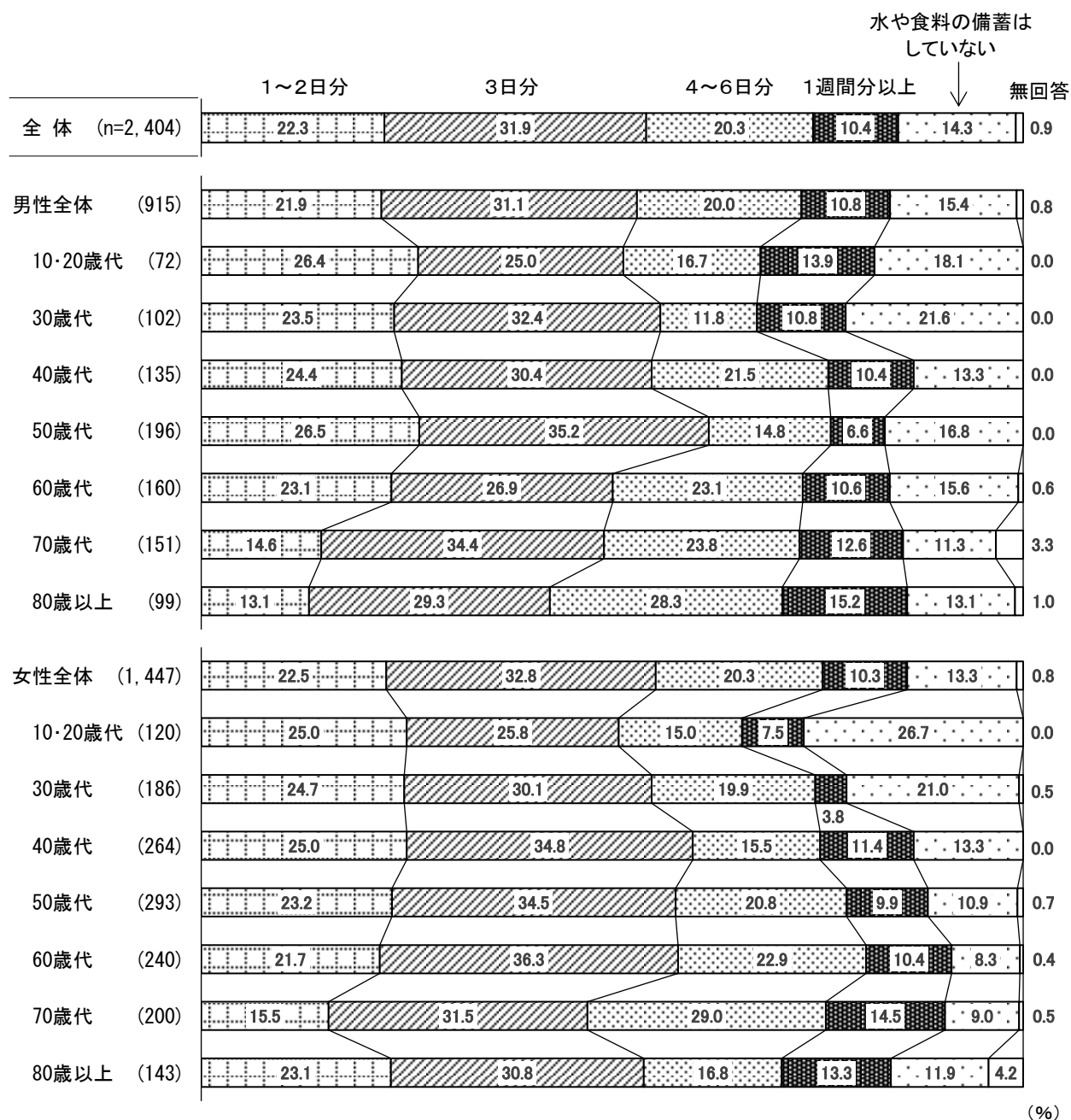
図7-4-1



(n=2,404)

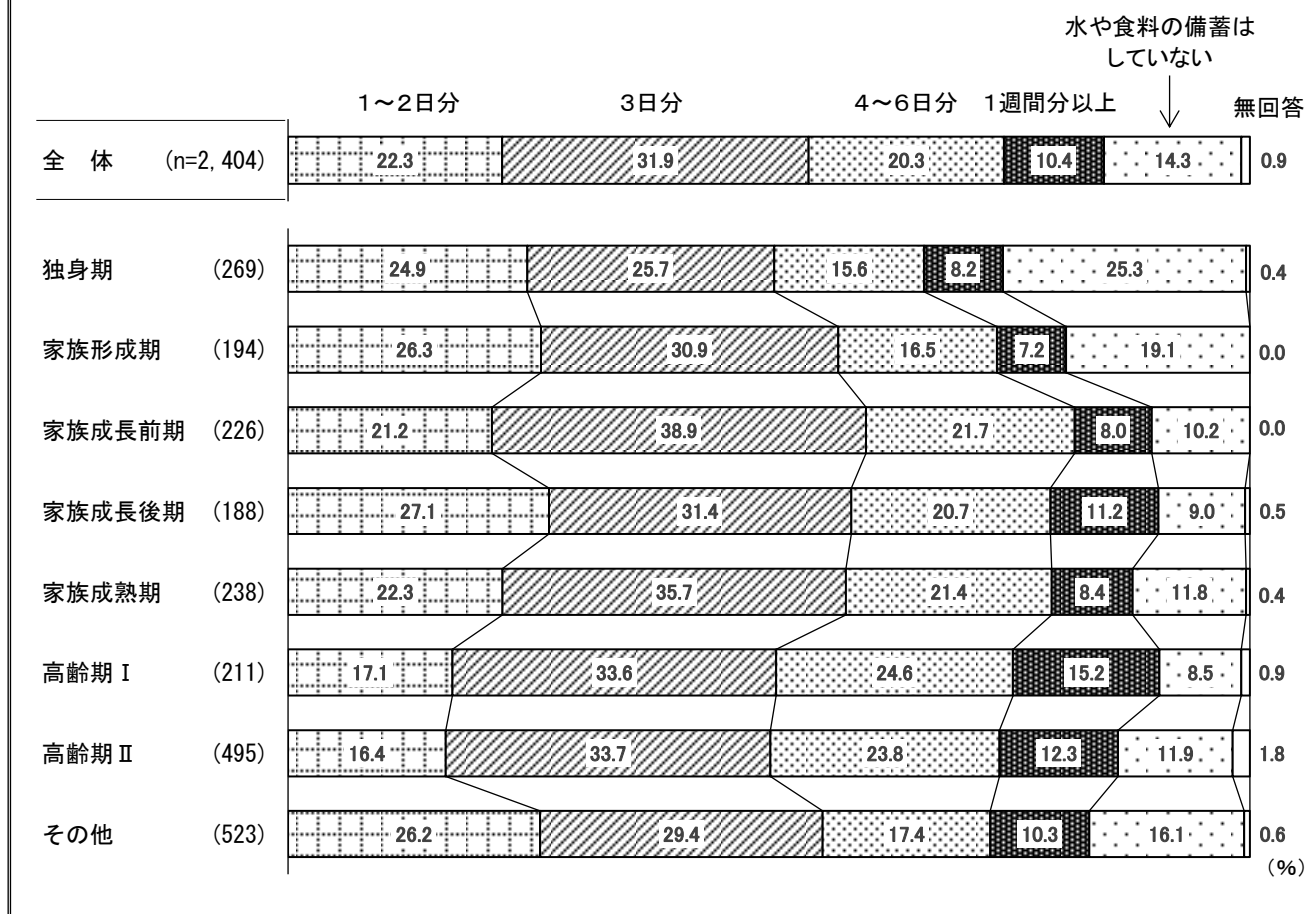
災害に備えて水や食料を何日分備蓄しているか聞いたところ、「3日分」(31.9%)が3割を超えて最も高く、以下、「1～2日分」(22.3%)、「4～6日分」(20.3%)などと続いている。「水や食料の備蓄はしていない」(14.3%)は1割半ばとなっている。(図7-4-1)

図 7-4-2 水や食料の備蓄について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は、女性の10・20歳代を除くすべての年代で5割を超えており、女性の70歳代で7割半ば、男性の80歳以上で7割を超え、男性の70歳代でほぼ7割、女性の60歳代で7割となっている。「水や食料の備蓄はしていない」は男女ともに30歳代以下が高く、女性の10・20歳代で3割近く、男性の30歳代、女性の30歳代で2割を超えている。（図7-4-2）

図 7-4-3 水や食料の備蓄について（ライフステージ別）



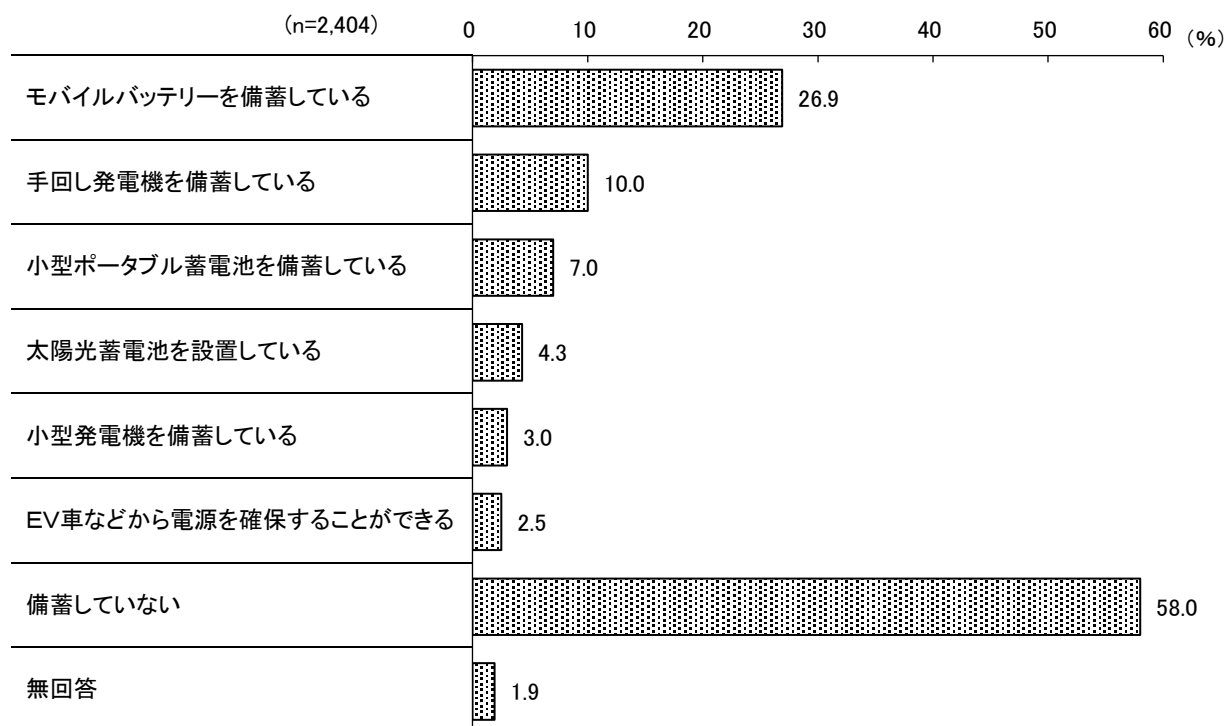
ライフステージ別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の水や食料を備蓄している割合は高齢期Ⅰで7割を超え、高齢期Ⅱで7割となっている。一方、独身期で3日分以上備蓄している割合はほぼ5割と他のライフステージに比べ低い。（図7-4-3）

（５）非常用電力の備蓄について

◎非常用電力は「備蓄していない」が６割近く

問２４ あなたのご家庭では、災害に備えて非常用電力の備蓄をしていますか。（○はいくつでも）

図 7-5-1



災害時に備えた非常用電力を備蓄しているか聞いたところ、「備蓄していない」（58.0%）が６割近くで最も高い。備蓄している中では、「モバイルバッテリーを備蓄している」（26.9%）が３割近くで最も高く、以下、「手回し発電機を備蓄している」（10.0%）、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」（7.0%）などと続く。（図 7-5-1）

表 7-5-1 非常用電力の備蓄について（性・年齢別）

(%)										
		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	EV車などから電源を確保することができる	備蓄していない	無回答
全 体		2,404	26.9	10.0	7.0	4.3	3.0	2.5	58.0	1.9
性・年齢別	男性全体	915	24.9	9.0	8.3	3.5	2.7	2.5	60.5	1.2
	10・20歳代	72	40.3	18.1	6.9	1.4	8.3	4.2	44.4	1.4
	30歳代	102	43.1	8.8	5.9	5.9	2.0	1.0	47.1	1.0
	40歳代	135	34.8	8.1	11.1	5.2	0.7	0.7	54.8	—
	50歳代	196	25.5	9.2	8.7	2.6	2.6	4.1	59.2	0.5
	60歳代	160	21.3	10.0	12.5	2.5	3.1	1.9	63.1	0.6
	70歳代	151	13.9	6.6	7.3	4.0	1.3	3.3	67.5	3.3
	80歳以上	99	3.0	5.1	2.0	3.0	4.0	2.0	81.8	2.0
	女性全体	1,447	28.5	10.6	6.3	4.9	3.1	2.5	56.1	2.1
	10・20歳代	120	38.3	17.5	2.5	5.8	9.2	4.2	46.7	—
	30歳代	186	47.8	12.9	6.5	4.8	3.2	2.2	39.8	1.1
	40歳代	264	41.7	12.5	7.6	6.1	1.5	1.5	45.8	1.9
	50歳代	293	30.7	12.3	10.2	5.1	3.8	4.8	50.9	1.0
	60歳代	240	23.3	8.8	4.6	5.8	2.9	2.5	61.7	0.8
	70歳代	200	9.5	7.0	4.5	3.5	1.0	1.5	75.0	3.0
80歳以上	143	2.1	3.5	4.2	2.1	2.8	—	79.0	9.1	

性・年齢別にみると、「備蓄していない」は若年層より高年層の方が高く、男性の80歳以上で8割を超え、女性の80歳以上でほぼ8割、女性の70歳代で7割半ばとなっている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は若年層が高く、女性の30歳代で5割近く、男性の30歳代、女性の40歳代で4割を超え、男性の10・20歳代で4割となっている。「手回し発電機を備蓄している」は男女とも10・20歳代で2割近くとなっている。（表7-5-1）

表 7-5-2 非常用電力の備蓄について（ライフステージ別）

(%)										
		n	モバイルバッテリーを備蓄している	手回し発電機を備蓄している	小型ポータブル蓄電池を備蓄している	太陽光蓄電池を設置している	小型発電機を備蓄している	EV車などから電源を確保することができる	備蓄していない	無回答
全 体		2,404	26.9	10.0	7.0	4.3	3.0	2.5	58.0	1.9
ライフステージ別	独身期	269	43.5	14.5	3.7	4.8	7.1	3.0	43.9	0.7
	家族形成期	194	42.8	13.9	10.8	3.6	2.1	1.0	45.4	0.5
	家族成長前期	226	38.9	8.4	7.5	4.9	1.8	2.7	48.7	1.3
	家族成長後期	188	39.9	13.3	14.4	6.9	2.7	2.7	44.7	1.1
	家族成熟期	238	27.3	12.6	8.8	5.5	2.5	8.0	53.8	0.4
	高齢期Ⅰ	211	14.2	8.1	9.0	5.7	3.8	2.8	65.9	2.8
	高齢期Ⅱ	495	9.1	6.1	4.4	2.6	1.8	1.4	76.6	2.8
その他		523	25.8	9.8	5.9	3.6	2.7	1.0	59.5	1.5

ライフステージ別にみると、「備蓄していない」は高齢期Ⅱで8割近く、高齢期Ⅰで6割半ばとなっている。「モバイルバッテリーを備蓄している」は独身期、家族形成期で4割を超え、家族成長後期で4割、家族成長前期で4割近くとなっている。「手回し発電機を備蓄している」は独身期で1割半ば、「小型ポータブル蓄電池を備蓄している」は家族成長後期で1割半ばとなっている。

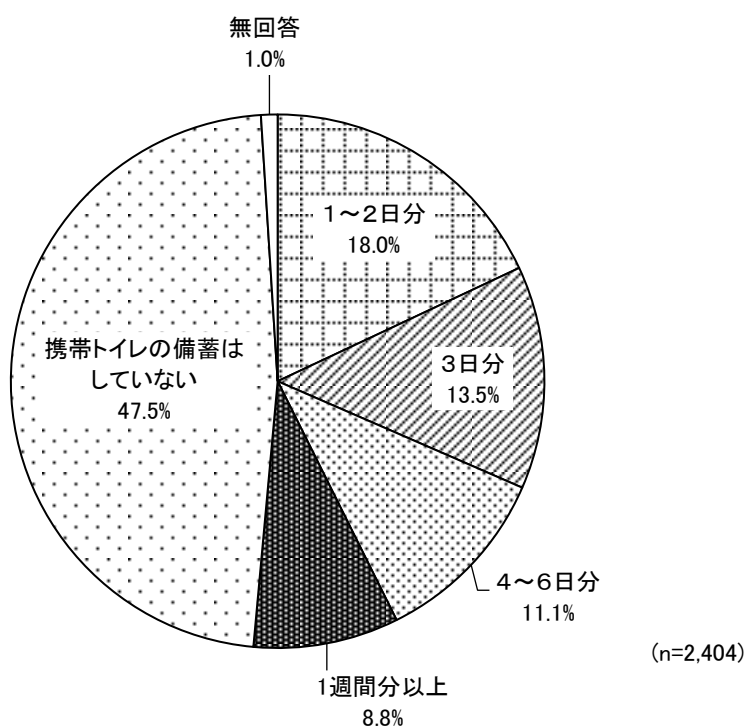
(表 7-5-2)

(6) 携帯トイレの備蓄について

◎「携帯トイレの備蓄はしていない」が5割近く

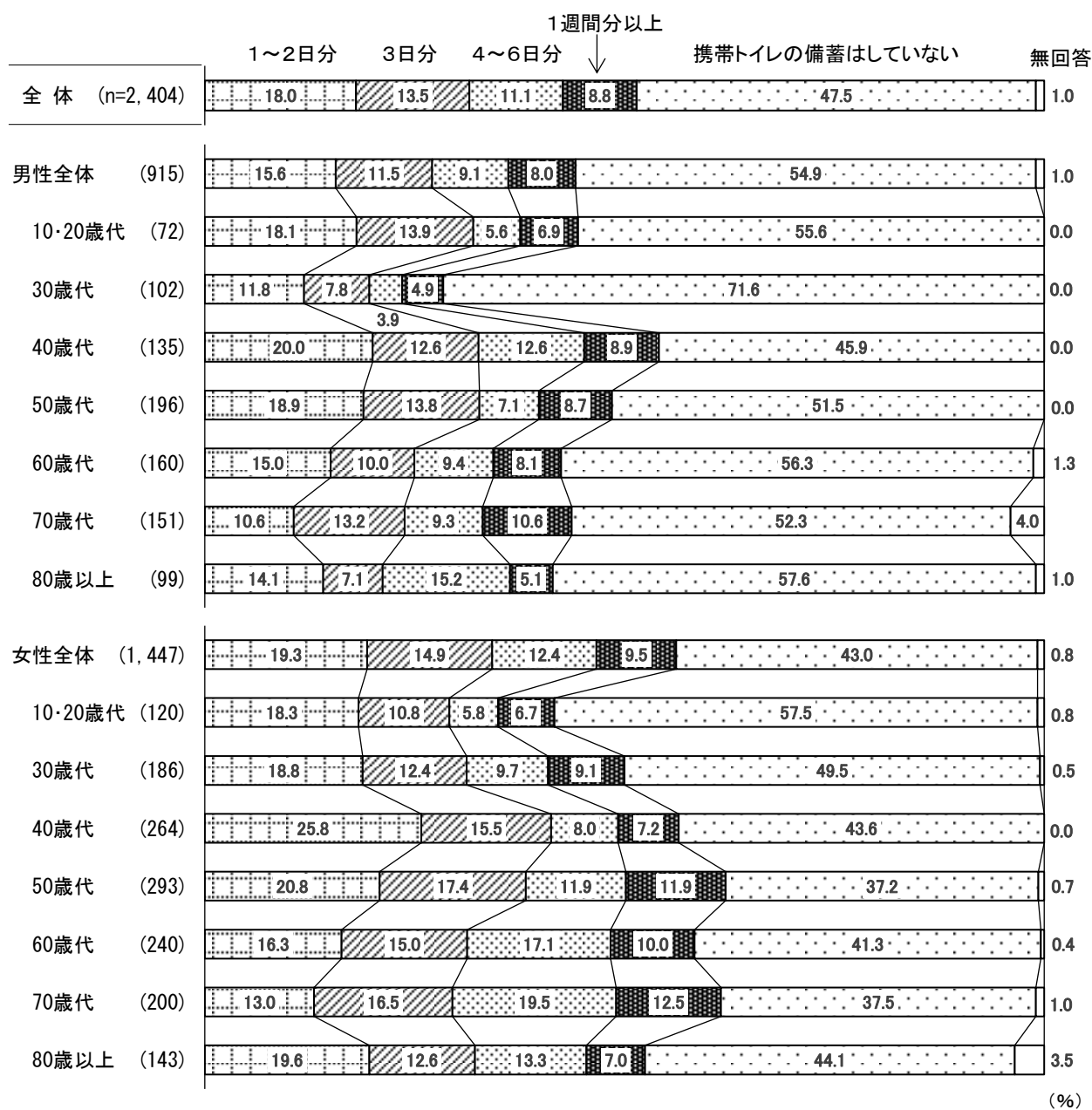
問25 あなたのご家庭では、携帯トイレを何日分備蓄していますか。(○は1つ)

図7-6-1



災害に備えて携帯トイレを何日分備蓄しているか聞いたところ、「携帯トイレの備蓄はしていない」(47.5%)が5割近くで最も高い。備蓄している中では、「1～2日分」(18.0%)、「3日分」(13.5%)、「4～6日分」(11.1%)、「1週間分以上」(8.8%)と続く。(図7-6-1)

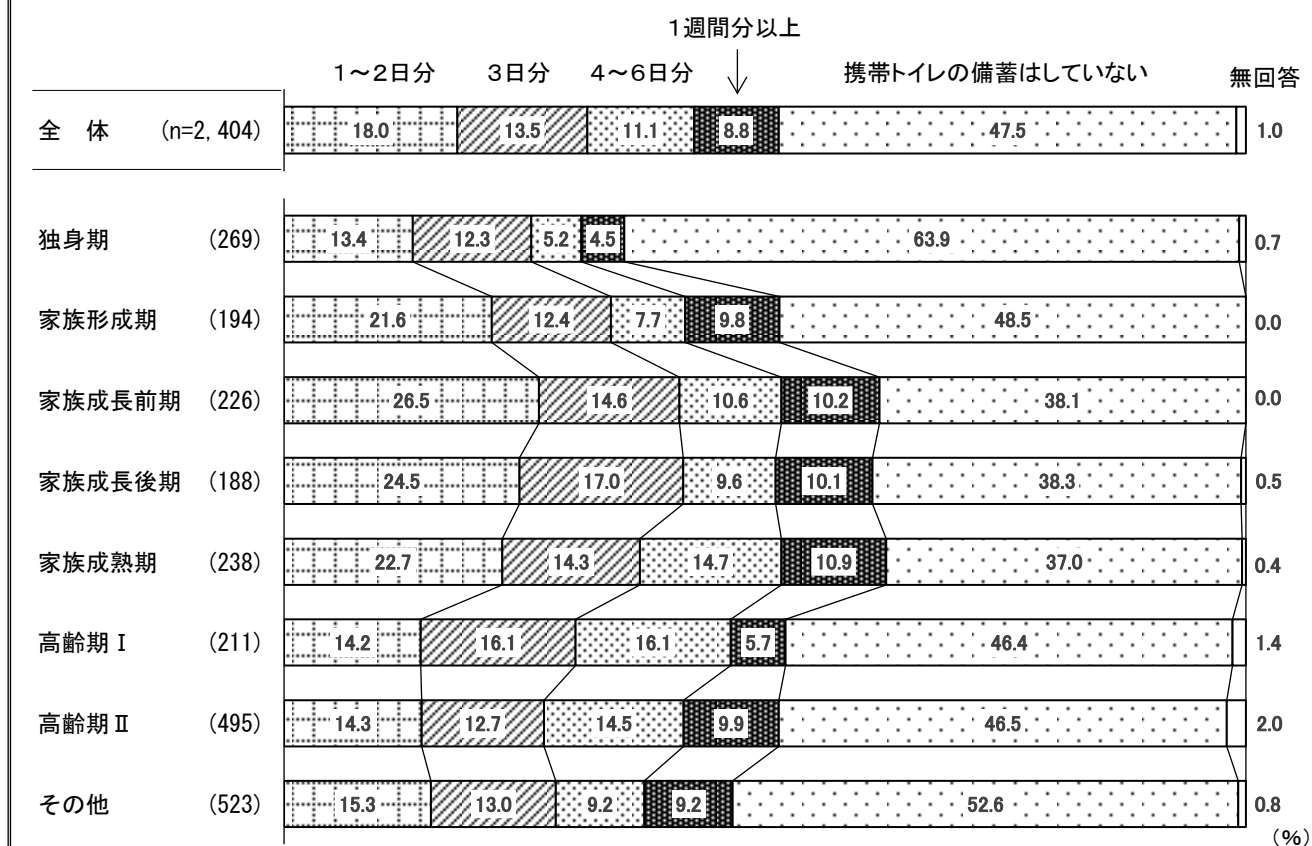
図 7-6-2 携帯トイレの備蓄について（性・年齢別）



(%)

性・年齢別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の携帯トイレを備蓄している割合は、女性の70歳代で5割近く、女性の50歳代と60歳代で4割を超えている。「携帯トイレの備蓄はしていない」は男性の30歳代で7割を超え、男性の80歳以上、女性の10・20歳代で6割近く、男性の10・20歳代と60歳代で5割半ばとなっている。（図 7-6-2）

図 7-6-3 携帯トイレの備蓄について（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、3日分以上（「3日分」＋「4～6日分」＋「1週間分以上」）の携帯トイレを備蓄している割合は家族成熟期で4割、家族成長後期、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで4割近くとなっている。「1～2日分」は家族成長前期で3割近く、家族成長後期で2割半ば、「携帯トイレの備蓄はしていない」は独身期で6割を超え、その他で5割を超えている。（図7-6-3）

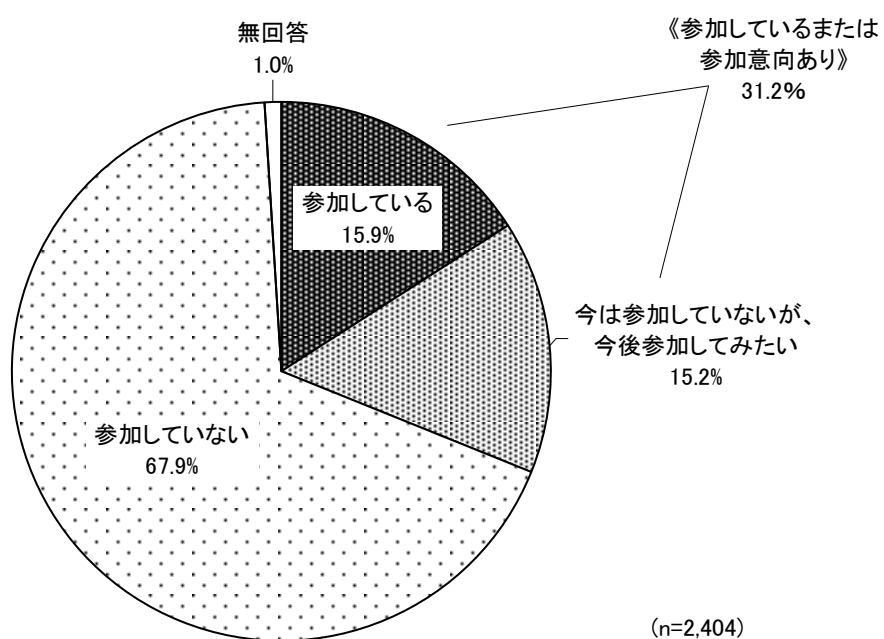
8. 地域コミュニティ

(1) 地域活動への参加経験・参加意向

◎《参加しているまたは参加意向あり》が3割を超える

問26 あなたは、身近な地域の活動に参加していますか。(○は1つ)

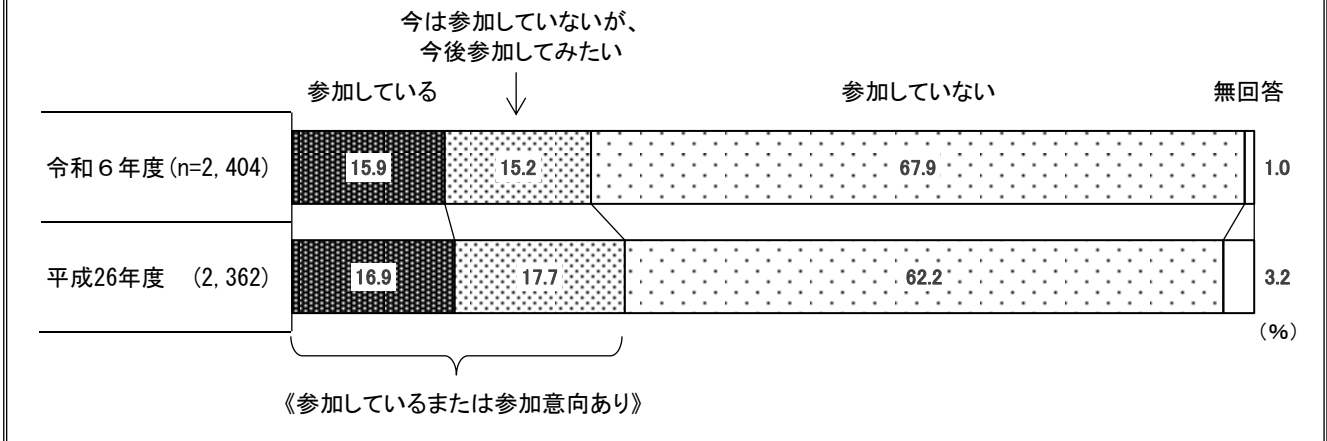
図8-1-1



身近な地域の活動に参加しているかどうか聞いたところ、「参加している」(15.9%)と「今は参加していないが、今後参加してみたい」(15.2%)を合わせた《参加しているまたは参加意向あり》(31.2%)が3割を超える。「参加していない」(67.9%)は7割近くとなっている。

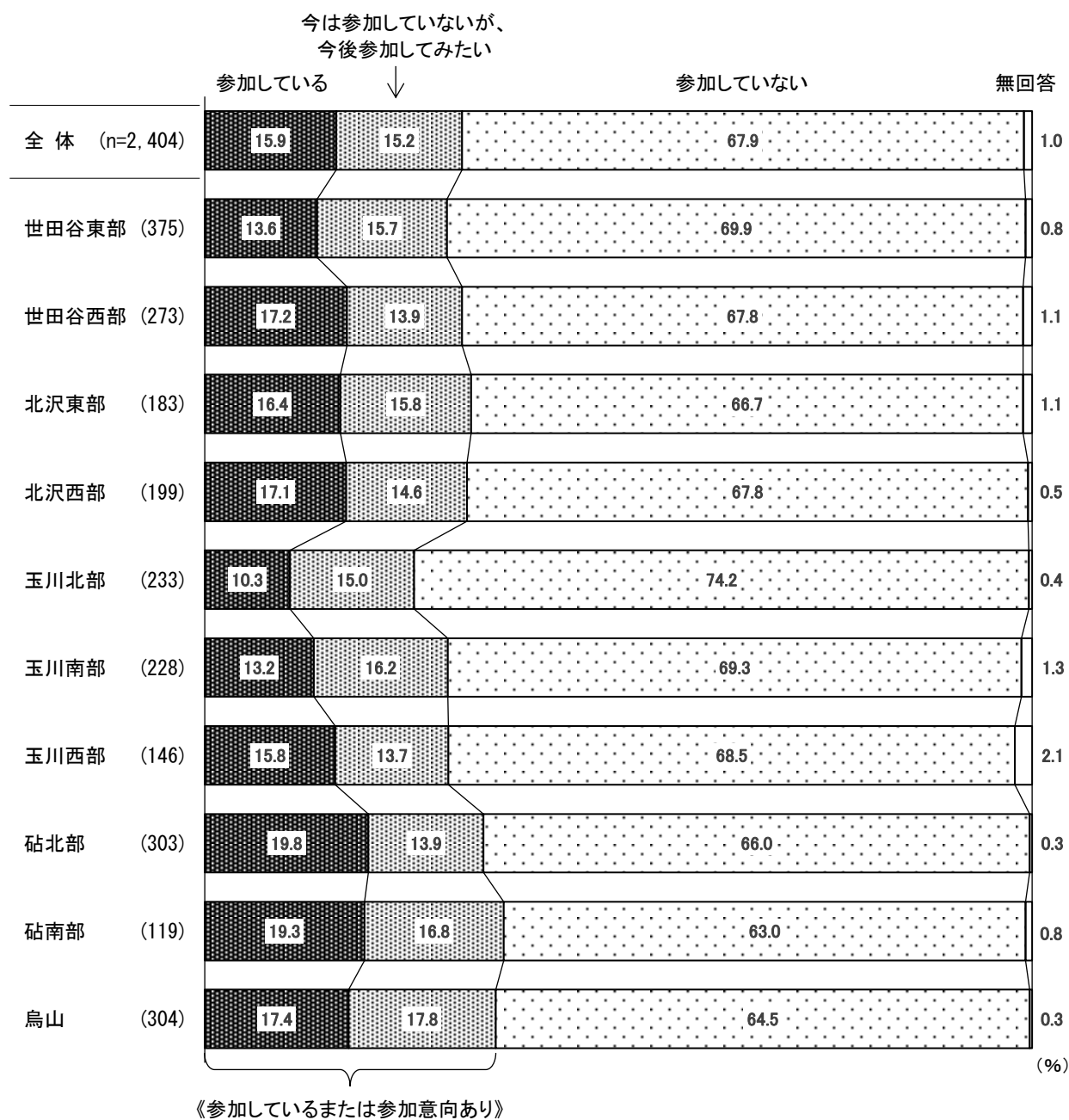
(図8-1-1)

図 8 - 1 - 2 地域活動への参加経験・参加意向（時系列）



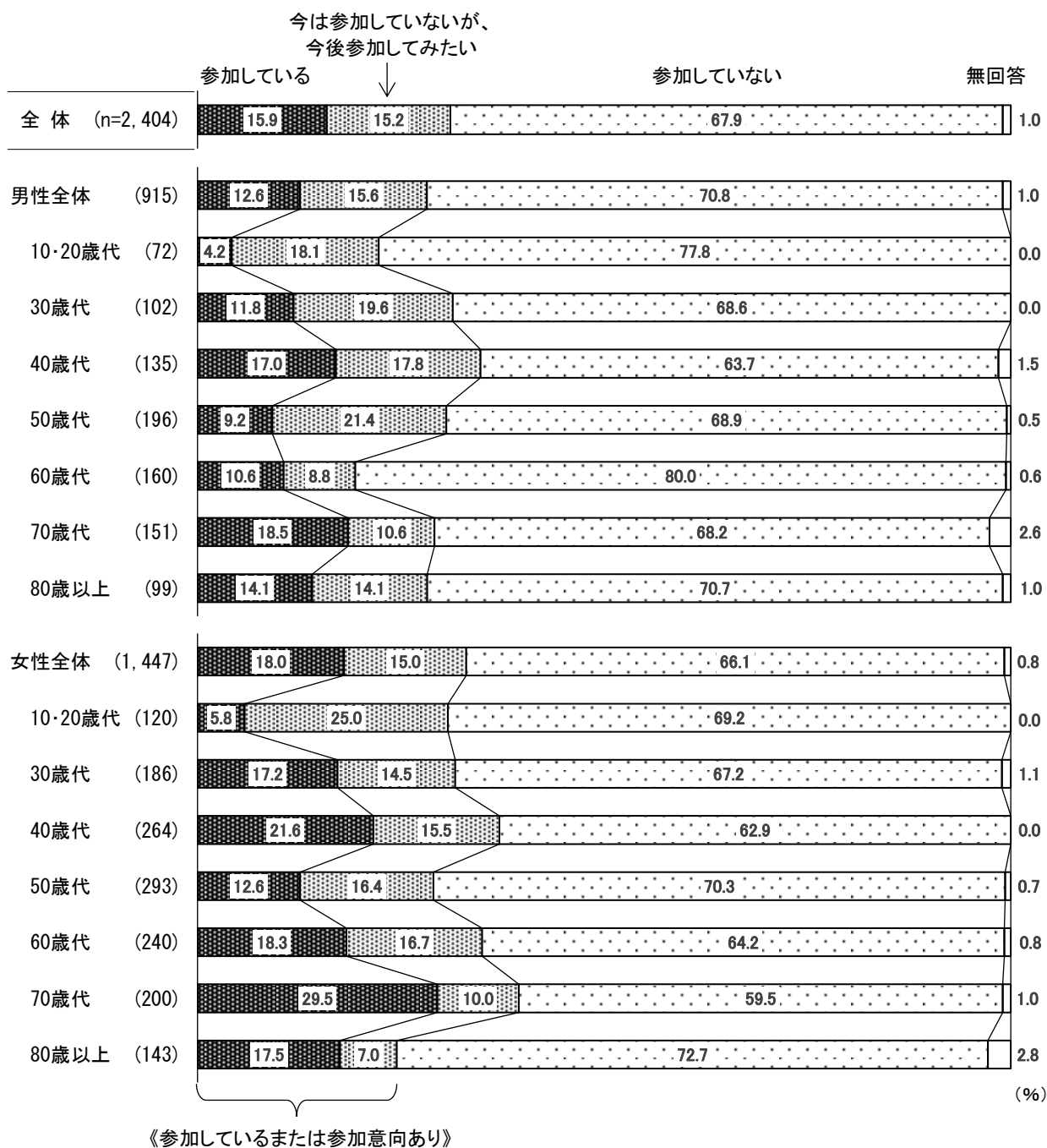
平成 26 年度からの時系列の変化をみると、《参加しているまたは参加意向あり》は平成 26 年度（34.6%）から令和 6 年度（31.2%）でやや減少している。（図 8 - 1 - 2）

図 8 - 1 - 3 地域活動への参加経験・参加意向（地域別）



地域別にみると、「参加している」は砧北部で2割、砧南部でほぼ2割、「今は参加していないが、今後参加してみたい」は烏山、砧南部で2割近くとなっている。《参加しているまたは参加意向あり》は砧南部、烏山で3割半ばと高く、玉川北部で2割半ばと低くなっている。（図8-1-3）

図 8 - 1 - 4 地域活動への参加経験・参加意向（性・年齢別）

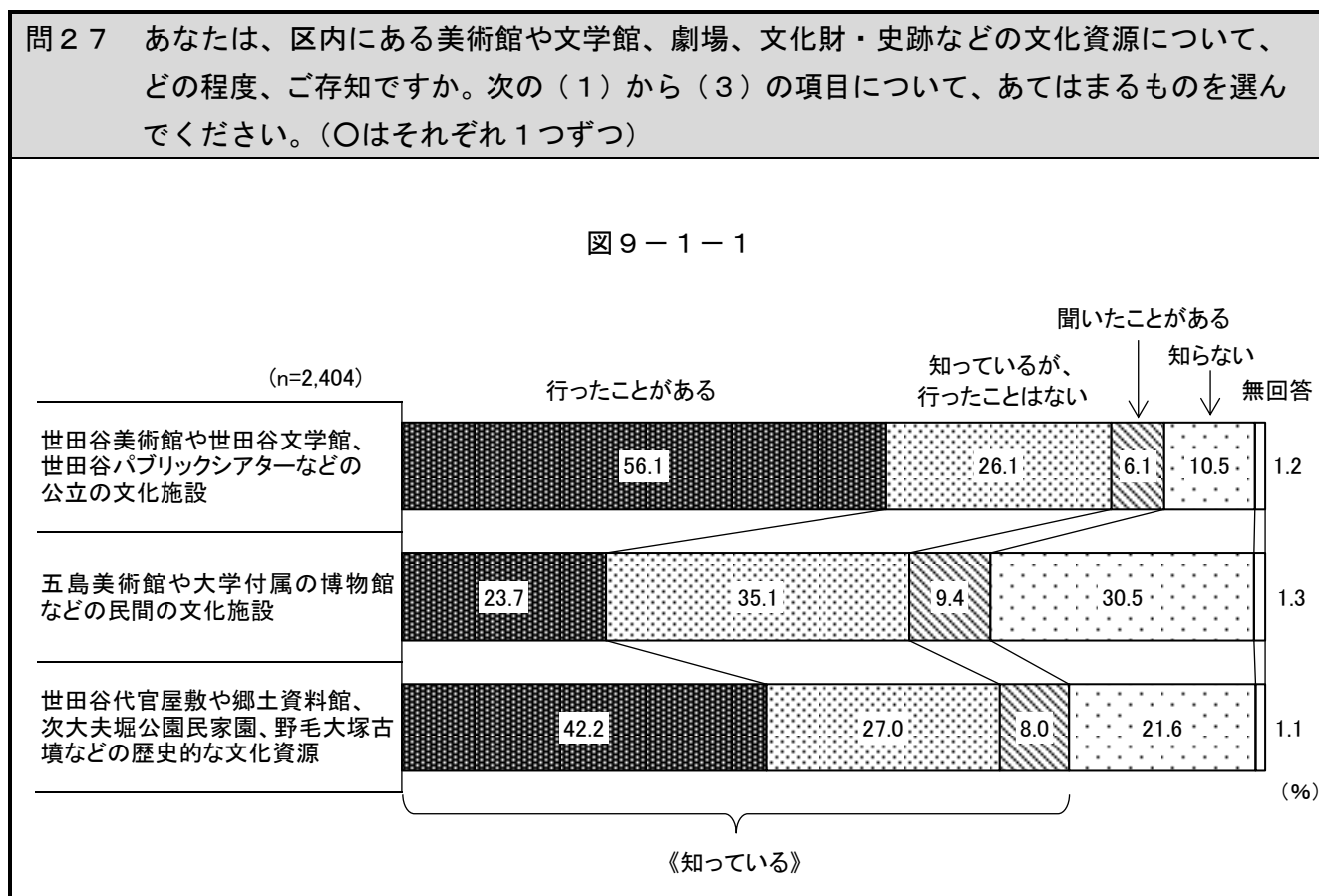


性・年齢別にみると、「参加している」はいずれの年代も女性の方が男性より高く、女性の70歳代で3割、女性の40歳代で2割を超えている。「今は参加していないが、今後参加してみたい」は女性の10・20歳代で2割半ば、男性の50歳代で2割を超え、男性の30歳代で2割となっている。《参加しているまたは参加意向あり》は女性の70歳代で4割、女性の40歳代で4割近く、男性の40歳代、女性の60歳代で3割半ばとなっている。（図8-1-4）

9. 文化活動

(1) 区内の文化資源の認知度

◎「行ったことがある」は公立の文化施設が5割半ば、歴史的な文化資源が4割を超える

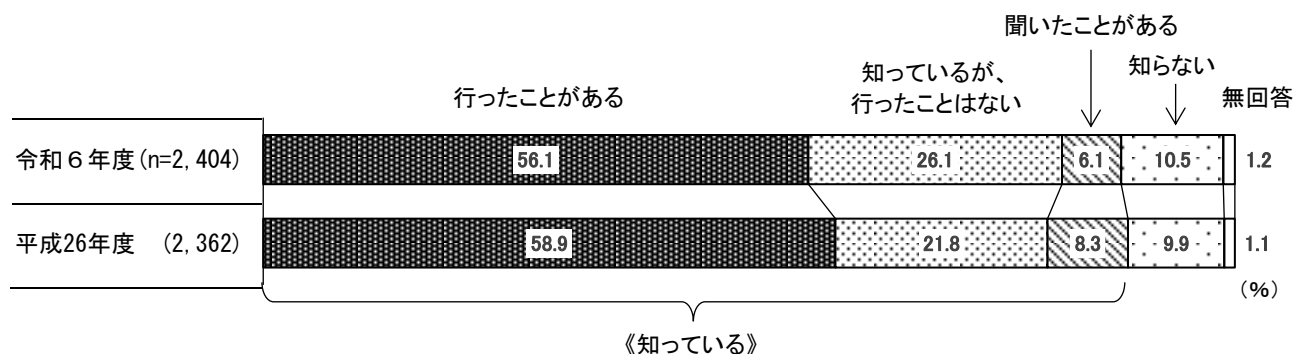


区内の文化資源についてどの程度知っているか聞いたところ、「行ったことがある」は、公立の文化施設（56.1%）が5割半ばで最も高く、歴史的な文化資源（42.2%）が4割を超え、民間の文化施設（23.7%）が2割を超えている。《知っている》は、公立の文化施設が9割近くで最も高い。

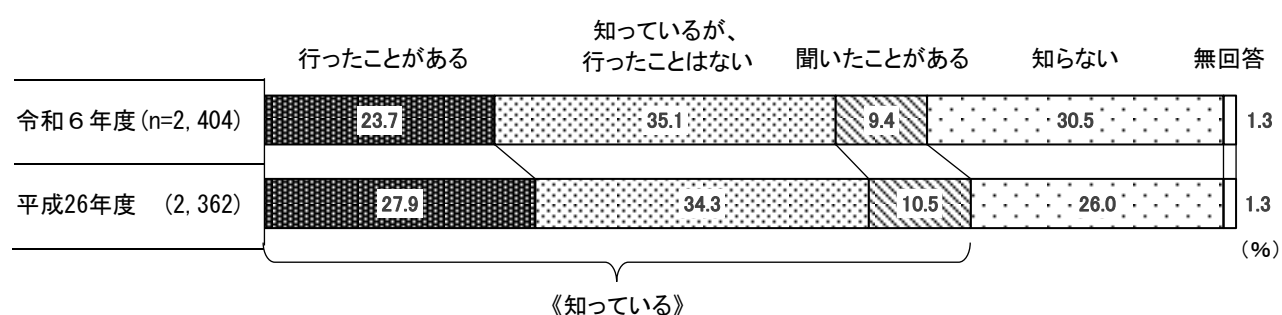
(図9-1-1)

図 9-1-2 区内の文化資源の認知度（時系列）

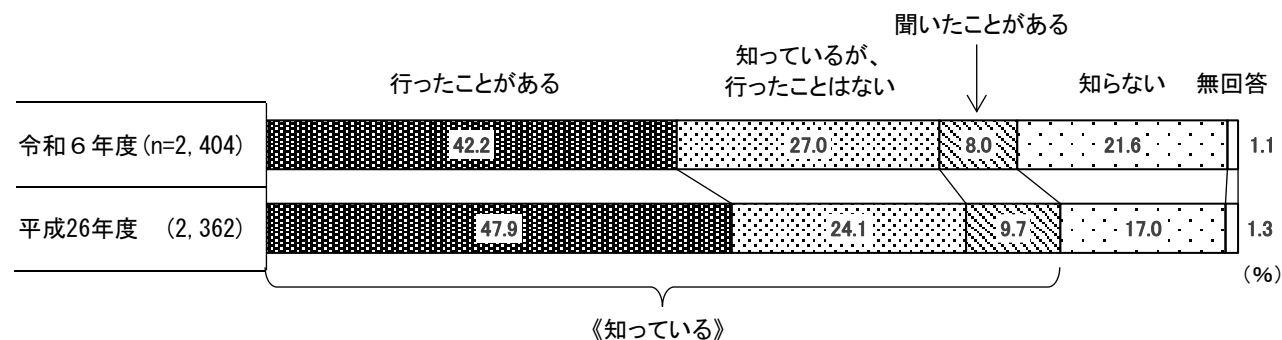
「公立の文化施設」（時系列）



「民間の文化施設」（時系列）



「歴史的な文化資源」（時系列）



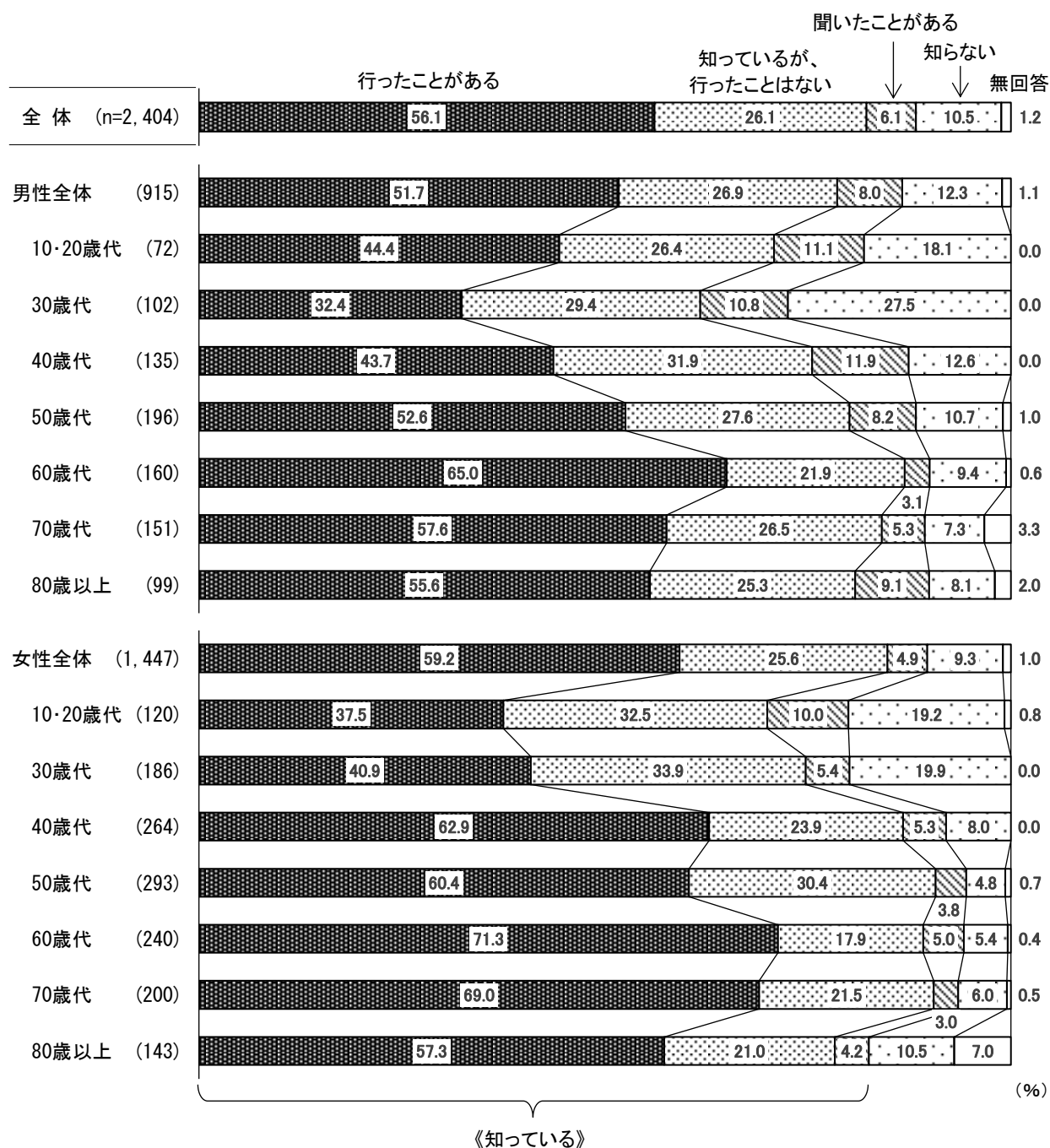
「公立の文化施設」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（58.9%）から令和 6 年度（56.1%）で大きな違いはみられない。

「民間の文化施設」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（27.9%）から令和 6 年度（23.7%）で減少している。

「歴史的な文化資源」について平成 26 年度からの時系列の変化をみると、「行ったことがある」は平成 26 年度（47.9%）から令和 6 年度（42.2%）で減少している。（図 9-1-2）

図 9-1-3 区内の文化資源の認知度

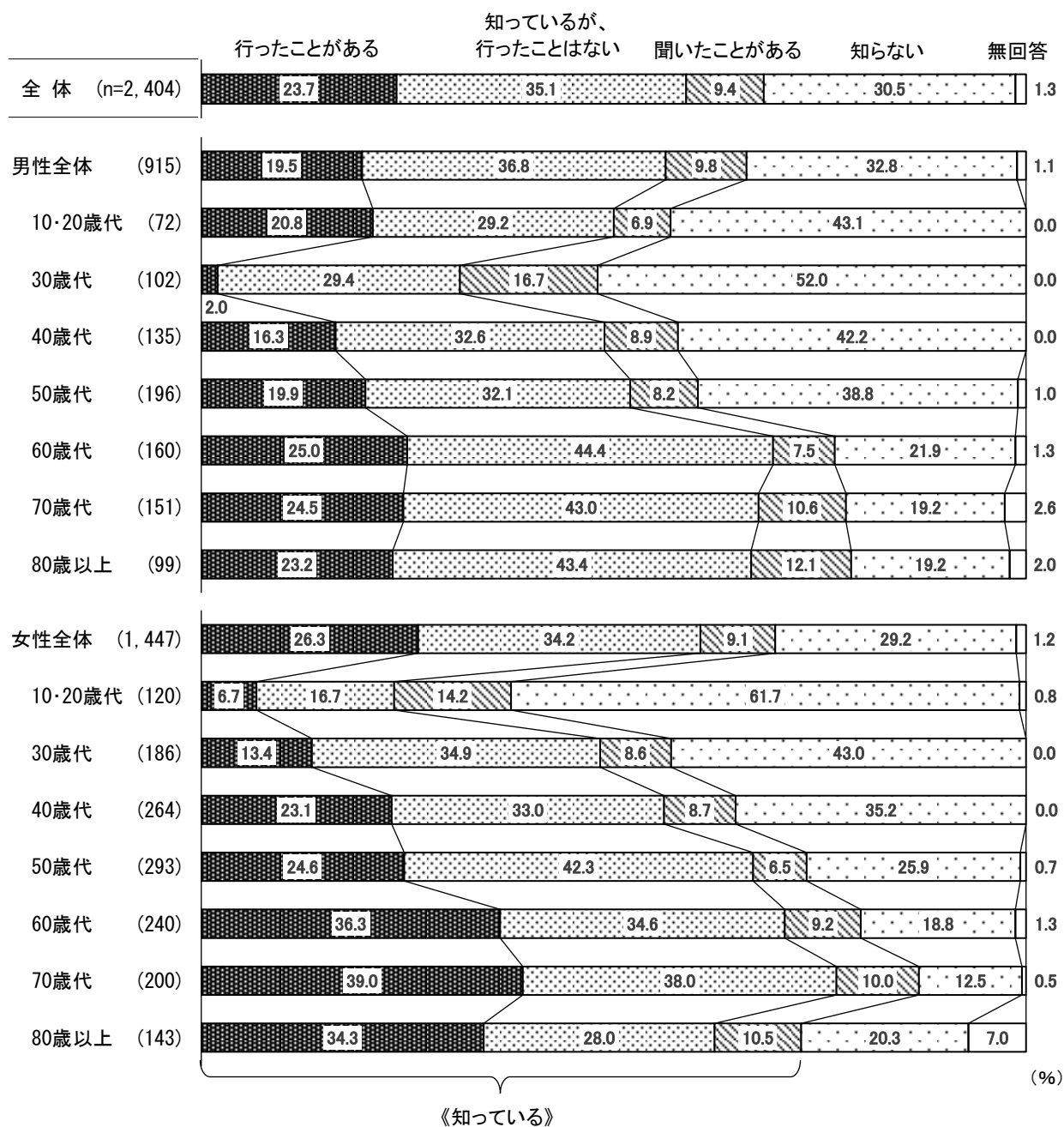
公立の文化施設（性・年齢別）



「公立の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の60歳代で7割を超え、女性の70歳代ではほぼ7割、男性の60歳代で6割半ばとなっている。「知らない」は男女とも30歳代以下が高く、男性の30歳代で3割近く、女性の30歳代で2割、女性の10・20歳代ではほぼ2割、男性の10・20歳代で2割近くとなっている。（図9-1-3）

図 9 - 1 - 4 区内の文化資源の認知度

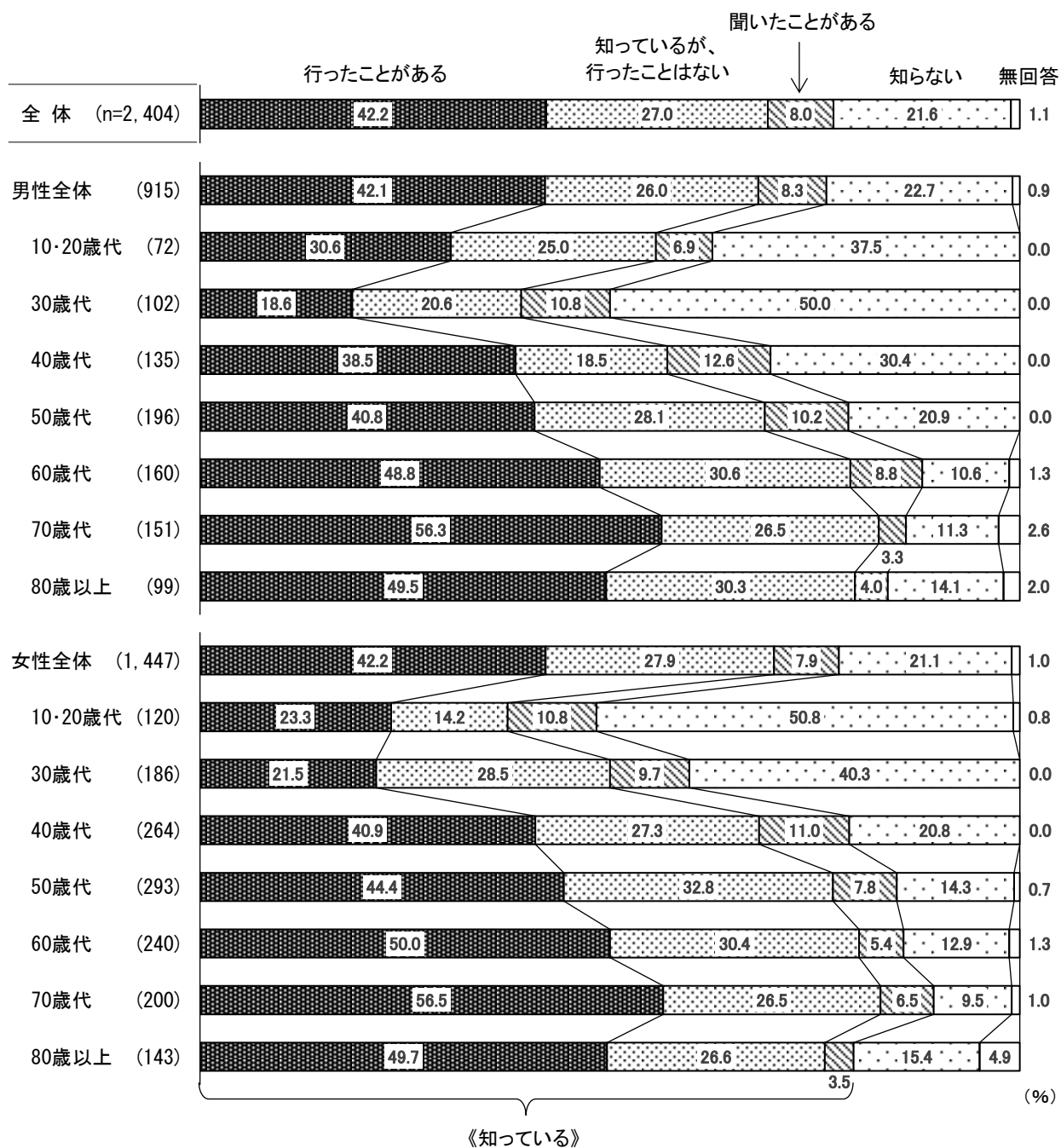
民間の文化施設（性・年齢別）



「民間の文化施設」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の70歳代でほぼ4割、女性の60歳代と80歳以上で3割半ばとなっている。「知らない」は女性の10・20歳代で6割を超え、男性の30歳代で5割を超え、男性の10・20歳代と40歳代、女性の30歳代で4割を超えている。（図9-1-4）

図 9-1-5 区内の文化資源の認知度

歴史的な文化資源（性・年齢別）



「歴史的な文化資源」について性・年齢別にみると、「行ったことがある」は女性の70歳代で6割近く、男性の70歳代で5割半ば、男性の80歳以上、女性の60歳代と80歳以上で5割となっている。

「知らない」は女性の10・20歳代でほぼ5割、男性の30歳代で5割、女性の30歳代で4割となっている。（図9-1-5）

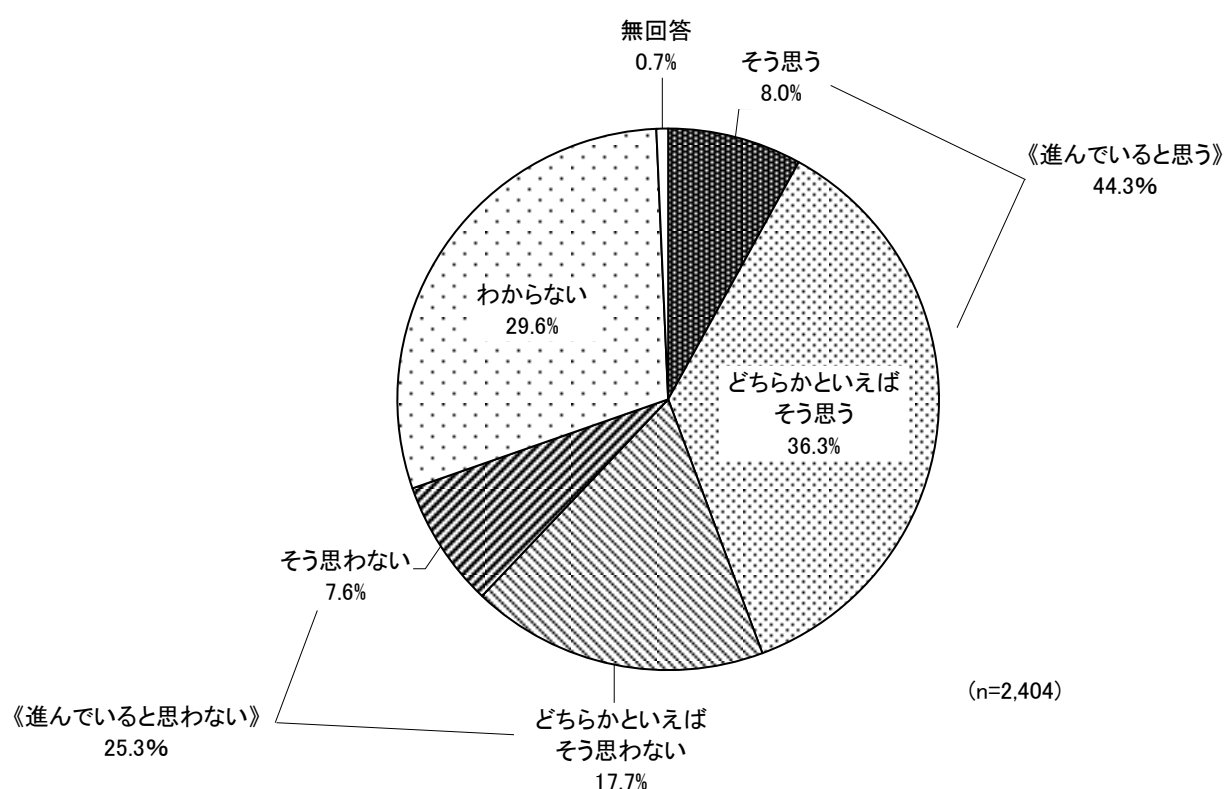
10. 多文化共生

(1) 区の多文化共生社会への進捗状況

◎ 《進んでいると思う》が4割半ば、《進んでいると思わない》が2割半ば

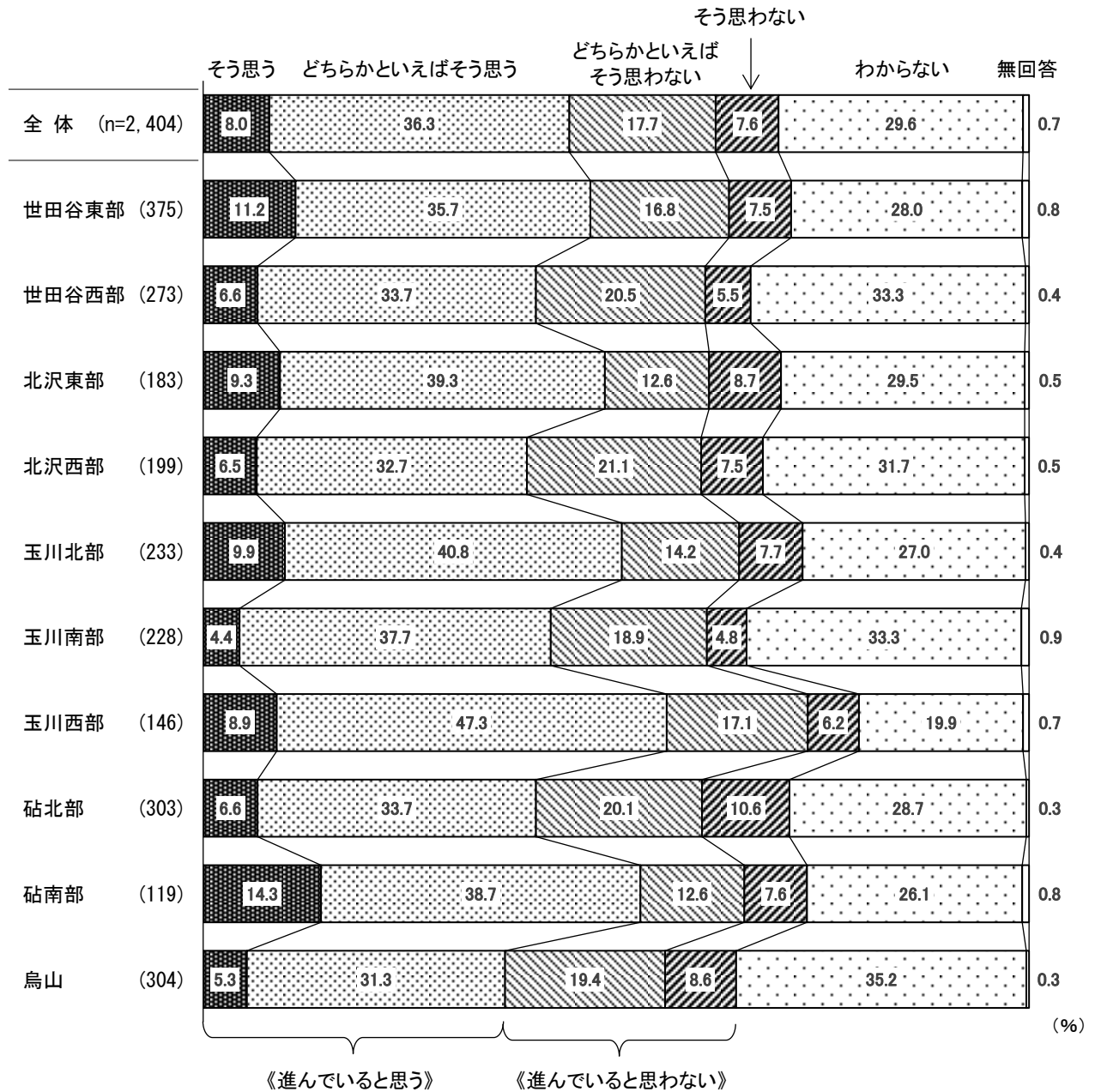
問28 あなたは、「外国人住民と日本人住民が共に暮らす」という視点からみて、世田谷区は多文化共生が進んでいると思いますか。(〇は1つ)

図10-1-1



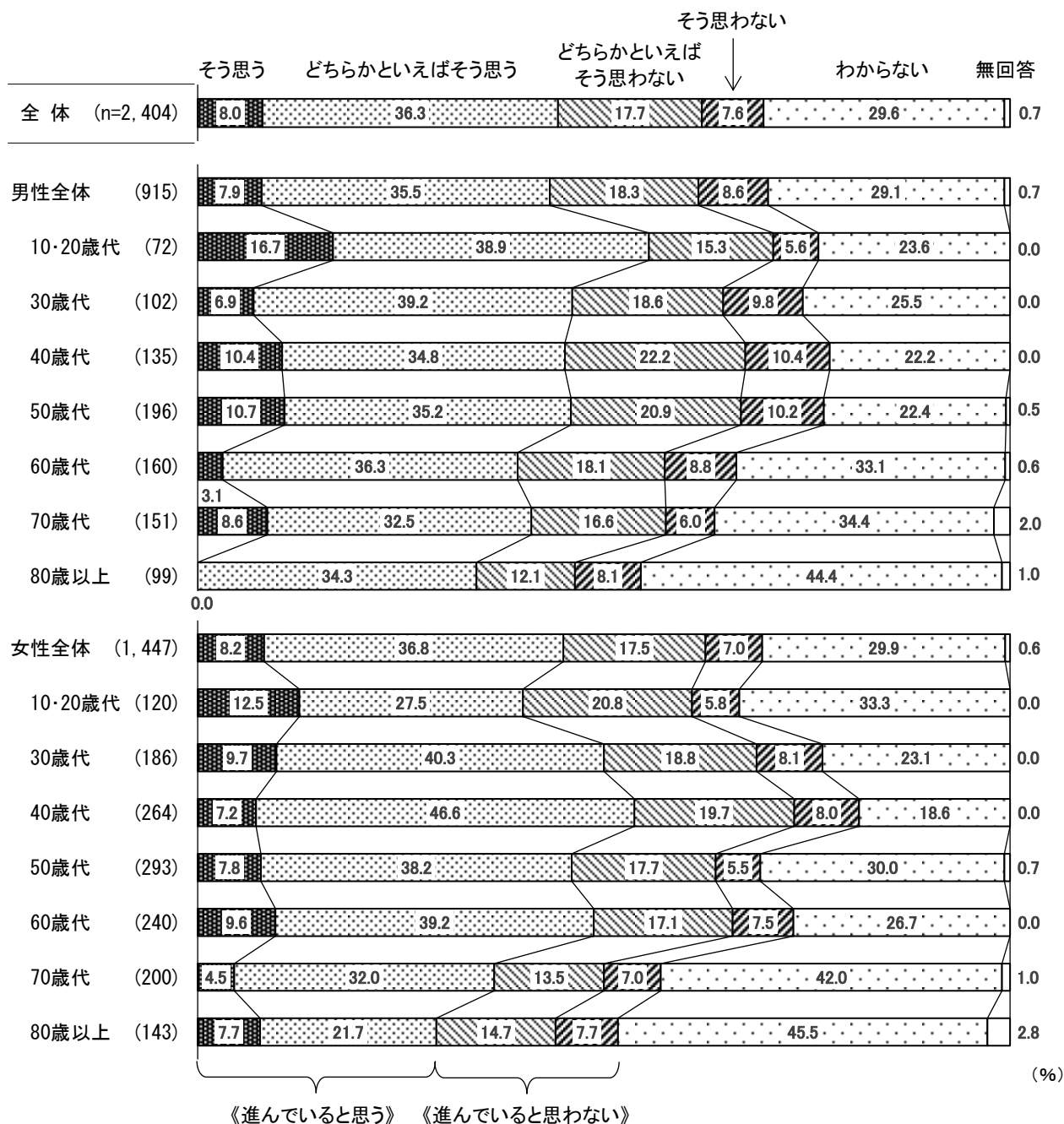
区の多文化共生が進んでいると思うか聞いたところ、「どちらかといえば思う」（36.3%）と「そう思う」（8.0%）を合わせた《進んでいると思う》（44.3%）が4割半ばとなっている。一方、「どちらかといえばそう思わない」（17.7%）と「そう思わない」（7.6%）を合わせた《進んでいると思わない》（25.3%）は2割半ばとなっている。（図10-1-1）

図 10-1-2 区の多文化共生社会への進捗状況（地域別）



地域別にみると、《進んでいると思う》は玉川西部で5割半ば、砧南部で5割を超え、玉川北部でほぼ5割となっている。《進んでいると思わない》は砧北部でほぼ3割、烏山、北沢西部で3割近くとなっている。（図10-1-2）

図 10-1-3 区の多文化共生社会への進捗状況（性・年齢別）



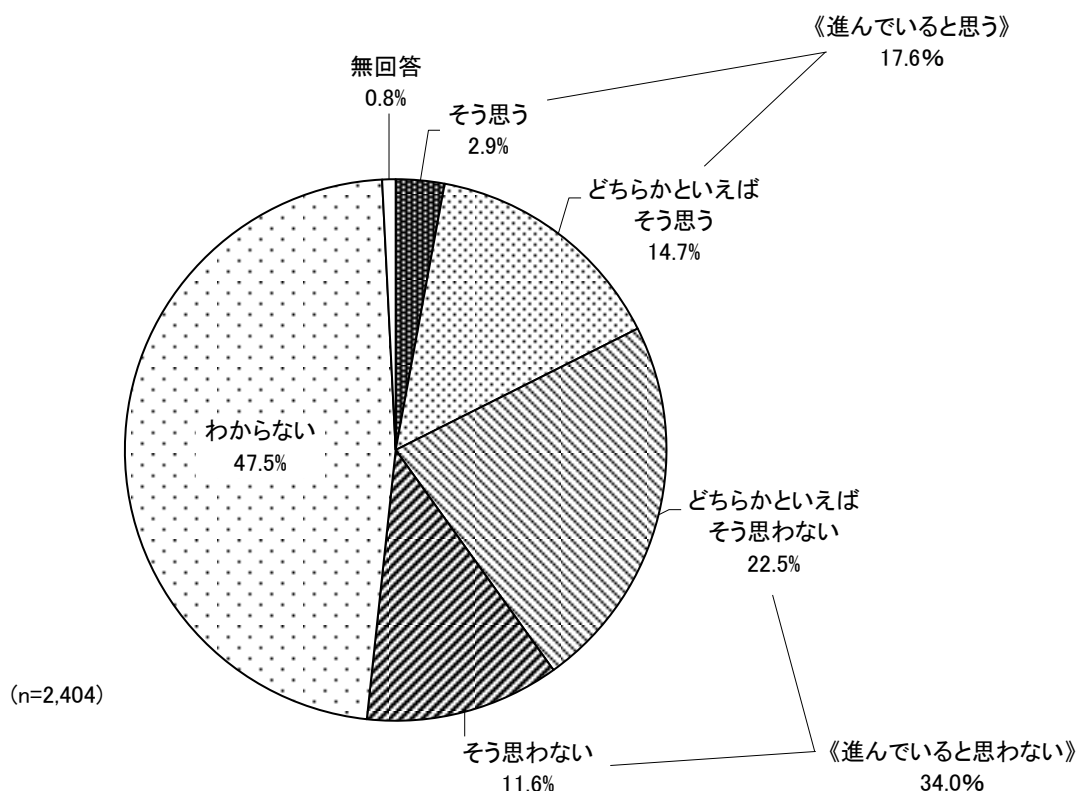
性・年齢別にみると、《進んでいると思う》は男性の10・20歳代で5割半ば、女性の40歳代で5割を超え、女性の30歳代で5割となっている。《進んでいると思わない》は男性の40歳代と50歳代で3割を超えている。（図10-1-3）

（２）外国人の地域活動への参加の進捗状況

◎ 《進んでいると思う》が２割近く、《進んでいると思わない》が３割半ば

問２９ 区では、外国人等が地域住民の一人として地域社会に参加・活躍できるように、地域のおまつりや防災訓練、ボランティア活動などへの参加を促進しています。
あなたは、外国人等の地域活動への参加が進んでいると思いますか。（○は１つ）

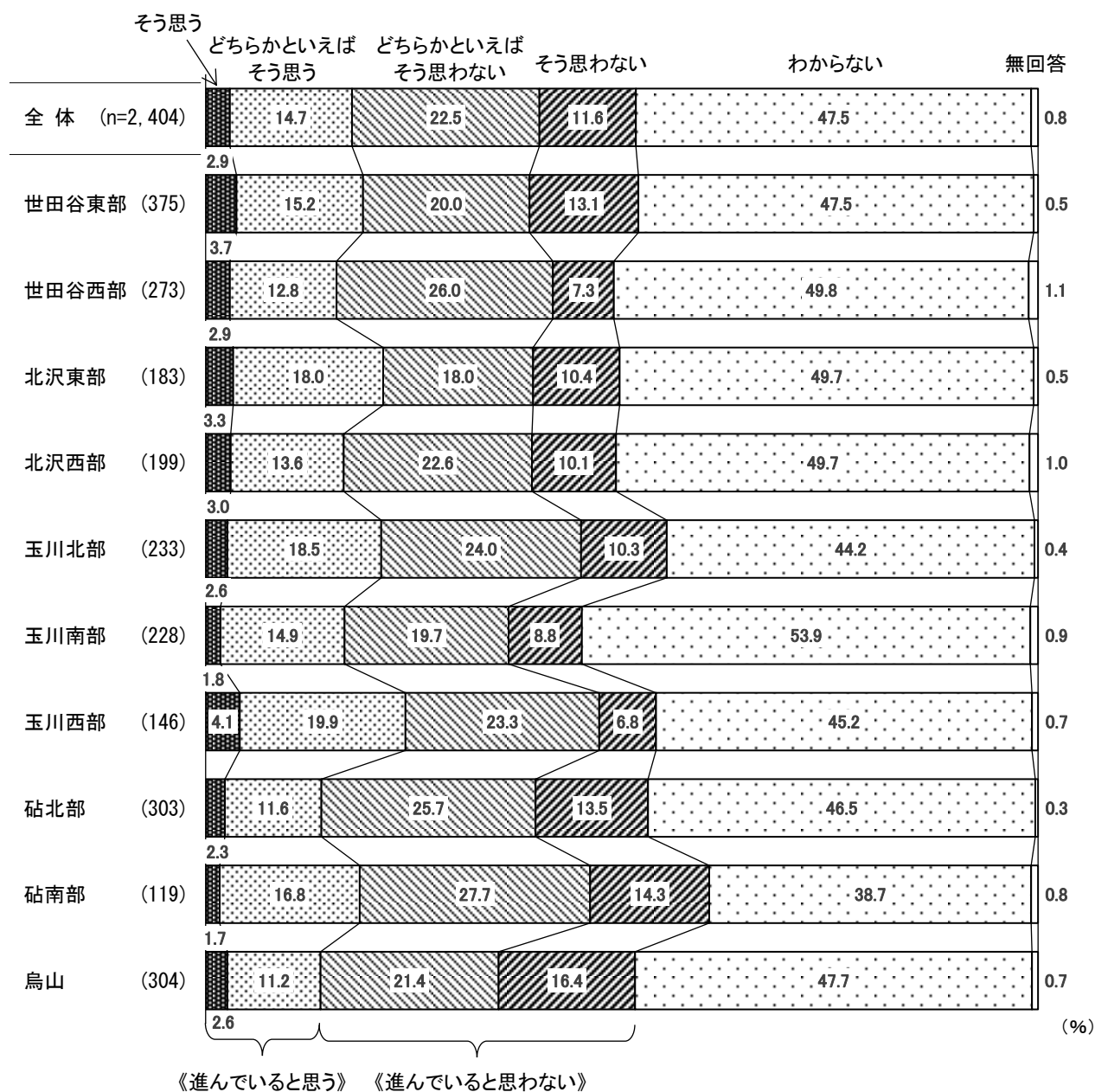
図１０－２－１



外国人等の地域活動への参加が進んでいると思うか聞いたところ、「わからない」（47.5%）が５割近くで最も高い。「どちらかといえばそう思わない」（22.5%）と「そう思わない」（11.6%）を合わせた《進んでいると思わない》（34.0%）が３割半ば、「そう思う」（2.9%）と「どちらかといえばそう思う」（14.7%）を合わせた《進んでいると思う》（17.6%）は２割近くとなっている。

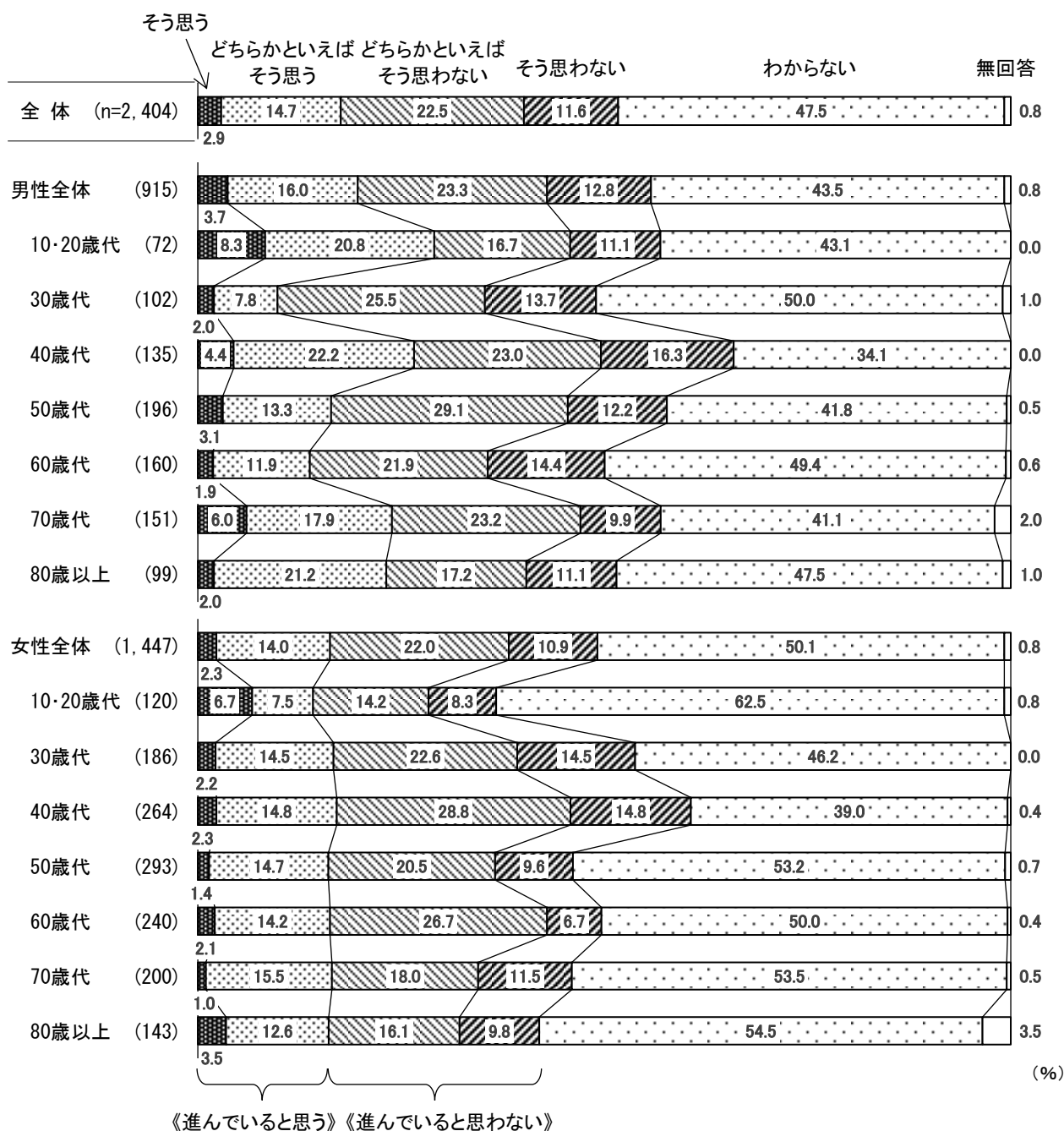
（図１０－２－１）

図 10-2-2 外国人の地域活動への参加の進捗状況（地域別）



地域別にみると、《進んでいると思う》は玉川西部で2割半ば、北沢東部、玉川北部で2割を超えている。《進んでいると思わない》は砧南部で4割を超え、砧北部でほぼ4割、烏山で4割近くとなっている。「わからない」は玉川南部で5割を超えている。（図10-2-2）

図 10-2-3 外国人の地域活動への参加の進捗状況（性・年齢別）



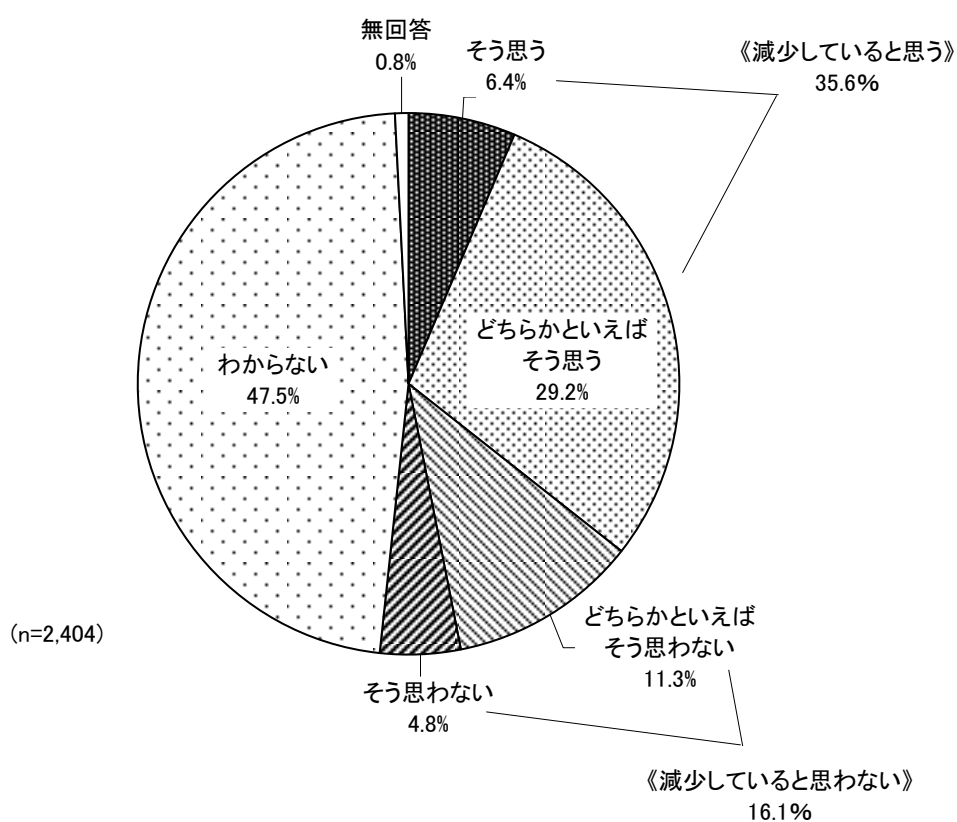
性・年齢別にみると、《進んでいると思う》は男性の10・20歳代でほぼ3割、男性の40歳代で3割近くとなっている。《進んでいると思わない》は男性の50歳代、女性の40歳代で4割を超え、男性の30歳代と40歳代でほぼ4割となっている。「わからない」は女性の10・20歳代で6割を超え、女性の80歳以上で5割半ば、女性の50歳代と70歳代で5割を超えている。（図10-2-3）

（３）区内の外国人への偏見や差別の改善状況

◎《減少していると思う》が３割半ば、《減少していると思わない》が１割半ば

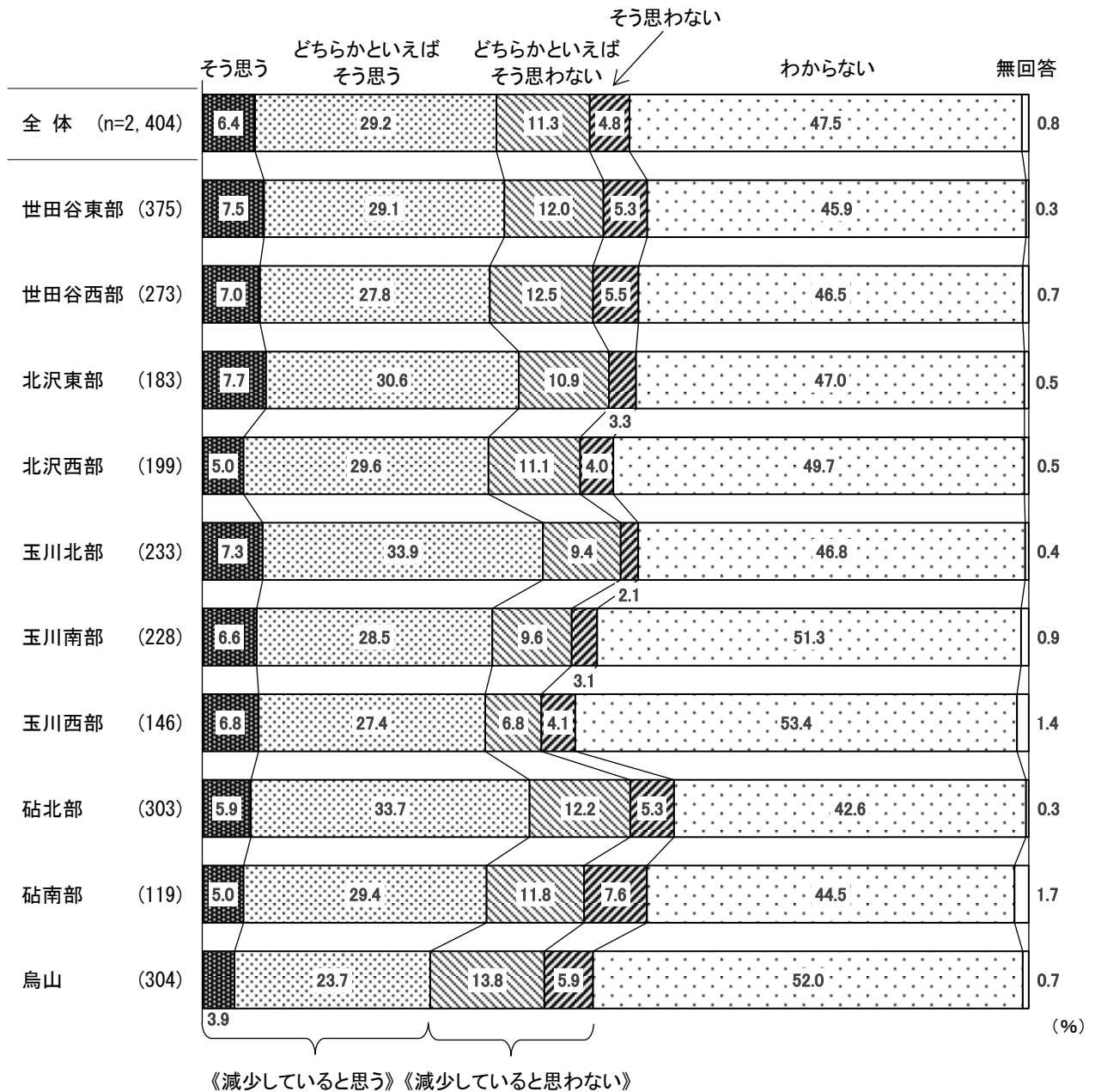
問３０ 区では、多様な文化を理解し合える交流イベントなどを開催し、区民一人ひとりが互いの文化について理解を深め、偏見や差別を解消することで、多文化共生社会の実現を目指しています。あなたは、区内において外国人等に対する偏見や差別が減少していると思いますか。（○は１つ）

図１０－３－１



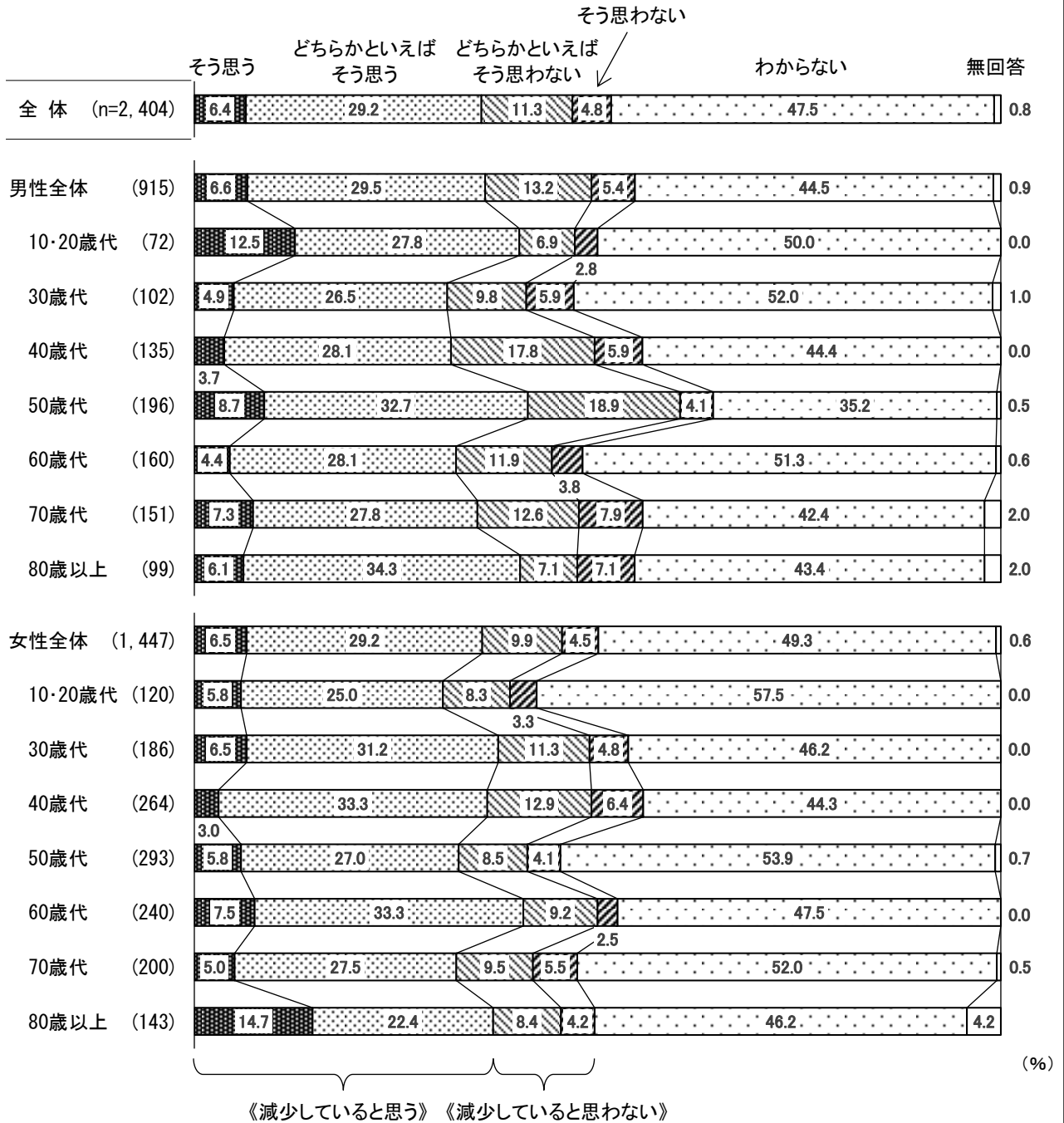
区内の外国人等に対する偏見や差別が減少していると思うか聞いたところ、「わからない」（47.5％）が５割近くで最も高い。「どちらかといえばそう思う」（29.2％）がほぼ３割で、「そう思う」（6.4％）と合わせた《減少していると思う》（35.6％）が３割半ばとなっている。「どちらかといえばそう思わない」（11.3％）と「そう思わない」（4.8％）を合わせた《減少していると思わない》（16.1％）は１割半ばとなっている。（図１０－３－１）

図 10-3-2 区内の外国人への偏見や差別の改善状況（地域別）



地域別にみると、《減少していると思う》は玉川北部で4割を超え、砧北部で4割、北沢東部、世田谷東部で4割近くとなっている。《減少していると思わない》は烏山で2割、砧南部でほぼ2割となっている。「わからない」は玉川西部、烏山、玉川南部で5割を超えている。（図10-3-2）

図 10-3-3 区内の外国人への偏見や差別の改善状況（性・年齢別）

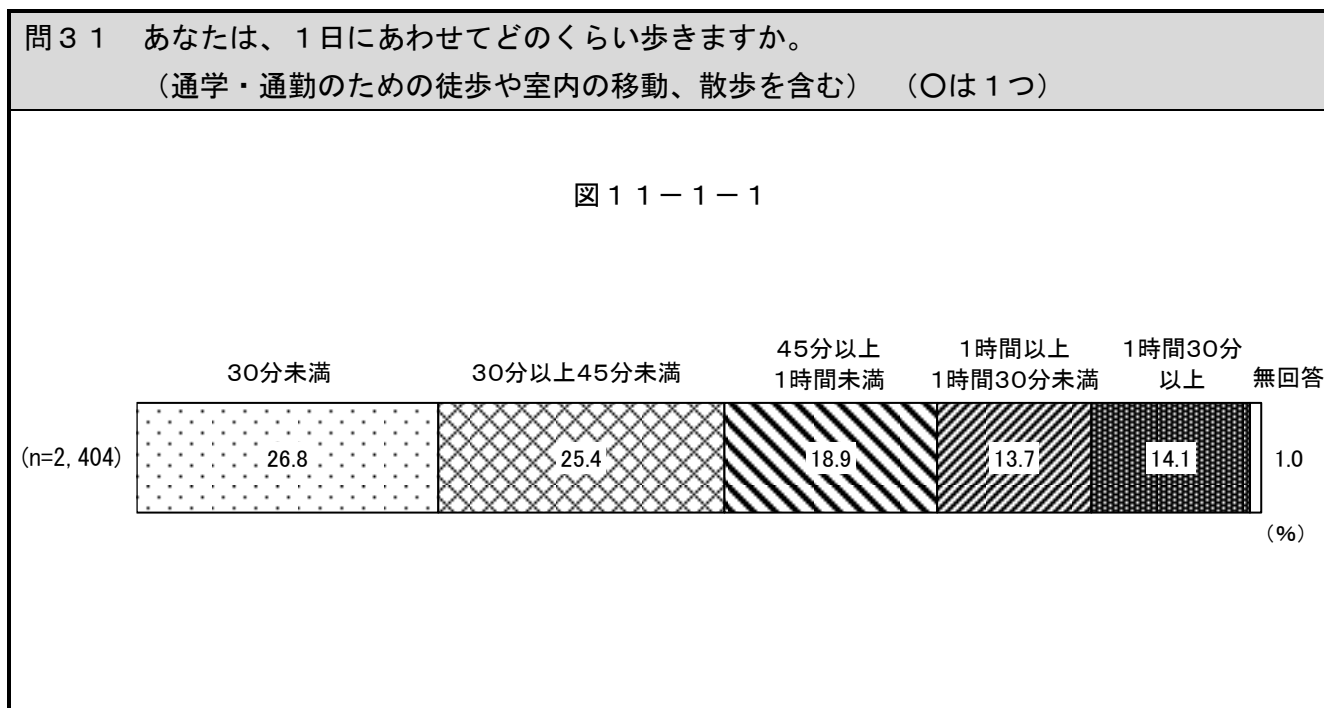


性・年齢別にみると、《減少していると思う》は男性の50歳代で4割を超え、女性の60歳代では4割、男性の10・20歳代と80歳以上で4割となっている。《減少していると思わない》は男性の40歳代と50歳代で2割を超えている。「わからない」は女性の10・20歳代で6割近く、男性の30歳代と60歳代、女性の50歳代と70歳代で5割を超えている。（図10-3-3）

11. 健康づくり

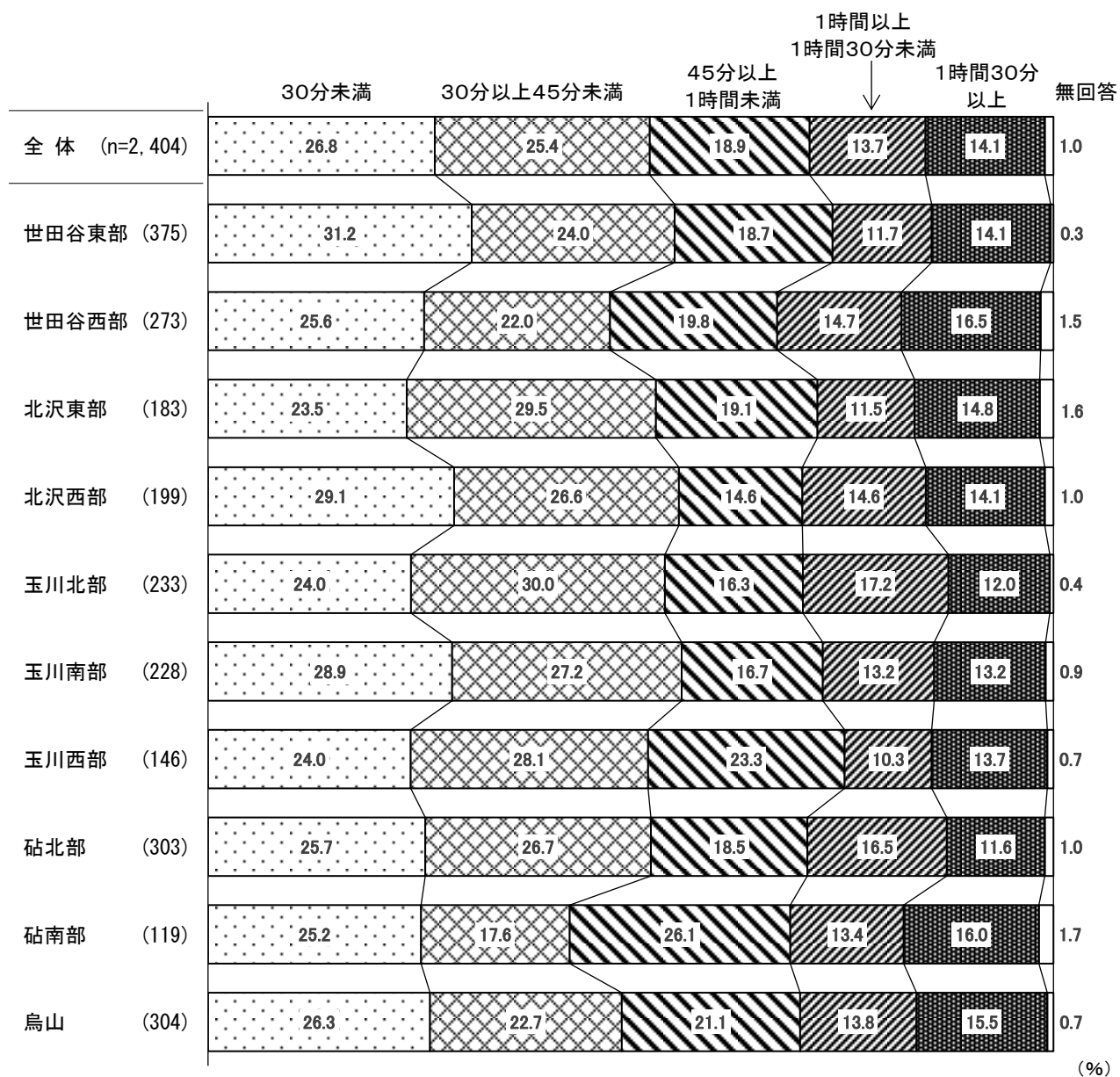
(1) 1日の歩行時間

◎「30分未満」が3割近く、「30分以上45分未満」が2割半ば



1日の歩行時間を聞いたところ、「30分未満」(26.8%)が3割近く、「30分以上45分未満」(25.4%)が2割半ばとなっている。以下、「45分以上1時間未満」(18.9%)、「1時間30分以上」(14.1%)、「1時間以上1時間30分未満」(13.7%)と続く。(図 1 1 - 1 - 1)

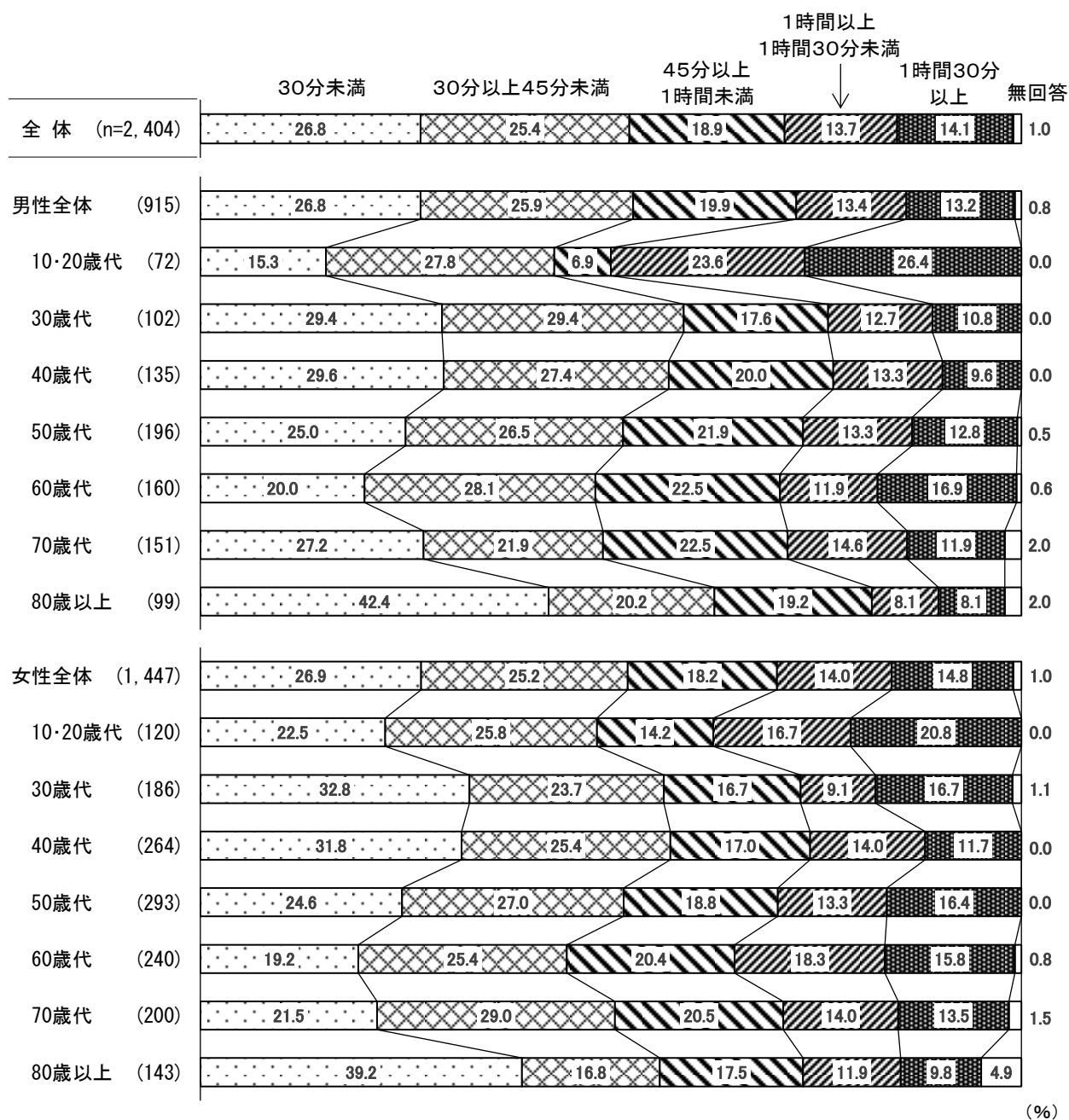
図 1 1 - 1 - 2 1 日の歩行時間（地域別）



（％）

地域別にみると、「30 分未満」は世田谷東部で 3 割を超え、北沢西部でほぼ 3 割、玉川南部で 3 割近くとなっている。「30 分以上 45 分未満」は玉川北部、北沢東部で 3 割となっている。30 分以上（「30 分以上 45 分未満」＋「45 分以上 1 時間未満」＋「1 時間以上 1 時間 30 分未満」＋「1 時間 30 分以上」）は玉川北部、玉川西部、北沢東部で 7 割半ば、砧北部、砧南部、烏山、世田谷西部で 7 割を超えている。（図 1 1 - 1 - 2）

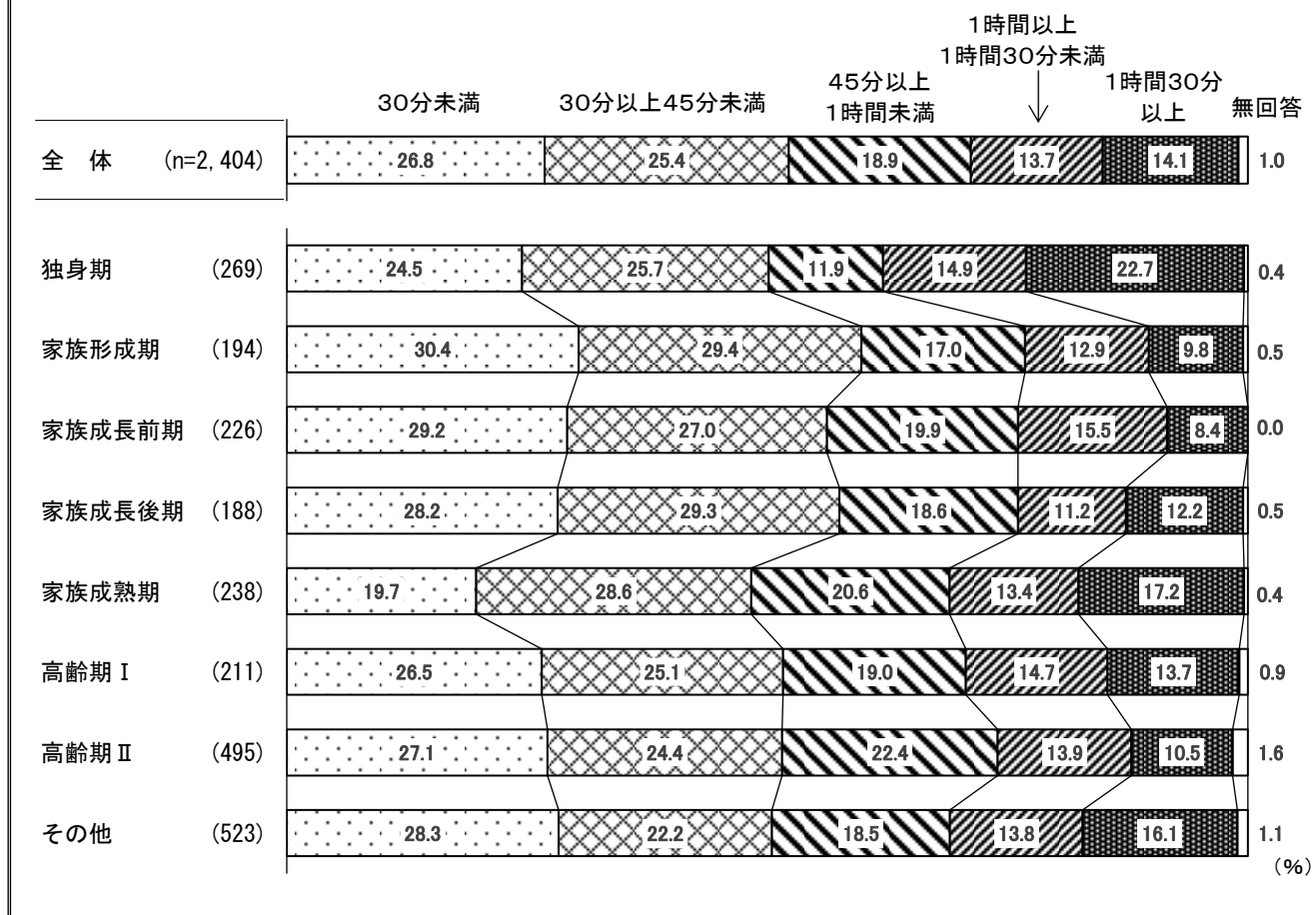
図 1 1 - 1 - 3 1日の歩行時間（性・年齢別）



(%)

性・年齢別にみると、「30分未満」は男性の80歳以上で4割を超え、女性の80歳以上ではほぼ4割、女性の30歳代と40歳代で3割を超えている。「30分以上45分未満」は男性の30歳代、女性の70歳代ではほぼ3割、男性の10・20歳代と40歳代～60歳代、女性の50歳代で3割近くとなっている。30分以上（「30分以上45分未満」＋「45分以上1時間未満」＋「1時間以上1時間30分未満」＋「1時間30分以上」）は男性の10・20歳代で8割半ば、女性の60歳代で8割、男性の60歳代ではほぼ8割となっている。（図11-1-3）

図 1 1 - 1 - 4 1日の歩行時間（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「30 分未満」は家族形成期で 3 割、家族成長前期でほぼ 3 割と高く、家族成熟期で 2 割と低い。「30 分以上 45 分未満」は家族形成期、家族成長後期でほぼ 3 割、家族成長前期、家族成熟期で 3 割近くとなっている。30 分以上（「30 分以上 45 分未満」＋「45 分以上 1 時間未満」＋「1 時間以上 1 時間 30 分未満」＋「1 時間 30 分以上」）は家族成熟期で 8 割、独身期で 7 割半ばとなっている。（図 1 1 - 1 - 4）

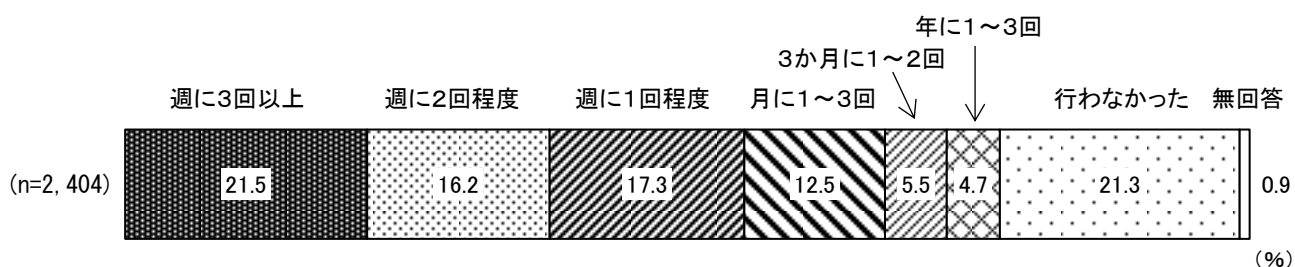
12. スポーツ

(1) この1年間に行ったスポーツや運動の回数

◎「週に3回以上」が2割を超える

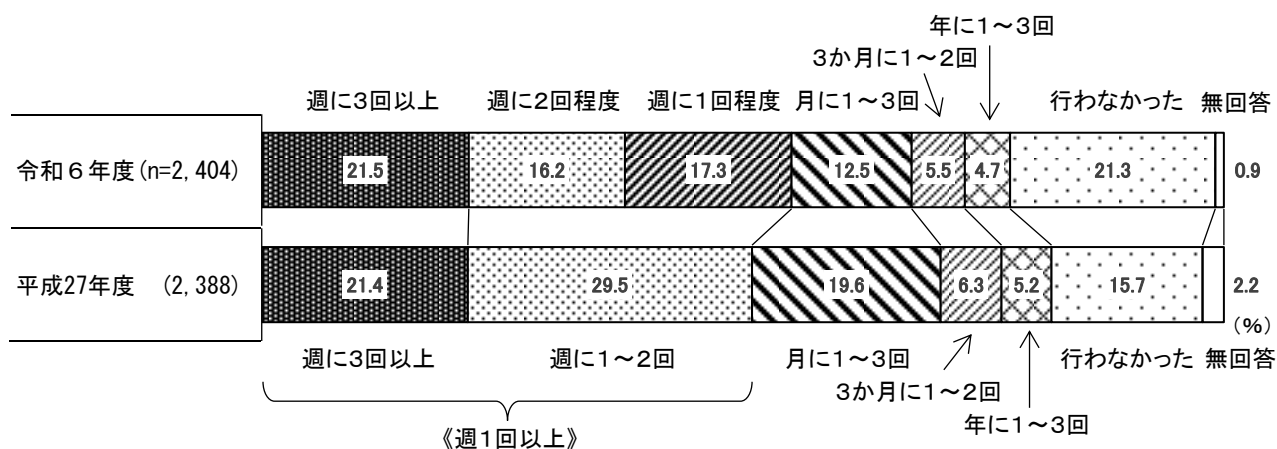
問32 あなたがこの1年間にスポーツや運動（ウォーキングや軽い体操、介護予防のためのトレーニング、様々なレクリエーションなどを含む）を行った回数はどのくらいですか。（○は1つ）

図12-1-1



この1年間に行ったスポーツや運動の回数を聞いたところ、「週に3回以上」（21.5%）が2割を超えて最も高く、次いで「行わなかった」（21.3%）も2割を超える。以下、「週に1回程度」（17.3%）、「週に2回程度」（16.2%）、「月に1～3回」（12.5%）などと続く。（図12-1-1）

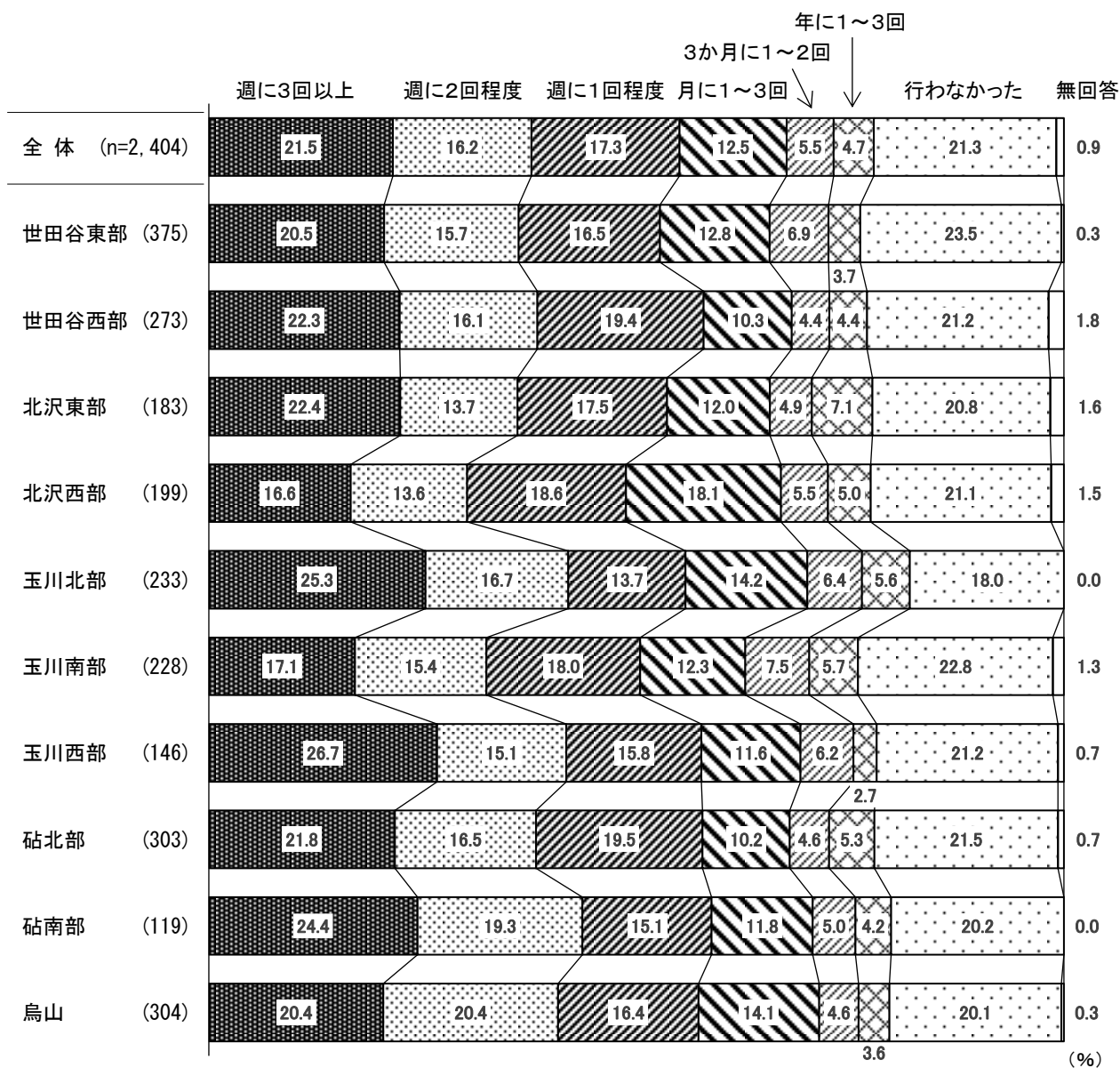
図 1 2 - 1 - 2 この 1 年間に行ったスポーツや運動の回数（時系列）



注) 令和5年度調査から「週に1~2回」を「週に1回程度」「週に2回程度」の2つの選択肢とした。

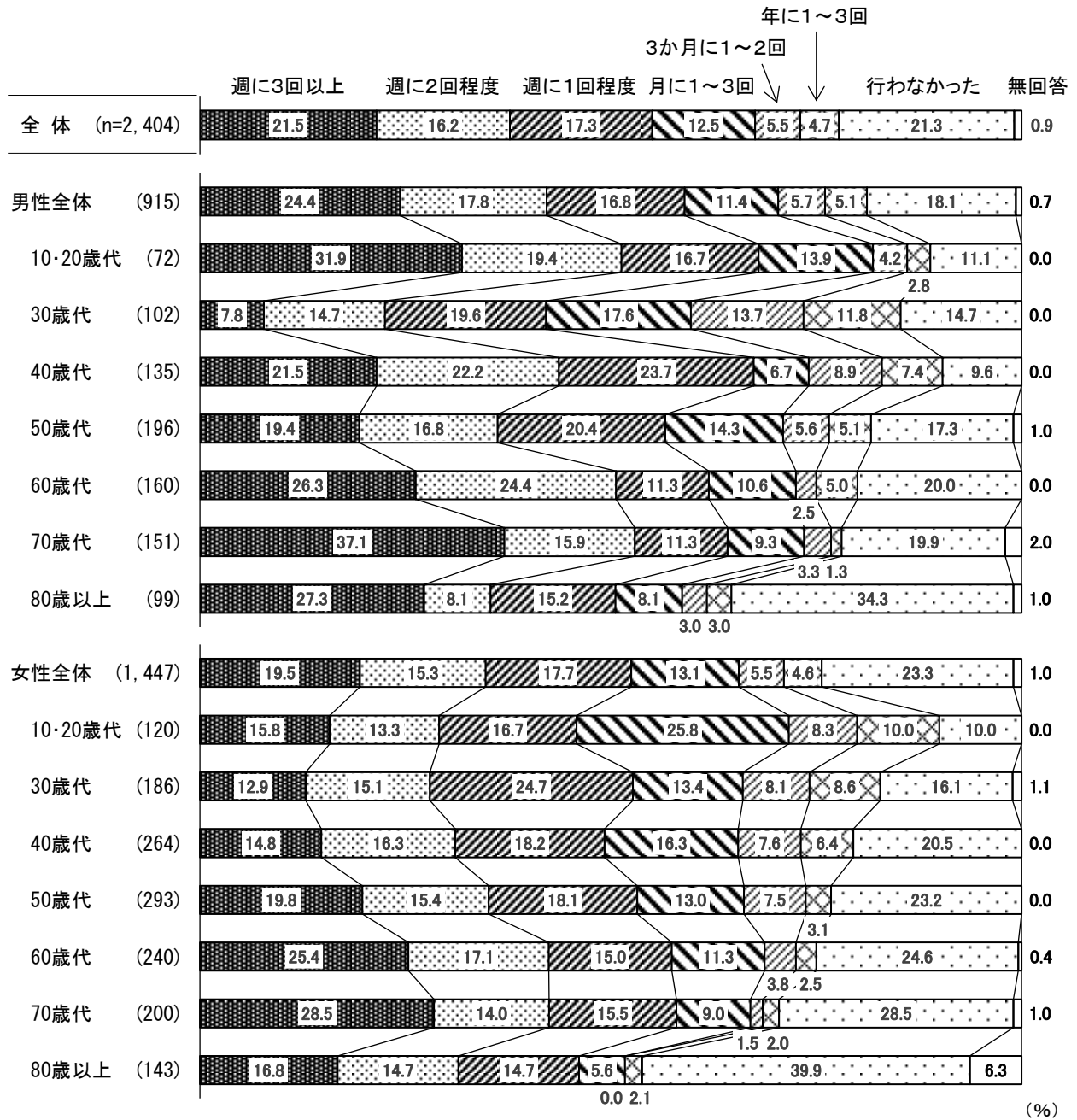
平成 27 年度からの時系列の変化をみると、《週 1 回以上》は平成 27 年度（50.9%）から令和 6 年度（55.0%）で増加している。「行わなかった」も平成 27 年度（15.7%）から令和 6 年度（21.3%）で増加している。（図 1 2 - 1 - 2）

図 1 2 - 1 - 3 この 1 年間に行ったスポーツや運動の回数（地域別）



地域別にみると、「週に3回以上」は玉川西部で3割近く、玉川北部、砧南部で2割半ばとなっている。《週1回以上》（「週に3回以上」＋「週に2回程度」＋「週に1回程度」）は砧南部、世田谷西部、砧北部、玉川西部、烏山で6割近くと高く、玉川南部で5割、北沢西部で5割近くと低い。《月1回以上》（「週に3回以上」＋「週に2回程度」＋「週に1回程度」＋「月に1～3回」）は烏山で7割を超え、砧南部、玉川西部ではほぼ7割、玉川北部で7割となっている。（図12-1-3）

図 1 2 - 1 - 4 この 1 年間に行ったスポーツや運動の回数（性・年齢別）



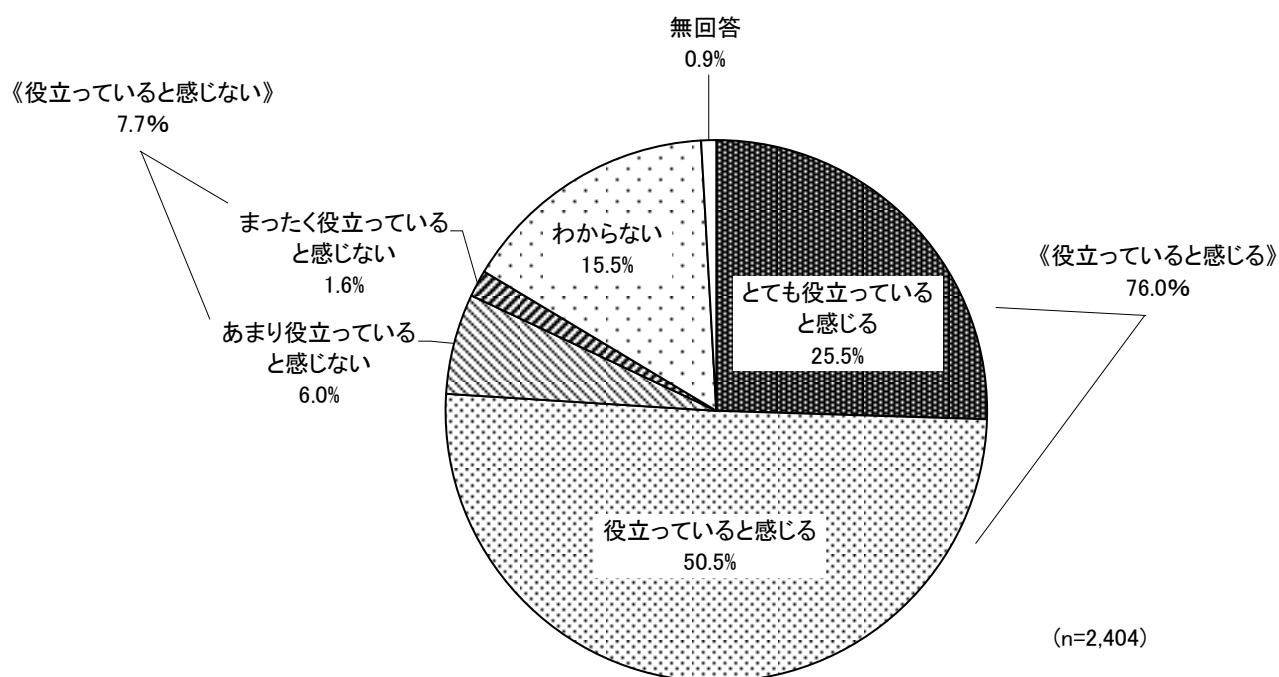
性・年齢別にみると、「週に3回以上」は男性の70歳代で4割近く、男性の10・20歳代で3割を超え、男性の80歳以上、女性の70歳代で3割近くとなっている。《週1回以上》は男性の10・20歳代と40歳代で7割近く、男性の70歳代で6割半ばとなっている。《月1回以上》は男性の10・20歳代で8割を超え、男性の40歳代～70歳代と女性の10・20歳代で7割台となっている。「行わなかった」は女性の80歳以上で4割、男性の80歳以上で3割半ばとなっている。（図 1 2 - 1 - 4）

(2) スポーツの生活の質向上への役立ち度

◎《役立っていると感じる》が7割半ば

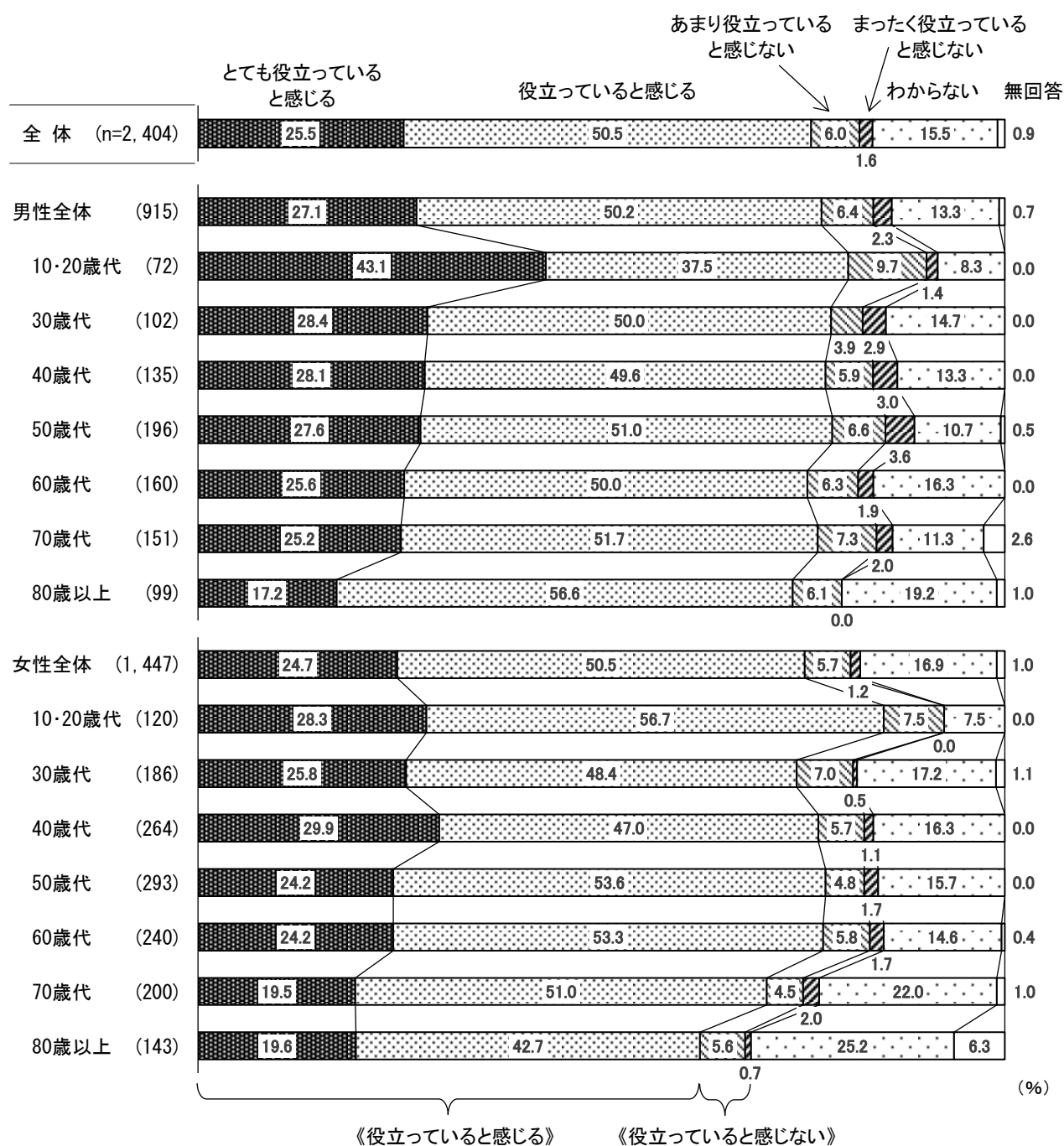
問33 あなたは、スポーツが生活の質の向上に役立っていると感じますか。(○は1つ)

図12-2-1



スポーツが生活の質の向上に役立っていると感じるか聞いたところ、「役立っていると感じる」(50.5%)がほぼ5割で、「とても役立っていると感じる」(25.5%)と合わせた《役立っていると感じる》(76.0%)が7割半ばとなっている。「あまり役立っていると感じない」(6.0%)と「まったく役立っていると感じない」(1.6%)を合わせた《役立っていると感じない》(7.7%)は1割未満となっている。(図12-2-1)

図 1 2 - 2 - 2 スポーツの生活の質向上への役立ち度（性・年齢別）



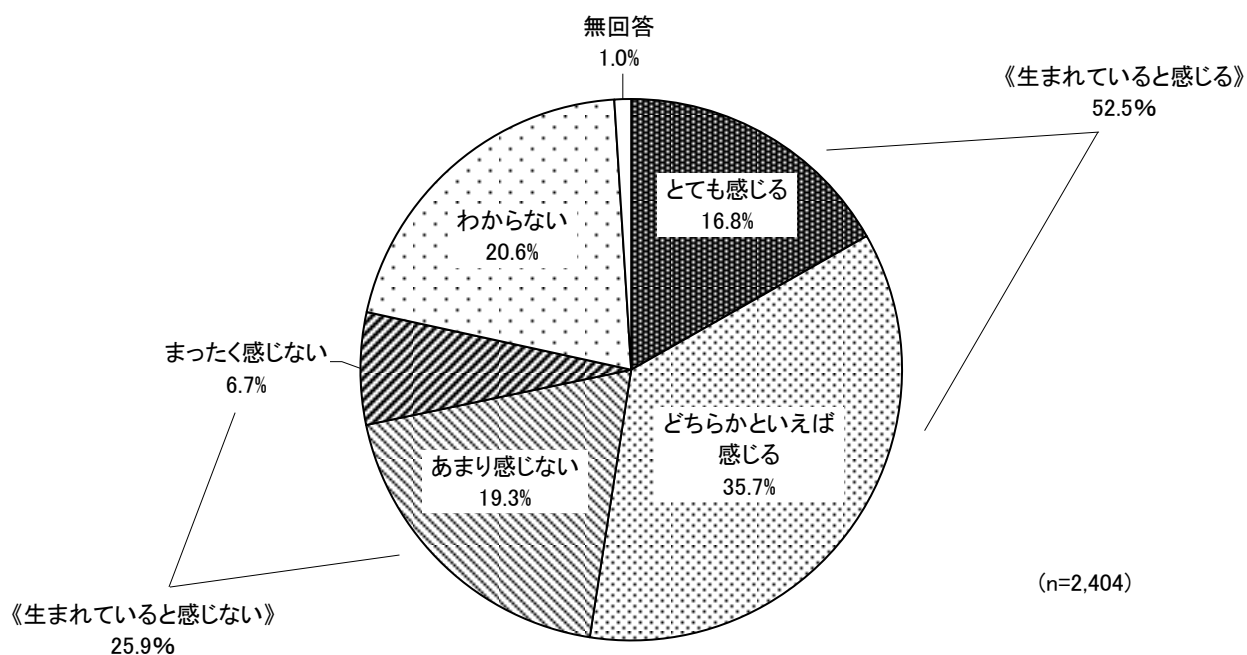
性・年齢別にみると、「とても役立っていると感じる」は男性の10・20歳代で4割を超えている。《役立っていると感じる》は男女とも10・20歳代が8割台と高く、その他の年代も女性の80歳以上の6割台を除くとすべて7割台となっている。《役立っていると感じない》は男性の10・20歳代で1割を超えている。（図1 2 - 2 - 2）

(3) スポーツの新たな交流への貢献度

◎新たな交流が《生まれていると感じる》が5割を超える

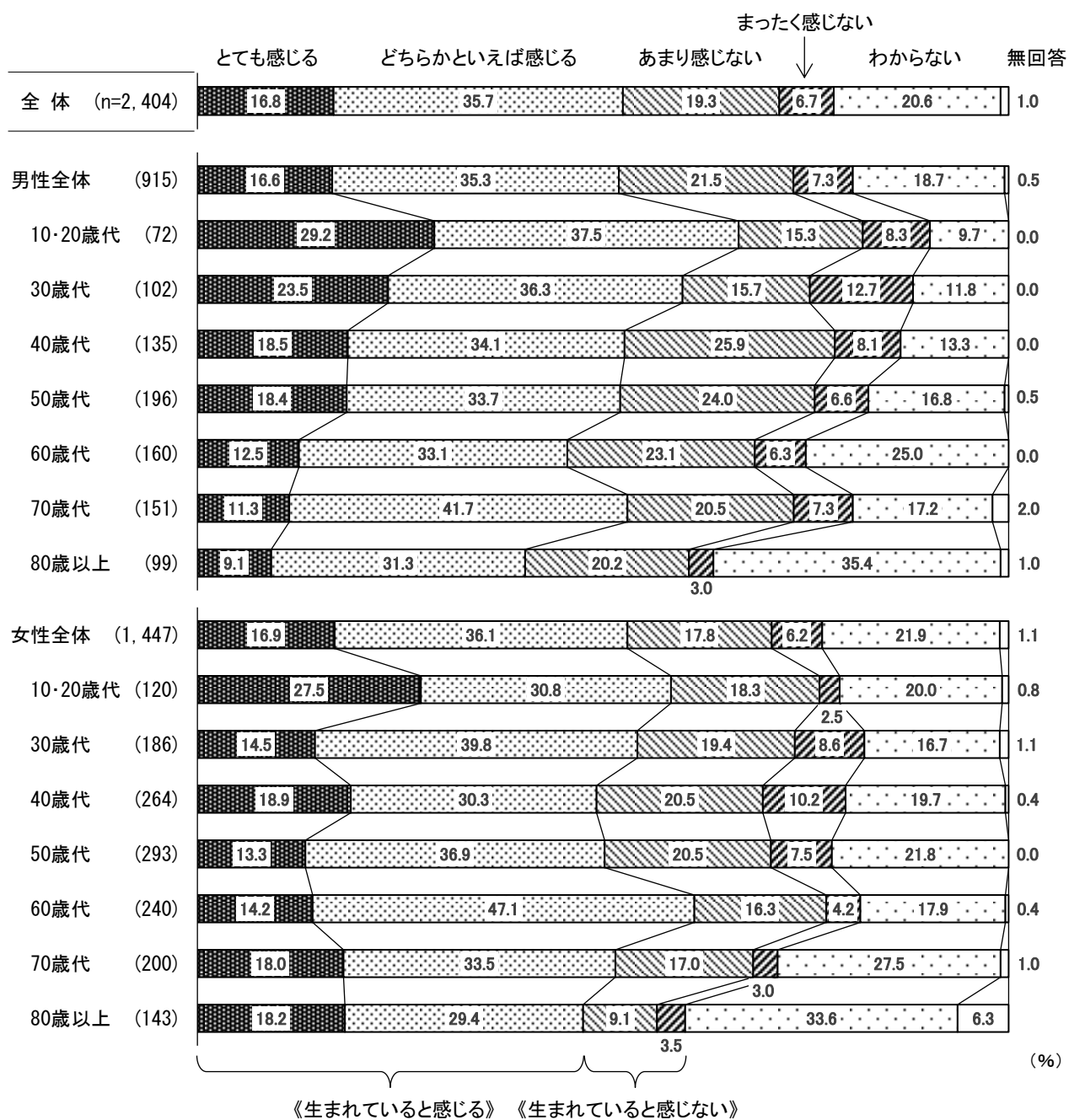
問34 あなたは、スポーツを通じて新たな交流が生まれていると感じますか。(○は1つ)

図12-3-1



スポーツを通じて新たな交流が生まれていると感じるか聞いたところ、「どちらかといえば感じる」(35.7%)が3割半ばで、「とても感じる」(16.8%)と合わせた《生まれていると感じる》(52.5%)が5割を超える。「あまり感じない」(19.3%)と「まったく感じない」(6.7%)を合わせた《生まれていないと感じない》(25.9%)は2割半ばとなっている。(図12-3-1)

図 1 2 - 3 - 2 スポーツの新たな交流への貢献度（性・年齢別）



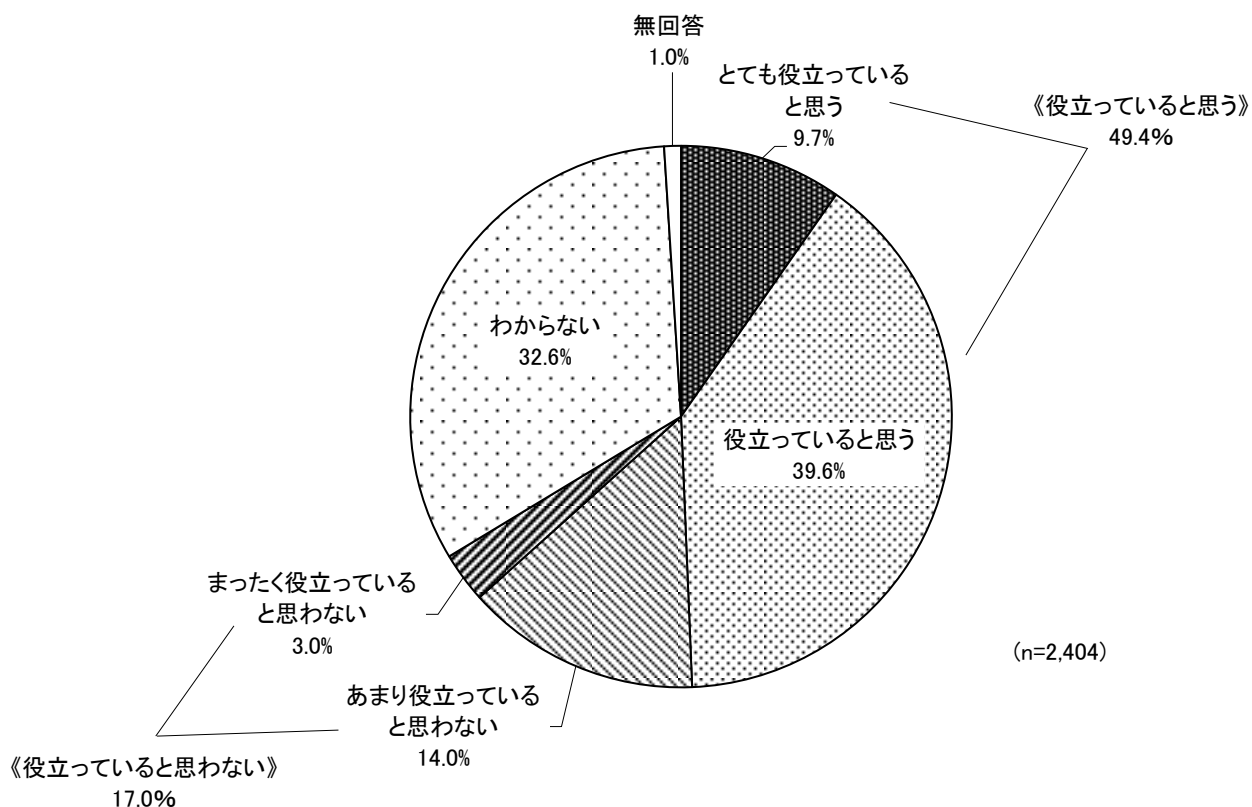
性・年齢別にみると、《生まれていると感じる》は男性の10・20歳代で7割近く、女性の60歳代で6割を超え、男性の30歳代で6割、女性の10・20歳代で6割近くとなっている。《生まれていると感じない》は男性の40歳代で3割半ば、男性の50歳代と60歳代、女性の40歳代ではほぼ3割となっている。（図12-3-2）

(4) スポーツの地域の活性化への役立ち度

◎地域の活性化に《役立っていると思う》がほぼ5割

問35 あなたは、スポーツが地域の活性化に役立っていると思いますか。(○は1つ)

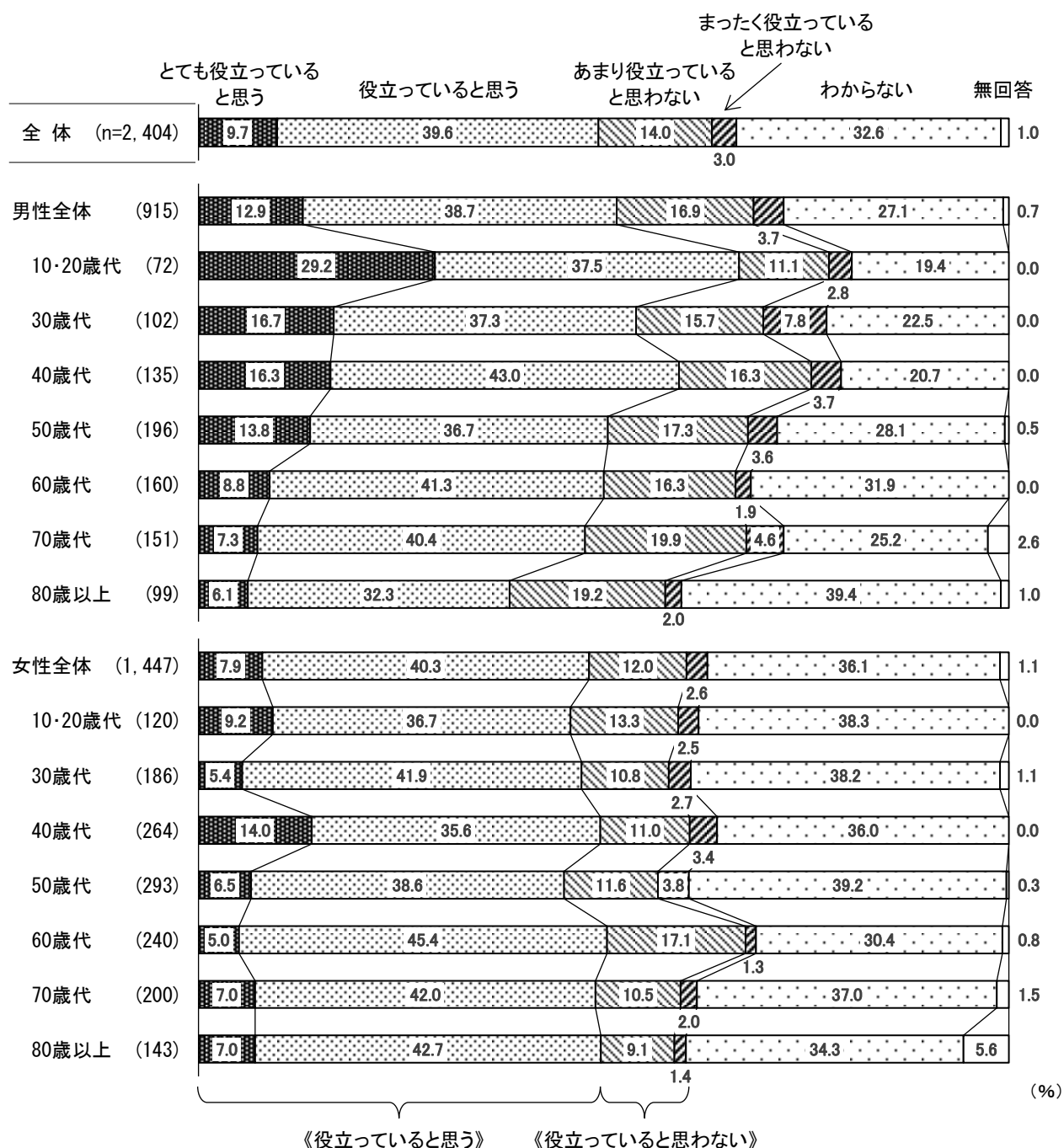
図12-4-1



スポーツが地域の活性化に役立っていると思うか聞いたところ、「役立っていると思う」(39.6%)が4割で、「とても役立っていると思う」(9.7%)と合わせた《役立っていると思う》(49.4%)がほぼ5割となっている。「あまり役立っていると思わない」(14.0%)と「まったく役立っていると思わない」(3.0%)を合わせた《役立っていると思わない》(17.0%)は2割近くとなっている。

(図12-4-1)

図 1 2 - 4 - 2 スポーツの地域の活性化への役立ち度（性・年齢別）



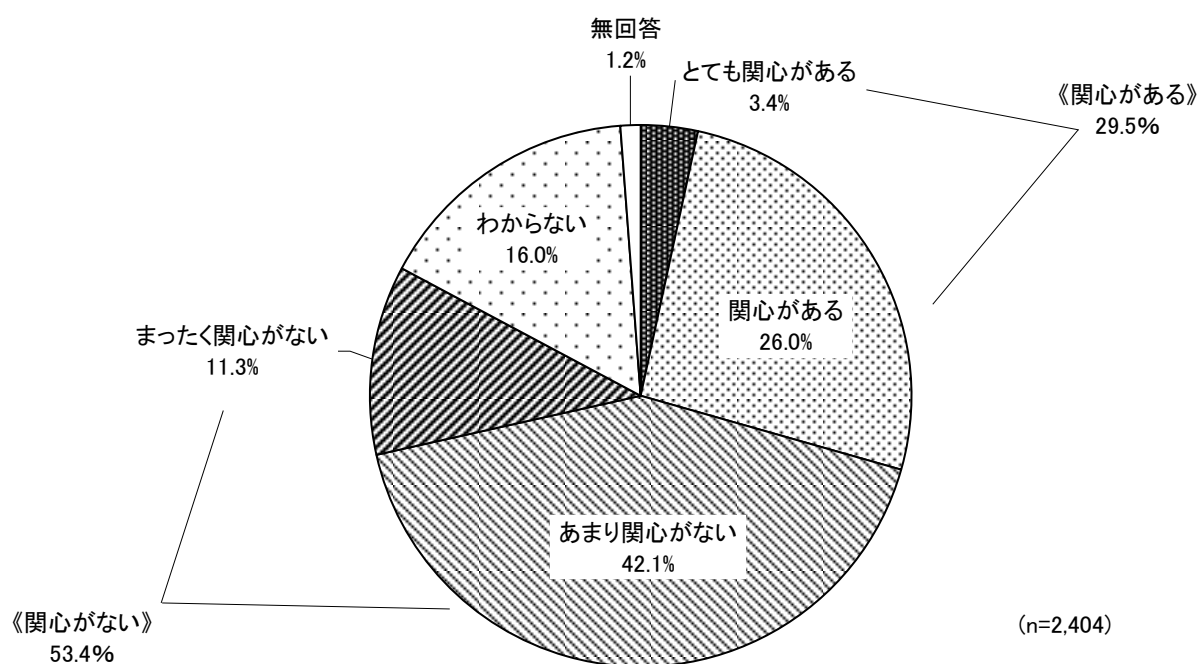
性・年齢別にみると、《役立っていると思う》は男性の10・20歳代で7割近く、男性の40歳代でほぼ6割、男性の30歳代で5割を超える。《役立っていると思わない》は男性の70歳代で2割半ば、男性の30歳代と80歳以上で2割を超えている。「わからない」は男性の60歳代と80歳以上、女性のすべての年代で3割台となっている。（図12-4-2）

(5) ユニバーサルスポーツの関心度

◎ 《関心がある》が3割、《関心がない》が5割を超える

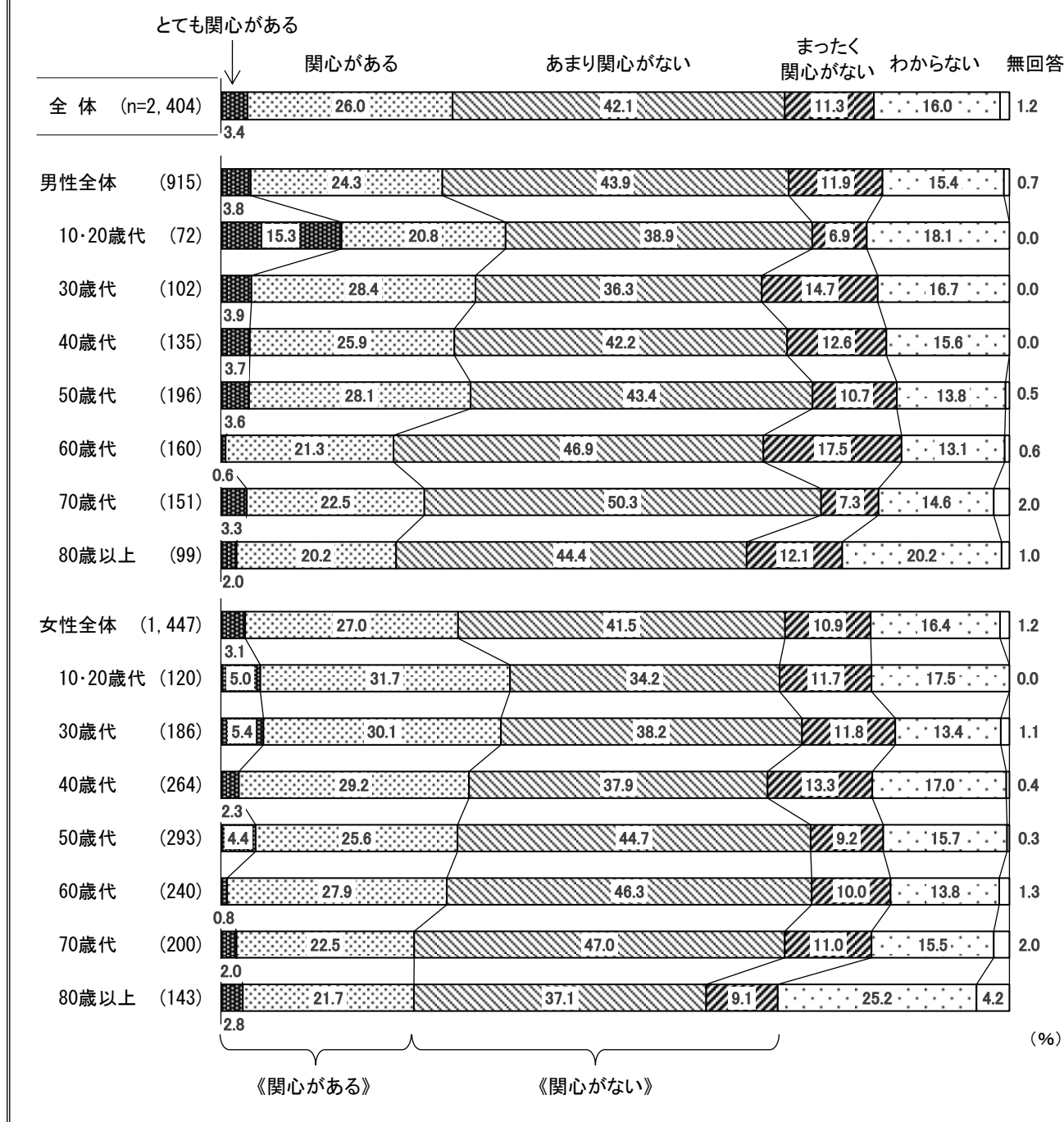
問36 あなたは、ユニバーサルスポーツに関心がありますか。(○は1つ)

図12-5-1



ユニバーサルスポーツに関心があるか聞いたところ、「あまり関心がない」(42.1%)が4割を超え、「まったく関心がない」(11.3%)と合わせた《関心がない》(53.4%)が5割を超えている。「関心がある」(26.0%)と「とても関心がある」(3.4%)を合わせた《関心がある》(29.5%)は3割となっている。(図12-5-1)

図 1 2 - 5 - 2 ユニバーサルスポーツの関心度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「とても関心がある」は男性10・20歳代で1割半ばと高い。《関心がある》は男女とも若年層の方が高く、女性の10・20歳代で4割近く、男性の10・20歳代、女性の30歳代で3割半ばとなっている。《関心がない》は男性の60歳代で6割半ば、男性の70歳代と80歳以上、女性の70歳代で6割近くとなっている。（図12-5-2）

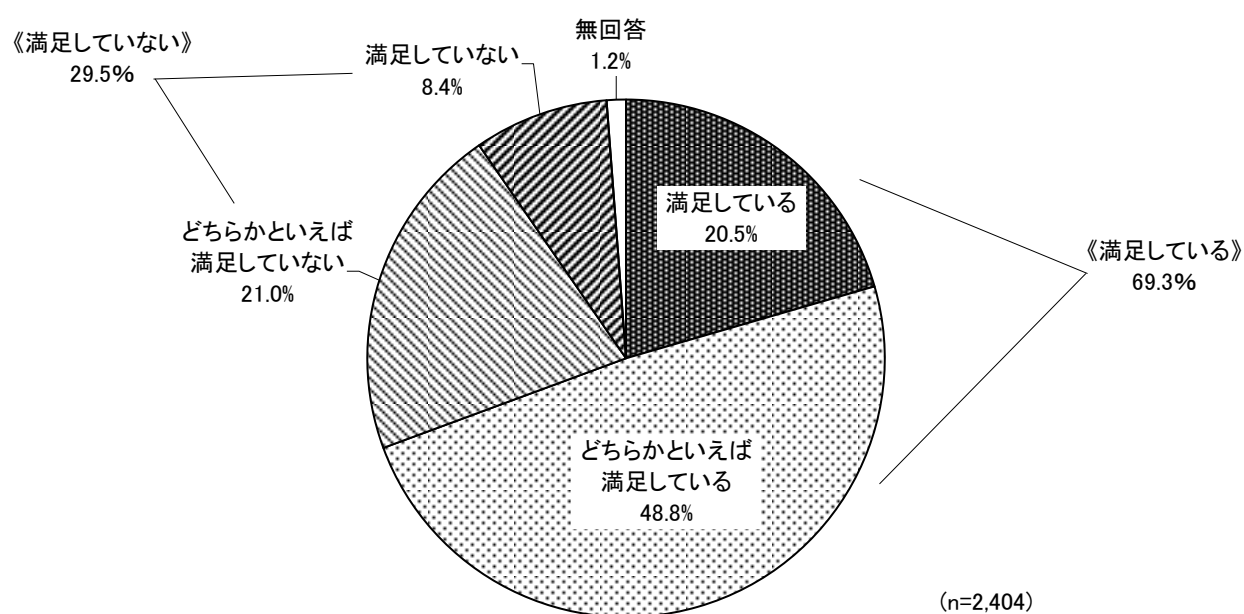
13. 交通

(1) 区の交通手段の満足度

◎ 《満足している》がほぼ7割、《満足していない》が3割

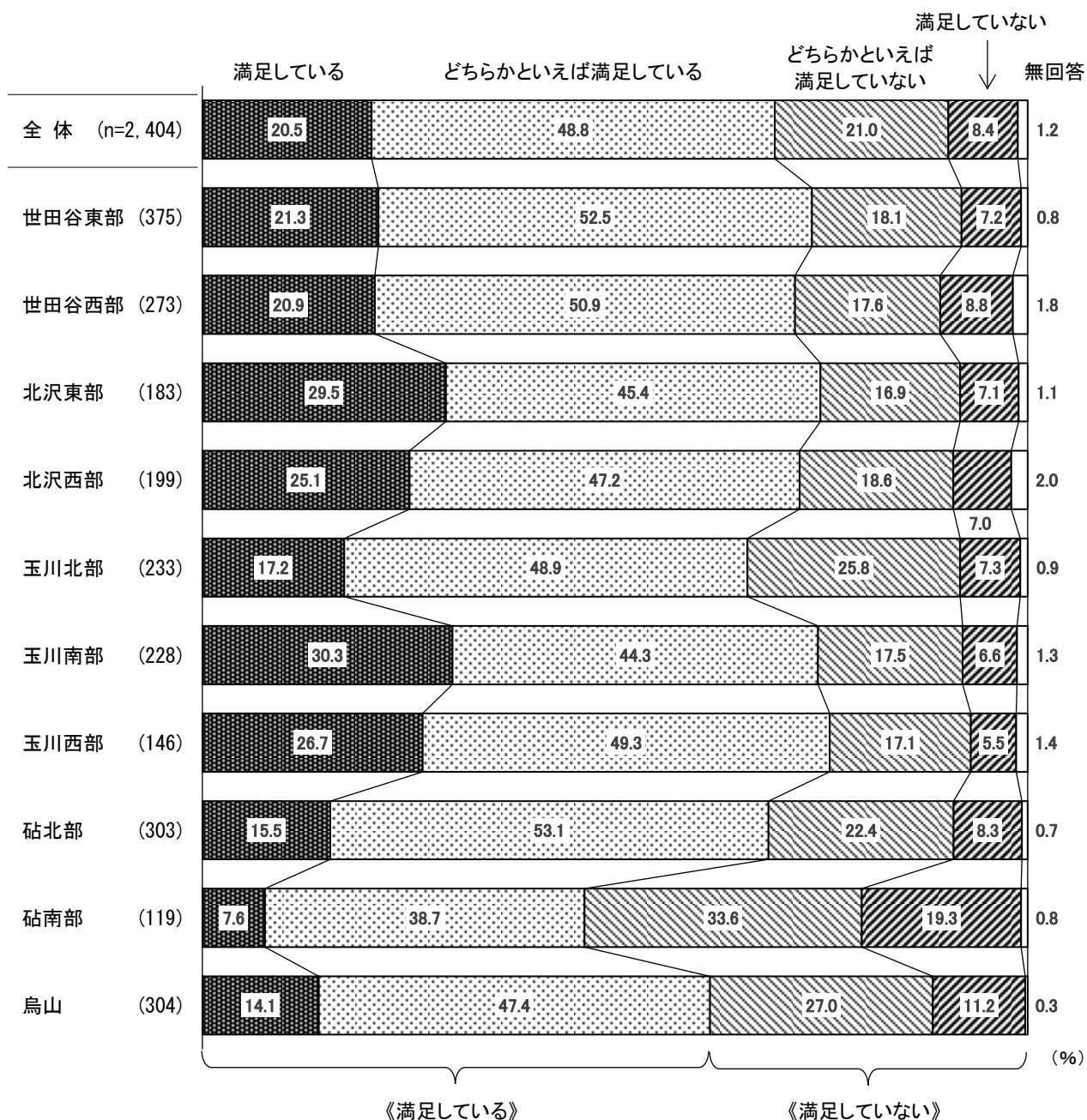
問37 あなたは、区内の交通手段（移動手段）に満足していますか。（○は1つ）

図13-1-1



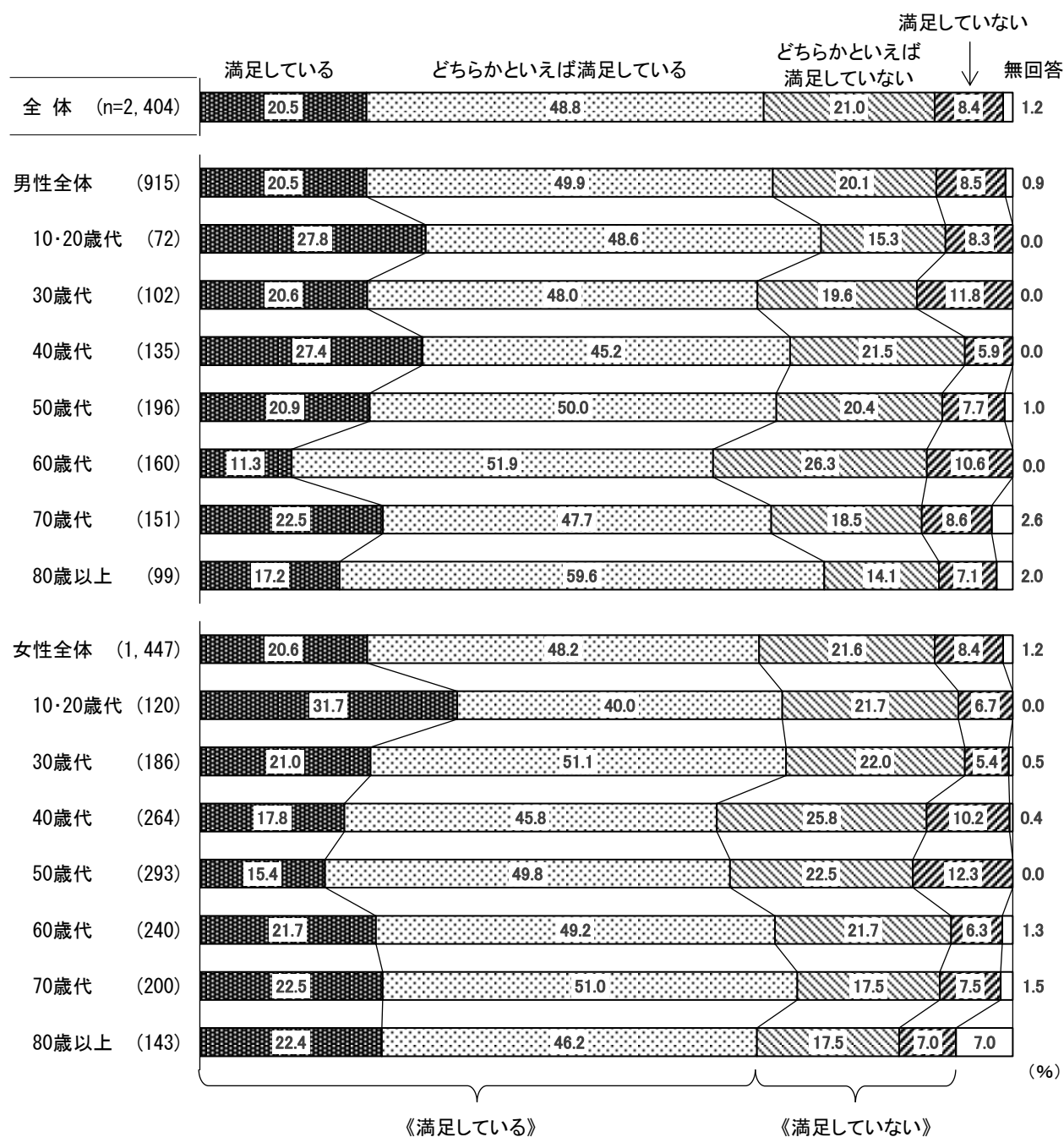
区内の交通手段に満足しているか聞いたところ、「どちらかといえば満足している」（48.8%）が5割近くで最も高く、「満足している」（20.5%）と合わせた《満足している》（69.3%）がほぼ7割となっている。「どちらかといえば満足していない」（21.0%）と「満足していない」（8.4%）を合わせた《満足していない》（29.5%）は3割となっている。（図13-1-1）

図 1 3 - 1 - 2 区の交通手段の満足度（地域別）



地域別にみると、「満足している」は玉川南部、北沢東部で3割となっている。《満足している》は玉川西部、北沢東部、玉川南部で7割半ばと高く、砧南部で4割半ばと低い。《満足していない》は砧南部で5割を超え、烏山で4割近くとなっている。（図 1 3 - 1 - 2）

図 1 3 - 1 - 3 区の交通手段の満足度（性・年齢別）



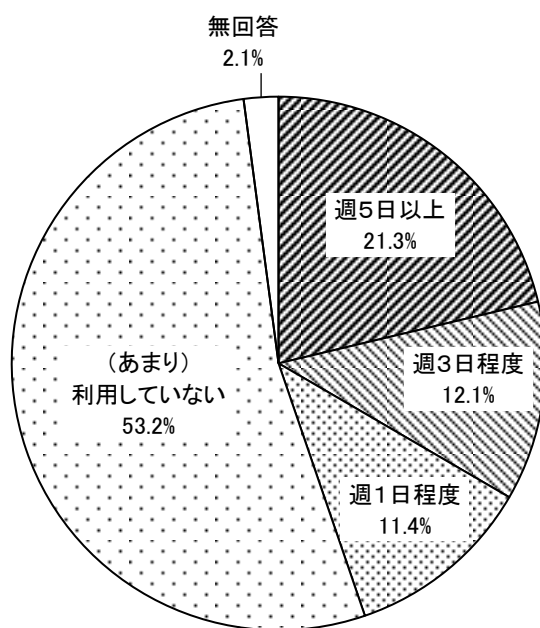
性・年齢別にみると、「満足している」は女性の10・20歳代で3割を超え、男性の10・20歳代と40歳代で3割近くとなっている。《満足している》は男性の80歳以上で8割近く、男性の10・20歳代で7割半ばとなっている。《満足していない》は男性の60歳代で4割近く、女性の40歳代と50歳代で3割半ばとなっている。（図13-1-3）

（２）自転車利用頻度

◎「（あまり）利用していない」が５割を超え、「週５日以上」が２割を超える

問３８ あなたは、ふだん、どのくらい自転車を利用していますか。（○は１つ）

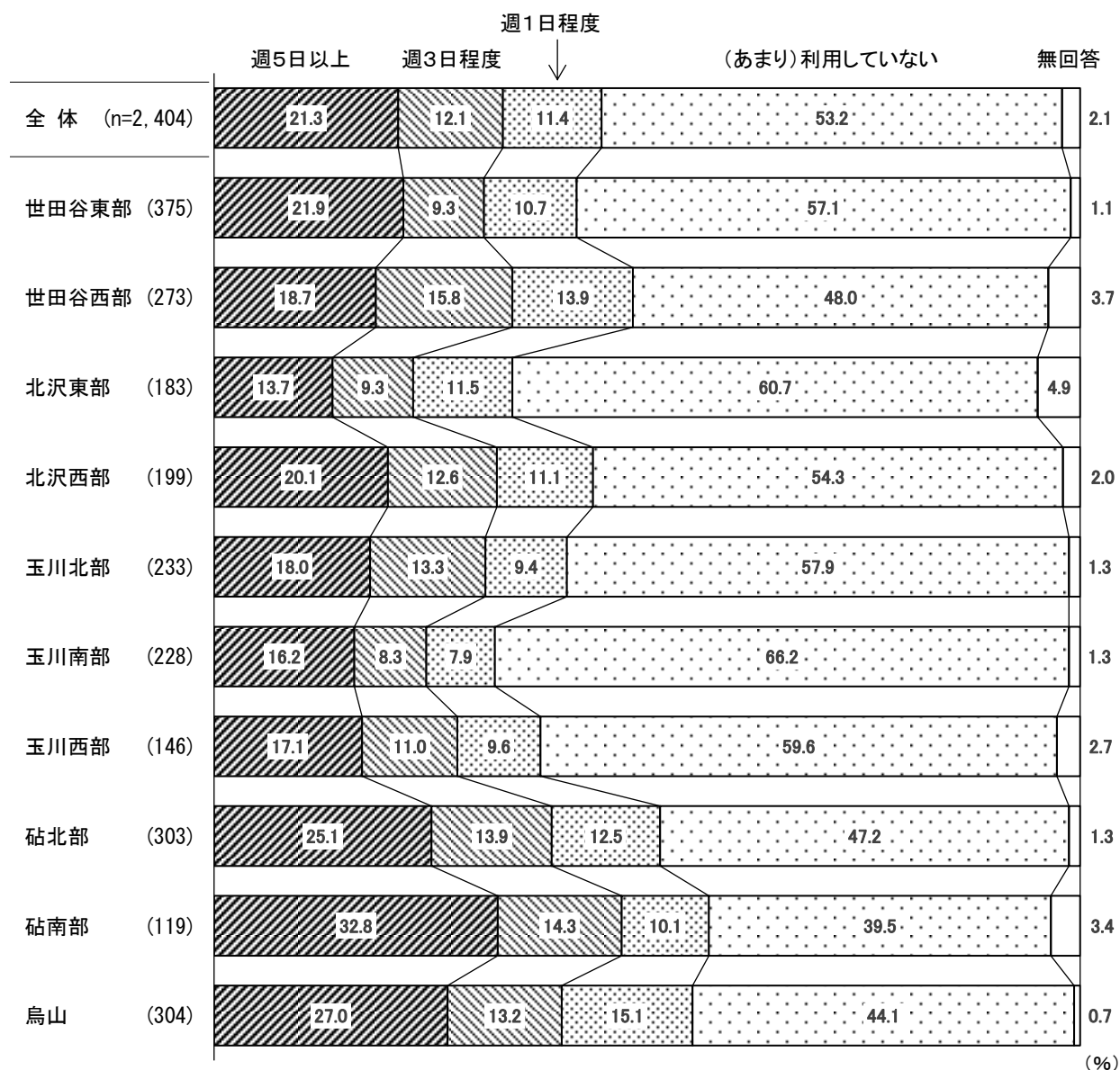
図１３－２－１



(n=2,404)

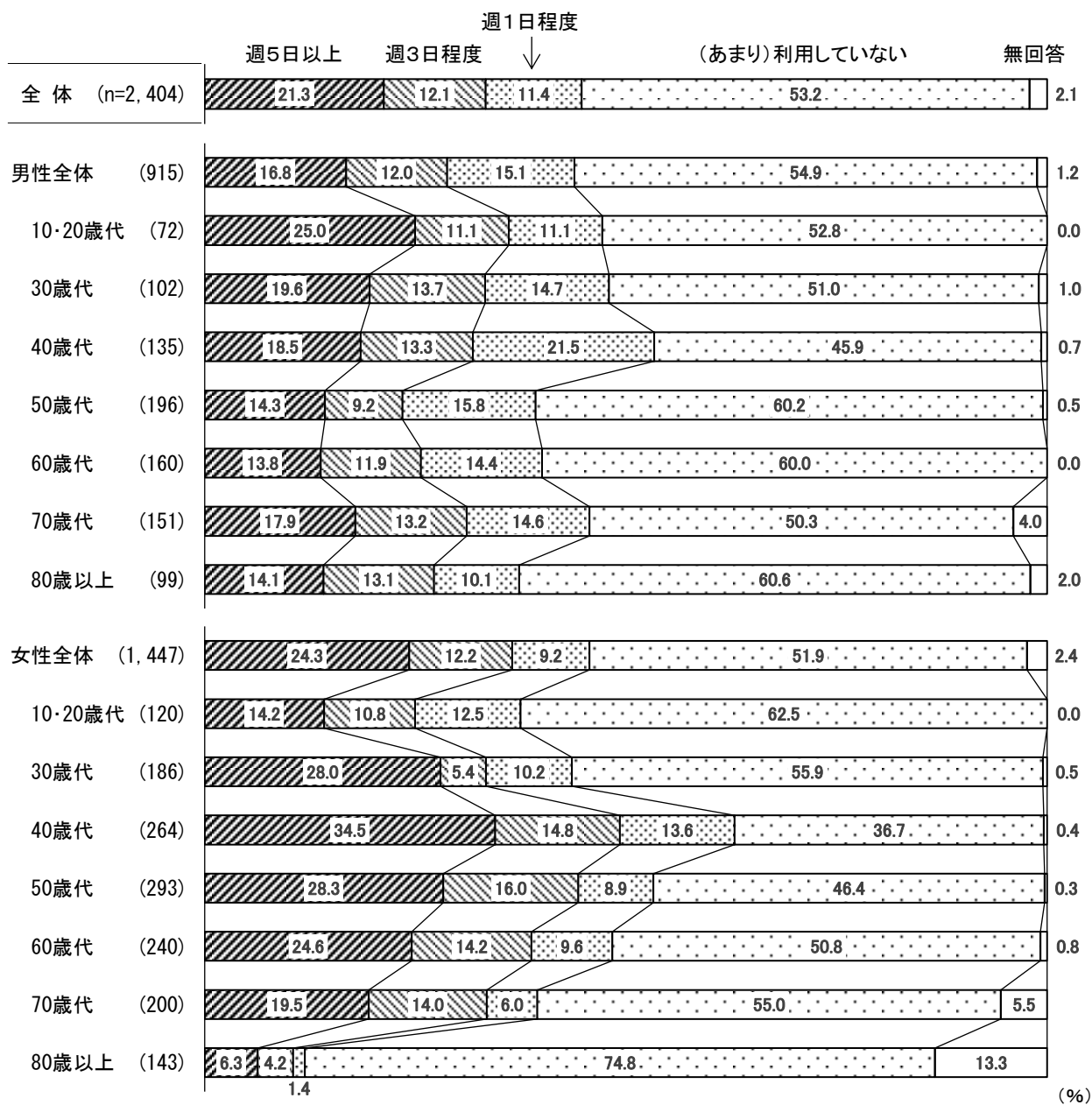
ふだんの自転車の利用頻度を聞いたところ、「（あまり）利用していない」（53.2%）が５割を超えて最も高く、以下、「週５日以上」（21.3%）、「週３日程度」（12.1%）、「週１日程度」（11.4%）と続く。（図１３－２－１）

図 1 3 - 2 - 2 自転車利用頻度（地域別）



地域別にみると、「週5日以上」は砧南部で3割を超え、烏山で3割近く、砧北部で2割半ばとなっている。「(あまり)利用していない」は玉川南部で6割半ば、北沢東部でほぼ6割、玉川西部で6割となっている。(図13-2-2)

図 1 3 - 2 - 3 自転車利用頻度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「週5日以上」は女性の40歳代で3割半ば、女性の30歳代と50歳代で3割近くとなっている。「(あまり)利用していない」は女性の80歳以上で7割半ば、女性の10・20歳代で6割を超え、男性の80歳以上ではほぼ6割、男性の50歳代と60歳代で6割となっている。

(図 1 3 - 2 - 3)

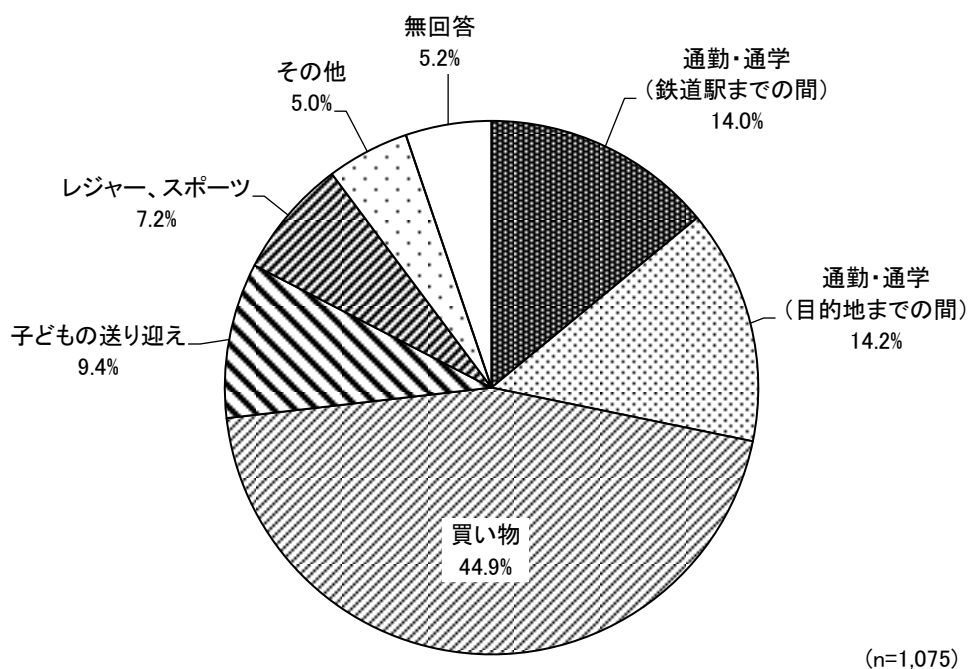
(3) 主な自転車利用用途

◎「買い物」が4割半ば

(問38で「週5日以上」または「週3日程度」または「週1日程度」と答えた方に)

問38-1 自転車を利用する主な用途は何ですか。(○は1つ)

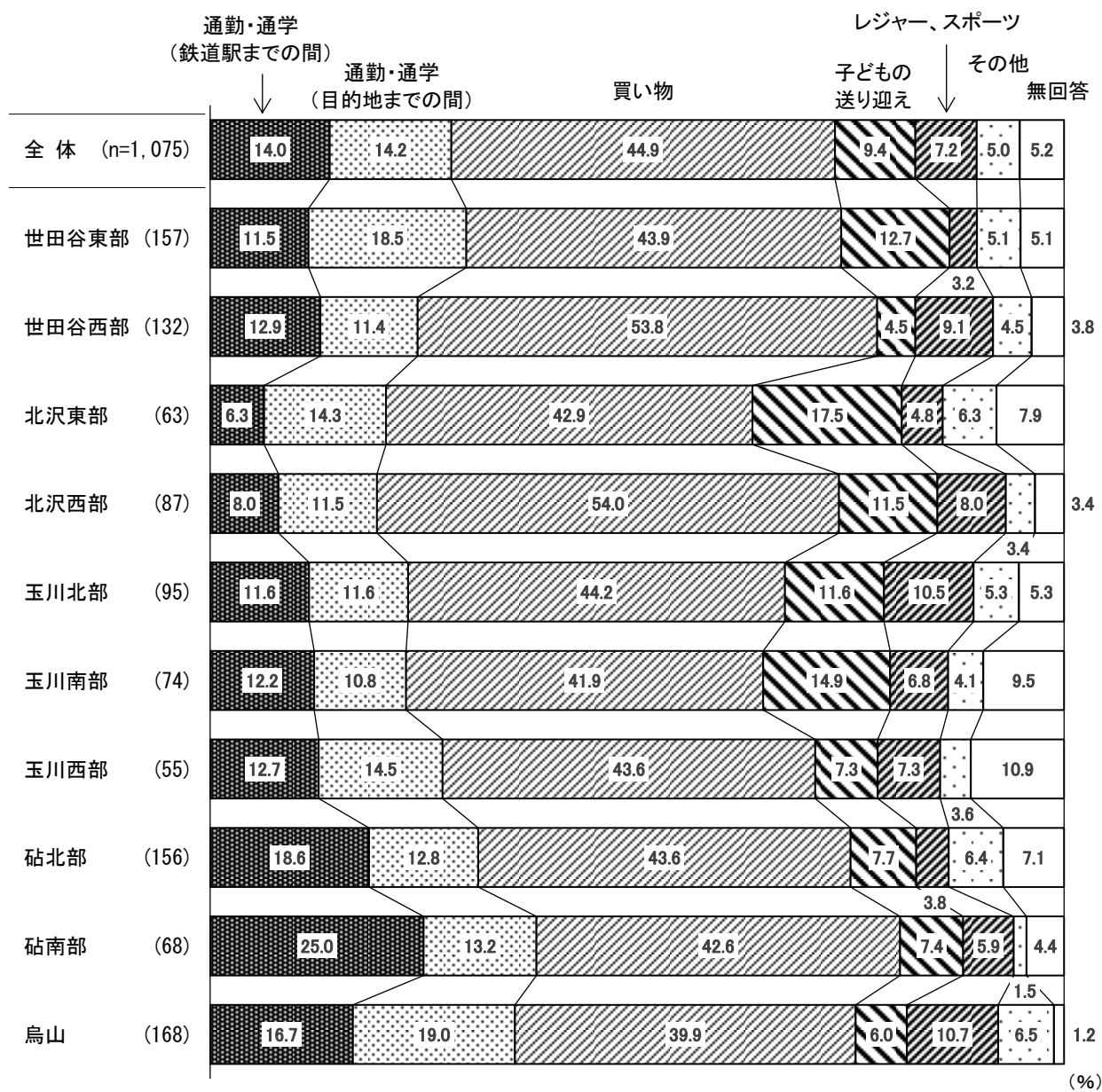
図13-3-1



ふだんの自転車の利用頻度が「週5日以上」または「週3日程度」または「週1日程度」と答えた方(1,075人)に、自転車を利用する主な用途を聞いたところ、「買い物」(44.9%)が4割半ばで最も高く、以下、「通勤・通学(目的地までの間)」(14.2%)、「通勤・通学(鉄道駅までの間)」(14.0%)、「子どもの送り迎え」(9.4%)、「レジャー、スポーツ」(7.2%)などと続く。

(図13-3-1)

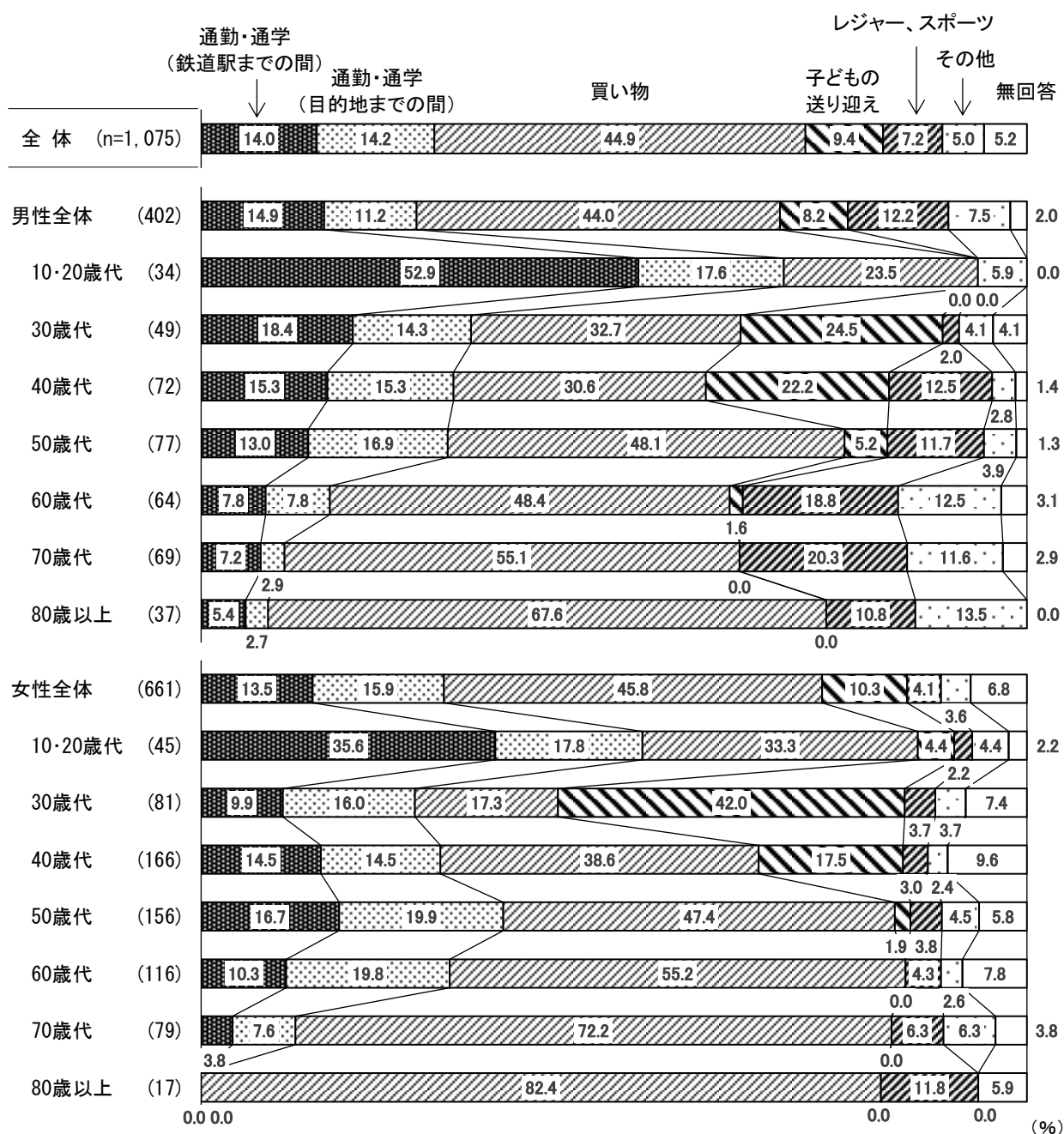
図 1 3 - 3 - 2 主な自転車利用用途（地域別）



地域別にみると、「買い物」は北沢西部で5割半ば、世田谷西部で5割を超えている。「通勤・通学（目的地までの間）」は烏山でほぼ2割、世田谷東部で2割近く、「通勤・通学（鉄道駅までの間）」は砧南部で2割半ば、「子どもの送り迎え」は北沢東部で2割近くとなっている。

(図 1 3 - 3 - 2)

図 1 3 - 3 - 3 主な自転車利用用途（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「買い物」は女性の70歳代で7割を超え、男性の80歳以上で7割近く、男性の70歳代、女性の60歳代で5割半ばとなっている。「通勤・通学（鉄道駅までの間）」は男女とも10・20歳代が高く、男性は5割を超え、女性は3割半ばとなっている。「子どもの送り迎え」は女性の30歳代で4割を超えている。（図13-3-3）

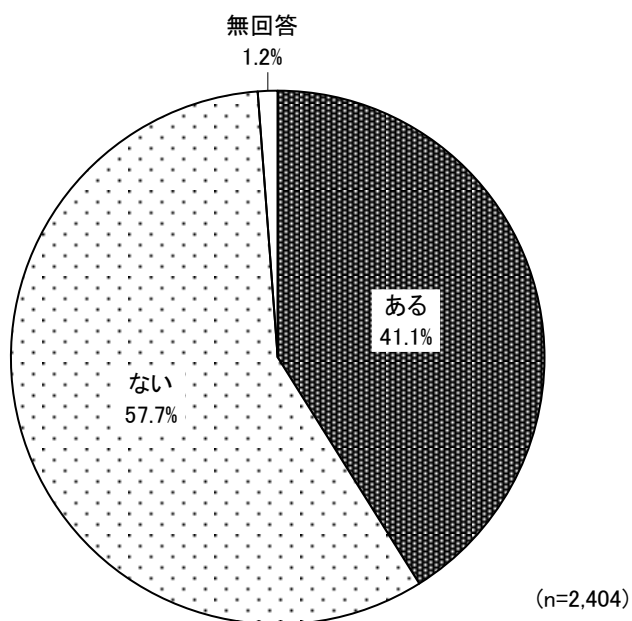
なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

(4) 歩行時の自転車との接触有無

◎「ある」が4割を超える

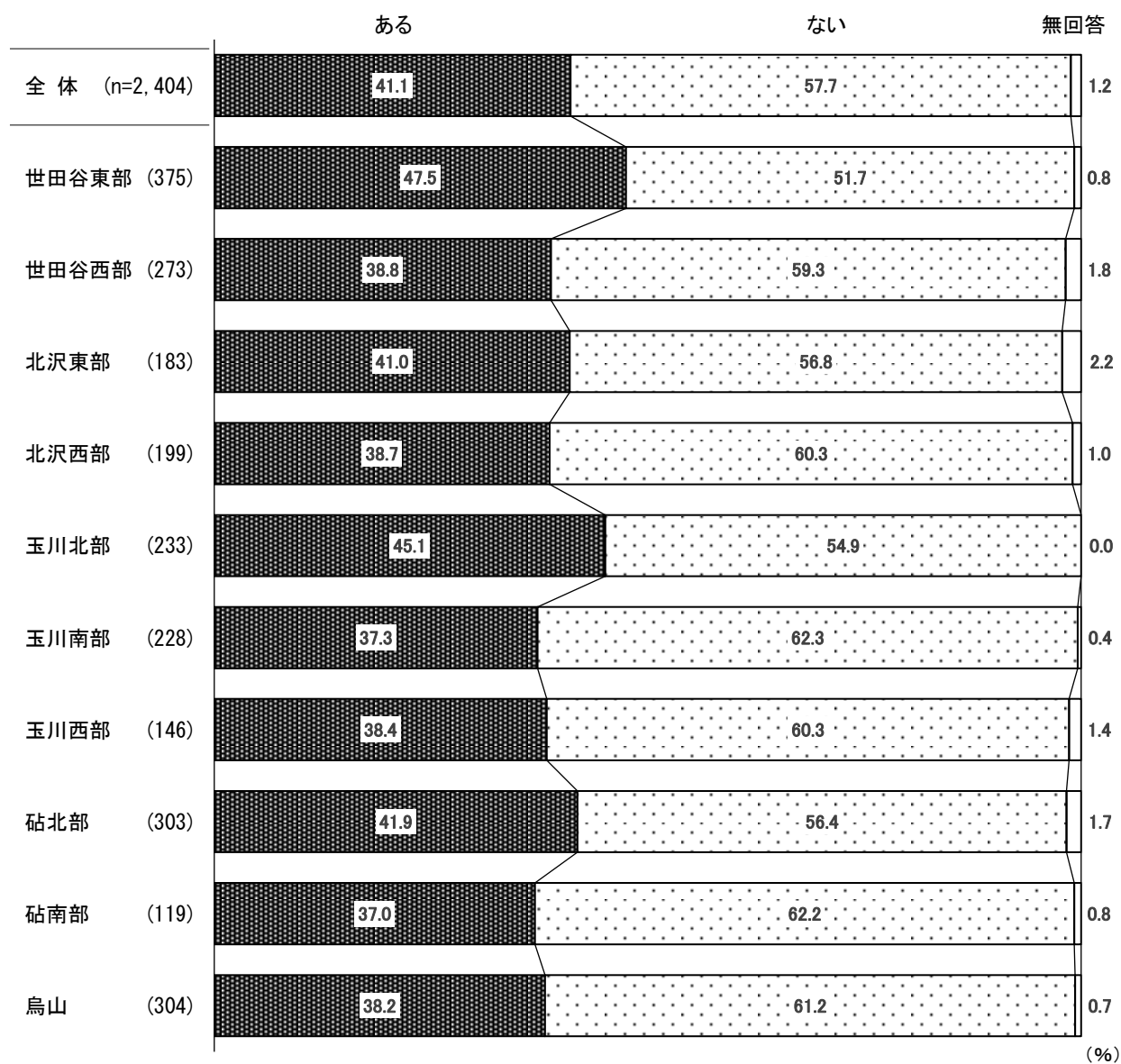
問39 あなたは、ここ1年間で歩行時に自転車とぶつかった、あるいはぶつかりそうになったことがありますか。(○は1つ)

図13-4-1



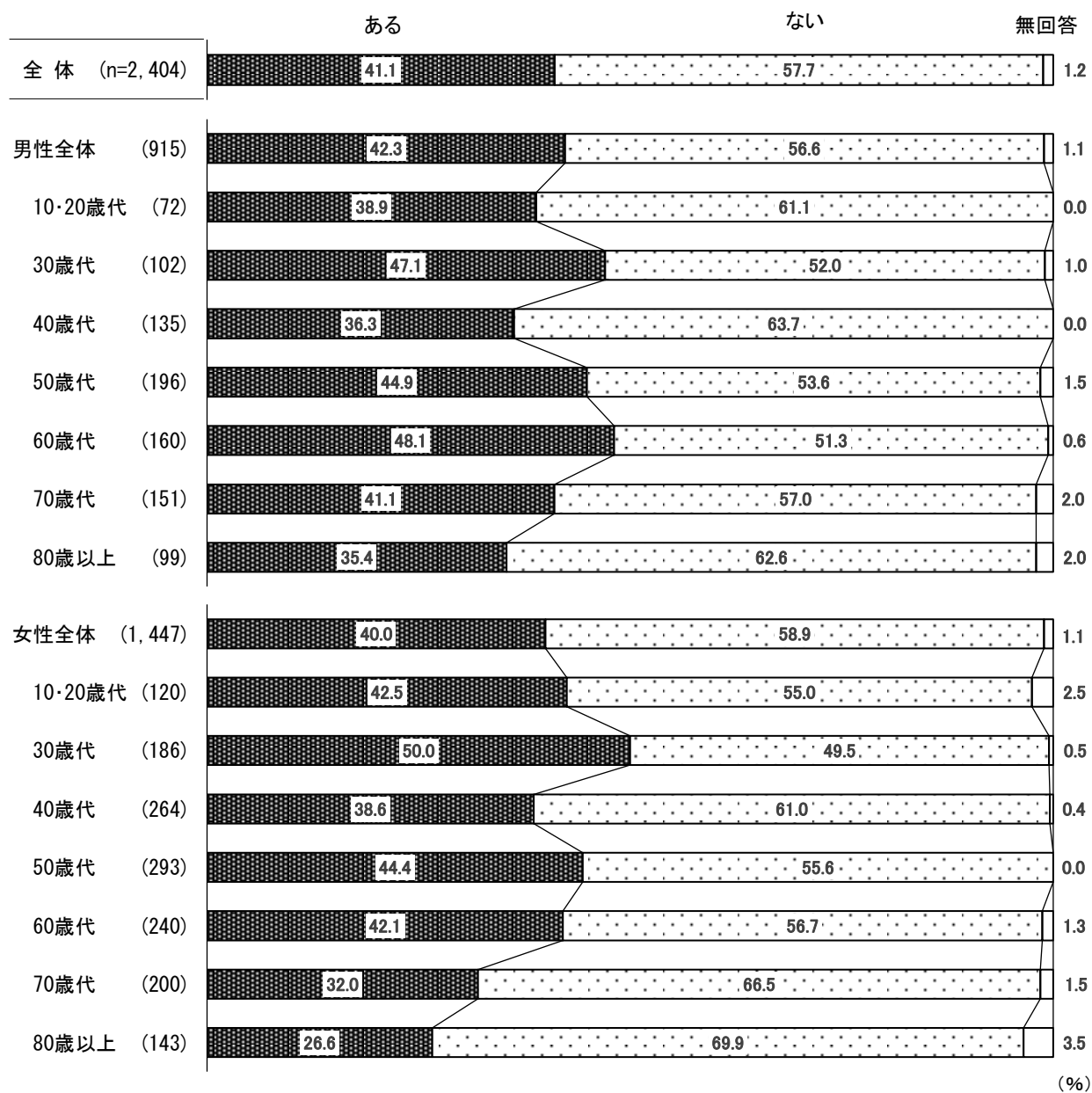
ここ1年間で歩行時に自転車とぶつかった、あるいはぶつかりそうになったか聞いたところ、「ある」(41.1%)が4割を超え、「ない」(57.7%)が6割近くとなっている。(図13-4-1)

図 1 3 - 4 - 2 歩行時の自転車との接触有無（地域別）



地域別にみると、「ある」は世田谷東部で5割近く、玉川北部で4割半ば、砧北部、北沢東部で4割を超えている。（図 1 3 - 4 - 2）

図 1 3 - 4 - 3 歩行時の自転車との接触有無（性・年齢別）



(%)

性・年齢別にみると、「ある」は女性の30歳代で5割、男性の30歳代と60歳代で5割近く、男性の50歳代、女性の50歳代で4割半ば、男性の70歳代、女性の10・20歳代と60歳代で4割を超えている。（図13-4-3）

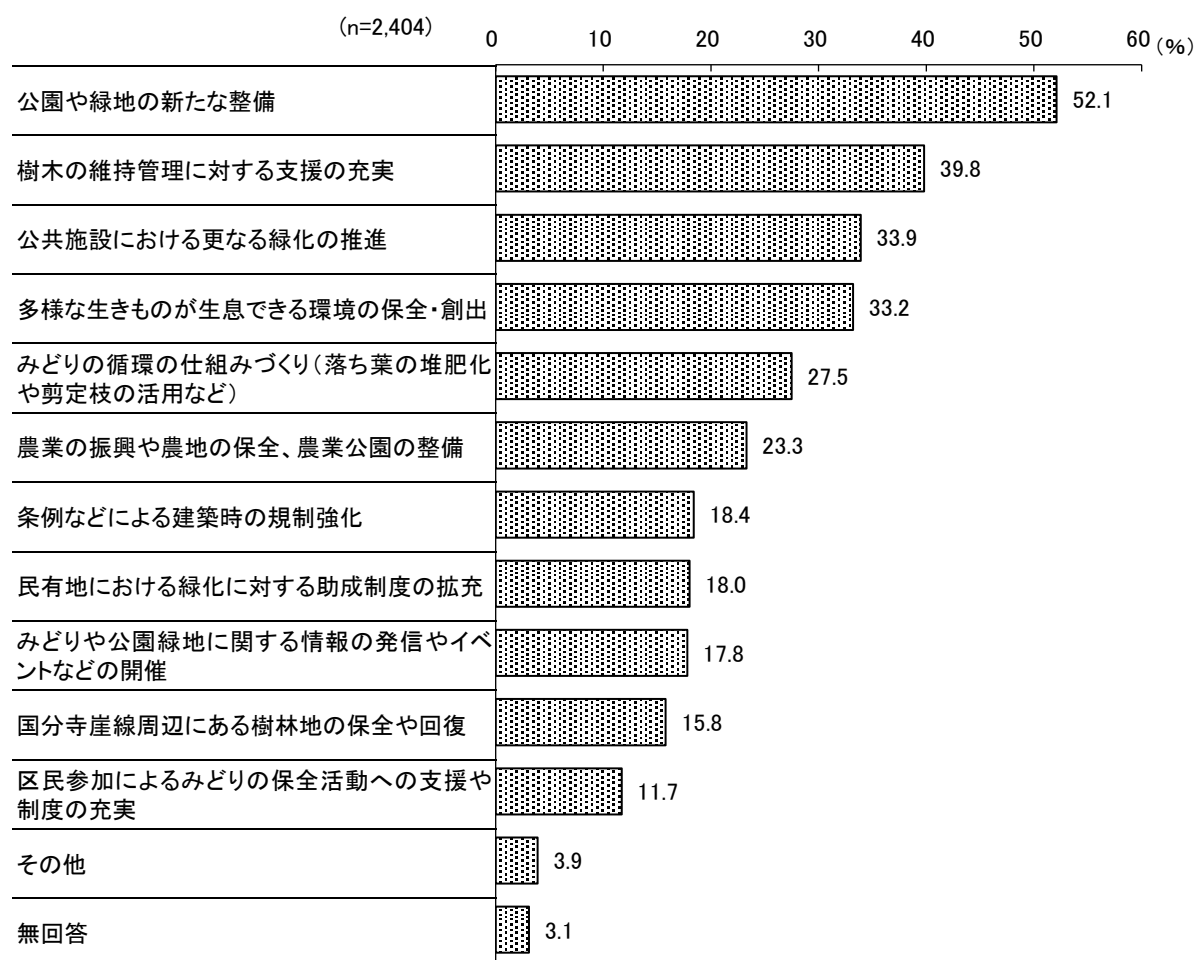
14. みどり

(1) みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと

◎「公園や緑地の新たな整備」が5割を超える

問40 みどりを守り増やすために、区に取り組んでほしいことは何ですか。(〇はいくつでも)

図14-1-1



みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいことを聞いたところ、「公園や緑地の新たな整備」(52.1%)が5割を超えて最も高く、以下、「樹木の維持管理に対する支援の充実」(39.8%)、「公共施設における更なる緑化の推進」(33.9%)、「多様な生きものが生息できる環境の保全・創出」(33.2%)、「みどりの循環の仕組みづくり(落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など)」(27.5%)などと続く。(図14-1-1)

表 1 4 - 1 - 1 みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと（地域別）

(%)

		n	公園や緑地の新たな整備	樹木の維持管理に対する支援の充実	公共施設における更なる緑化の推進	多様な生きものが生息できる環境の保全・創出	みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）	農業の振興や農地の保全、農業公園の整備	条例などによる建築時の規制強化	民有地における緑化に対する助成制度の拡充	みどりや公園緑地に関する情報の発信やイベントなどの開催	国分寺崖線周辺にある樹林地の保全や回復	区民参加によるみどりの保全活動への支援や制度の充実	その他	無回答
全 体		2,404	52.1	39.8	33.9	33.2	27.5	23.3	18.4	18.0	17.8	15.8	11.7	3.9	3.1
地域別	世田谷東部	375	54.4	39.5	33.6	32.5	30.4	21.1	17.1	17.3	21.6	13.6	12.8	3.5	3.5
	世田谷西部	273	49.1	39.2	33.3	30.8	24.9	23.4	20.5	16.1	16.8	13.6	8.1	3.7	3.3
	北沢東部	183	55.7	42.6	35.0	31.1	27.3	20.2	16.4	17.5	18.0	9.3	11.5	4.9	2.7
	北沢西部	199	55.3	35.2	36.7	32.7	31.2	24.1	16.6	17.1	16.6	9.0	13.6	3.0	5.0
	玉川北部	233	49.8	34.8	37.8	36.9	29.2	21.5	15.5	17.2	18.5	12.9	12.4	3.9	2.6
	玉川南部	228	56.6	40.8	36.8	35.1	27.2	19.7	18.4	22.4	16.7	14.5	11.0	3.9	0.9
	玉川西部	146	56.8	41.8	34.2	38.4	28.1	25.3	26.0	19.9	21.9	34.2	12.3	1.4	2.1
	砧北部	303	49.2	43.6	32.0	33.0	26.7	26.4	21.5	20.8	17.2	24.4	13.5	5.3	2.6
	砧南部	119	43.7	42.9	31.9	42.0	35.3	31.1	16.8	15.1	17.6	18.5	15.1	3.4	5.0
	烏山	304	51.6	37.5	29.9	27.3	19.4	23.7	16.4	16.4	15.1	12.5	8.9	4.6	3.0

地域別にみると、「公園や緑地の新たな整備」は玉川西部、玉川南部で6割近く、北沢東部、北沢西部、世田谷東部で5割半ばとなっている。「樹木の維持管理に対する支援の充実」は砧北部、砧南部、北沢東部、玉川西部で4割を超え、「公共施設における更なる緑化の推進」は玉川北部、玉川南部、北沢西部で4割近く、「多様な生きものが生息できる環境の保全・創出」は砧南部で4割を超え、玉川西部、玉川北部で4割近くとなっている。「みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）」は砧南部が3割半ば、「農業の振興や農地の保全、農業公園の整備」も砧南部が3割を超えている。「国分寺崖線周辺にある樹林地の保全や回復」は玉川西部が3割半ば、砧北部が2割半ばとなっている。（表 1 4 - 1 - 1）

表 1 4 - 1 - 2 みどりを守り増やすために区に取り組んでほしいこと（性・年齢別）

（％）

		n	公園や緑地の新たな整備	樹木の維持管理に対する支援の充実	公共施設における更なる緑化の推進	多様な生きものが生息できる環境の保全・創出	みどりの循環の仕組みづくり（落ち葉の堆肥化や剪定枝の活用など）	農業の振興や農地の保全、農業公園の整備	条例などによる建築時の規制強化	民有地における緑化に対する助成制度の拡充	みどりや公園緑地に関する情報の発信やイベントなどの開催	国分寺崖線周辺にある樹林地の保全や回復	区民参加によるみどりの保全活動への支援や制度の充実	その他	無回答
全 体		2,404	52.1	39.8	33.9	33.2	27.5	23.3	18.4	18.0	17.8	15.8	11.7	3.9	3.1
性・年齢別	男性全体	915	57.3	39.0	36.4	34.1	23.4	22.4	20.2	20.8	18.0	15.7	11.5	3.9	3.3
	10・20歳代	72	68.1	29.2	37.5	37.5	19.4	19.4	11.1	16.7	12.5	18.1	9.7	1.4	2.8
	30歳代	102	70.6	25.5	29.4	26.5	17.6	18.6	6.9	18.6	17.6	6.9	3.9	4.9	6.9
	40歳代	135	63.0	34.8	34.1	33.3	21.5	23.7	19.3	21.5	20.7	15.6	10.4	4.4	2.2
	50歳代	196	57.7	31.1	37.2	33.7	24.5	23.0	20.4	19.9	21.9	16.3	17.3	6.1	2.0
	60歳代	160	55.6	52.5	40.0	38.1	22.5	25.6	30.0	27.5	16.3	23.1	12.5	2.5	1.3
	70歳代	151	46.4	47.0	35.1	35.8	23.2	23.8	23.2	17.9	14.6	10.6	11.9	3.3	6.6
	80歳以上	99	46.5	47.5	40.4	32.3	34.3	18.2	21.2	20.2	19.2	18.2	8.1	3.0	2.0
	女性全体	1,447	48.9	40.7	32.8	33.2	30.0	24.0	17.3	16.5	17.9	16.0	11.7	3.7	2.8
	10・20歳代	120	58.3	34.2	31.7	36.7	22.5	19.2	10.0	10.8	11.7	19.2	12.5	2.5	-
	30歳代	186	63.4	28.5	28.0	37.6	26.9	22.6	12.4	17.2	18.3	10.8	11.8	1.6	2.2
	40歳代	264	52.3	34.1	33.7	34.1	32.2	22.3	14.4	15.2	16.7	15.2	10.6	3.0	1.5
	50歳代	293	42.3	50.9	34.8	36.5	31.7	28.0	19.8	16.4	14.0	21.2	11.3	6.1	0.7
	60歳代	240	46.7	46.3	33.8	30.4	29.2	30.0	16.3	18.8	22.1	12.9	15.8	2.5	2.1
	70歳代	200	42.0	43.0	35.5	29.5	30.0	23.5	29.0	20.5	24.0	19.5	11.5	3.5	3.5
	80歳以上	143	42.7	41.3	28.0	25.9	34.3	14.7	16.1	14.0	17.5	11.2	7.0	5.6	12.6

性・年齢別にみると、「公園や緑地の新たな整備」は高年層より若年層の方が高く、男性の 30 歳代でほぼ 7 割、男性の 10・20 歳代で 7 割近く、男性の 40 歳代、女性の 30 歳代で 6 割を超えている。

「樹木の維持管理に対する支援の充実」は男性の 60 歳代で 5 割を超え、女性の 50 歳代でほぼ 5 割、男性の 70 歳代と 80 歳以上で 5 割近くとなっている。「公共施設における更なる緑化の推進」は男性の 60 歳代と 80 歳以上で 4 割、「多様な生きものが生息できる環境の保全・創出」は男性の 10・20 歳代と 60 歳代、女性の 10・20 歳代、30 歳代、50 歳代で 4 割近くとなっている。（表 1 4 - 1 - 2）

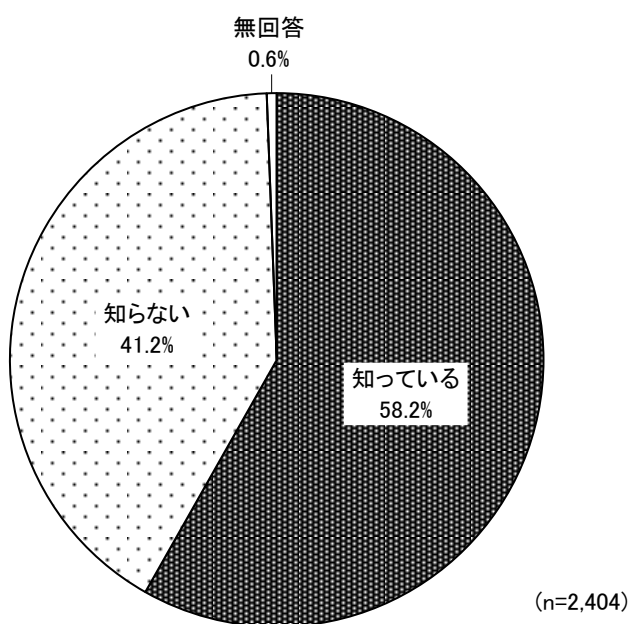
15. ふるさと納税

(1) 「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度

◎「知っている」が6割近く

問41 世田谷区民も世田谷区にふるさと納税（寄附）をすることができ、所得税や住民税の控除も受けることができます。このことを知っていますか。（○は1つ）

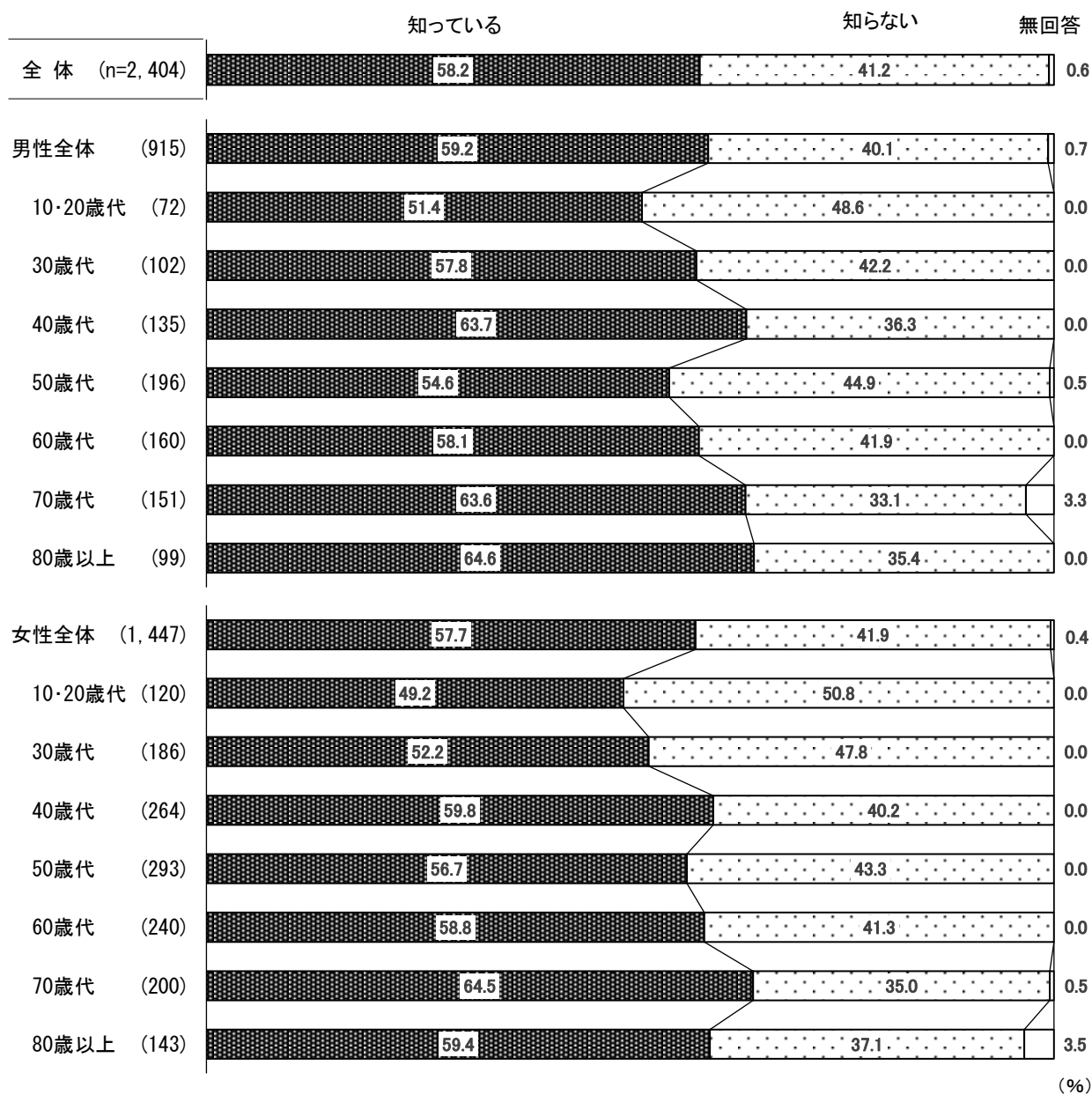
図15-1-1



世田谷区民も世田谷区にふるさと納税をすることができ、税の控除が受けられることを知っているか聞いたところ、「知っている」（58.2%）が6割近く、「知らない」（41.2%）が4割を超えている。（図15-1-1）

図 1 5 - 1 - 2 「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度

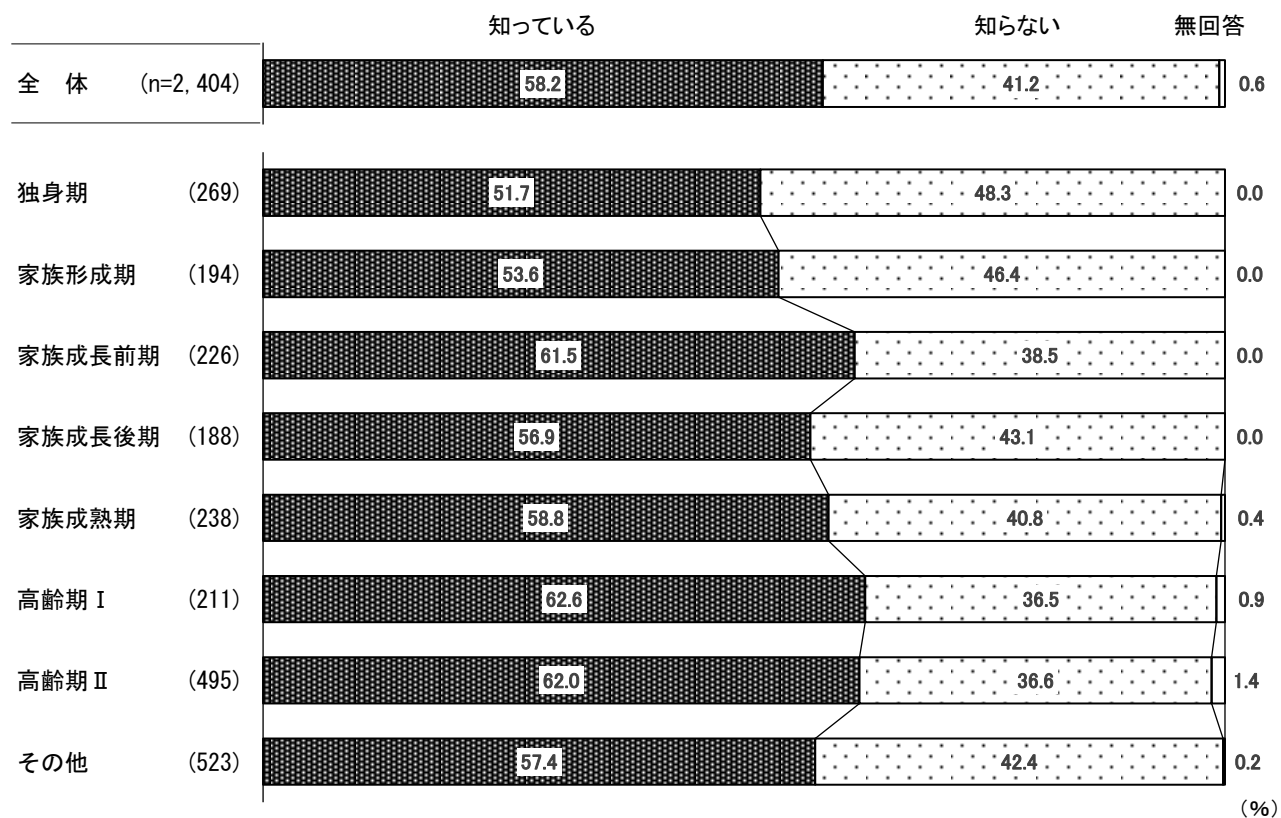
(性・年齢別)



性・年齢別にみると、「知っている」は男性の80歳以上、女性の70歳代で6割半ば、男性の40歳代と70歳代で6割を超え、女性の40歳代で6割、女性の80歳以上ではほぼ6割となっている。

(図 1 5 - 1 - 2)

図 1 5 - 1 - 3 「世田谷区民が世田谷区にふるさと納税ができる」ことの認知度
(ライフステージ別)



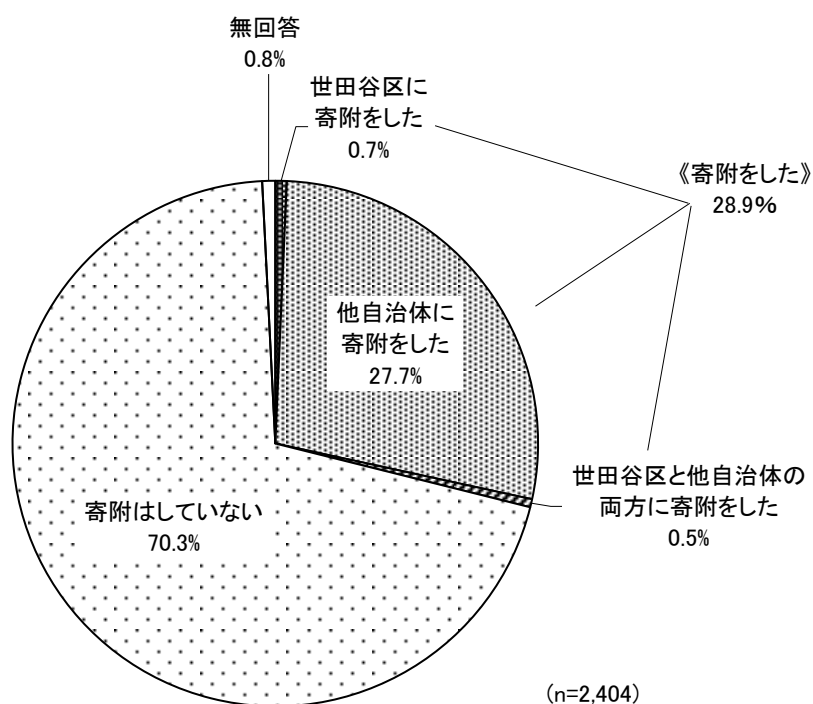
ライフステージ別にみると、「知っている」は家族成長前期、高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱで6割を超え、それ以外のライフステージは5割台となっている。(図 1 5 - 1 - 3)

(2)「ふるさと納税」の経験

◎「寄附はしていない」が7割

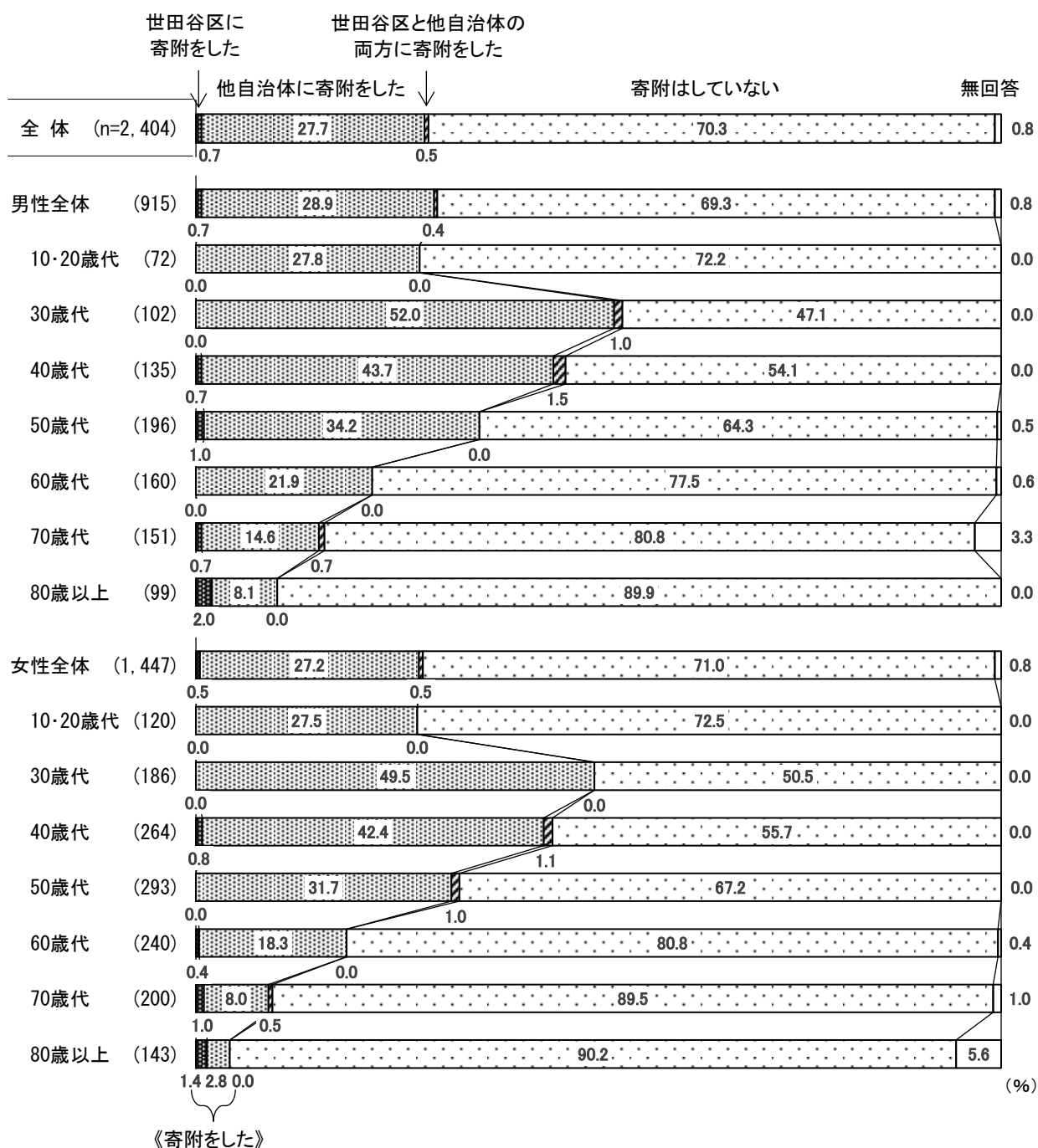
問42 あなたは令和5年にふるさと納税（寄附）をしましたか。（○は1つ）

図15-2-1



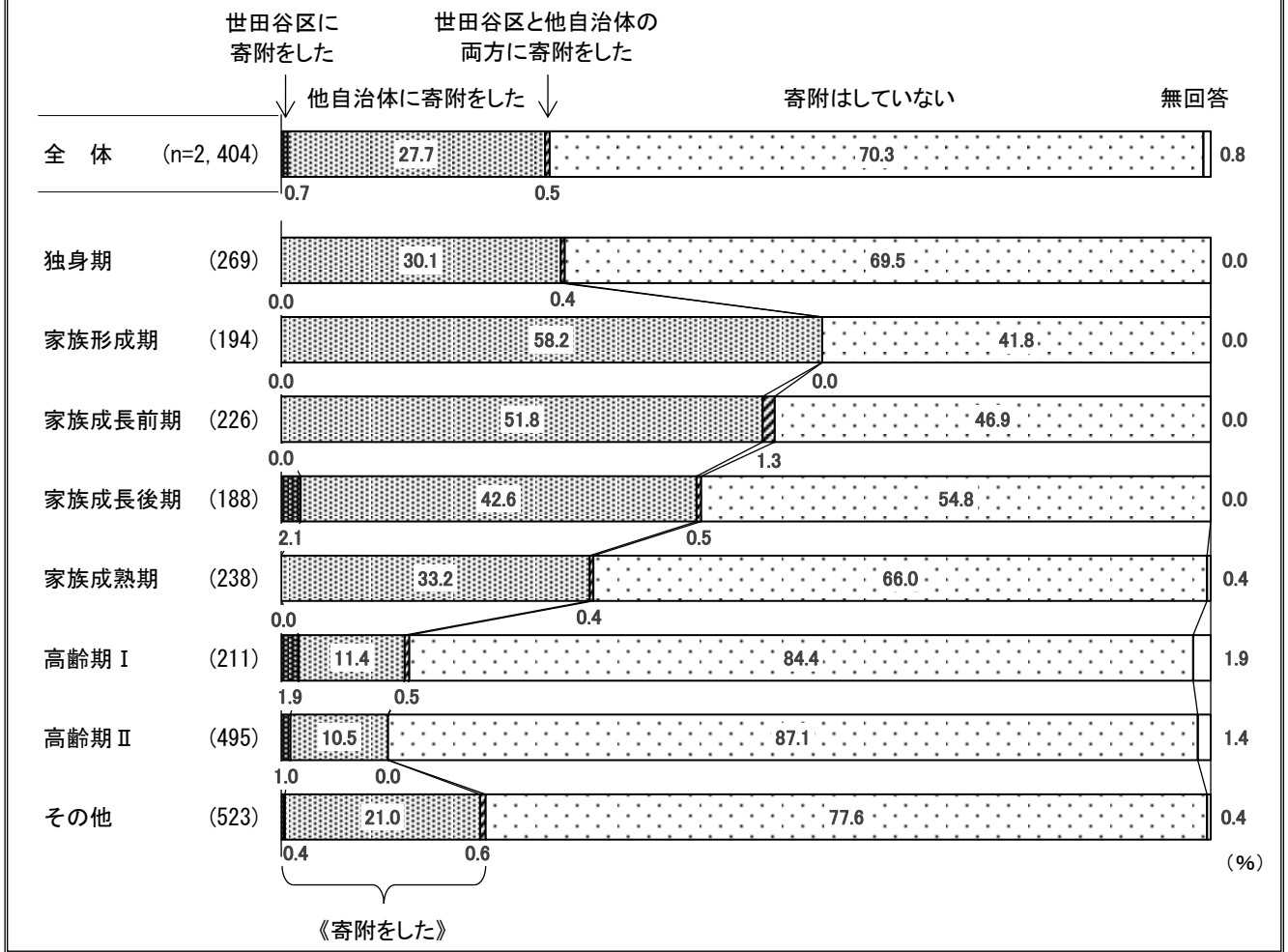
令和5年にふるさと納税をしたか聞いたところ、「寄附はしていない」（70.3%）が7割で最も高い。「他自治体に寄附をした」（27.7%）が3割近くで、「世田谷区に寄附をした」（0.7%）と「世田谷区と他自治体の両方に寄附をした」（0.5%）を合わせた《寄附をした》（28.9%）も3割近くとなっている。（図15-2-1）

図 15-2-2 「ふるさと納税」の経験（性・年齢別）



性・年齢別にみると、男女とも同様の傾向を示し、「他自治体に寄附をした」は30歳代が最も高く、男性で5割を超え、女性で5割となっており、30歳代以降年代が上がるにつれ割合は下がり、40歳代で4割台、50歳代で3割台となっている。「寄附はしていない」は男性の80歳以上と女性の70歳代と80歳以上で9割、男性の70歳代、女性の60歳代でほぼ8割となっている。（図15-2-2）

図 1 5 - 2 - 3 「ふるさと納税」の経験（ライフステージ別）



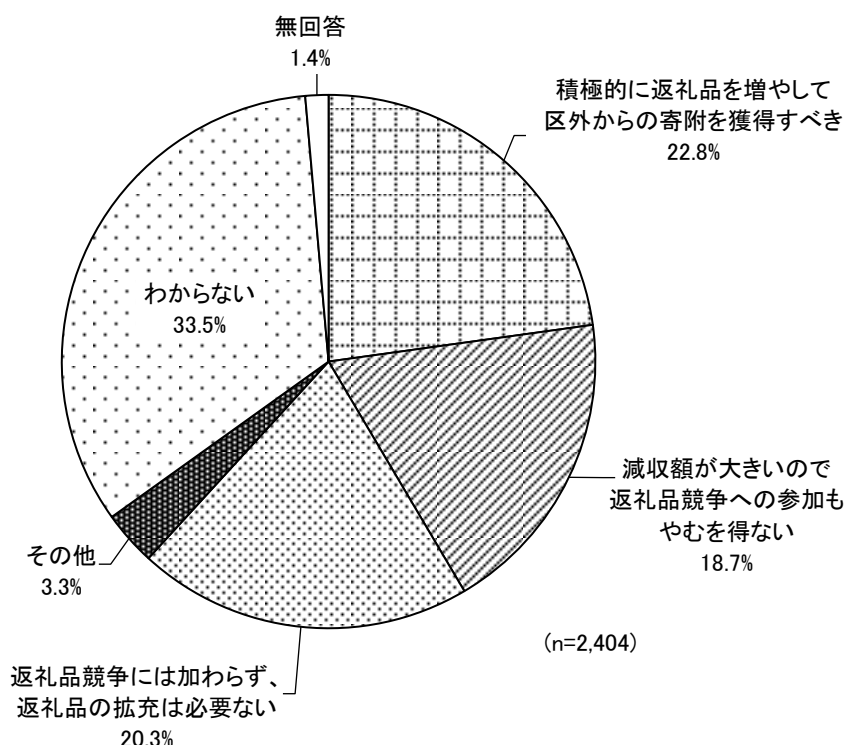
ライフステージ別にみると、「他自治体に寄附をした」は家族形成期で6割近く、家族成長前期で5割を超え、家族成長後期で4割を超え、家族成熟期で3割を超え、独身期で3割となっている。「寄附はしていない」は高齢期Ⅰ、高齢期Ⅱが8割台となっている。（図 1 5 - 2 - 3）

（３）返礼品に関する区の姿勢について

◎「わからない」が３割を超え、「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」が２割を超える

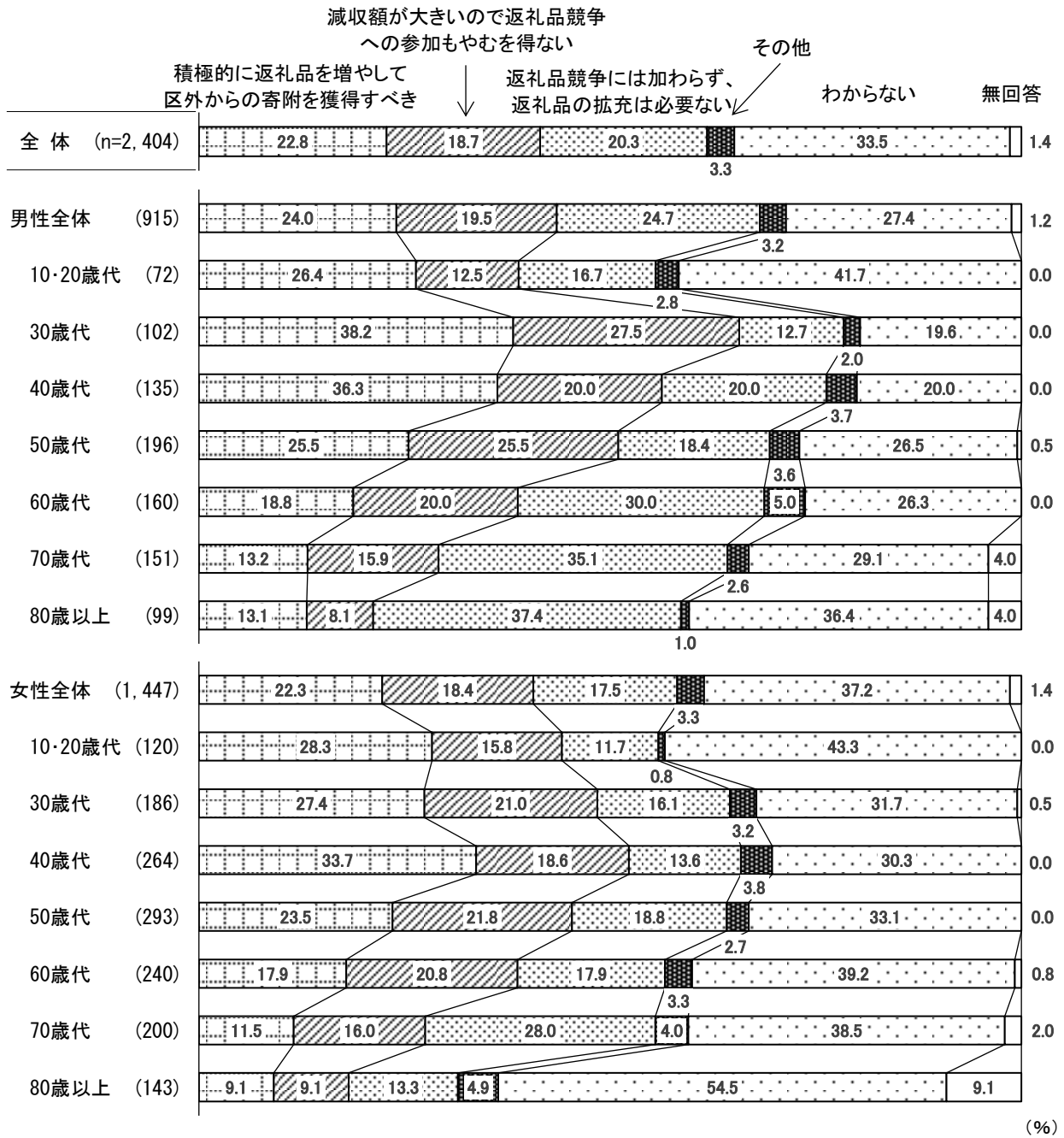
問４３ 制度上、世田谷区から区民の方には返礼品などをお贈りすることはできません。一方、区外からの寄附者へは返礼品をお贈りしています。この区の姿勢として、あなたのお考えに近いものをお選びください。（○は１つ）

図 15-3-1



ふるさと納税の返礼品に関する区の姿勢について聞いたところ、「わからない」（33.5%）が３割を超えて最も高い。「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」（22.8%）は２割を超え、以下、「返礼品競争には加わず、返礼品の拡充は必要ない」（20.3%）、「減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない」（18.7%）などと続く。（図 15-3-1）

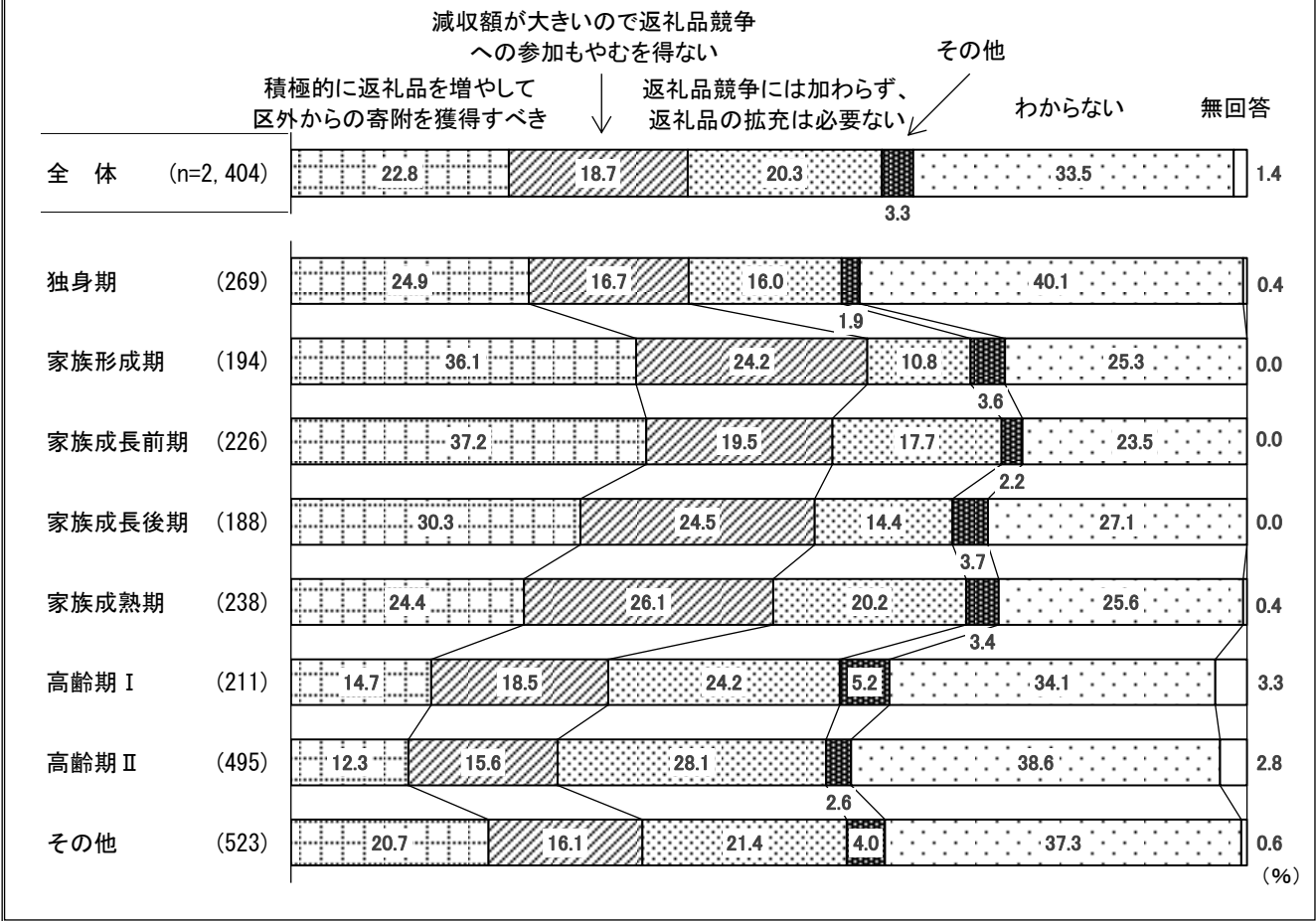
図 1 5 - 3 - 2 返礼品に関する区の姿勢について（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」は男性の 30 歳代で 4 割近く、男性の 40 歳代で 3 割半ば、女性の 40 歳代で 3 割を超えている。「減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない」は男性の 30 歳代で 3 割近く、男性の 50 歳代で 2 割半ばとなっている。一方、「返礼品競争には加わらず、返礼品の拡充は必要ない」は男性の 60 歳代以上で 3 割台となっている。「わからない」は各年代とも男性より女性の方が高く、3 割台～5 割台となっている。

(図 1 5 - 3 - 2)

図 1 5 - 3 - 3 返礼品に関する区の姿勢について（ライフステージ別）



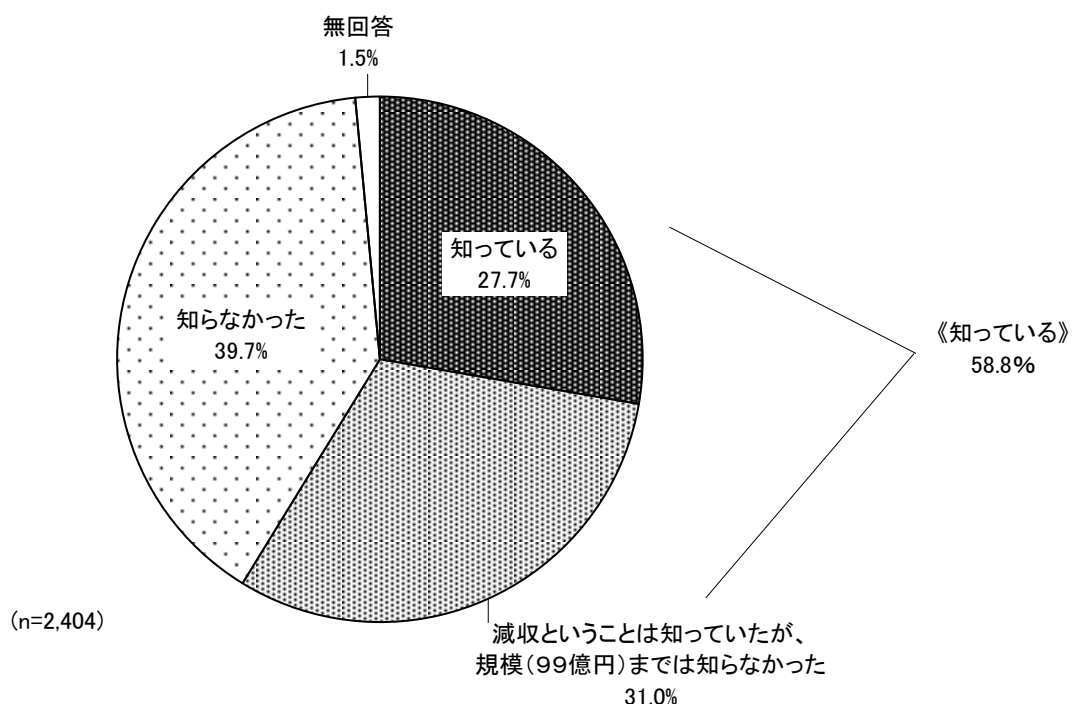
ライフステージ別にみると、「積極的に返礼品を増やして区外からの寄附を獲得すべき」は家族成長前期で4割近く、家族形成期で3割半ば、家族成長後期で3割となっている。「減収額が大きいので返礼品競争への参加もやむを得ない」は家族形成期、家族成長後期、家族成熟期で2割半ばとなっている。一方、「返礼品競争には加わず、返礼品の拡充は必要ない」は高齢期Ⅱで3割近く、高齢期Ⅰで2割半ばとなっている。（図15-3-3）

(4) 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度

◎ 《知っている》が6割近く

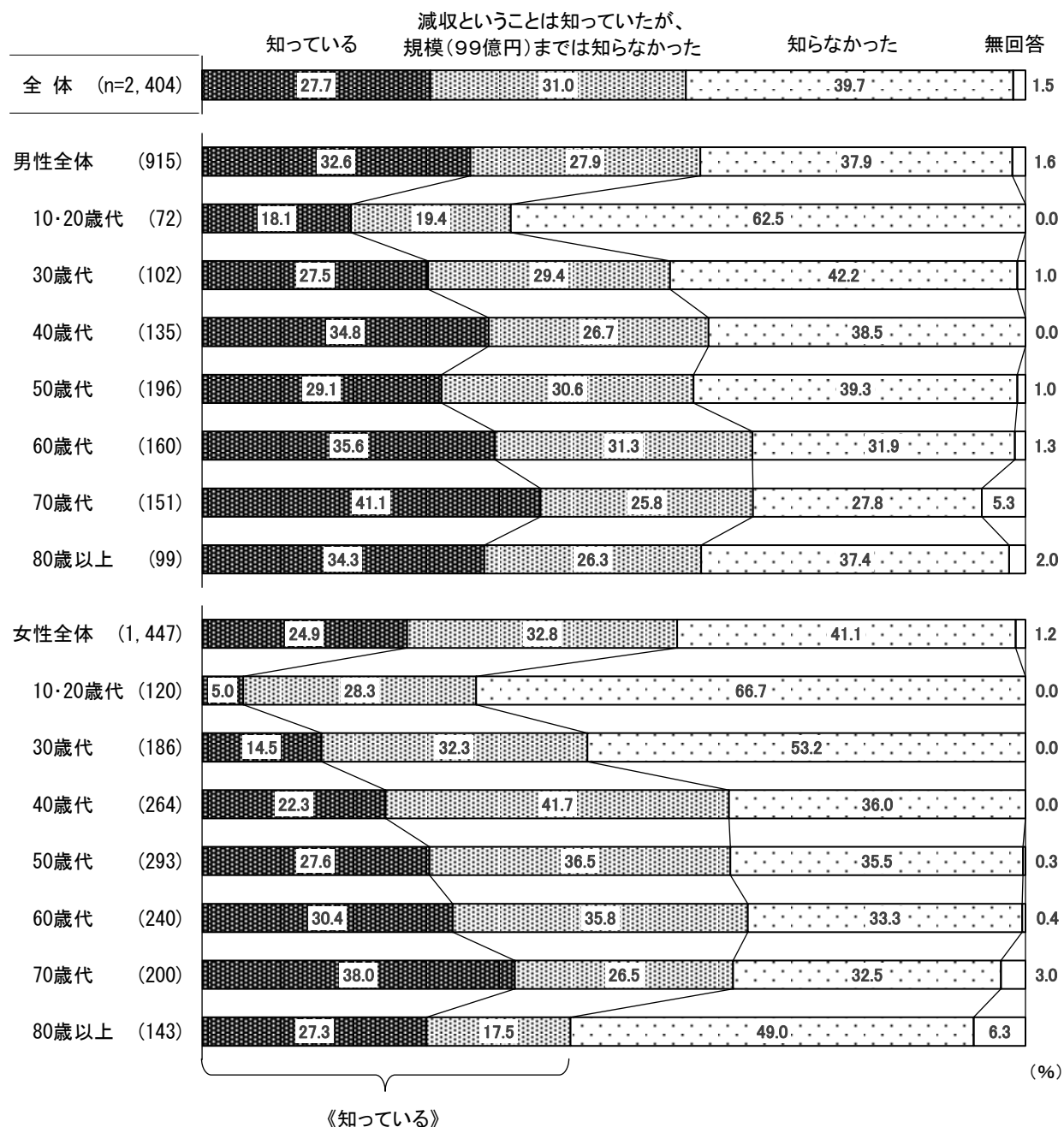
問44 「ふるさと納税」による世田谷区の区民税の減収額は、年々増加し、令和5年度では約99億円に上ります。この現状を知っていますか。(○は1つ)

図15-4-1



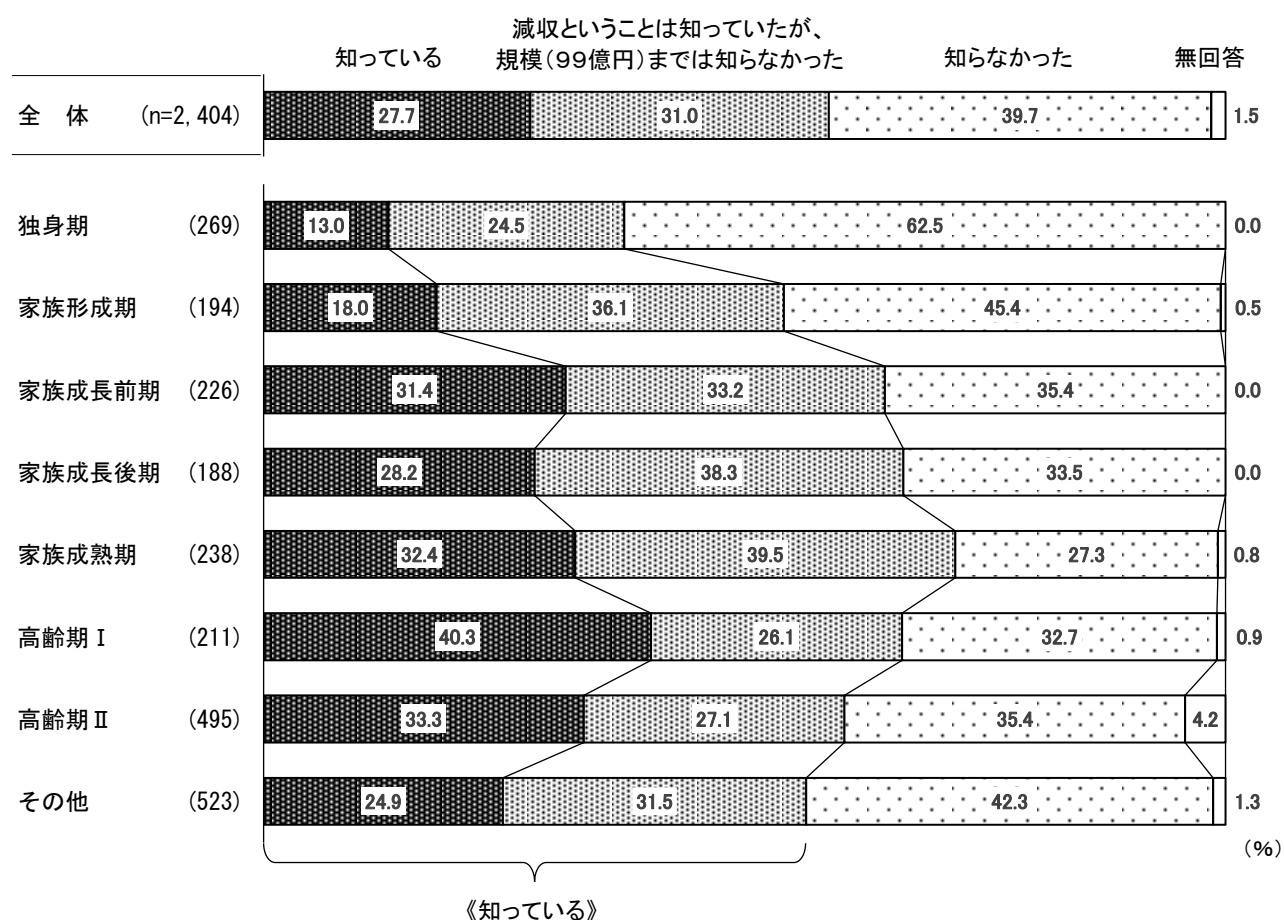
ふるさと納税による世田谷区の区民税の減収額の現状を知っているか聞いたところ、「減収ということは知っていたが、規模(99億円)までは知らなかった」(31.0%)と「知っている」(27.7%)を合わせた《知っている》(58.8%)が6割近くとなっている。一方、「知らない」(39.7%)は4割となっている。(図15-4-1)

図 1 5 - 4 - 2 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知っている」は男性の70歳代で4割を超え、女性の70歳代で4割近くとなっている。《知っている》は男性の60歳代と70歳代で7割近く、女性の40歳代～70歳代で6割半ばとなっている。「知らなかった」は女性の10・20歳代で7割近く、男性の10・20歳代で6割を超え、女性の30歳代で5割を超えている。(図15-4-2)

図 15-4-3 「ふるさと納税」による区民税の減収額の認知度（ライフステージ別）



ライフステージ別にみると、「知っている」は高齢期Ⅰで4割となっており、「減収ということは知っていたが、規模（99億円）までは知らなかった」は家族成熟期で4割となっている。《知っている》は家族成熟期で7割を超え、家族成長後期で7割近く、家族成長前期、高齢期Ⅰで6割半ばとなっている。「知らなかった」は独身期で6割を超えている。（図15-4-3）

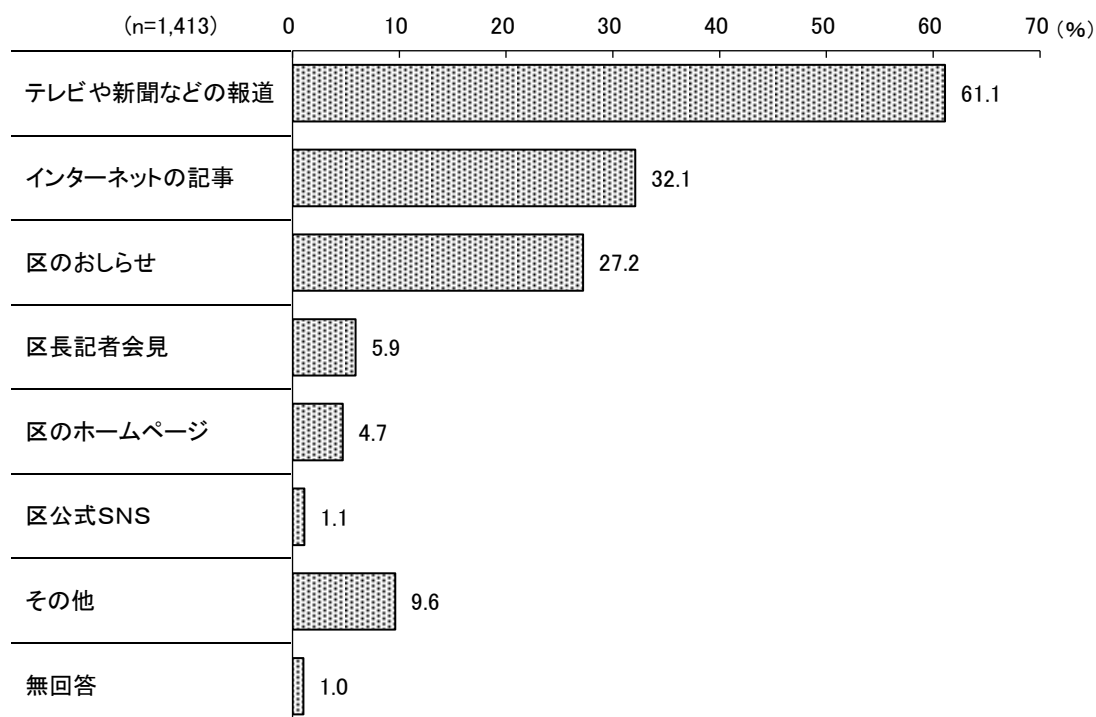
（５）区民税の減収状況の認知経路

◎「テレビや新聞などの報道」が６割を超える

（問４４で「知っている」または「減収ということは知っていたが、規模（９９億円）までは知らなかった」と答えた方に）

問４４－１ 減収の状況を何でお知りになりましたか。（○はいくつでも）

図１５－５－１



ふるさと納税による世田谷区の区民税の減収額について「知っている」または「減収ということは知っていたが、規模（９９億円）までは知らなかった」と答えた方（1,413人）に、減収の状況を何で知ったか聞いたところ、「テレビや新聞などの報道」（61.1%）が６割を超えて最も高く、以下、「インターネットの記事」（32.1%）、「区のおしらせ」（27.2%）などと続く。（図１５－５－１）

表 1 5 - 5 - 1 区民税の減収状況の認知経路（性・年齢別）

		(%)							
		n	テレビや新聞などの報道	インターネットの記事	区のおしらせ	区長記者会見	区のホームページ	区公式SNS	その他 無回答
全 体		1,413	61.1	32.1	27.2	5.9	4.7	1.1	9.6 1.0
性・年齢別	男性全体	553	64.6	38.5	26.4	5.8	5.4	1.3	7.6 0.7
	10・20歳代	27	48.1	59.3	14.8	11.1	11.1	3.7	14.8 -
	30歳代	58	62.1	67.2	8.6	-	6.9	1.7	5.2 1.7
	40歳代	83	54.2	59.0	10.8	6.0	3.6	-	9.6 1.2
	50歳代	117	61.5	48.7	25.6	6.8	6.8	0.9	7.7 0.9
	60歳代	107	73.8	30.8	19.6	2.8	2.8	0.9	8.4 0.9
	70歳代	101	76.2	15.8	41.6	10.9	5.0	2.0	8.9 -
	80歳以上	60	58.3	5.0	58.3	3.3	6.7	1.7	- -
	女性全体	836	59.1	28.3	27.4	5.9	4.1	1.1	11.0 1.1
	10・20歳代	40	52.5	50.0	2.5	-	-	2.5	20.0 -
	30歳代	87	46.0	46.0	6.9	4.6	2.3	2.3	19.5 -
	40歳代	169	55.0	32.0	17.2	5.9	2.4	1.8	14.8 1.2
	50歳代	188	55.3	37.2	23.4	3.7	3.7	1.1	8.5 1.6
	60歳代	159	67.3	24.5	29.6	4.4	4.4	0.6	6.9 1.9
	70歳代	129	62.8	8.5	55.0	10.1	7.8	-	8.5 0.8
	80歳以上	64	75.0	4.7	48.4	12.5	6.3	-	6.3 -

性・年齢別にみると、「テレビや新聞などの報道」は男性の70歳代、女性の80歳以上で7割半ば、男性の60歳代で7割を超えている。「インターネットの記事」は男性の30歳代で7割近く、男性の40歳代ではほぼ6割となっている。「区のおしらせ」は男女とも70歳代以上が高く、4割台～5割台となっている。（表15-5-1）

なお、基数(n)が30に満たない層については参考値とする。

表 15-5-2 区民税の減収状況の認知経路（ライフステージ別）

		(%)							
		n	テレビや新聞などの報道	インターネットの記事	区のおしらせ	区長記者会見	区のホームページ	区公式SNS	その他 無回答
全 体		1,413	61.1	32.1	27.2	5.9	4.7	1.1	9.6 1.0
ライフ ス テ ー ジ 別	独身期	101	43.6	52.5	10.9	4.0	5.9	5.0	18.8 1.0
	家族形成期	105	54.3	53.3	6.7	5.7	3.8	-	11.4 -
	家族成長前期	146	56.8	41.8	16.4	4.8	2.7	0.7	11.0 1.4
	家族成長後期	125	53.6	40.0	23.2	5.6	1.6	0.8	14.4 2.4
	家族成熟期	171	67.8	38.0	25.7	1.8	5.3	0.6	5.3 0.6
	高齢期Ⅰ	140	67.1	16.4	41.4	10.0	7.1	1.4	7.1 -
	高齢期Ⅱ	299	70.2	13.0	47.2	6.4	5.4	0.3	6.7 0.7
その他		295	59.3	34.2	20.7	7.8	4.4	1.4	10.5 1.4

ライフステージ別にみると、「テレビや新聞などの報道」は高齢期Ⅱで7割、家族成熟期、高齢期Ⅰで7割近くとなっている。「インターネットの記事」は独身期、家族形成期で5割を超え、「区のおしらせ」は高齢期Ⅱで5割近く、高齢期Ⅰで4割を超えている。（表15-5-2）

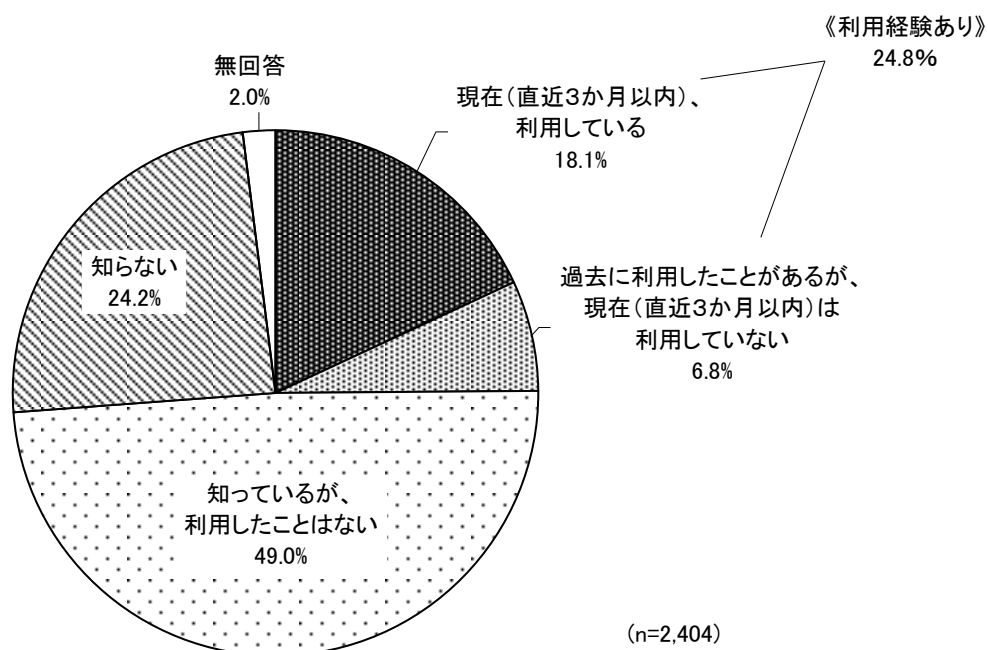
16. せたがや Pay

(1) せたがや Pay の認知・利用度

◎「知っているが、利用したことはない」がほぼ5割

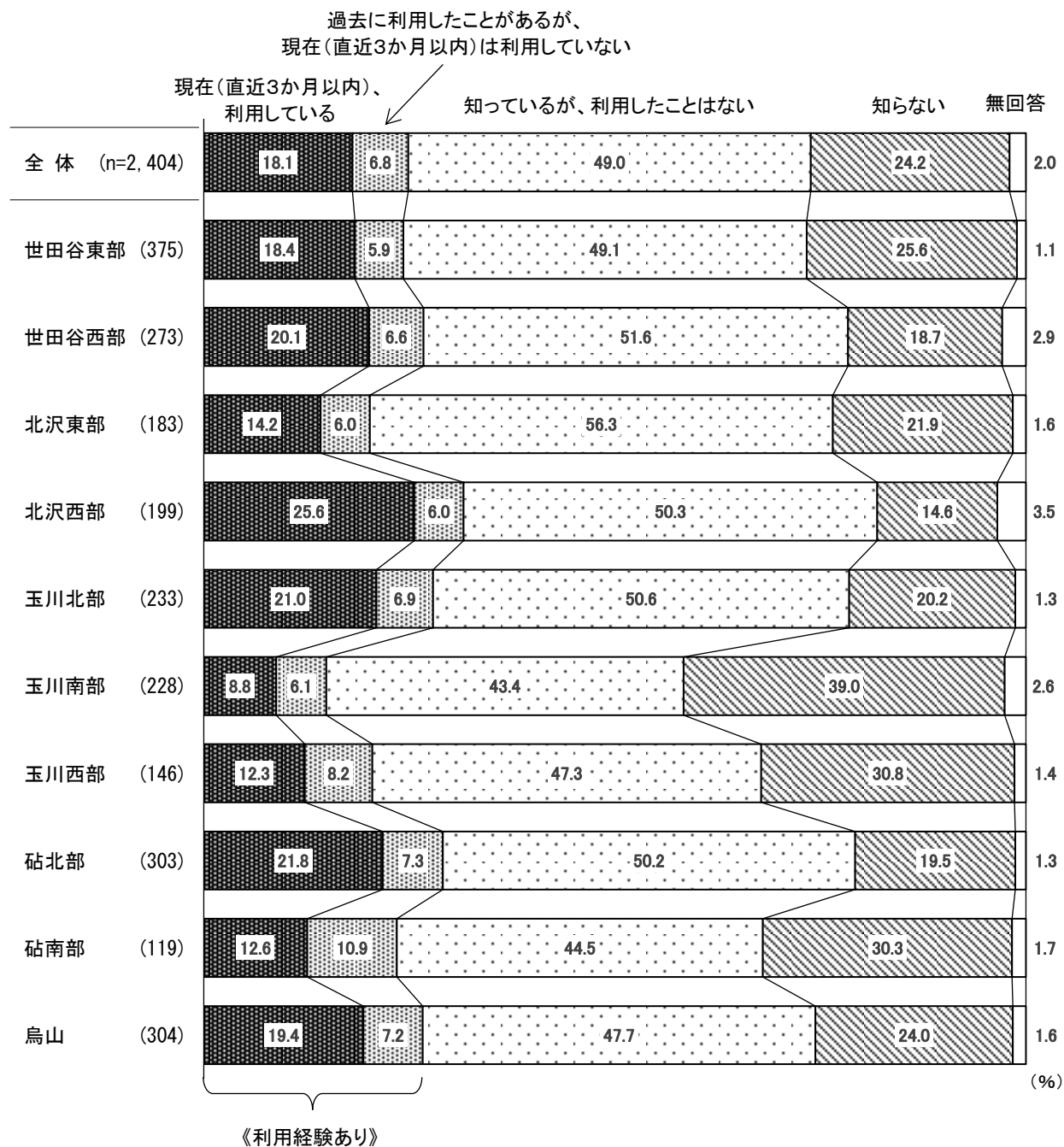
問45 せたがや Pay を知っていますか。また、利用したことがありますか。(○は1つ)

図16-1-1



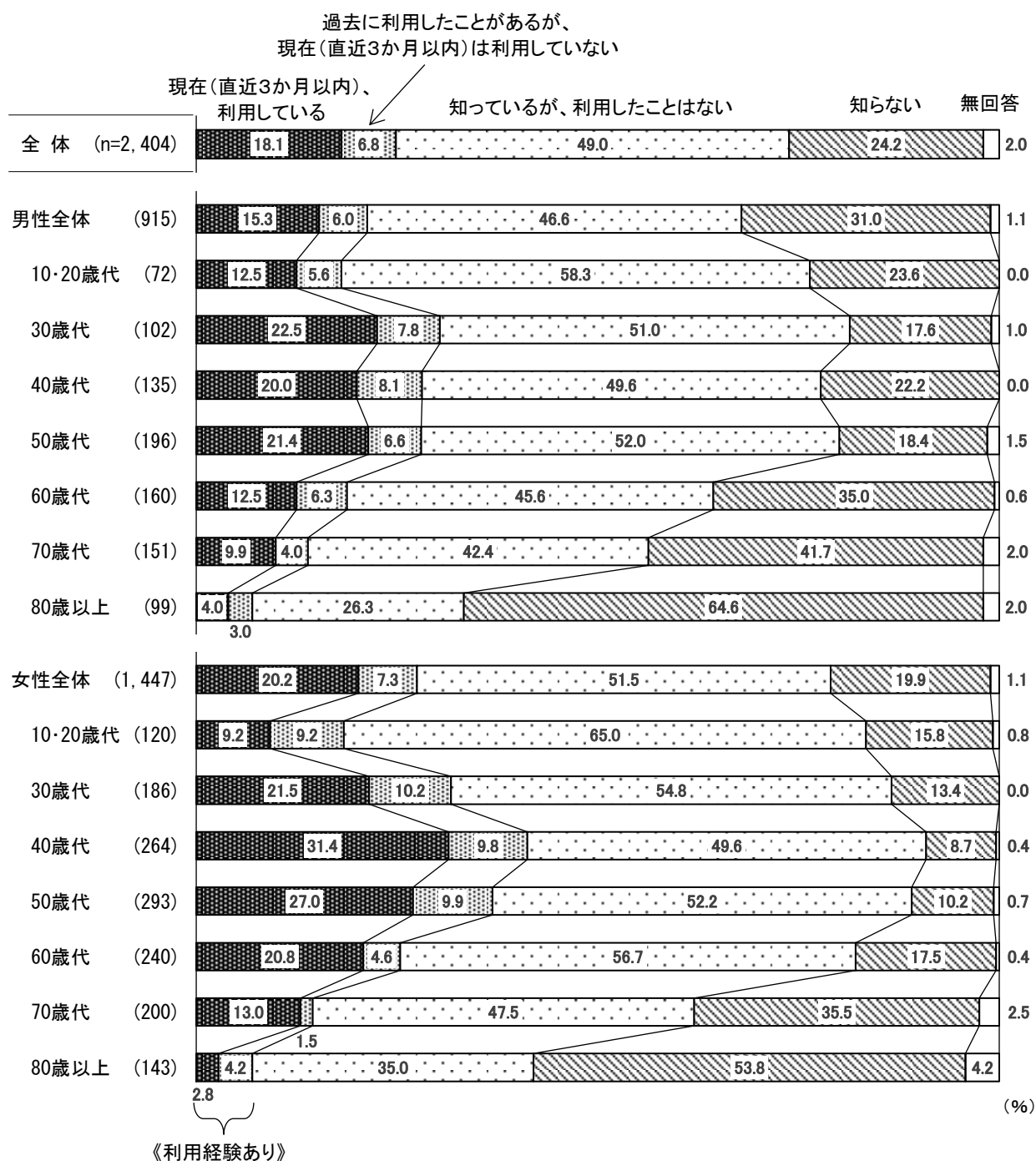
せたがや Pay の認知・利用度を聞いたところ、「知っているが、利用したことはない」(49.0%)がほぼ5割で最も高い。「知らない」(24.2%)は2割半ばで、「現在(直近3か月以内)、利用している」(18.1%)と「過去に利用したことがあるが、現在(直近3か月以内)は利用していない」(6.8%)を合わせた《利用経験あり》(24.8%)は2割半ばとなっている。(図16-1-1)

図 1 6 - 1 - 2 せたがや Pay の認知・利用度（地域別）



地域別にみると、「知っているが、利用したことはない」は北沢東部で5割半ばとなっている。《利用経験あり》は北沢西部で3割を超え、砧北部でほぼ3割、玉川北部、世田谷西部、烏山で3割近くとなっている。一方、「知らない」は玉川南部でほぼ4割となっている。（図16-1-2）

図 1 6 - 1 - 3 セタがや Pay の認知・利用度（性・年齢別）



性・年齢別にみると、「知っているが、利用したことはない」は女性の10・20歳代で6割半ば、男性の10・20歳代、女性の60歳代で6割近くとなっている。《利用経験あり》は女性の40歳代で4割を超え、女性の50歳代で4割近く、女性の30歳代で3割を超え、男性の30歳代で3割となっている。一方、「知らない」は男性の80歳以上で6割半ば、女性の80歳以上で5割を超えている。

(図 1 6 - 1 - 3)

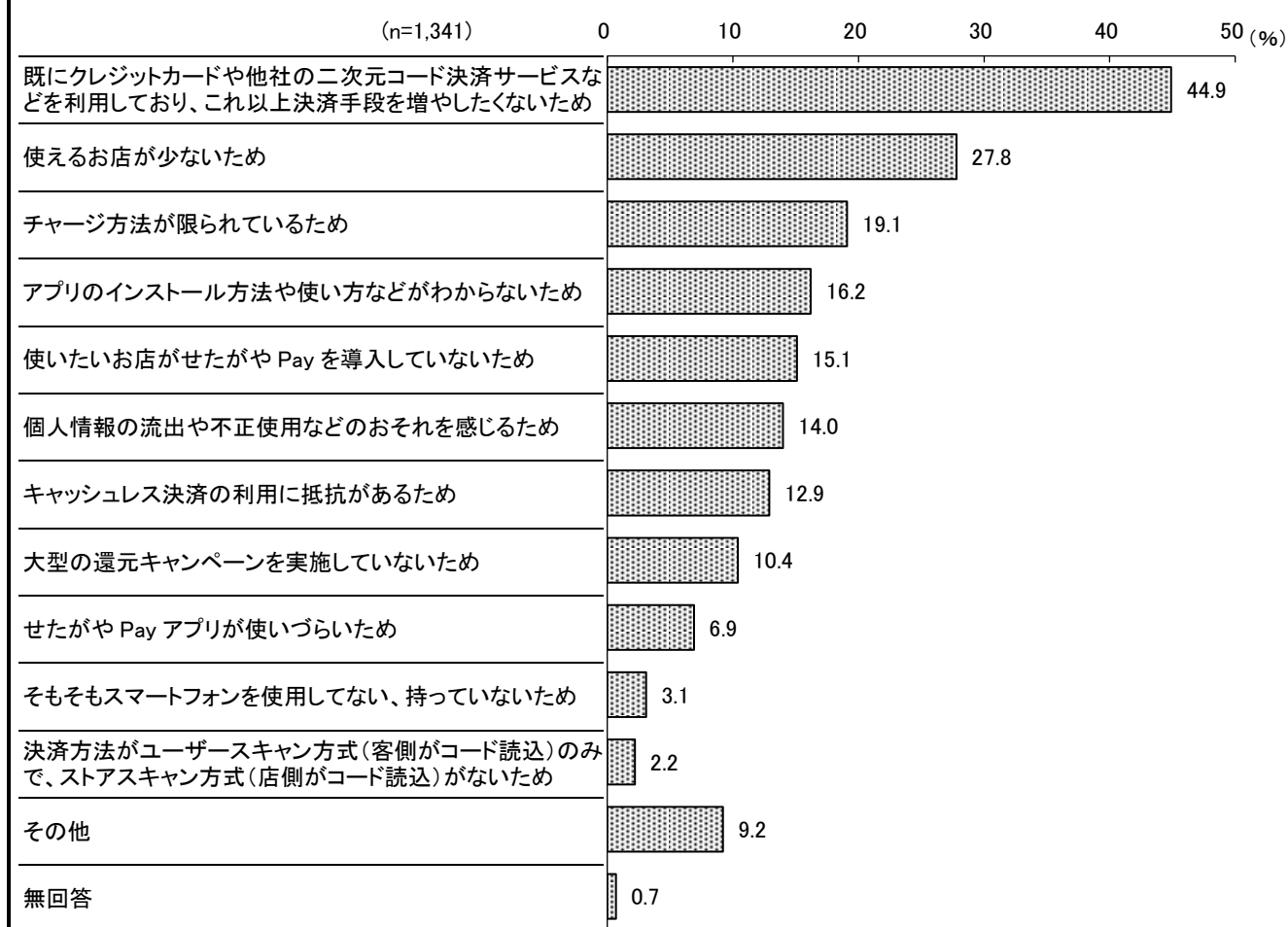
(2) せたがや Pay を利用しない理由

◎「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため」が4割半ば

(問45で「過去に利用したことがあるが、現在(直近3か月以内)は利用していない」または「知っているが、利用したことはない」と答えた方に)

問45-1 せたがや Pay を利用していない理由を教えてください。(〇はいくつでも)

図16-2-1



せたがや Pay を「過去に利用したことがあるが、現在(直近3か月以内)は利用していない」または「知っているが、利用したことはない」と答えた方(1,341人)に、利用していない理由を聞いたところ、「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため」(44.9%)が4割半ばで最も高く、「使えるお店が少ないため」(27.8%)が3割近くとなっている。(図16-2-1)

表 16-2-1 セタがや Pay を利用しない理由（性・年齢別）

（％）

		n	既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用しており、これ以上決済手段を増やしたくないため	使えるお店が少ないため	チャージ方法が限られているため	アプリのインストール方法や使い方などがわからないため	使いたいお店がセタがやPayを導入していないため	個人情報の流出や不正使用などのおそれを感じるため	キャッシュレス決済の利用に抵抗があるため	大型の還元キャンペーンを実施していないため	セタがやPayアプリが使いづらいため	そもそもスマートフォンを使用していない、持っていないため	決済方法がユーザーズキャン方式（客側がコード読込）のみで、ストアスキャン方式（店側がコード読込）がないため	その他	無回答
全 体		1,341	44.9	27.8	19.1	16.2	15.1	14.0	12.9	10.4	6.9	3.1	2.2	9.2	0.7
性・年齢別	男性全体	481	45.7	29.5	19.8	16.0	18.5	12.5	10.2	12.5	9.1	3.3	3.5	10.2	1.2
	10・20歳代	46	41.3	30.4	17.4	8.7	23.9	4.3	8.7	13.0	10.9	-	4.3	21.7	-
	30歳代	60	51.7	40.0	30.0	8.3	10.0	6.7	1.7	23.3	8.3	-	5.0	8.3	-
	40歳代	78	50.0	25.6	20.5	11.5	20.5	9.0	7.7	11.5	10.3	-	5.1	11.5	-
	50歳代	115	47.0	26.1	26.1	14.8	15.7	9.6	7.0	14.8	6.1	3.5	1.7	12.2	0.9
	60歳代	83	42.2	31.3	10.8	19.3	20.5	16.9	13.3	8.4	7.2	2.4	3.6	7.2	1.2
	70歳代	70	44.3	32.9	14.3	24.3	24.3	20.0	20.0	7.1	10.0	8.6	1.4	4.3	1.4
	80歳以上	29	37.9	17.2	13.8	31.0	13.8	27.6	17.2	6.9	20.7	13.8	6.9	6.9	10.3
	女性全体	850	44.4	27.1	18.6	16.4	13.3	14.9	14.5	9.2	5.4	2.9	1.4	8.6	0.5
	10・20歳代	89	53.9	31.5	14.6	4.5	12.4	3.4	6.7	13.5	5.6	-	-	9.0	1.1
	30歳代	121	55.4	28.1	26.4	5.8	8.3	8.3	5.0	9.1	5.0	-	-	11.6	-
	40歳代	157	46.5	29.9	26.1	8.9	11.5	7.6	9.6	14.0	3.2	0.6	1.3	8.3	0.6
	50歳代	182	36.8	25.3	18.1	14.3	14.8	15.9	19.8	6.0	7.1	1.1	2.2	11.0	0.5
	60歳代	147	49.0	26.5	16.3	20.4	15.6	23.1	19.7	10.2	4.8	4.1	2.7	6.1	-
70歳代	98	37.8	26.5	9.2	35.7	20.4	26.5	18.4	4.1	9.2	4.1	2.0	4.1	1.0	
80歳以上	56	23.2	17.9	10.7	41.1	7.1	23.2	23.2	5.4	1.8	21.4	-	8.9	-	

性・年齢別にみると、「既にクレジットカードや他社の二次元コード決済サービスなどを利用して
おり、これ以上決済手段を増やしたくないため」は男性の 30 歳代と 40 歳代、女性の 10・20 歳代と
30 歳代で 5 割台となっている。「使えるお店が少ないため」は男性の 30 歳代で 4 割、「アプリのイ
ンストール方法や使い方などがわからないため」は女性の 80 歳以上で 4 割を超えている。

（表 16-2-1）

なお、基数(n)が 30 に満たない層については参考値とする。

世 田 谷 区 民 意 識 調 査 2 0 2 4

令和6年9月発行（広報印刷物登録番号 No. 2276）

発 行 世田谷区政策経営部広報広聴課
〒154-8504 東京都世田谷区世田谷4丁目21番27号
電話：03（5432）2014
ファクシミリ：03（5432）3001

実 施 株式会社アダムコミュニケーション
〒168-0074 東京都杉並区上高井戸1丁目8番17号
 ブライトコアビル新館6階
電話：03（6847）5757
ファクシミリ：03（6847）5756